

堺市  
男女共同参画に関する  
市民意識・実態調査  
報告書

2021年（令和3年）3月

堺市



## 目 次

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	3
III	調査結果	12
1	男女の役割や地位に関する意識について	12
2	家庭生活について	32
3	子どもの教育について	40
4	介護について	48
5	仕事について	49
6	地域・生活全般について	68
7	様々な暴力について	77
8	配偶者や交際相手等からの暴力について	84
9	防災対策について	120
10	男女共同参画に関する施策について	121
IV	調査結果からみられる現状と課題	125
V	調査票	136

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は「第4期さかい男女共同参画プラン」「第2次堺市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画（DV防止基本計画）」の発展・充実のための基礎資料として、実施するものです。

## 2 調査対象

堺市在住の満18歳以上の方を無作為抽出

## 3 調査期間

令和2年7月15日から令和2年7月31日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

発送数	未着数	実発送数	有効回収数	有効回収率
4,000通	17通	3,983通	1,630通	40.9%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

## 7 調査の精度

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいですが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになります。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となります。

その精度は、以下の式で表される標本誤差を算出することで把握できます。

$$b = k \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \cdot \frac{P ( 100 - P )}{n}}$$

b = 標本誤差 N = 母集団数 n = 回答者数 P = 回答の比率 k = 信頼度による定数 k は信頼度の設定により変わり、信頼度 95% の場合、k = 1.96 となる。信頼度 95% とは、100 回に 5 回がその標本誤差の範囲内におさまらないという意味であり、通常のアンケートでは信頼度として 95% がとられるケースが多くなっています。

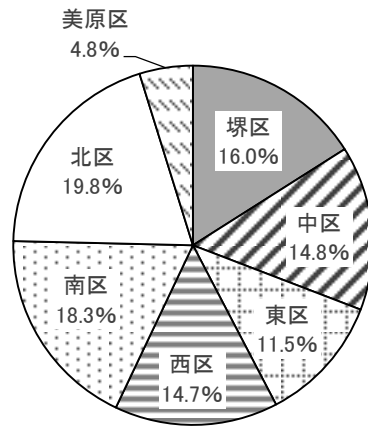
次の表は、本調査における、信頼度 95% の場合の標本誤差の早見表です。

この表の見方について、「全体」の場合の例を示すと、母集団 703,712 人（堺市の 18 歳以上の人口）、回答者数 1,630 人、回答の比率 50% の場合、標本誤差は約 2.42% となります。標本誤差 2.42% とは、例えば、もし「あなたの家族構成は」という設問で、「親と子ども」が 50.0% という回答だった場合、実際の母集団は 95% の確率で、50 ± 2.42%（47.58% から 52.42%）の範囲内となります。

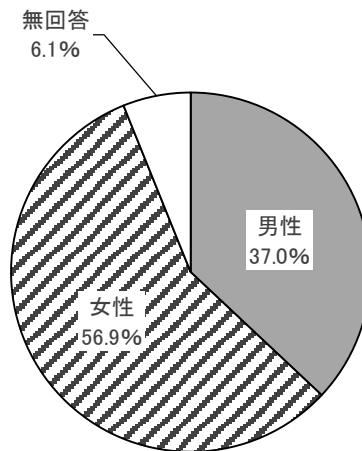
	母集団数	回答者数	P 回答の比率									
			5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
全体	703,712	1,630	1.06	1.45	1.73	1.94	2.10	2.22	2.31	2.38	2.41	2.42
女性	370,101	928	1.40	1.93	2.29	2.57	2.78	2.94	3.06	3.15	3.20	3.21
男性	333,611	603	1.74	2.39	2.85	3.19	3.45	3.65	3.80	3.91	3.97	3.99
女性	29歳以下	49,373	90	4.50	6.19	7.37	8.26	8.94	9.46	9.85	10.11	10.27
	30歳代	44,751	101	4.25	5.84	6.96	7.79	8.44	8.93	9.29	9.54	9.69
	40歳代	64,858	169	3.28	4.52	5.38	6.02	6.52	6.90	7.18	7.38	7.49
	50歳代	55,326	179	3.19	4.39	5.22	5.85	6.33	6.70	6.98	7.17	7.28
	60歳代	48,133	129	3.76	5.17	6.15	6.89	7.46	7.90	8.22	8.44	8.57
	70歳以上	107,660	258	2.66	3.66	4.35	4.88	5.28	5.59	5.81	5.97	6.06
男性	29歳以下	50,973	64	5.34	7.35	8.74	9.79	10.60	11.22	11.68	12.00	12.18
	30歳代	44,688	57	5.65	7.78	9.26	10.38	11.23	11.89	12.37	12.71	12.91
	40歳代	63,584	116	3.96	5.45	6.49	7.27	7.87	8.33	8.67	8.91	9.05
	50歳代	54,172	106	4.15	5.71	6.79	7.61	8.24	8.72	9.07	9.32	9.46
	60歳代	42,990	94	4.40	6.06	7.21	8.08	8.74	9.25	9.63	9.89	10.05
	70歳以上	77,204	166	3.31	4.56	5.43	6.08	6.58	6.96	7.25	7.44	7.56

## II 回答者の属性

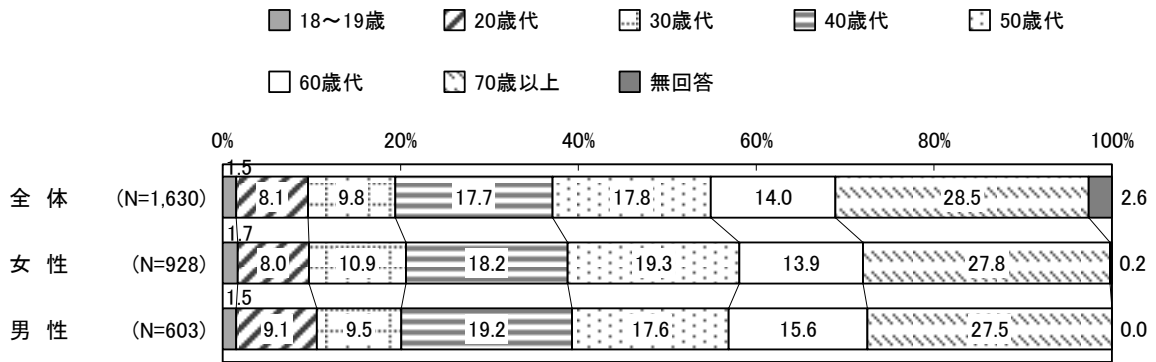
### ■ 居住区



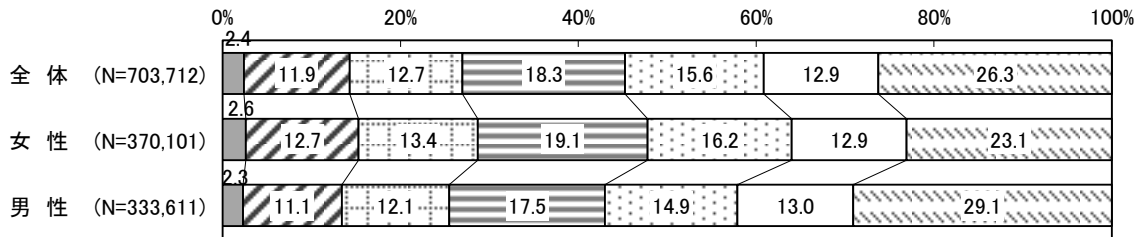
### ■ 性別



## ■年代別



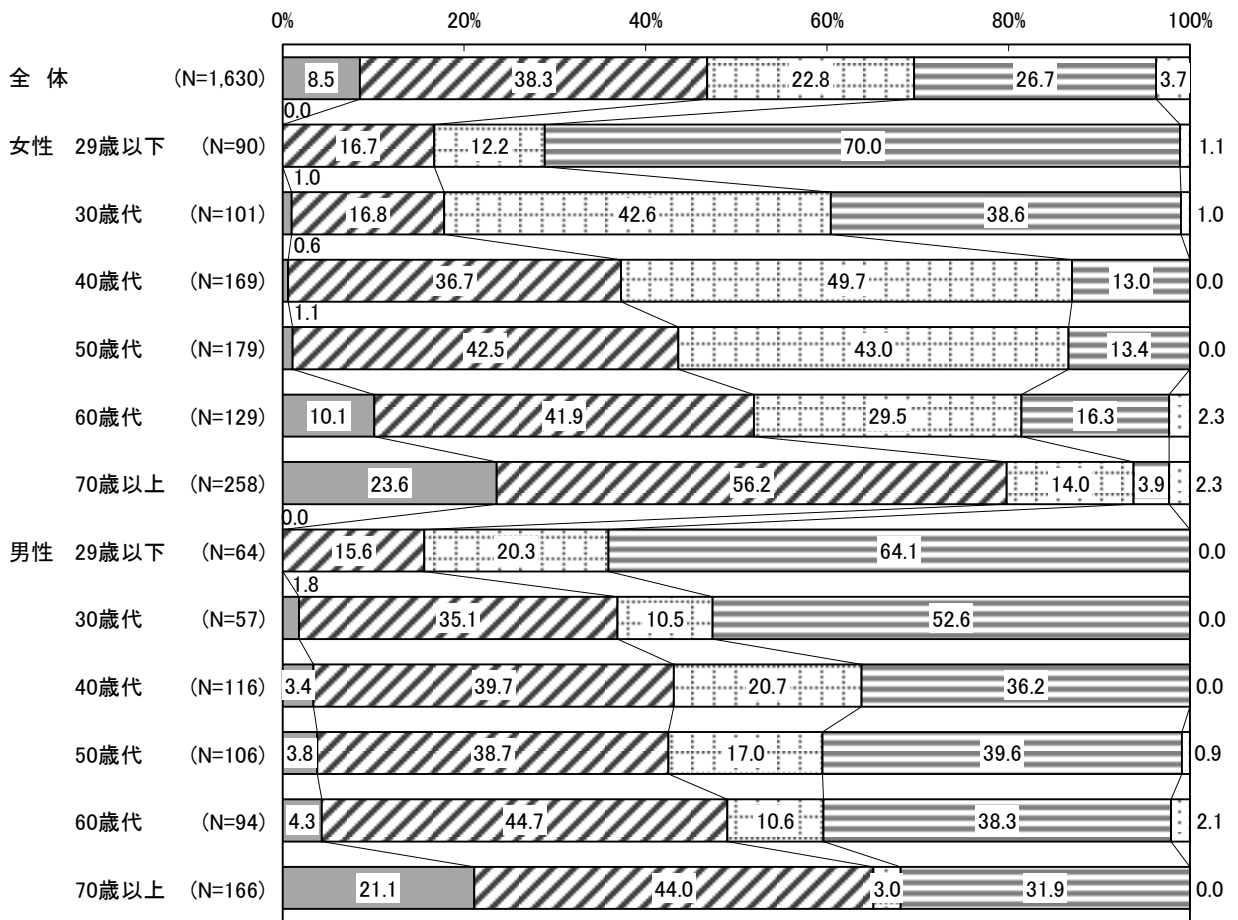
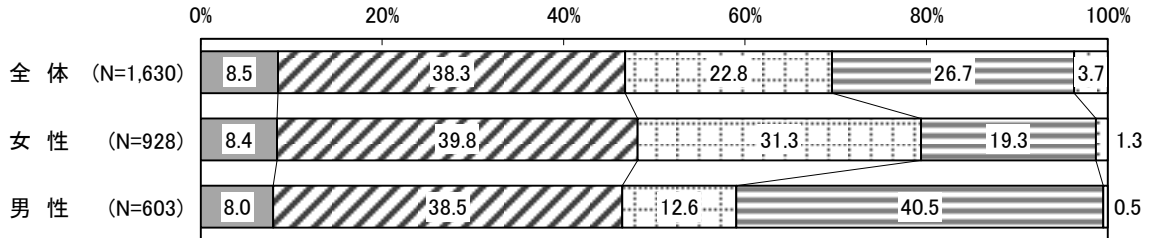
【参考：堺市 18 歳以上年代別推計人口（令和 2 年 7 月末現在）】



（「堺市年齢別人口統計表（令和 2 年 7 月）」を元に作成）

## ■最終学歴

- 中学校、旧制小学校、旧制高等小学校
- ▨ 高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校
- ▤ 短大、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校
- ▧ 大学、大学院
- 無回答





## ■子どもの有無

(単位:%)	N=	子どもは いない	女の子だけ がいる	男の子だけ がいる	女の子と 男の子が いる	無回答
全体	1,630	25.0	17.6	17.4	30.2	9.8
女性	928	24.8	17.1	18.4	32.3	7.3
男性	603	27.2	19.1	16.7	30.3	6.6

## 【子どもがいると回答された方に質問】

### ■子どもの人数

(単位:%)	N=	1人	2人	3人	4人	5人	無回答
全体	1,064	18.3	57.5	19.6	2.5	0.4	1.6
女性	630	17.0	57.6	21.1	2.5	0.3	1.4
男性	399	20.8	57.4	17.0	2.8	0.5	1.5

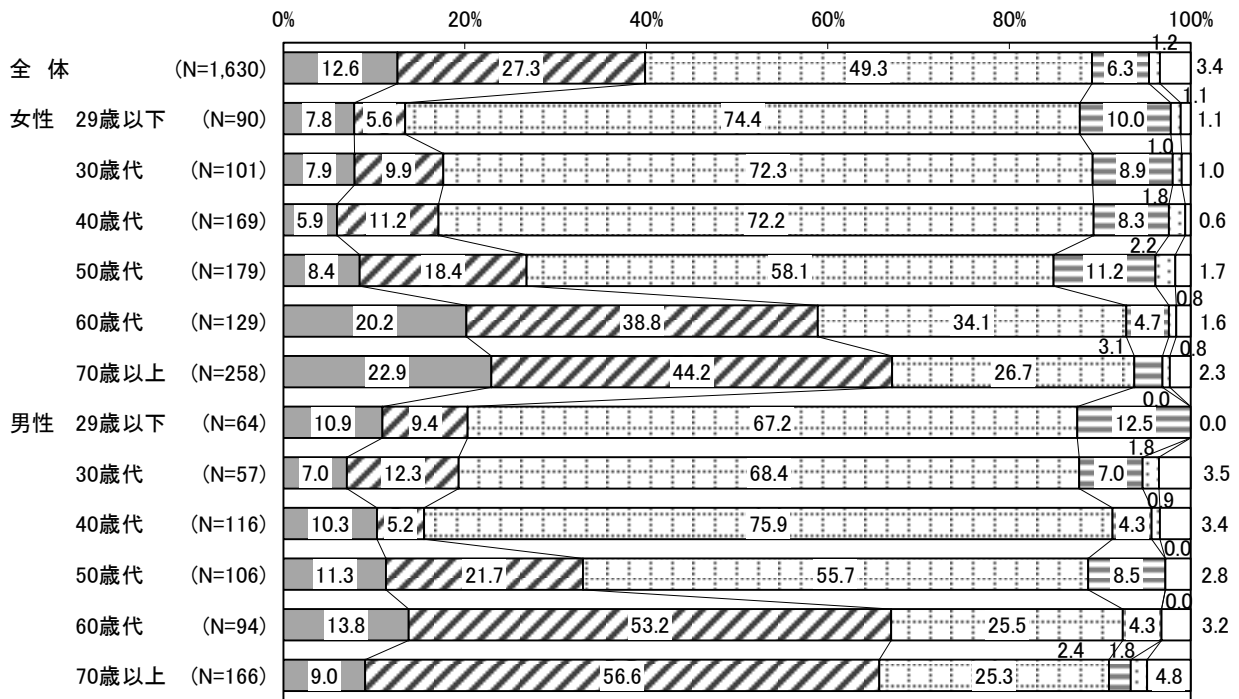
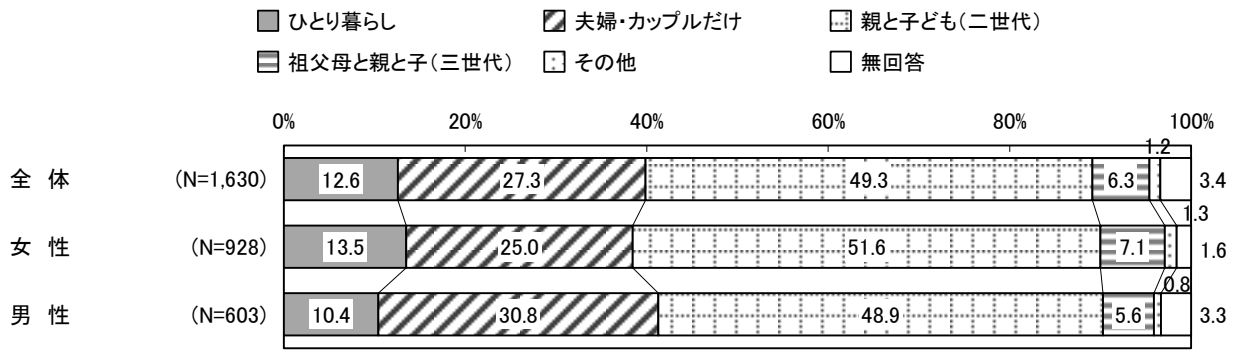
### ■子どもの成長段階

(単位:%)	N=	小学校 入学前	小学生	中学生	高校生	高校卒業 ~19歳まで	20歳以上	無回答
全体	1,064	9.3	12.2	8.6	8.3	6.0	74.2	1.0
女性	630	10.2	12.1	8.6	9.2	7.0	74.0	1.1
男性	399	8.8	13.3	9.5	7.5	4.8	72.9	0.8

### ■末子の年齢

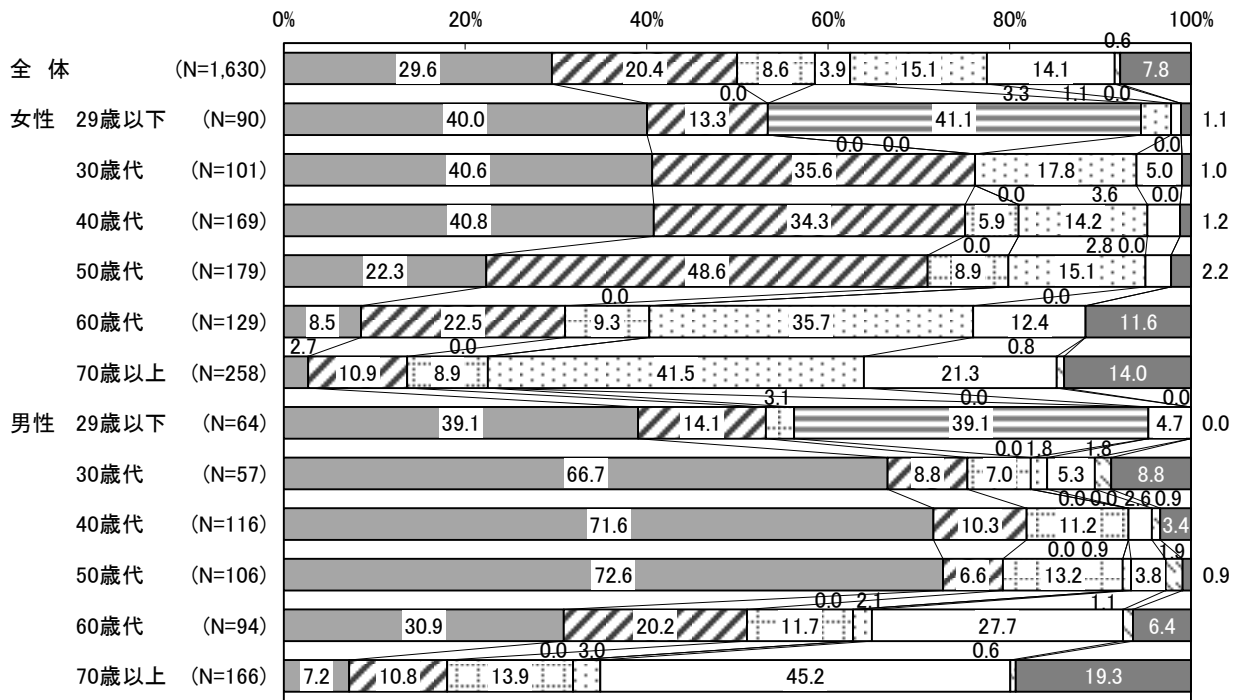
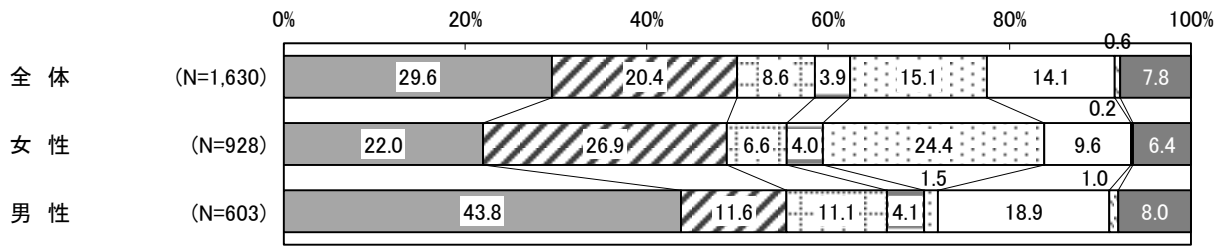
(単位:%)	N=	0歳	1~2歳	3~5歳	6~8歳	9~11歳	12~14歳	15~17歳	18歳以上	無回答
全体	1,064	1.5	3.3	4.2	3.7	4.7	4.6	5.3	65.4	7.3
女性	630	1.4	3.8	4.6	3.0	4.9	3.5	5.9	66.0	6.8
男性	399	1.8	2.8	4.0	4.8	4.8	6.8	4.8	63.9	6.5

## 同居の家族構成

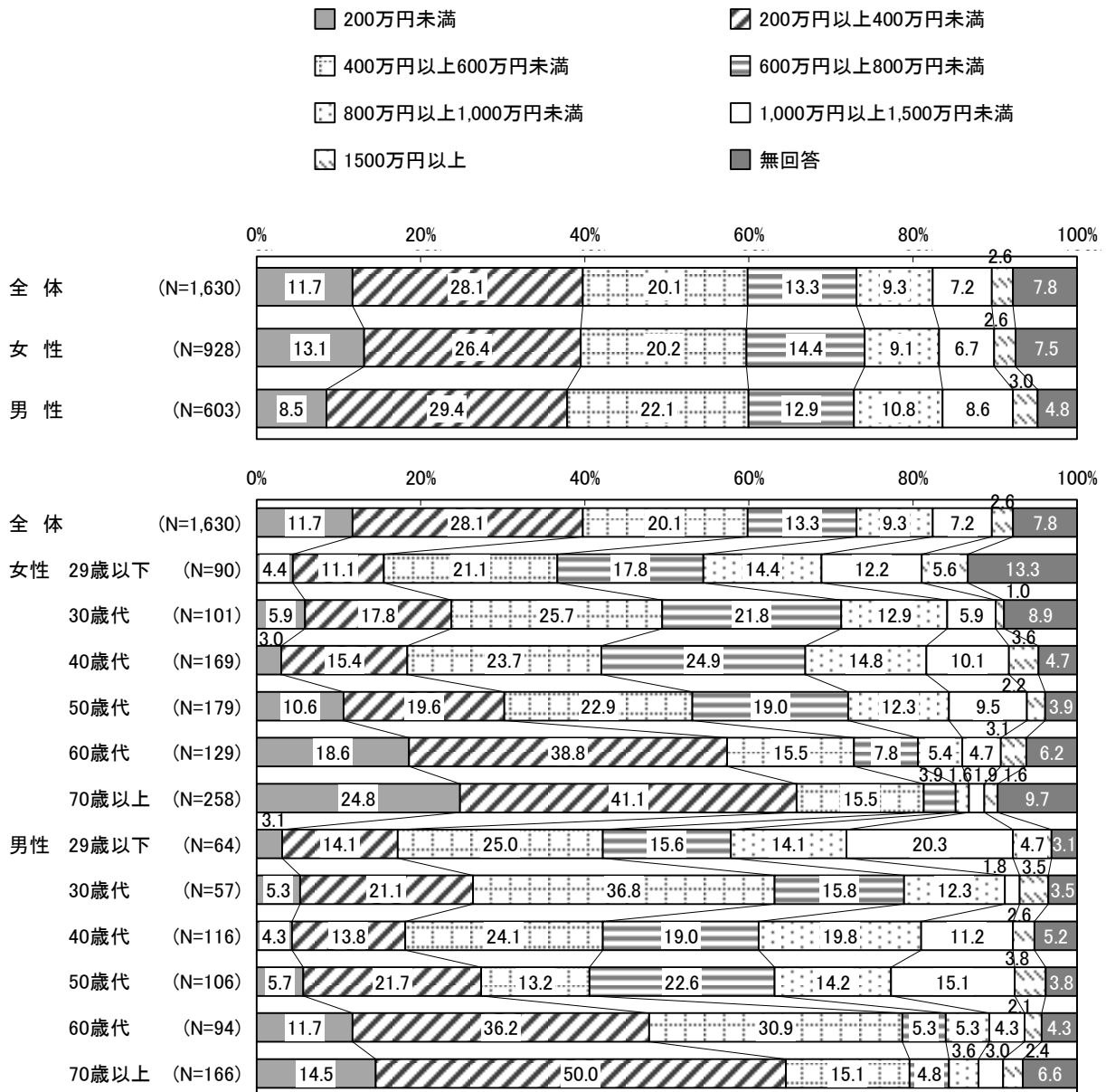


■勤務形態（問 10）

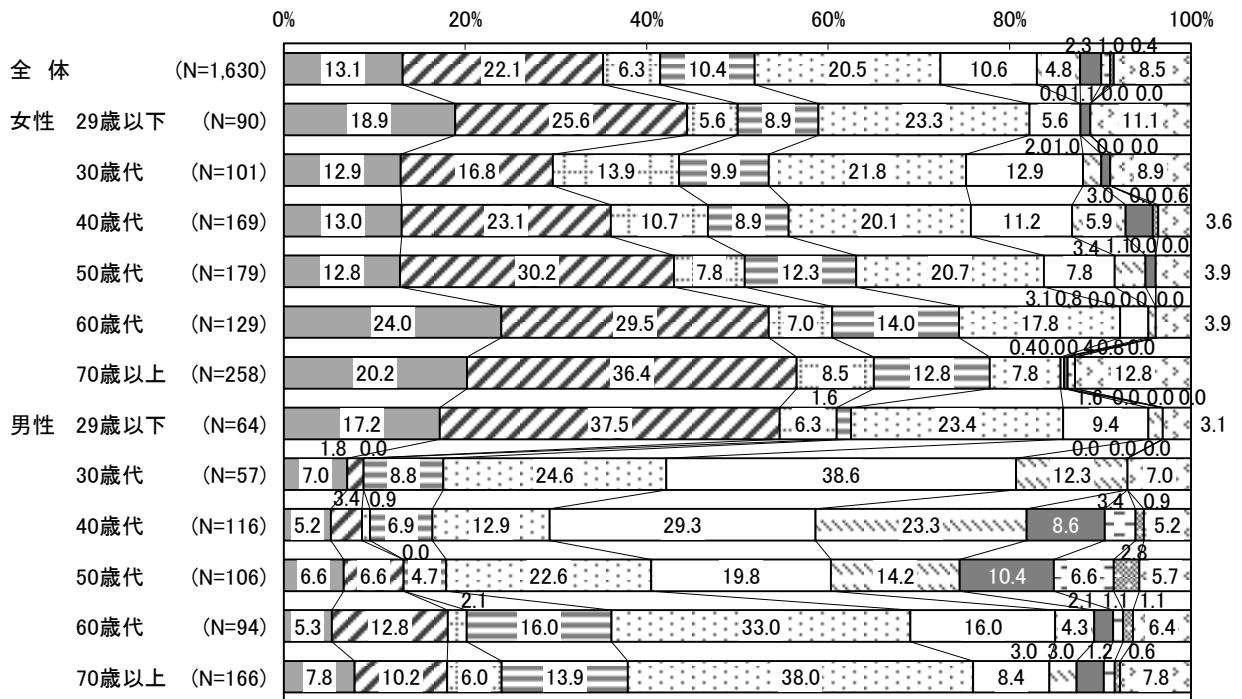
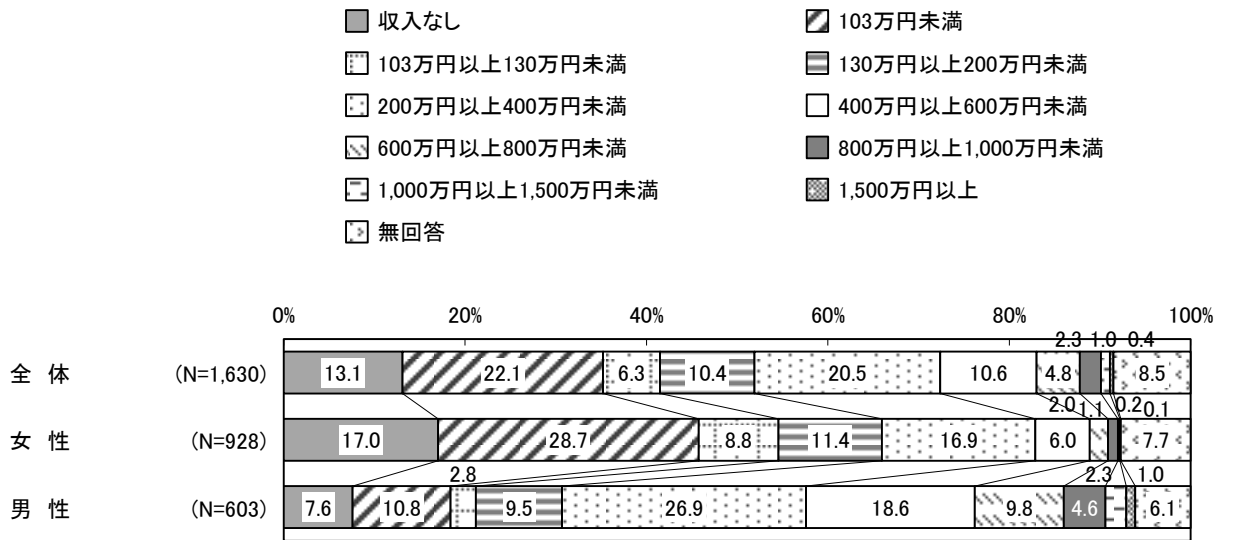
- 常時雇用の正社員または正職員
- ▨ 臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）
- ▤ 自営業主または家族従業者
- 学生
- ▤ 専業主婦・主夫
- 無職（専業主婦・主夫を除く）
- ▨ その他
- 無回答



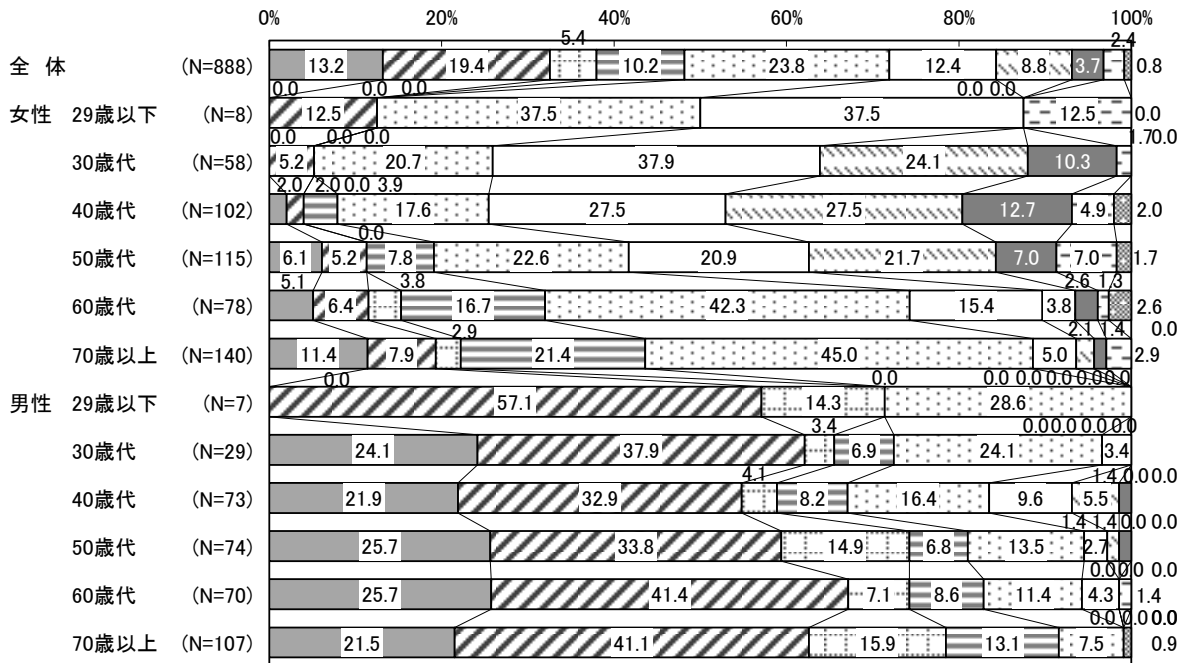
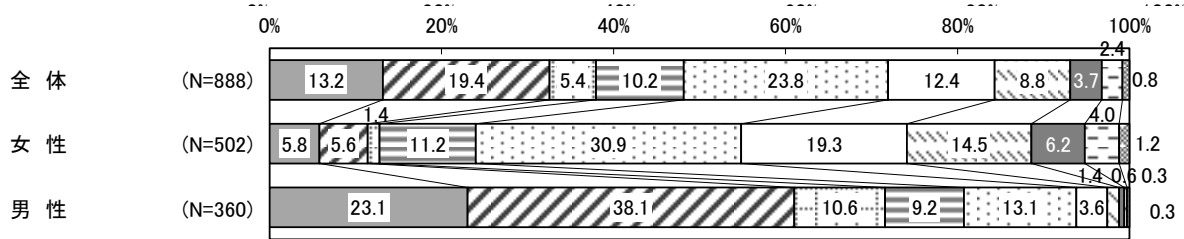
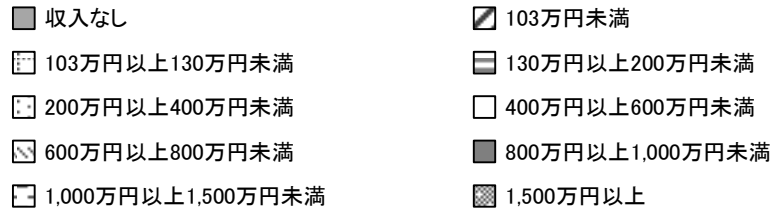
## ■ 世帯収入



## ■個人収入



■ 配偶者・パートナーの収入

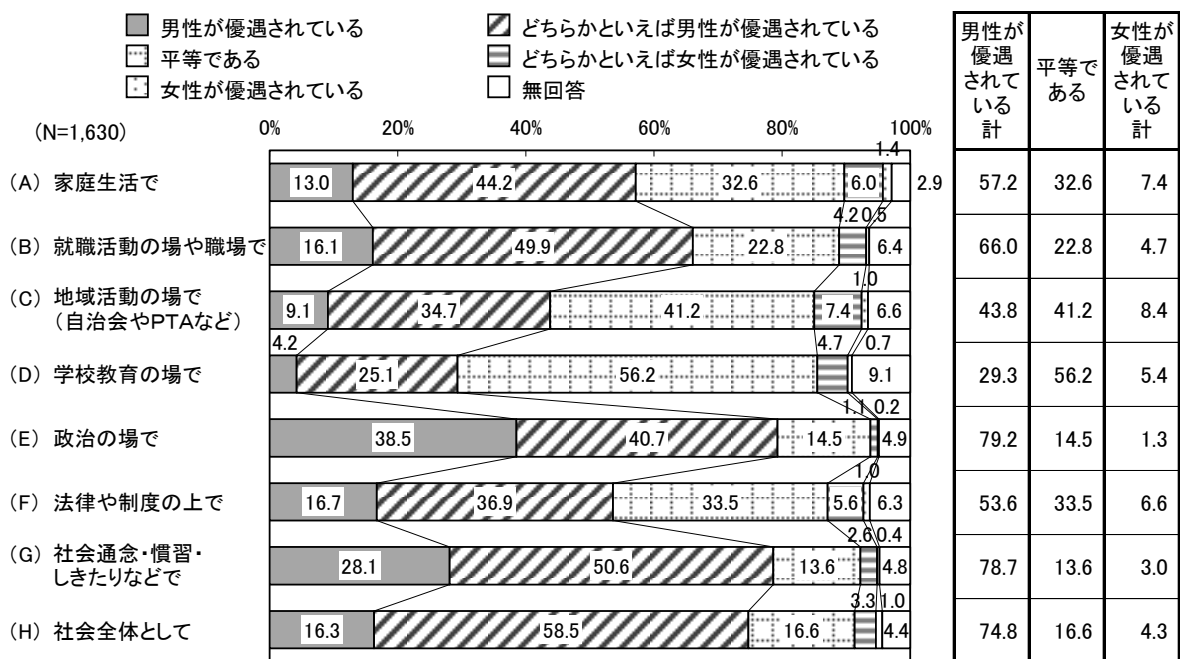


### Ⅲ 調査結果

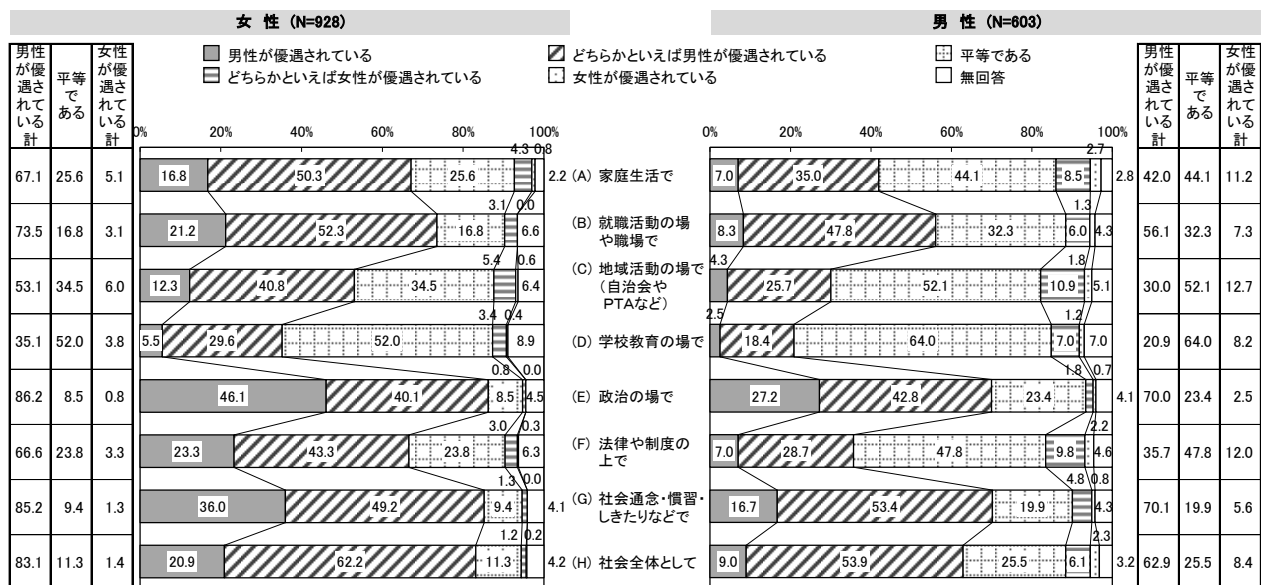
#### 1 男女の役割や地位に関する意識について

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。  
(それぞれ〇は一つ)

いずれの項目も女性の“男性が優遇されている計”の割合は男性に比べて10ポイント以上高くなっており、『(A) 家庭生活で』『(C) 地域活動の場で(自治会やPTAなど)』『(F) 法律や制度の上で』で男女差がより大きくなっている。



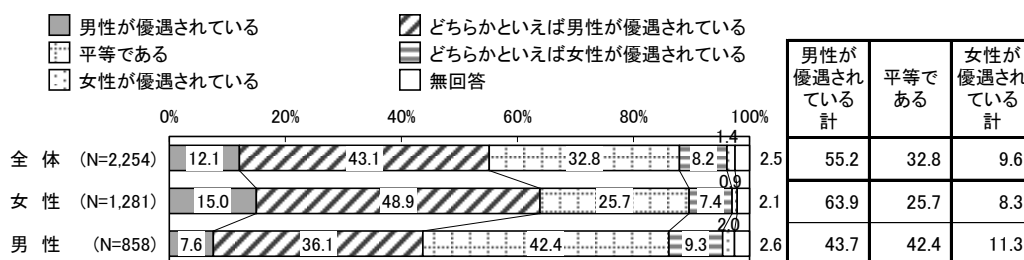
※男性が優遇されている計：「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた値  
女性が優遇されている計：「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」をあわせた値



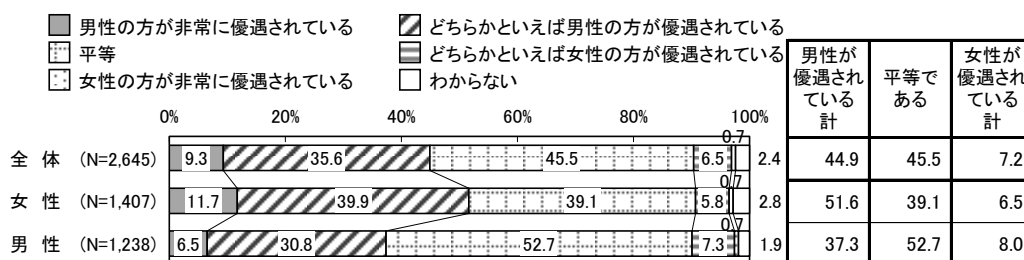
(A) 家庭生活で



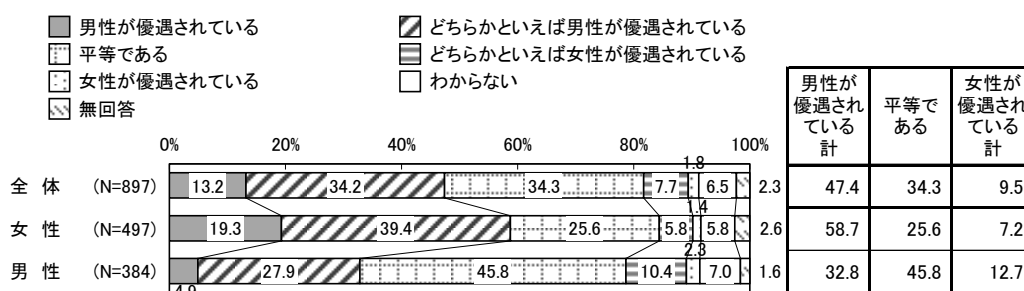
【前回調査（平成 27 年）】



【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】

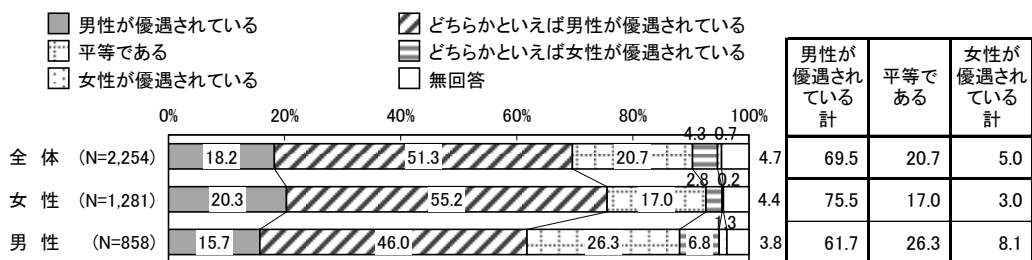




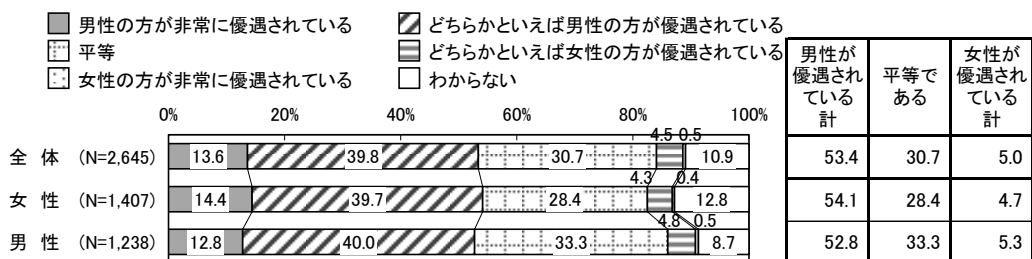
(B) 就職活動の場や職場で



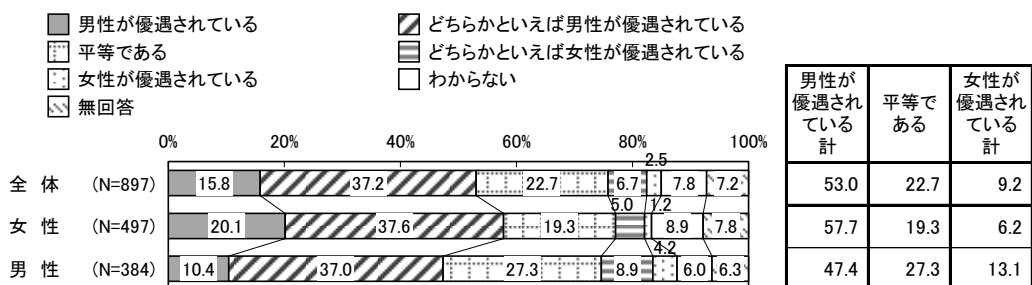
【前回調査（平成27年）】



【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



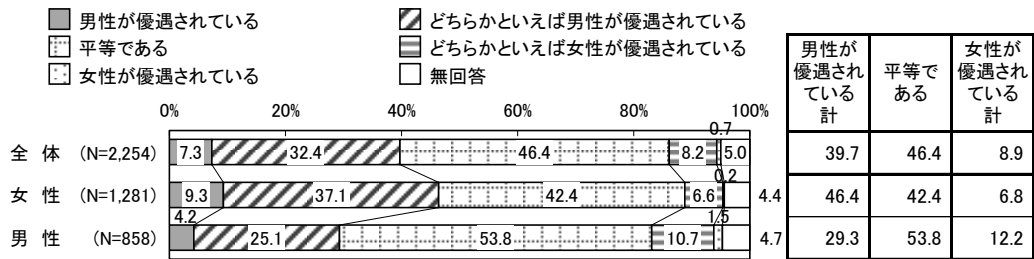
【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



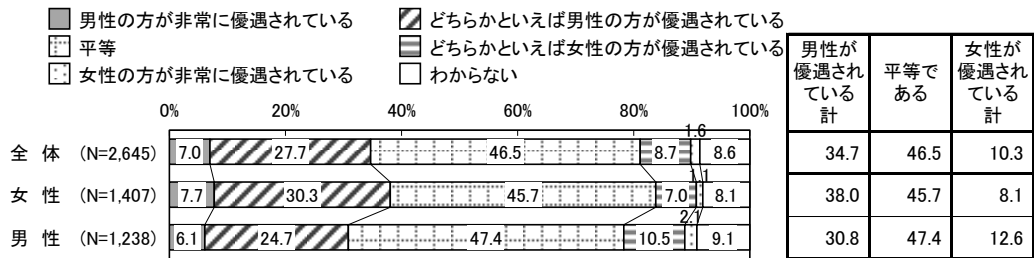
(C) 地域活動の場で（自治会やPTAなど）



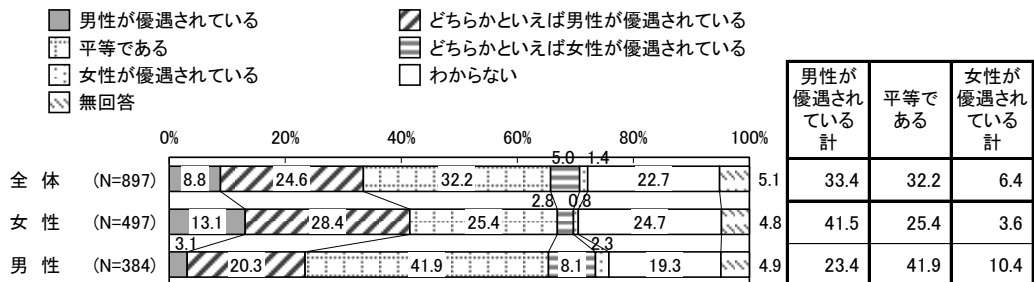
【前回調査（平成27年）】



【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



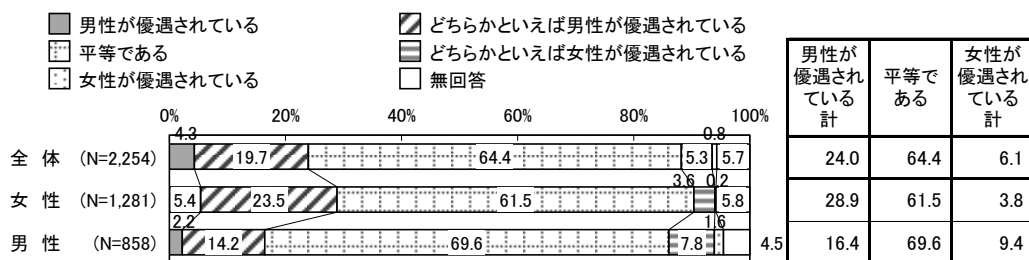
【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



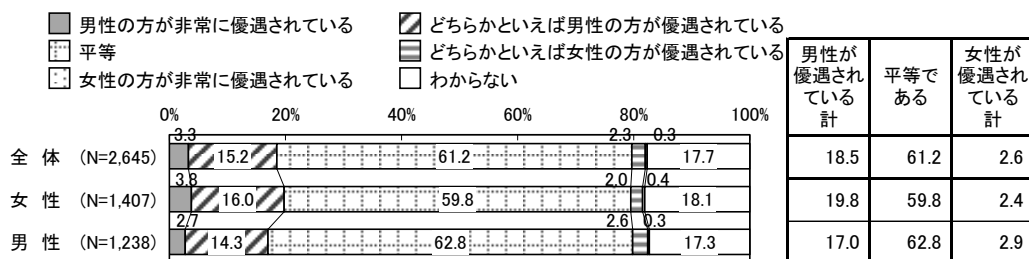
(D) 学校教育の場で



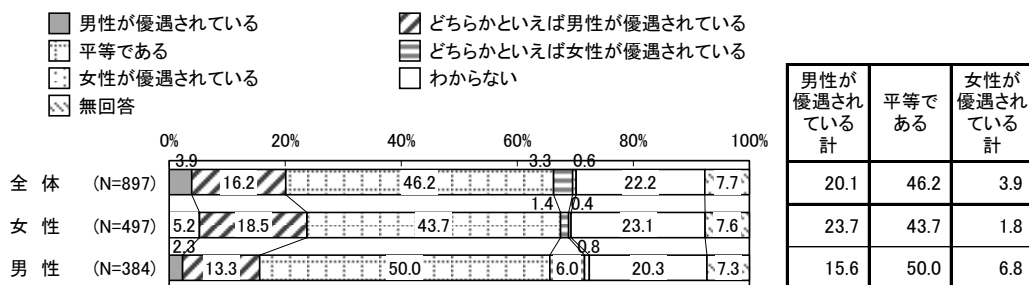
【前回調査（平成 27 年）】



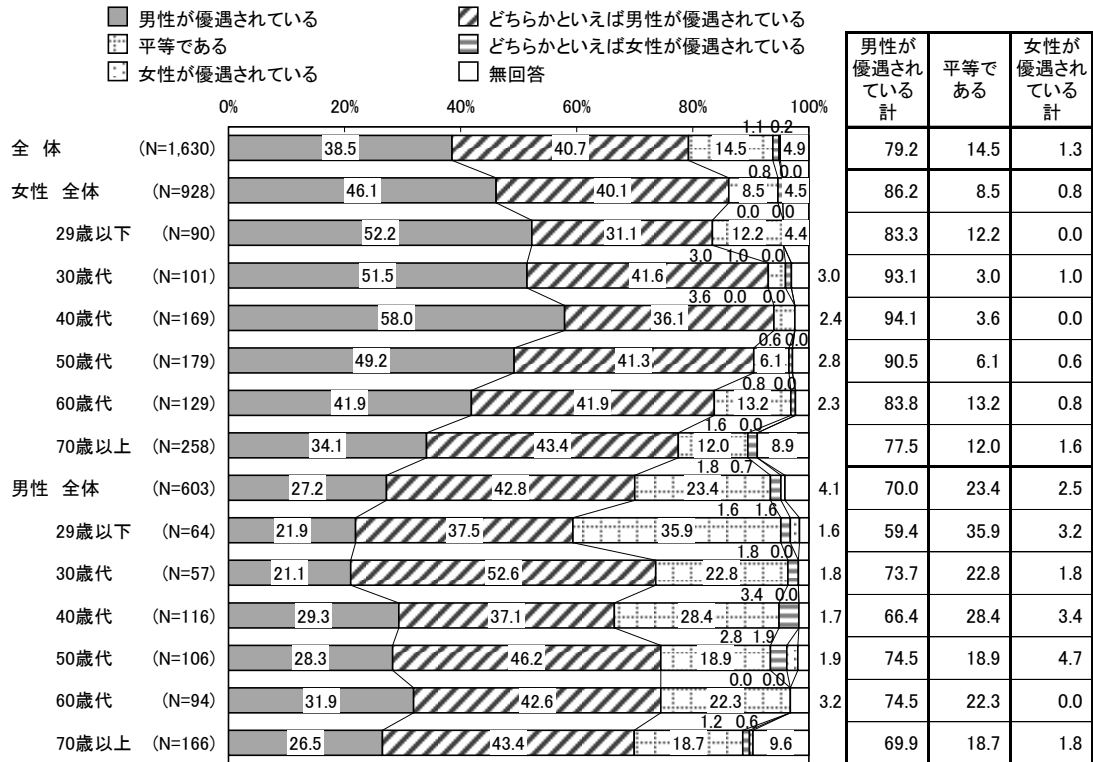
【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



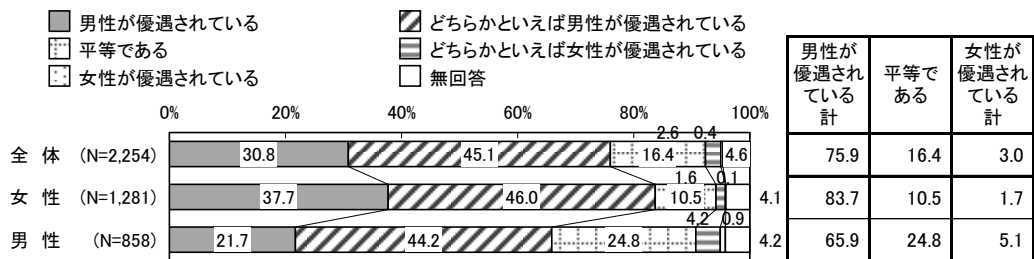
【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



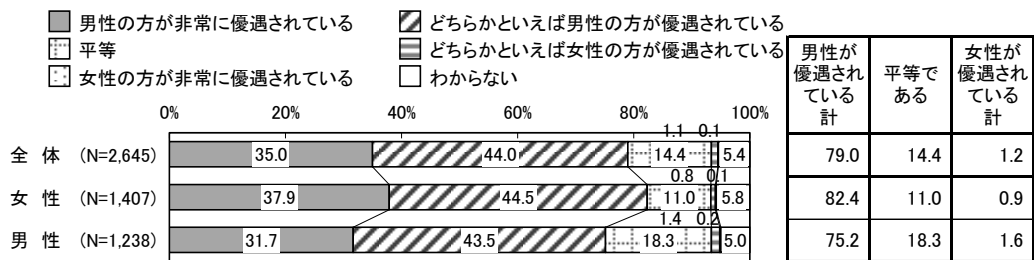
(E) 政治の場で



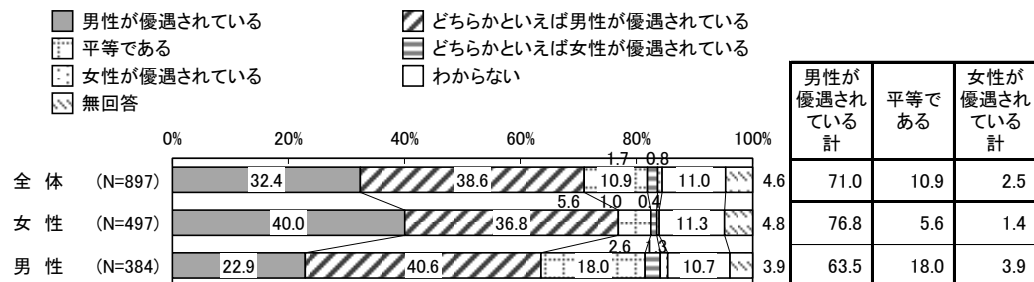
【前回調査（平成 27 年）】



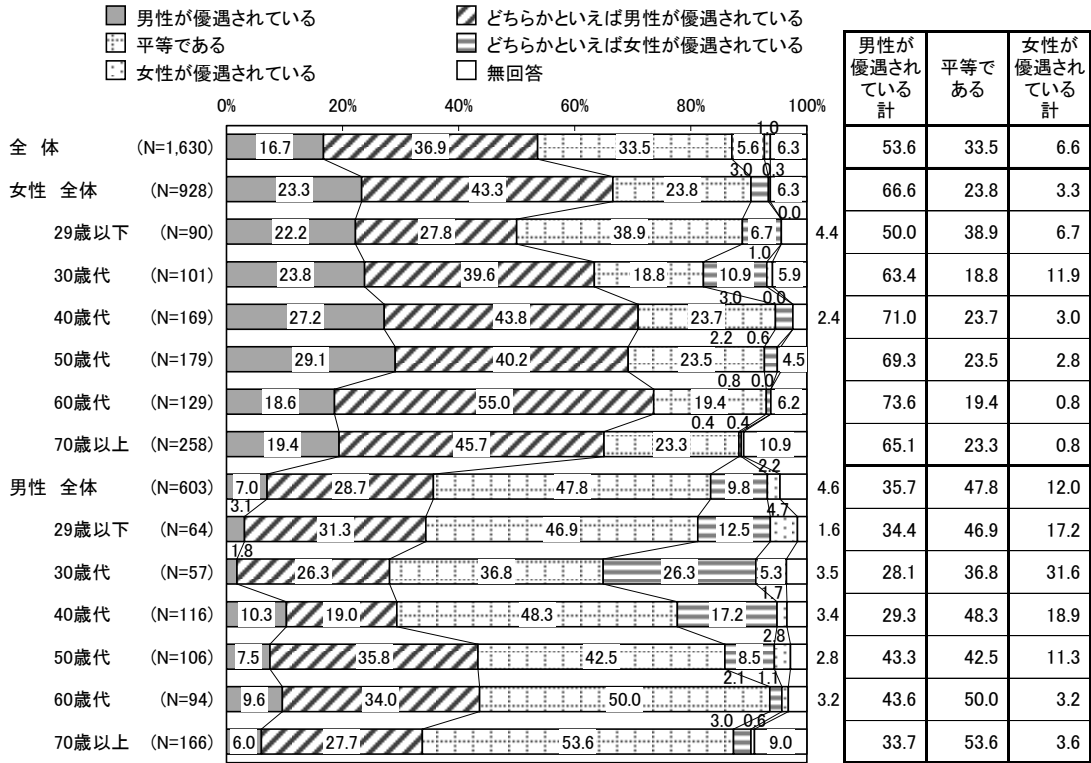
【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



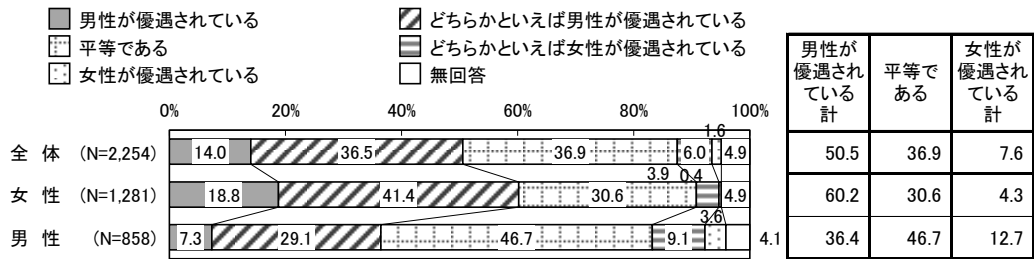
【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



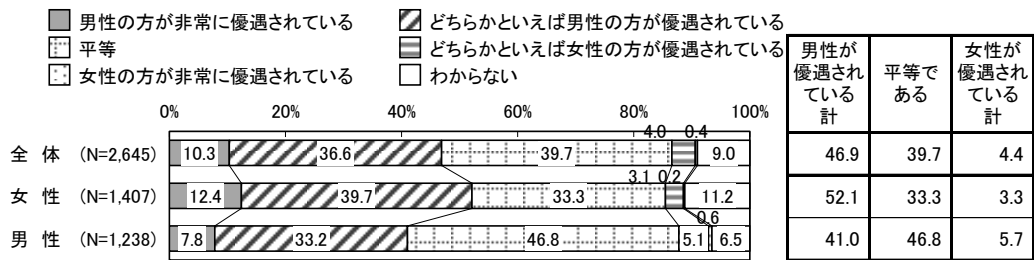
(F) 法律や制度の上で



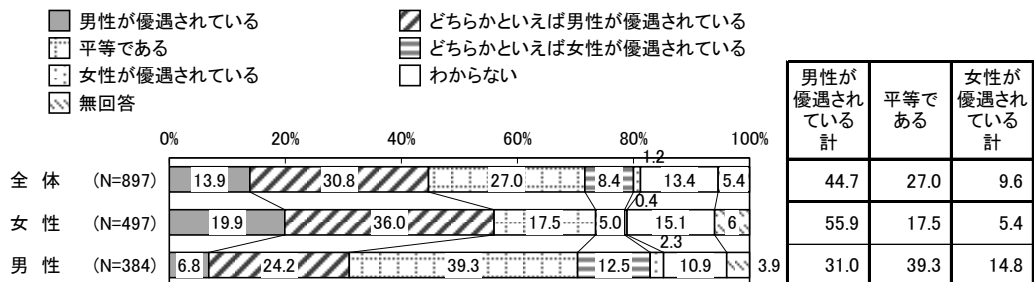
【前回調査（平成 27 年）】



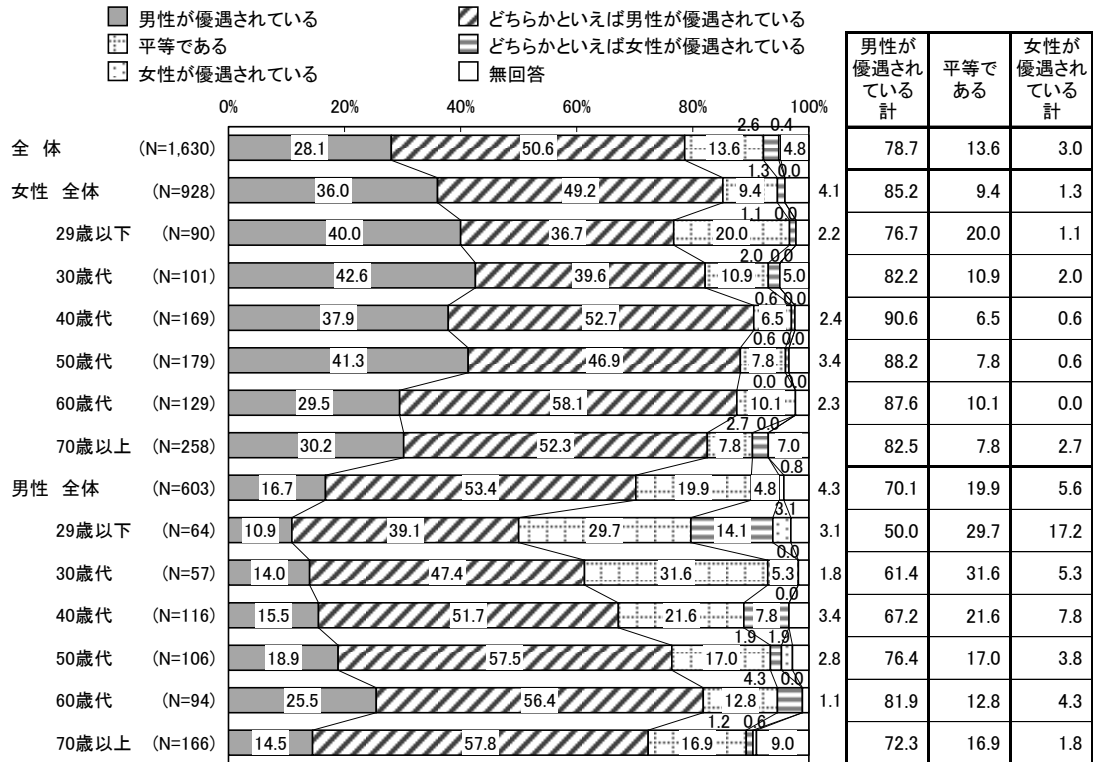
【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



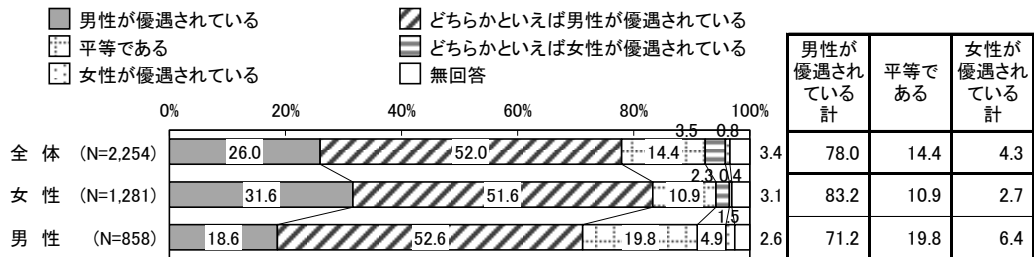
【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



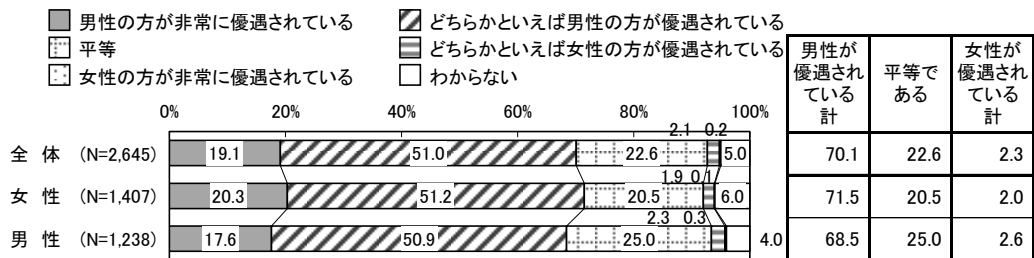
(G) 社会通念・慣習・しきたりなどで



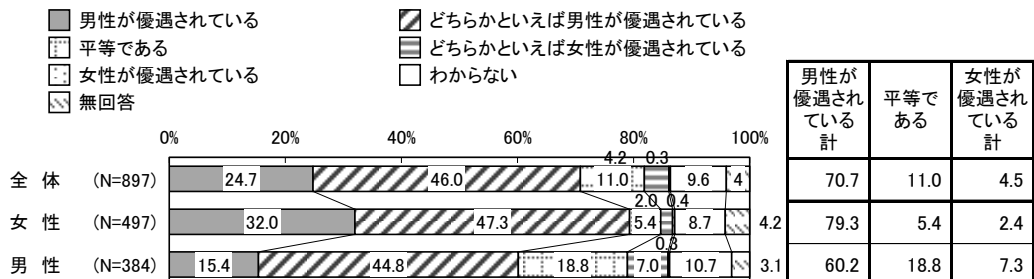
【前回調査（平成27年）】



【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】



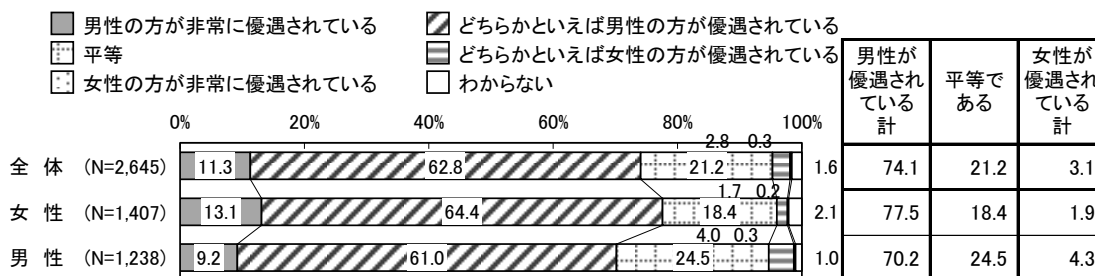
【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



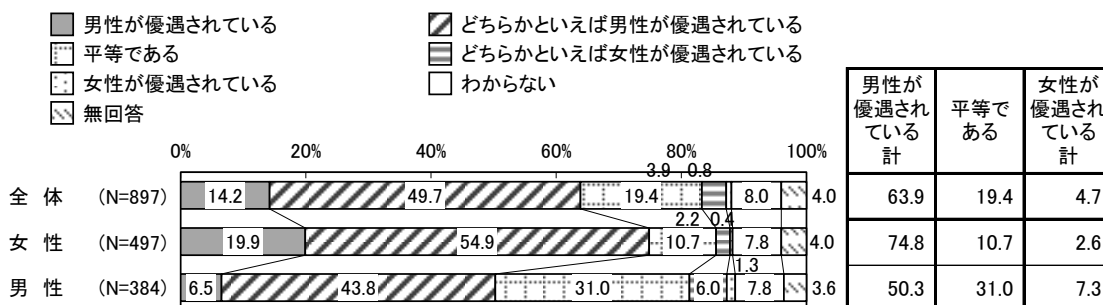
(H) 社会全体として



【全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年））】

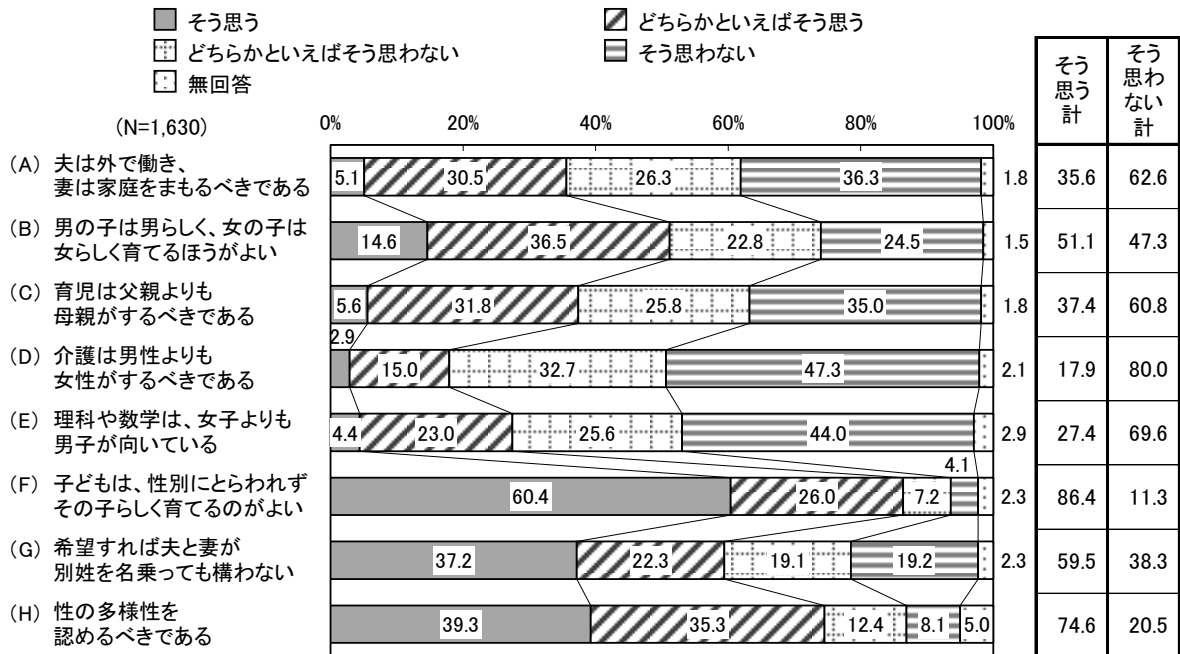


【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】

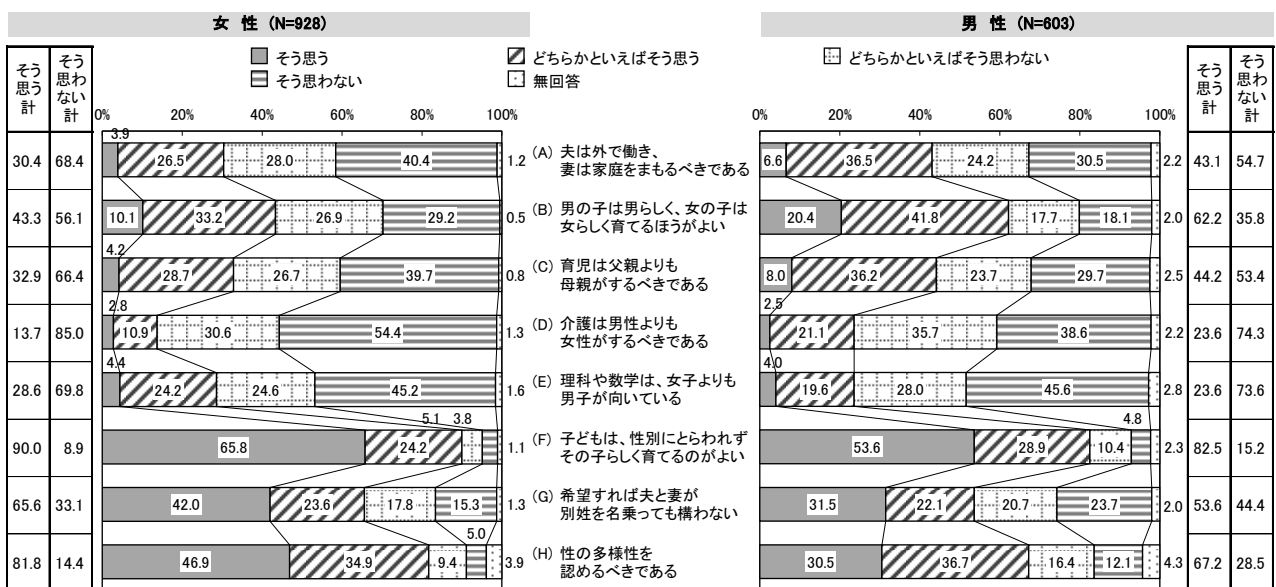


問2 次の考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ○は一つ)

女性の“そう思う計”の割合は『(G) 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない』『(H) 性の多様性を認めるべきである』で男性に比べて10ポイント以上高い。男性の“そう思う計”の割合は『(A) 夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである』『(B) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい』『(C) 育児は父親よりも母親がするべきである』で女性に比べて10ポイント以上高い。



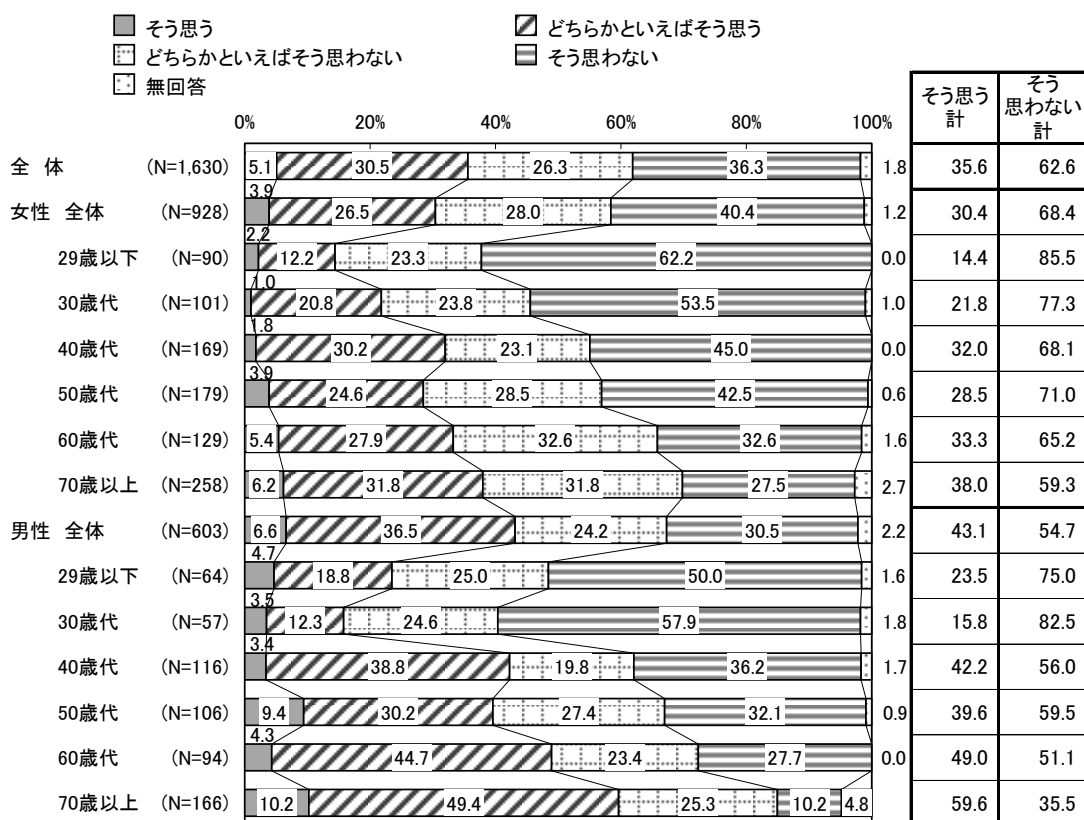
※そう思う計：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた値  
 そう思わない計：「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」をあわせた値



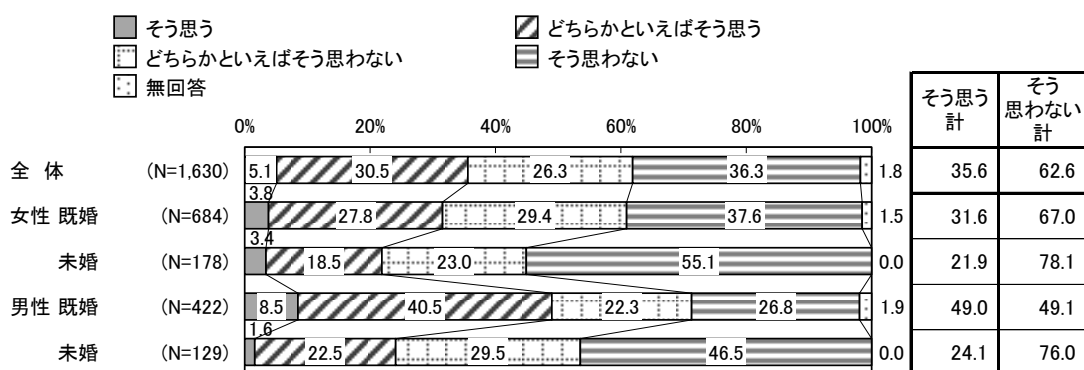


(A) 夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである

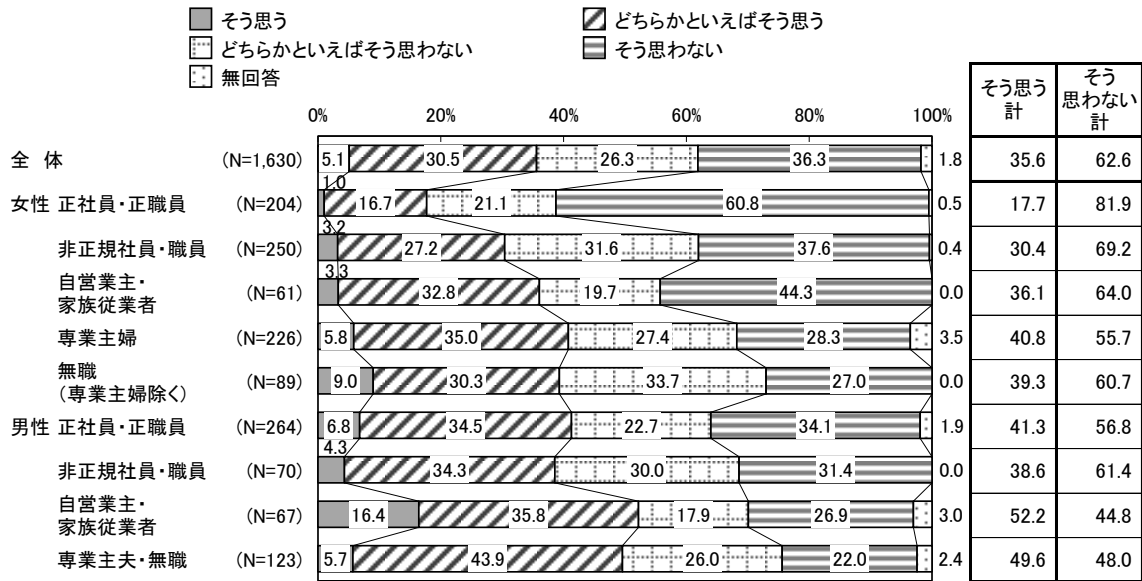
性・年代別にみると、“そう思わない計”の割合は男女ともに年代の低い方が高く、性・未既婚別では男女ともに未婚者の方が高い。また、性・勤務形態別では特に女性の正社員・正職員で高い。



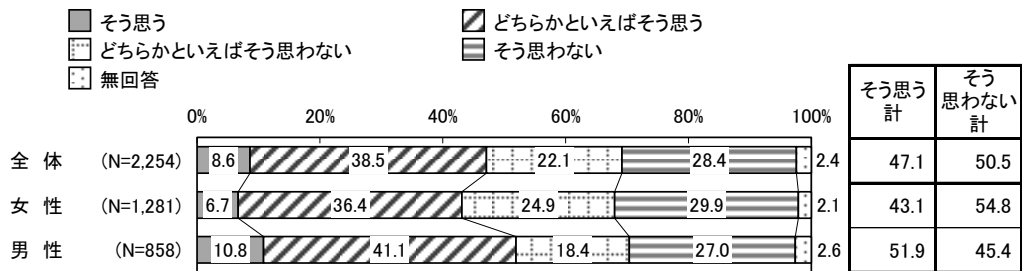
【性・未既婚別（既婚…問 24 で結婚経験がありと答えた方を掲載）】



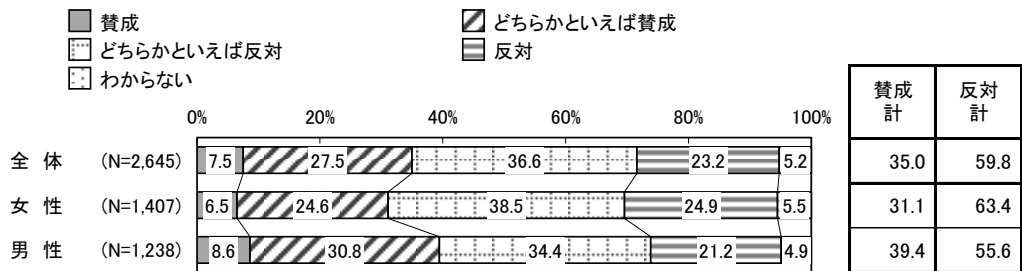
【性・勤務形態別】



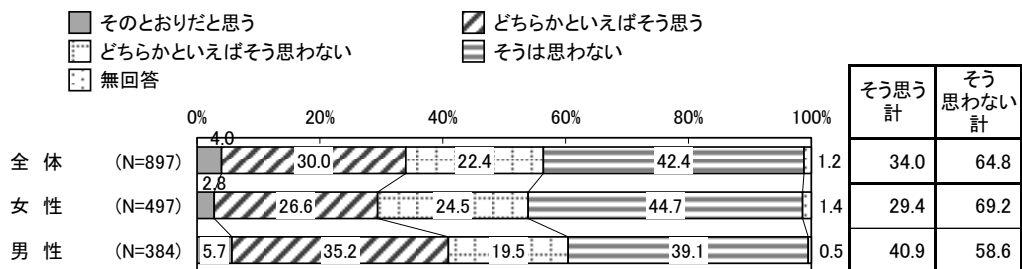
【前回調査 (平成 27 年)】



【全国調査 (男女共同参画社会に関する世論調査 (令和元年))】

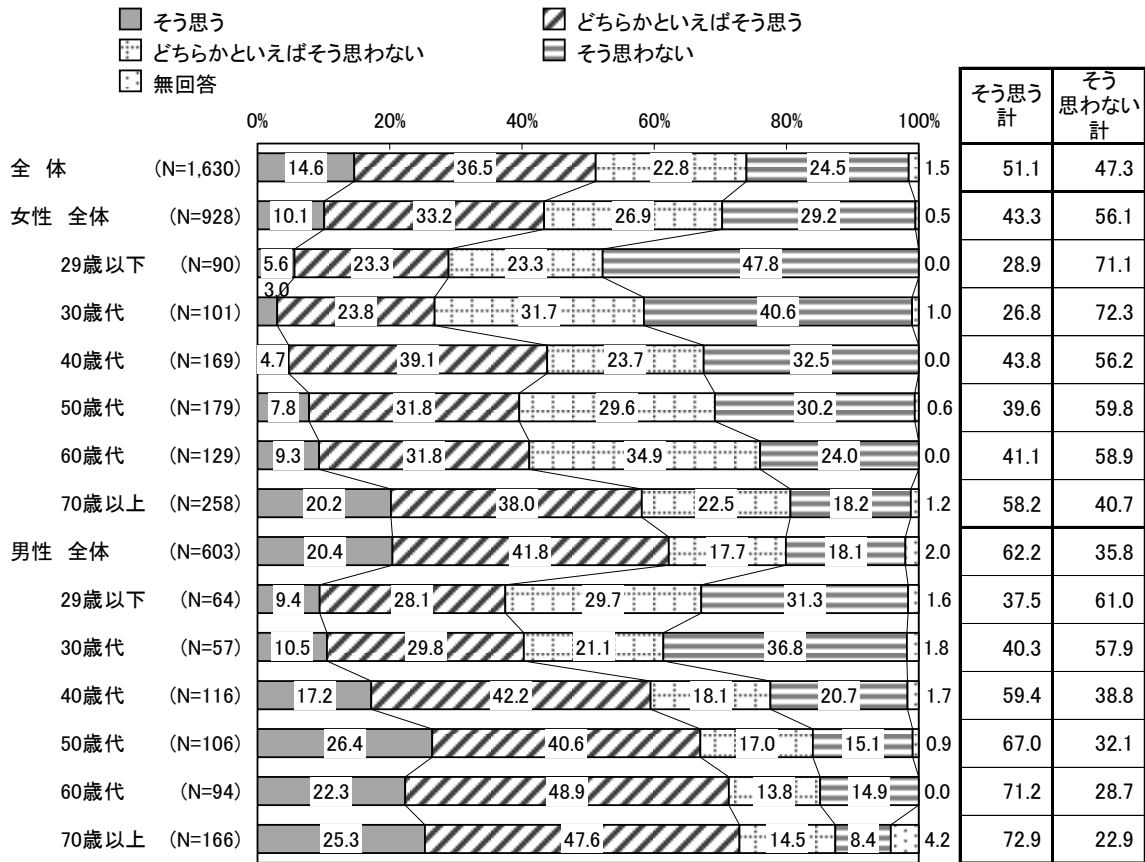


【大阪府調査 (男女共同参画に関する府民意識調査 (令和元年))】

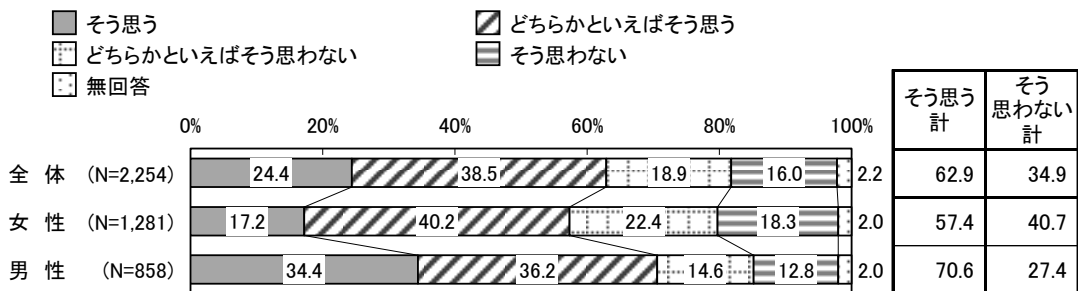


(B) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい

性・年代別にみると、“そう思わない計”の割合は男性の年代が高くなるにつれて低くなっており、40歳代以上で50%を下回る。全ての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、50歳代、60歳代では男女差が20ポイント以上となっている。

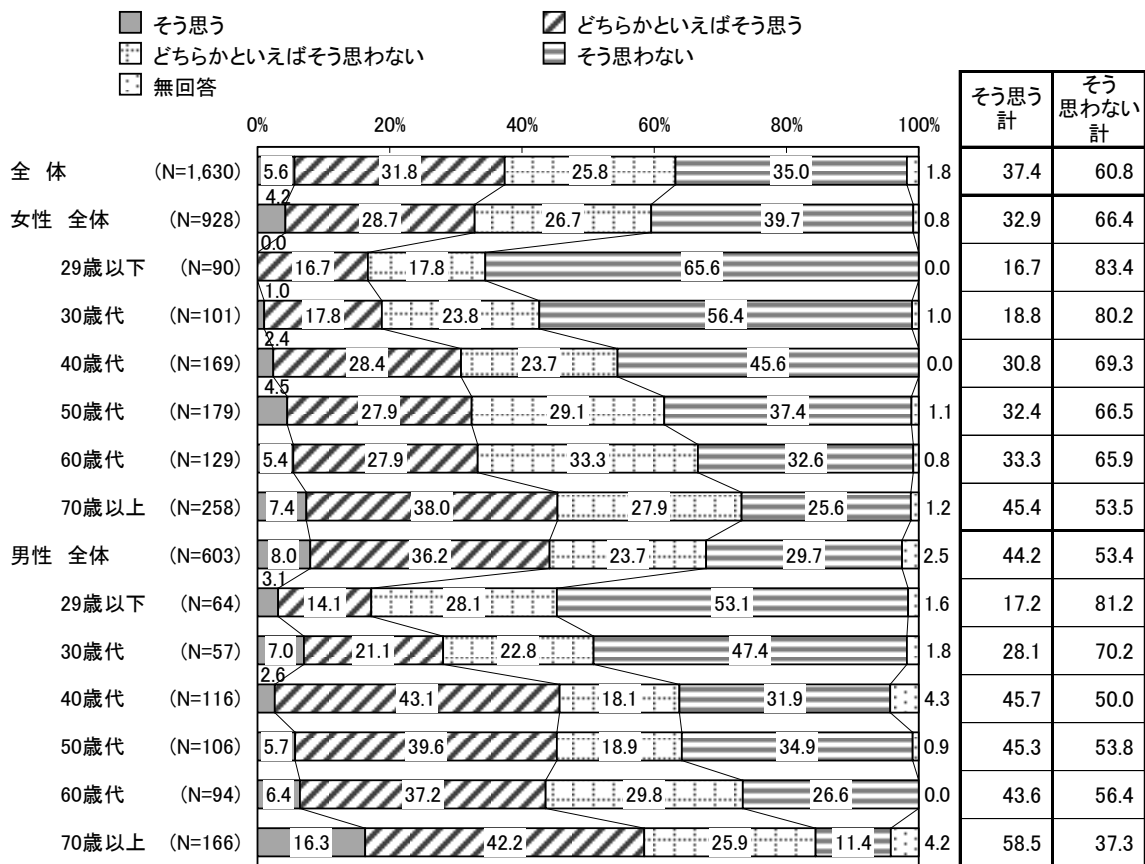


【前回調査（平成27年）】

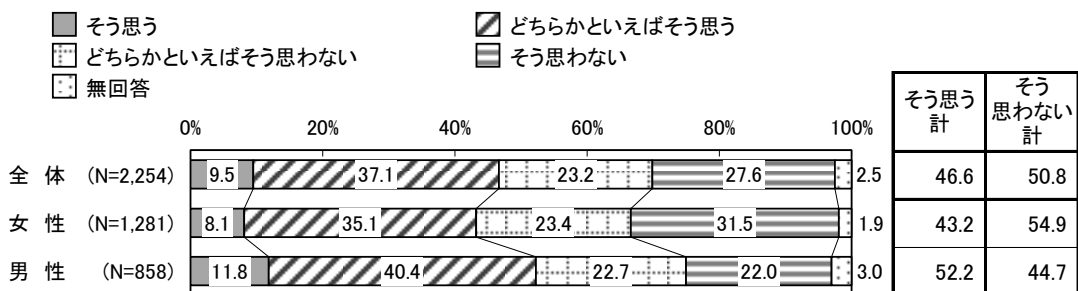


(C) 育児は父親よりも母親がすべきである

性・年代別にみると、“そう思わない計”の割合は男女ともに30歳代以下で70%以上と高い。全ての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、30歳代以上で男女差がより大きい。

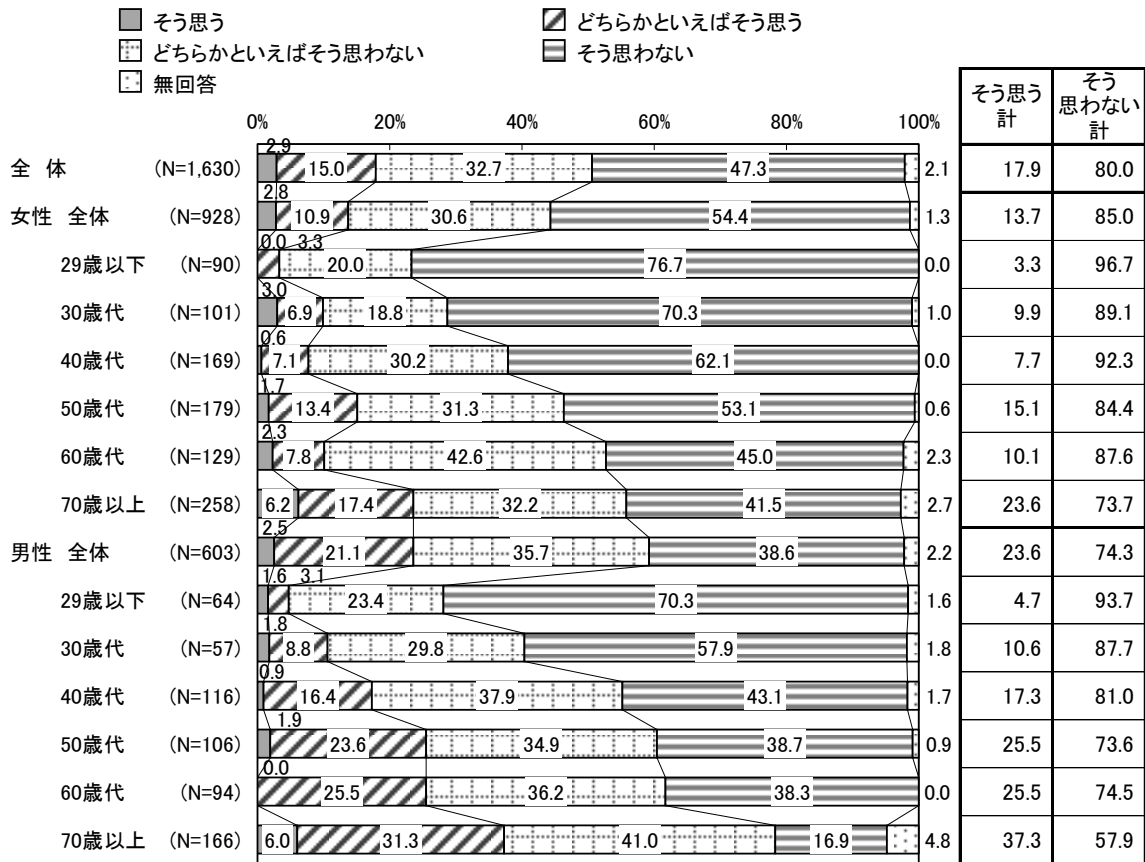


【前回調査（平成27年）】



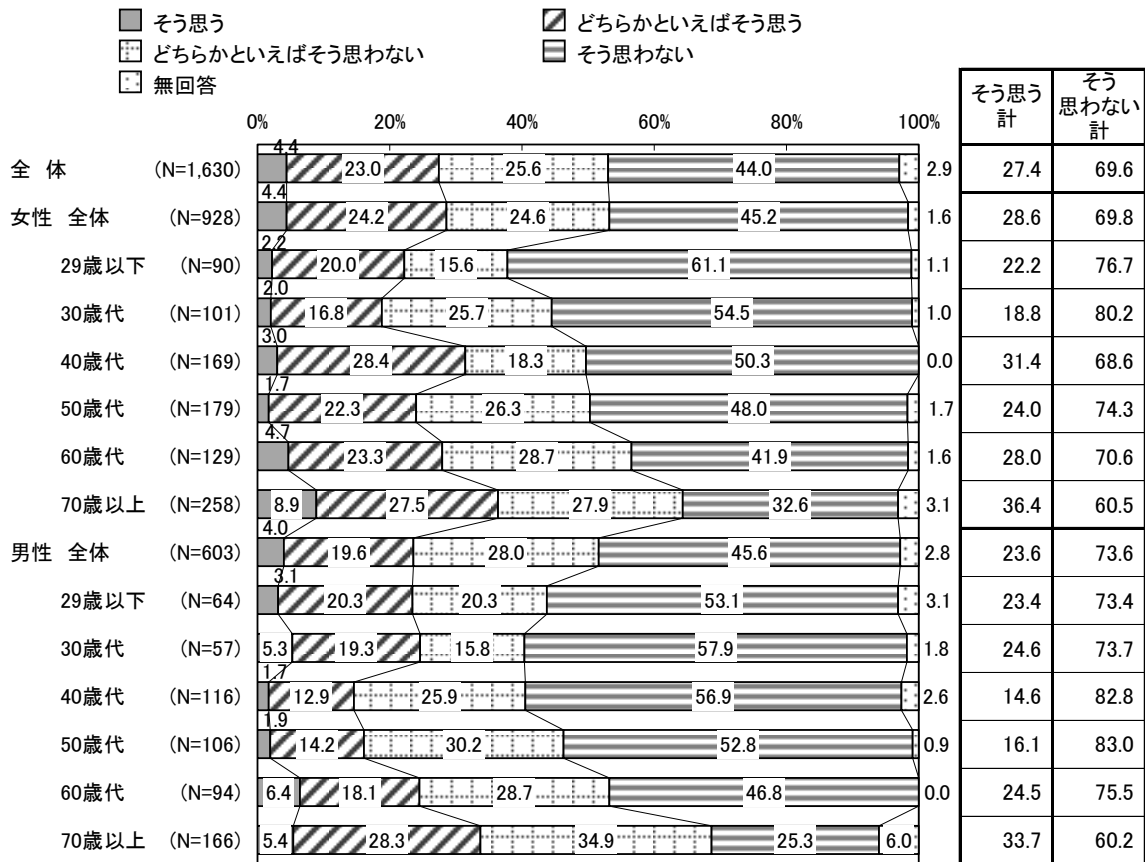
(D) 介護は男性よりも女性がすべきである

性・年代別にみると、“そう思わない計”の割合は男性の年代が高くなるほど概ねその割合は低い。全ての年代で男性の“そう思わない計”の割合が女性に比べて低く、40歳代以上で男女差がより大きい。

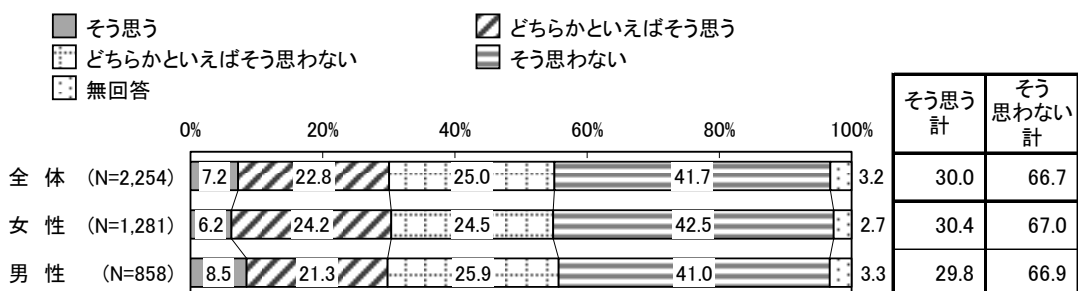


(E) 理科や数学は、女子よりも男子が向いている

性・年代別にみると、“そう思わない計”の割合は40歳代から60歳代で女性が男性に比べて低く、40歳代では男女差がより大きい。

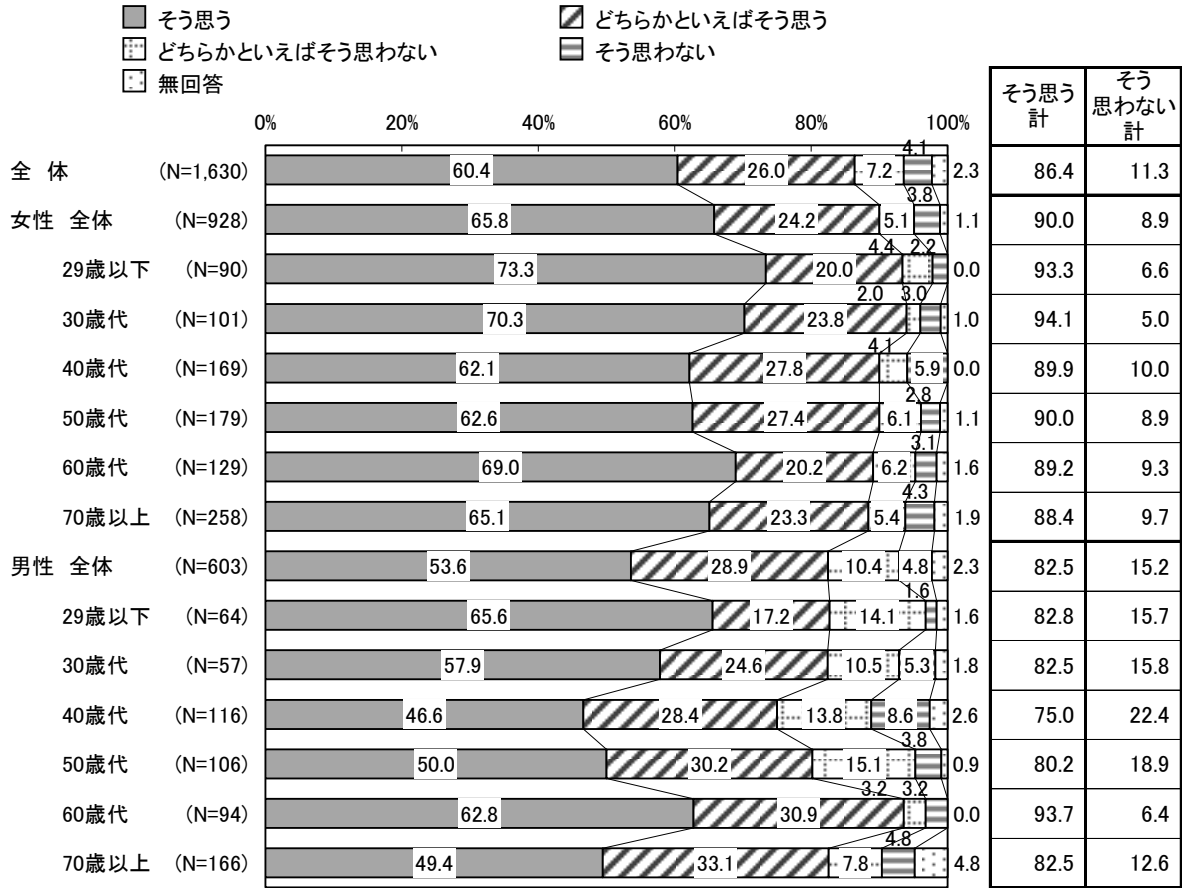


【前回調査（平成27年）】

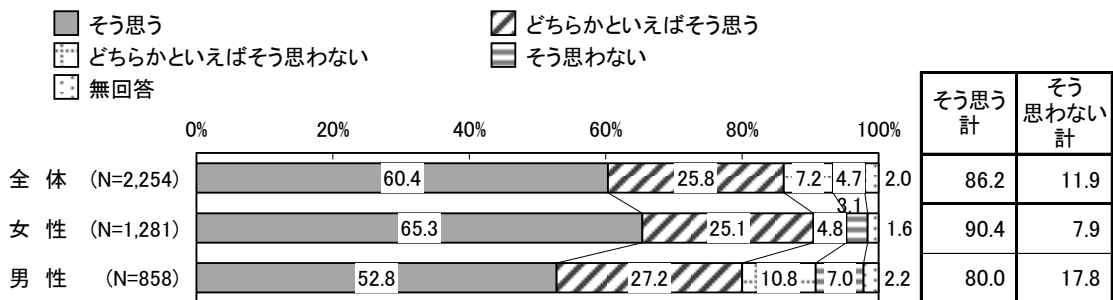


(F) 子どもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい

性・年代別にみると、“そう思う計”の割合は40歳代男性以外の全ての年代で80%を超えており、40歳代以下で男女差がより大きい。

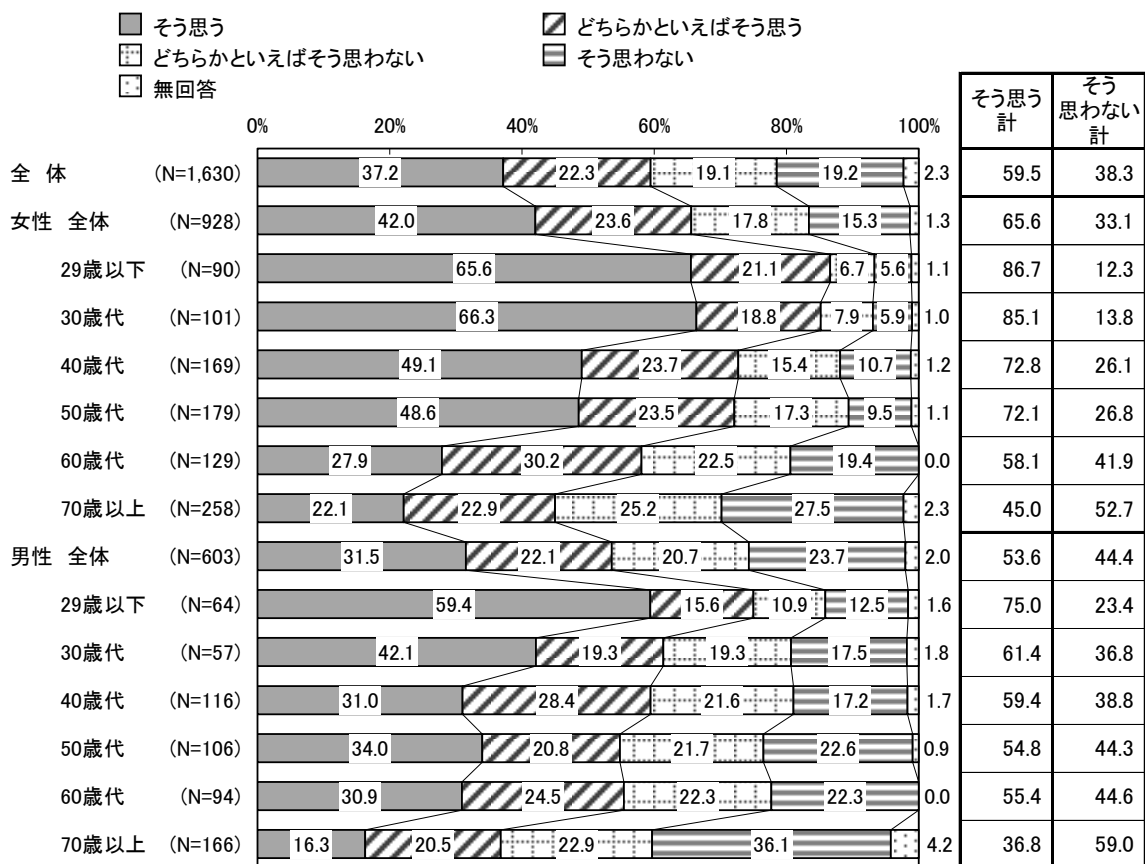


【前回調査（平成27年）】

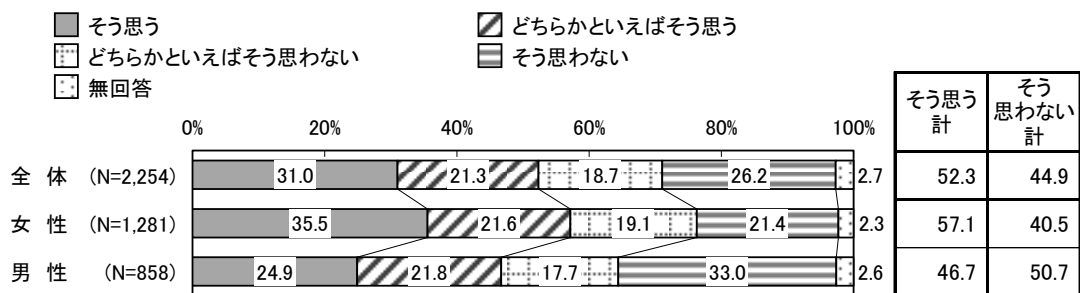


(G) 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない

性・年代別にみると、“そう思う計”の割合は男女ともに年代が低くなるほどに概ね高く、30歳代以下女性で80%を超えている。全ての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高く、30歳代で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】

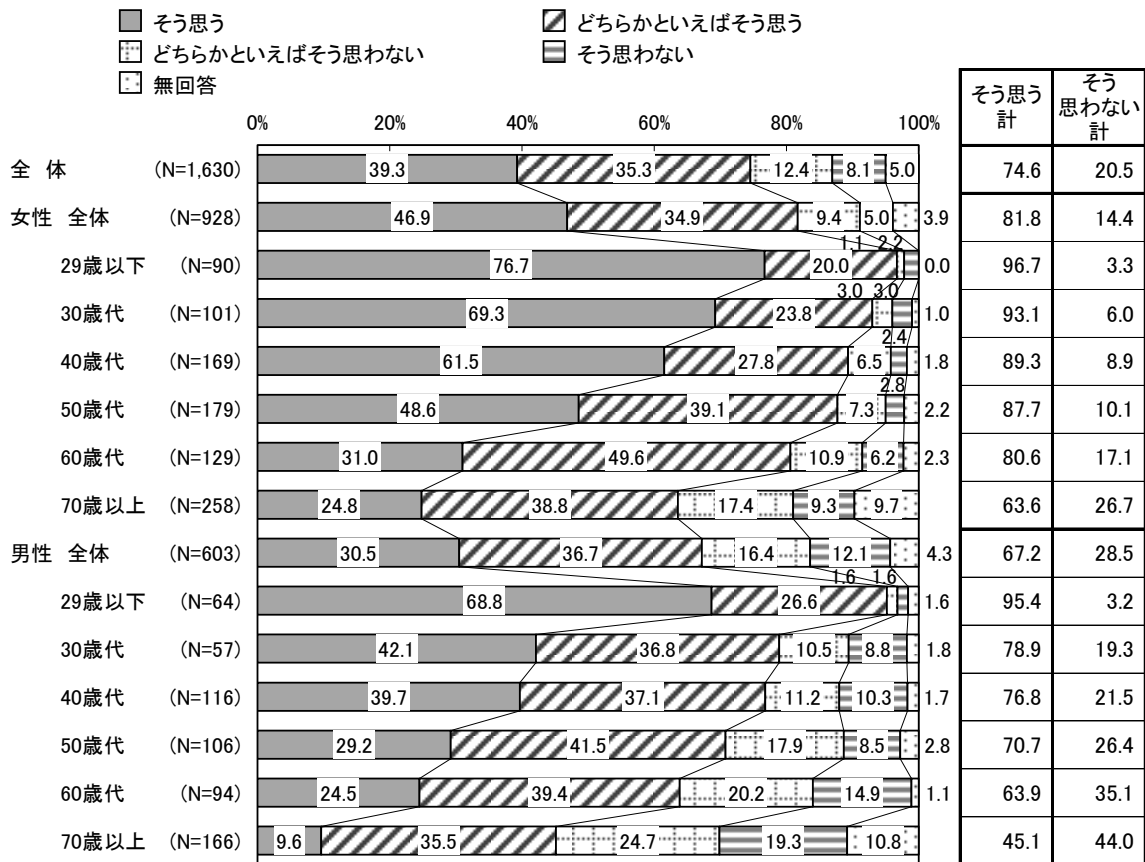


※前回調査の項目名は「希望する夫婦は別の姓を名乗っても構わない」であり、今回調査では項目名を変更している。

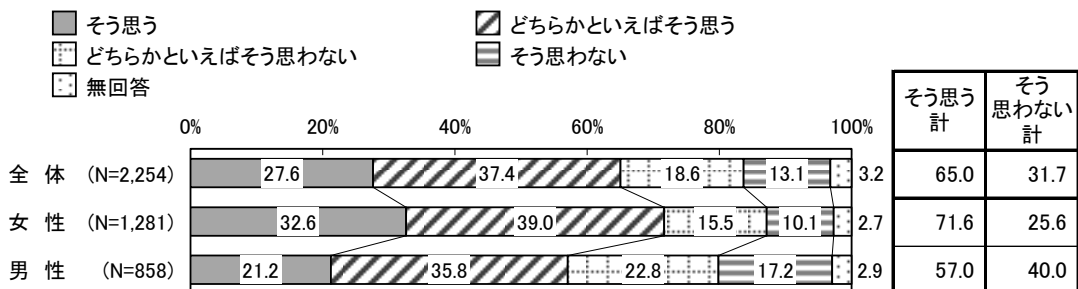


(H) 性の多様性を認めるべきである

性・年代別にみると、“そう思う計”の割合は男女ともに年代が低くなるほどその割合は高い。全ての年代で女性の“そう思う計”の割合が男性に比べて高く、50歳代以上で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】



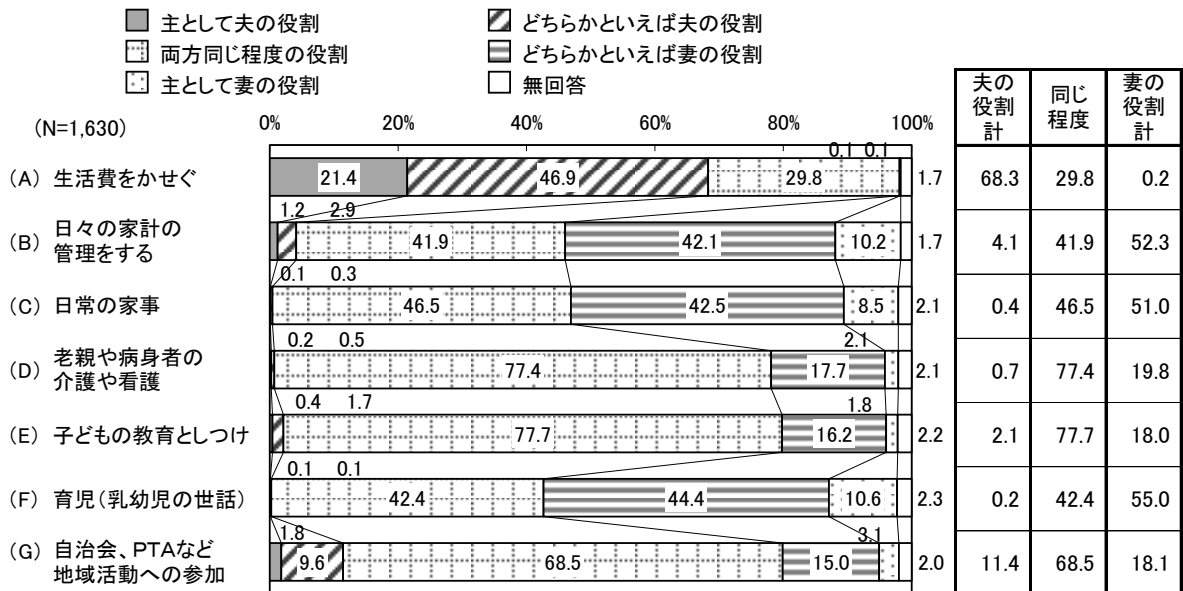
問3 あなたが、今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業や役職はどれですか。  
(〇はいくつでも)

(単位:%)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
医師	54.9	59.5	49.1	53.9	56.6	49.4
国会議員・地方議員などの政治家	53.1	56.1	49.3	43.2	43.1	44.1
大臣や閣僚	49.1	53.4	43.3	34.6	36.1	33.3
地方自治体の首長(知事、市長など)	47.7	49.2	46.4	36.7	38.2	34.7
企業の管理職	46.1	48.9	43.0	41.5	43.9	39.2
裁判官・検察官・弁護士	44.4	49.5	38.1	39.6	41.6	36.6
国家公務員・地方公務員の管理職	42.8	46.7	37.3	36.2	37.6	34.6
起業家・経営者	38.3	41.2	35.3	33.0	33.8	31.5
大学教授	29.4	31.3	27.4	23.8	23.0	24.8
学校長・大学学長	29.3	32.2	25.9	22.5	23.2	21.8
団体(組合、NPO、自治会等)の役員	28.6	29.6	26.4	24.2	24.6	24.2
科学者	28.5	29.7	27.4	24.5	24.0	25.8
新聞・放送の記者	24.7	27.2	21.1	22.4	22.0	22.8
その他	1.7	1.5	2.0	1.8	1.2	2.2
特にない	13.3	11.2	16.1	15.4	14.1	16.9
無回答	2.5	2.0	2.8	2.5	2.7	2.1

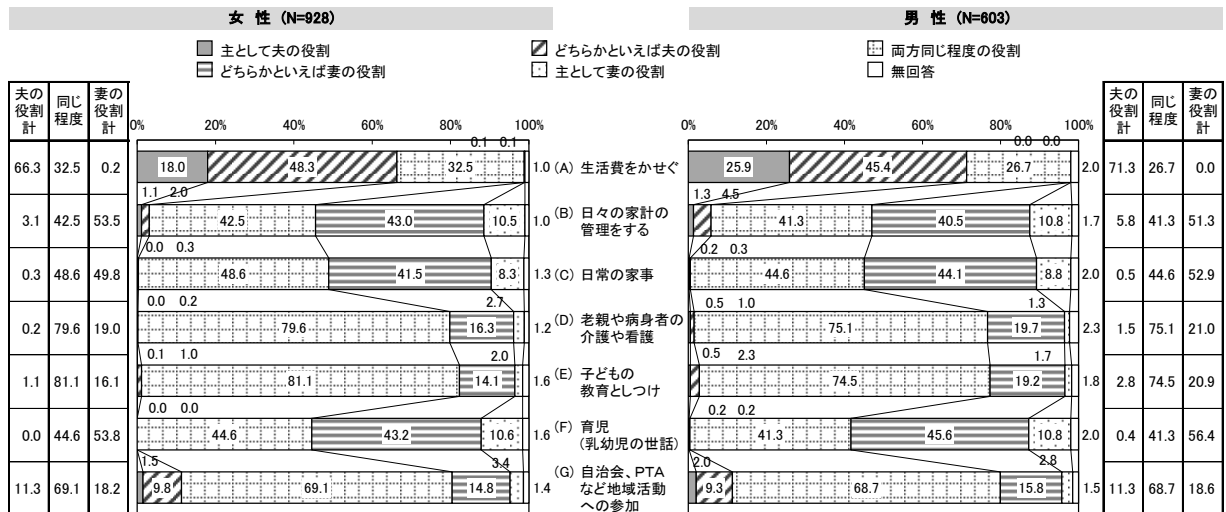
## 2 家庭生活について

問4 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者・パートナーがいない方は、仮にいないことを想定してお答えください。(それぞれ○は一つ)  
 ※「配偶者・パートナー」には、婚姻届を出していない事実婚の相手も含まれます。

男女間で“夫の役割計”の割合や“妻の役割計”の割合に大きな差はみられない。

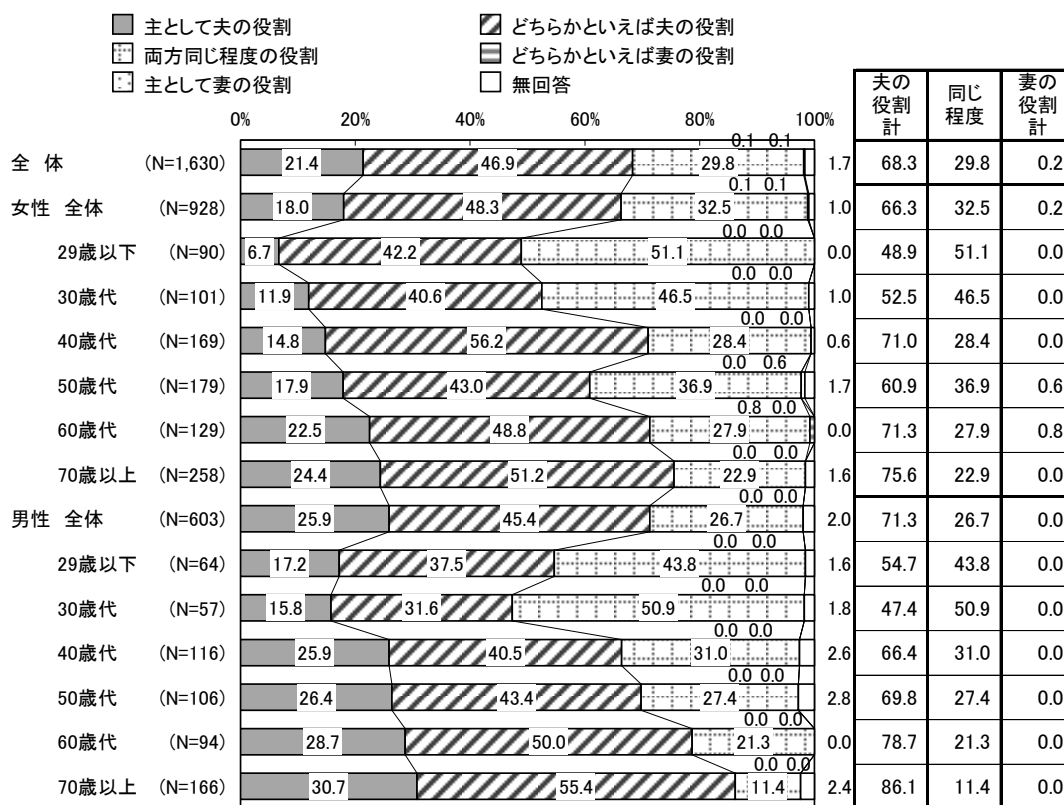


※夫の役割計：「主として夫の役割」「どちらかといえば夫の役割」をあわせた値  
 妻の役割計：「主として妻の役割」「どちらかといえば妻の役割」をあわせた値

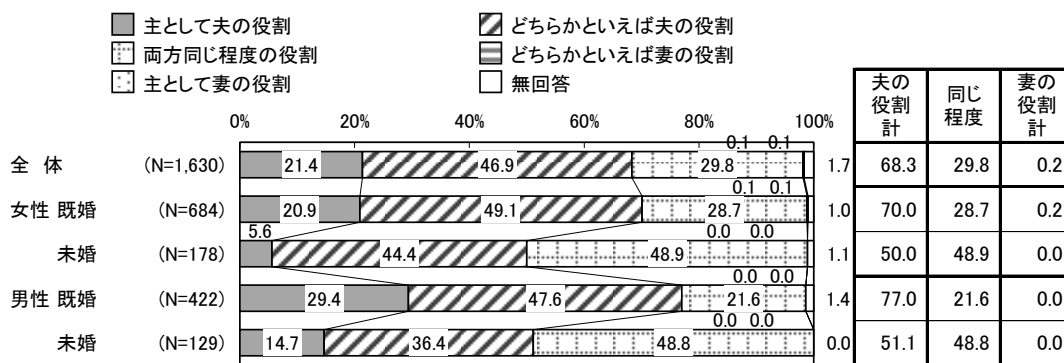


(A) 生活費をかせぐ

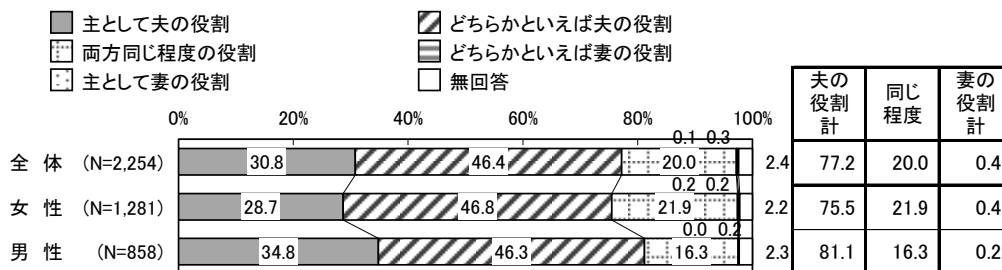
性・年代別にみると、“夫の役割計”の割合は男女ともに40歳代以上で60%を超えている。



【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】

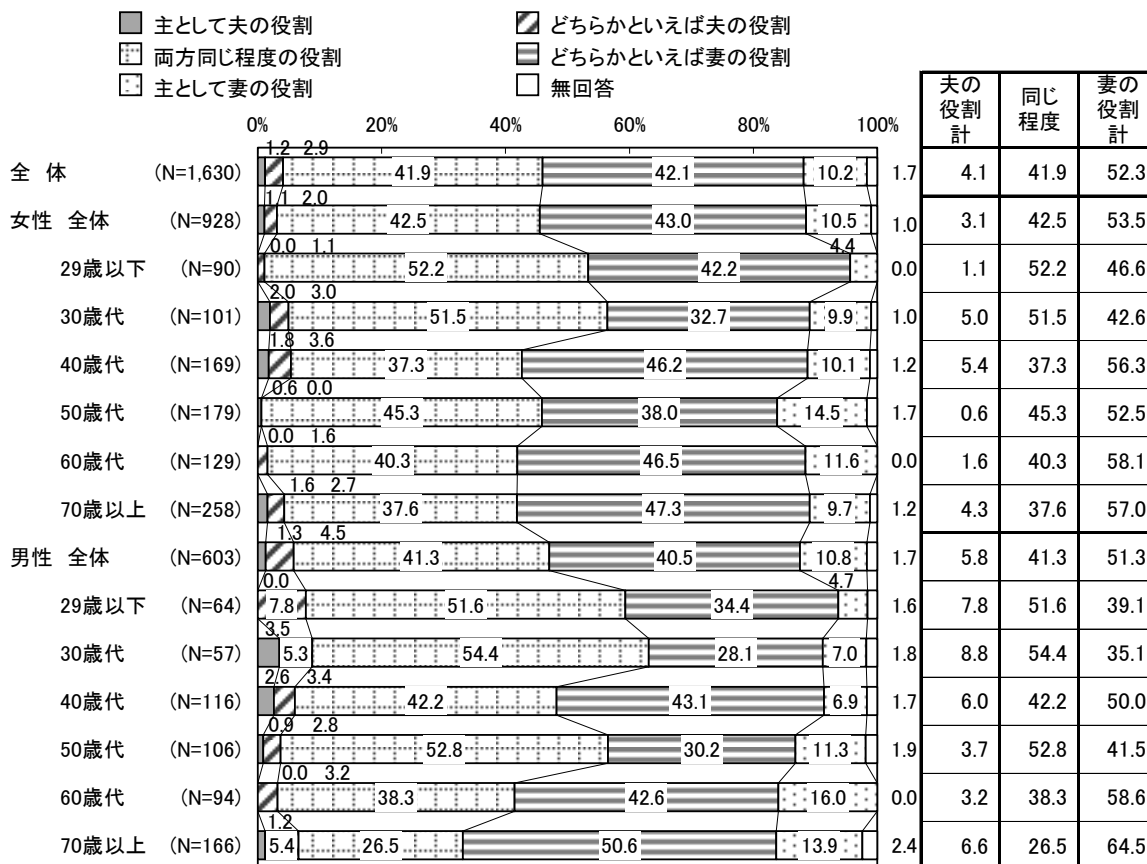


【前回調査（平成27年）】

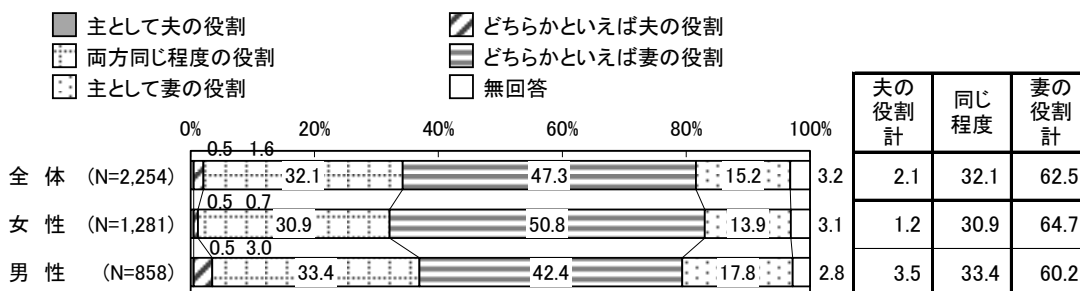


(B) 日々の家計の管理をする

性・年代別にみると、「妻の役割計」の割合は男女ともに30歳代以下で低く、「両方同じ程度の役割」の割合が半数を占めている。50歳代以下女性の「妻の役割計」の割合が男性に比べて高い。

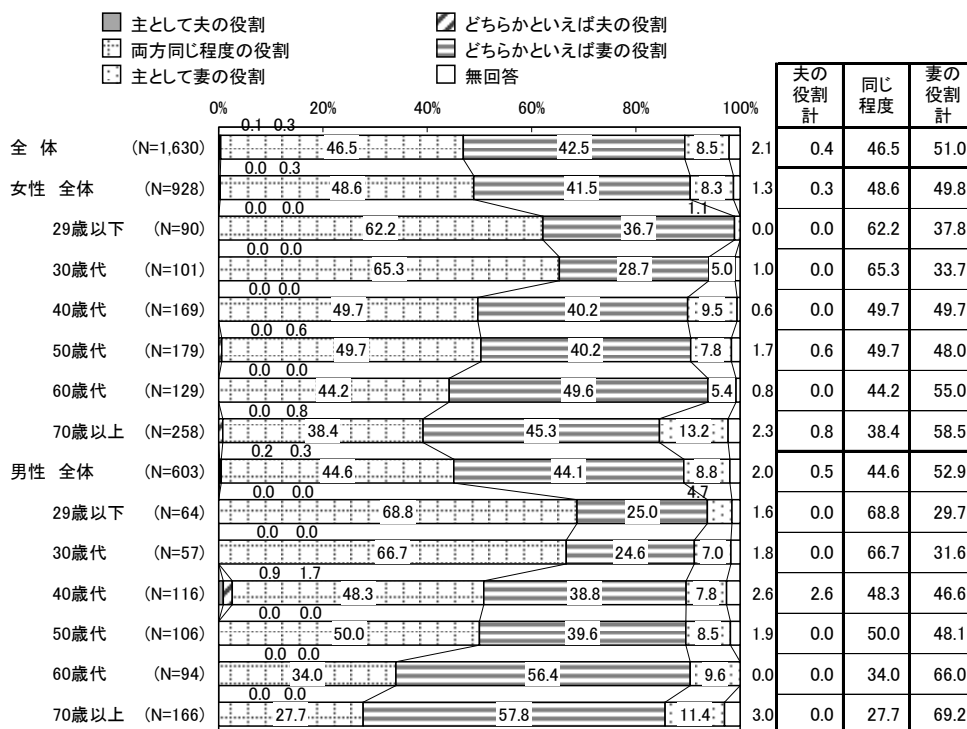


【前回調査（平成27年）】

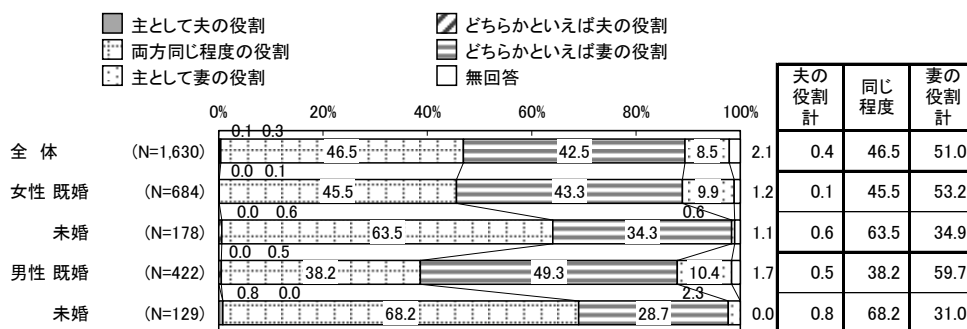


(C) 日常の家事

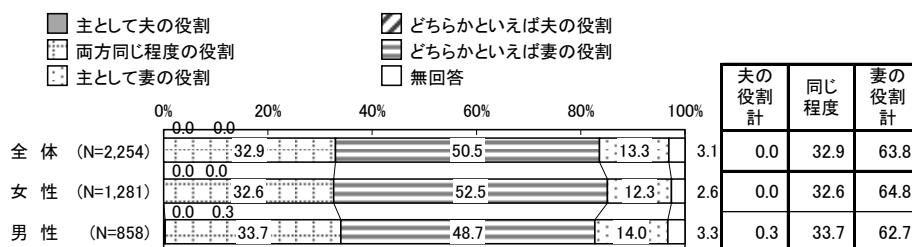
性・年代別にみると、「妻の役割計」の割合は男女ともに30歳代以下で低く、「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えている。60歳代以上男性の「妻の役割計」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



【性・未既婚別（既婚…問24で結婚経験がありと答えた方を掲載）】



【前回調査（平成27年）】

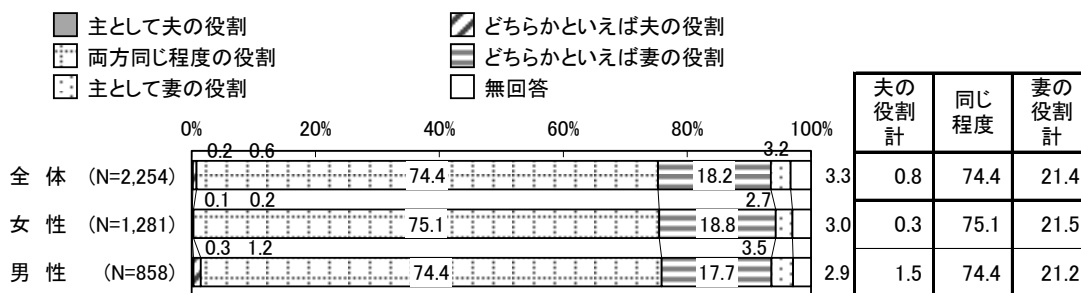


(D) 老親や病身者の介護や看護

性・年代別にみると、全ての年代で「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えており、若い年代ほどその割合は高い。全ての年代で女性の「両方同じ程度の役割」の割合が男性に比べて高い。

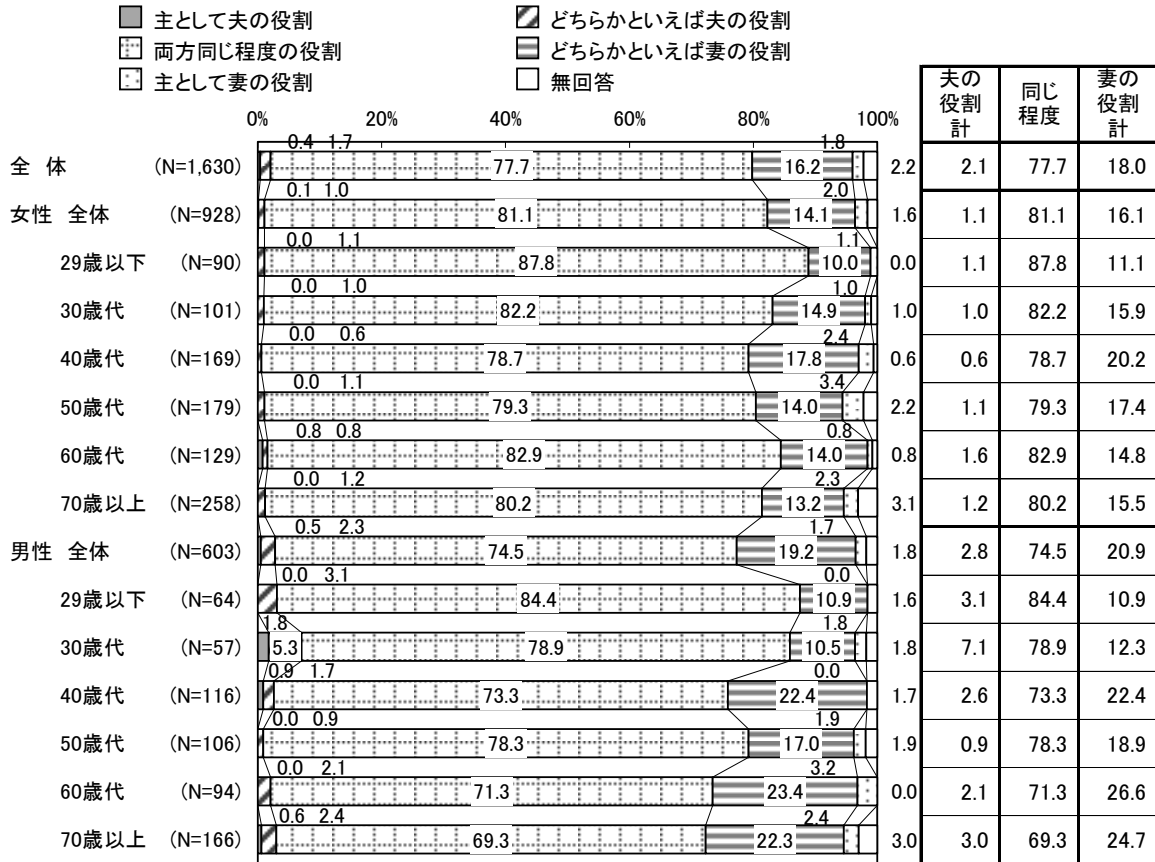


【前回調査（平成27年）】

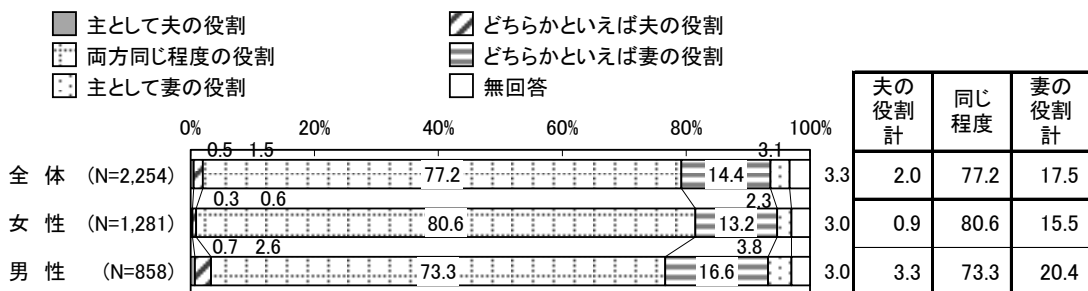


(E) 子どもの教育としつけ

性・年代別にみると、全ての年代で女性の「両方同じ程度の役割」の割合は男性に比べて高く、60歳代以上で男女差が大きい。



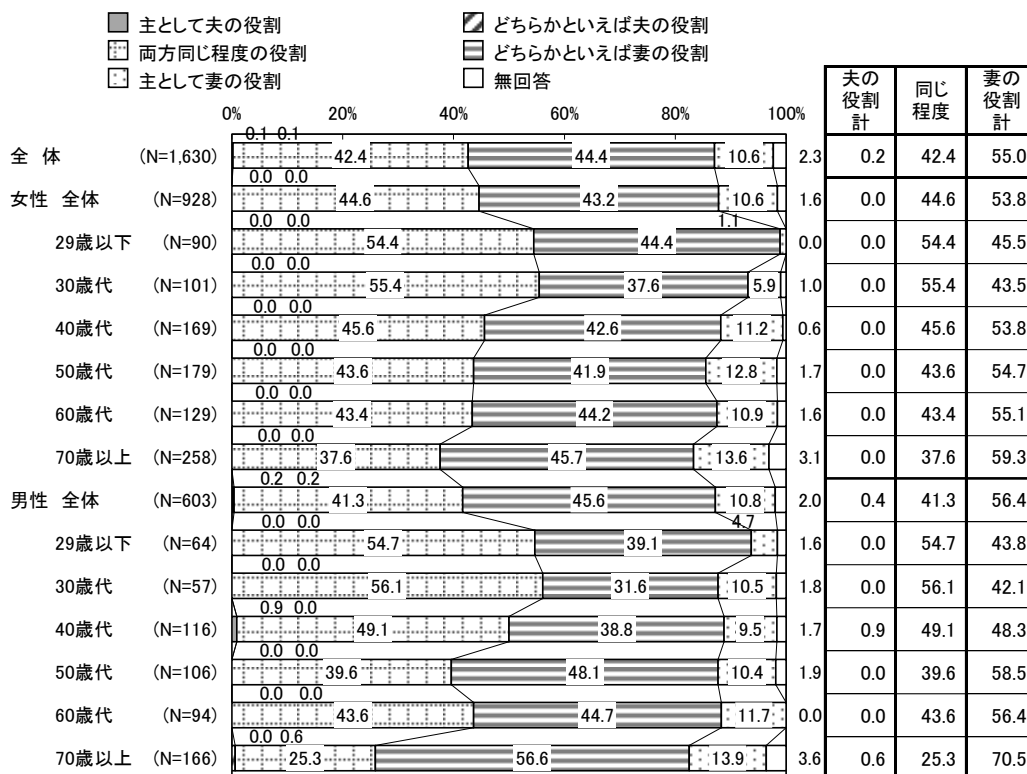
【前回調査（平成27年）】



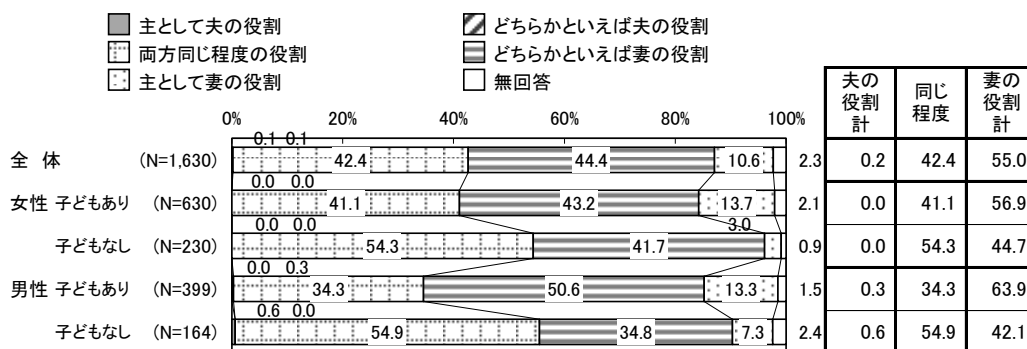


## (F) 育児（乳幼児の世話）

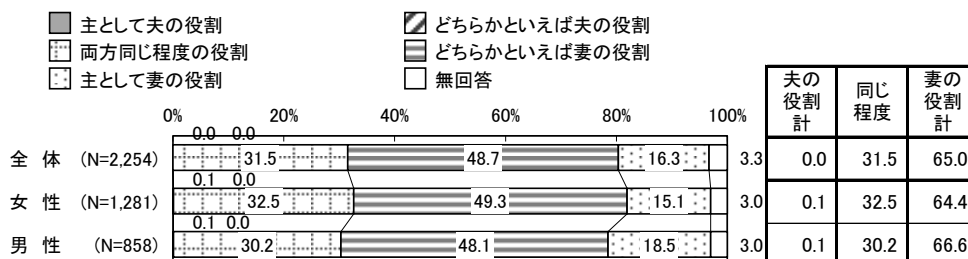
男女ともに30歳代以下では「両方同じ程度の役割」が半数を超えており、割合についても男女間に大きな差はみられない。40歳代女性で“妻の役割計”の割合が男性に比べて5.5ポイント高い。



## 【性・子どもの有無別】



## 【前回調査（平成27年）】

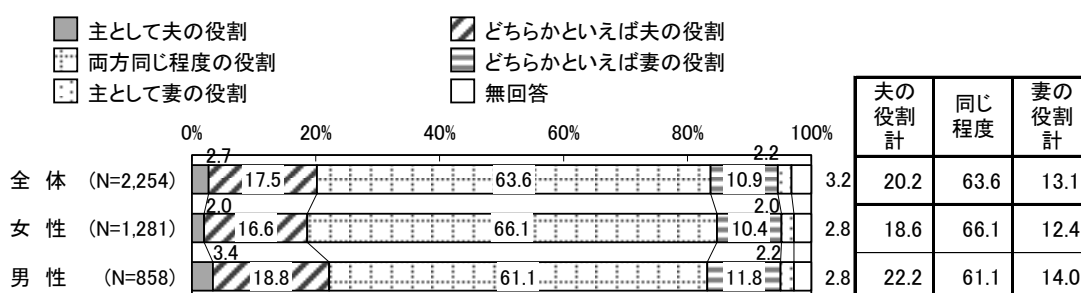


(G) 自治会、PTAなど地域活動への参加

性・年代別にみると、男女ともに全ての年代で「両方同じ程度の役割」の割合が60%を超えており、年代の低い層でその割合は高い。

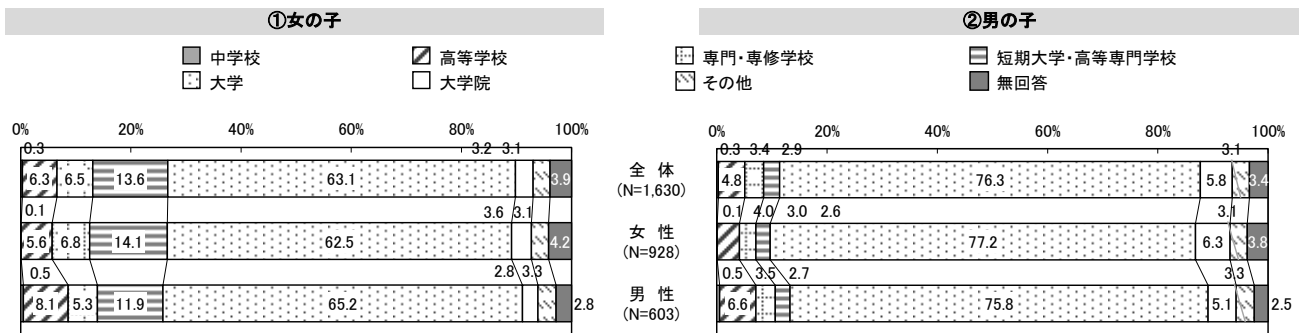


【前回調査（平成27年）】



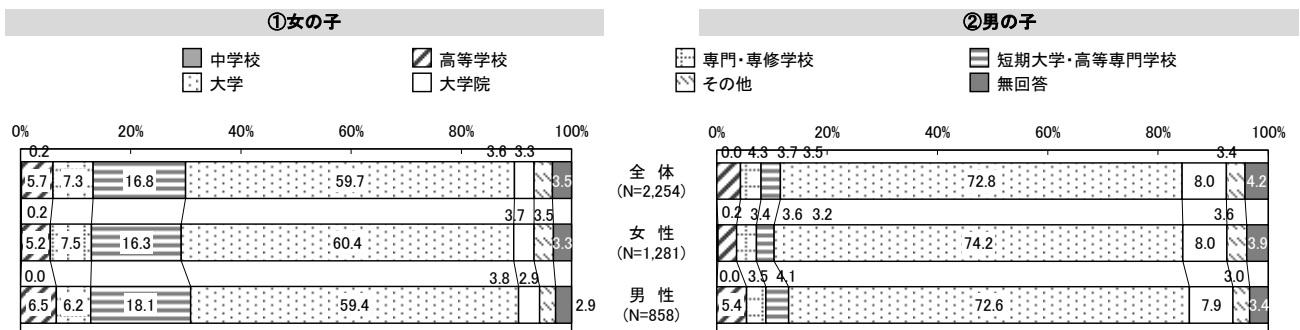
### 3 子どもの教育について

問5 あなたの子どもには、どの程度までの教育を受けさせたいと思いますか。  
 女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。（それぞれ〇は一つ）



(単位:%)	N=	①女の子								②男の子								
		中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答	中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答	
全体	1,630	0.3	6.3	6.5	13.6	63.1	3.2	3.1	3.9	0.3	4.8	3.4	2.9	76.3	5.8	3.1	3.4	
女性	29歳以下	90	1.1	4.4	1.1	2.2	78.9	7.8	2.2	2.2	1.1	4.4	0.0	0.0	82.2	7.8	2.2	2.2
	30歳代	101	0.0	5.9	3.0	14.9	67.3	1.0	4.0	4.0	0.0	5.9	2.0	4.0	75.2	3.0	3.0	6.9
	40歳代	169	0.0	11.2	8.9	11.2	57.4	3.6	3.6	4.1	0.0	8.9	5.3	1.2	69.8	6.5	3.6	4.7
	50歳代	179	0.0	5.6	7.3	8.9	68.2	1.1	4.5	4.5	0.0	4.5	2.8	2.8	79.3	3.4	5.0	2.2
	60歳代	129	0.0	3.1	3.9	17.1	63.6	5.4	3.1	3.9	0.0	0.8	3.1	3.9	77.5	8.5	3.1	3.1
	70歳以上	258	0.0	3.5	10.1	22.1	53.5	3.9	1.9	5.0	0.0	1.2	3.1	3.1	79.1	7.8	1.9	3.9
男性	29歳以下	64	1.6	9.4	1.6	3.1	70.3	6.3	6.3	1.6	1.6	10.9	0.0	0.0	73.4	6.3	6.3	1.6
	30歳代	57	0.0	14.0	1.8	8.8	71.9	1.8	0.0	1.8	0.0	14.0	0.0	3.5	75.4	7.0	0.0	0.0
	40歳代	116	1.7	4.3	5.2	12.1	69.8	1.7	2.6	2.6	1.7	6.0	3.4	4.3	75.0	3.4	2.6	3.4
	50歳代	106	0.0	11.3	3.8	8.5	61.3	3.8	4.7	6.6	0.0	10.4	1.9	1.9	71.7	4.7	4.7	4.7
	60歳代	94	0.0	8.5	10.6	9.6	64.9	2.1	2.1	2.1	0.0	5.3	8.5	0.0	77.7	4.3	2.1	2.1
	70歳以上	166	0.0	6.0	6.0	19.9	60.2	2.4	3.6	1.8	0.0	1.2	4.2	4.2	78.9	6.0	3.6	1.8

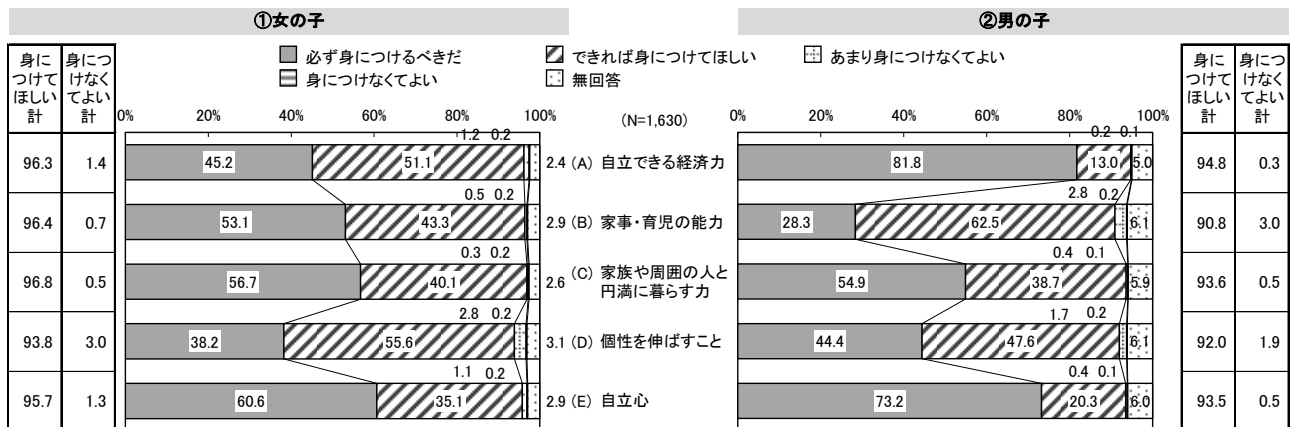
#### 【前回調査（平成27年）】



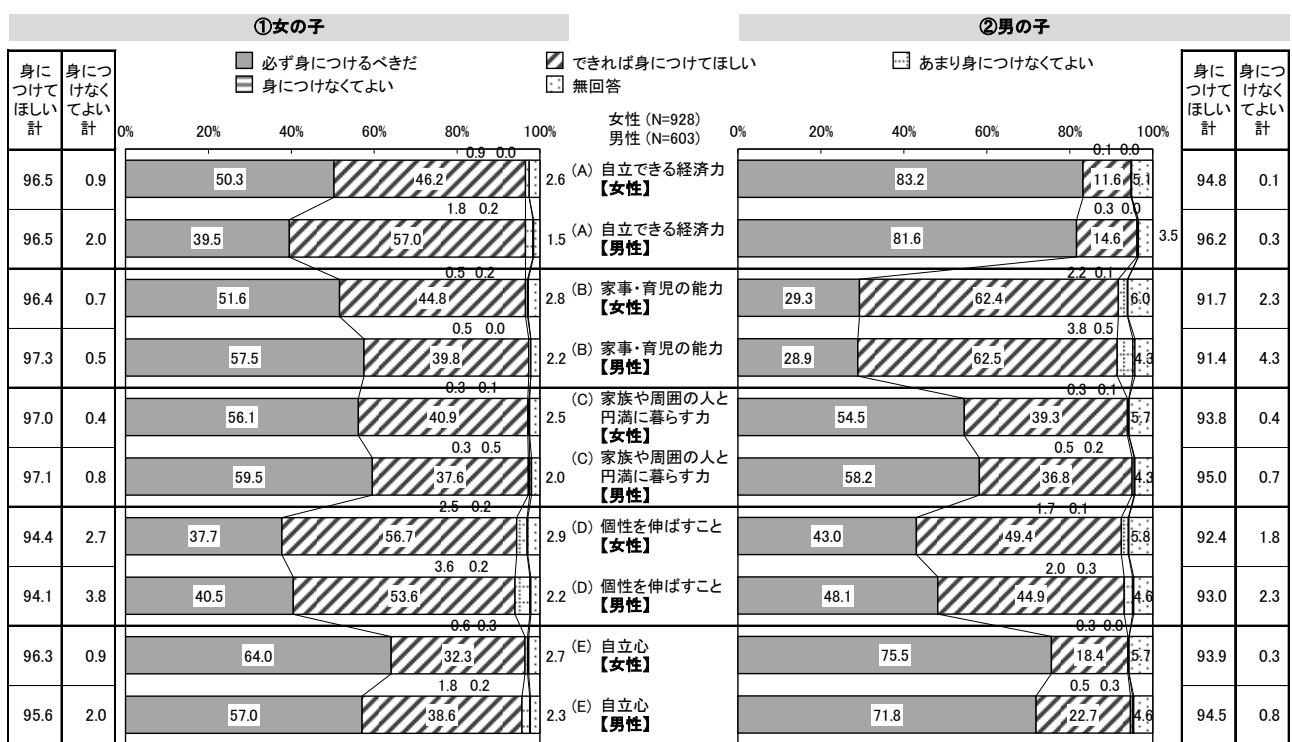
問6 あなたの子どもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。  
 女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。(それぞれ〇は一つ)

女の子の「必ず身につけるべきだ」の割合が男の子より10ポイント以上高い項目は、『(B) 家事・育児の能力』(+24.8ポイント)、男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合が女の子より10ポイント以上高い項目は『(A) 自立できる経済力』(+36.6ポイント)、『(E) 自立心』(+12.6ポイント)である。

性別にみると、「必ず身につけるべきだ」の割合に10ポイント以上の差がみられるのは、女の子の『(A) 自立できる経済力』で女性50.3%、男性39.5%である。

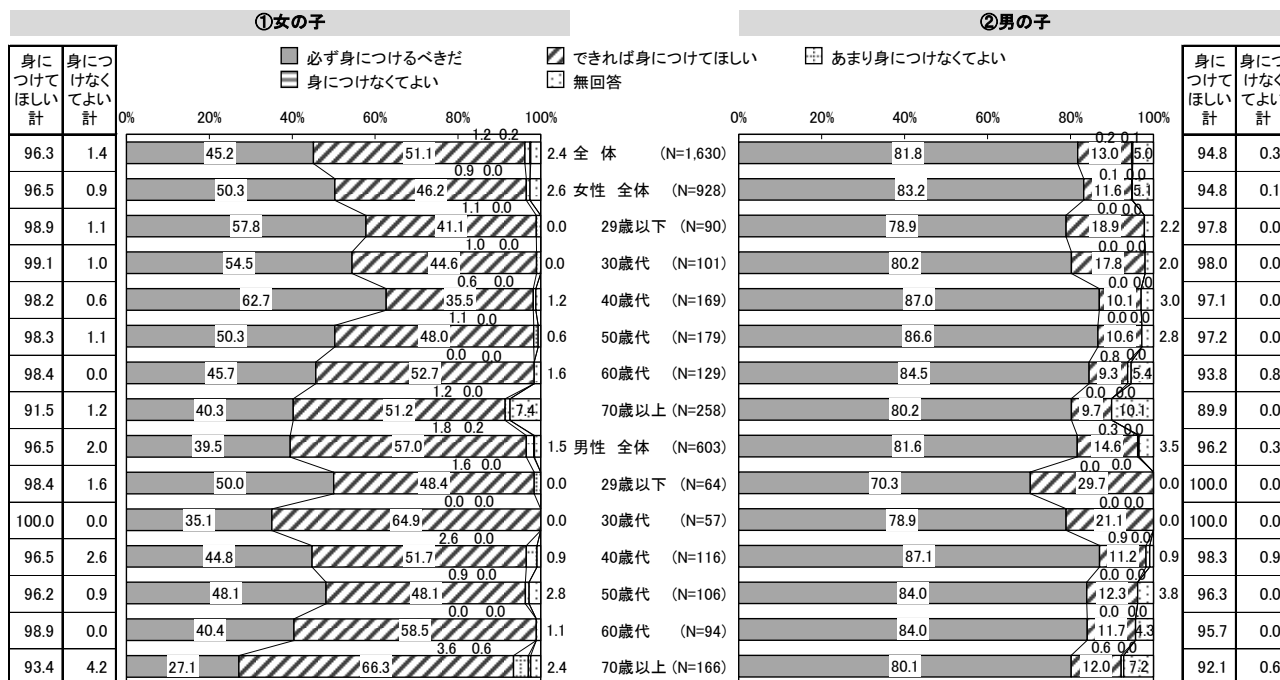


※身につけてほしい計：「必ず身につけるべきだ」「できれば身につけてほしい」をあわせた値  
 身につけてなくてよい計：「身につけてなくてよい」「あまり身につけてなくてよい」をあわせた値

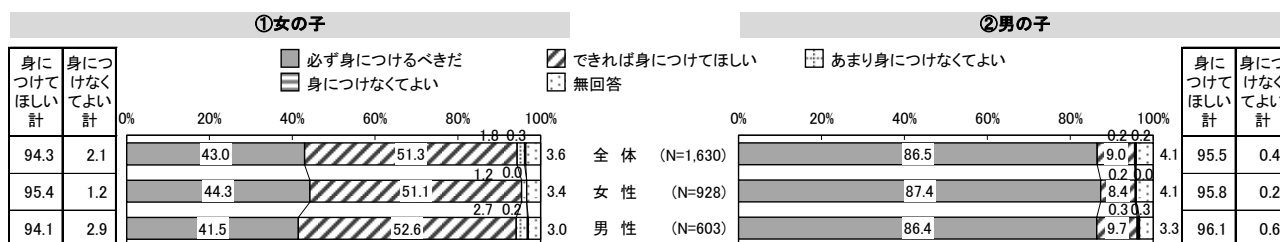


### (A) 自立できる経済力

性・年代別にみると女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、全ての年代で女の子より男の子の割合が高い。男女ともに概ね年代が高くなるほどにその差は大きく、30歳代男性、40歳代男性、60歳代以上男性で40ポイントを超えている。

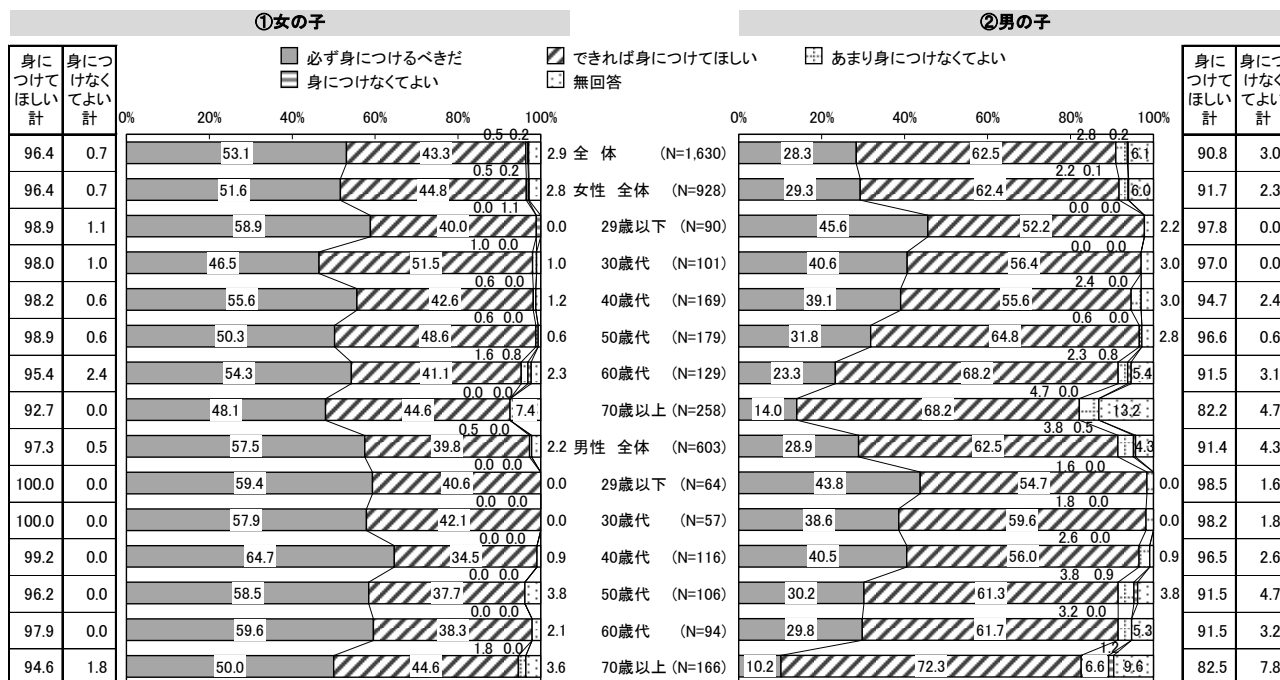


### 【前回調査（平成27年）】

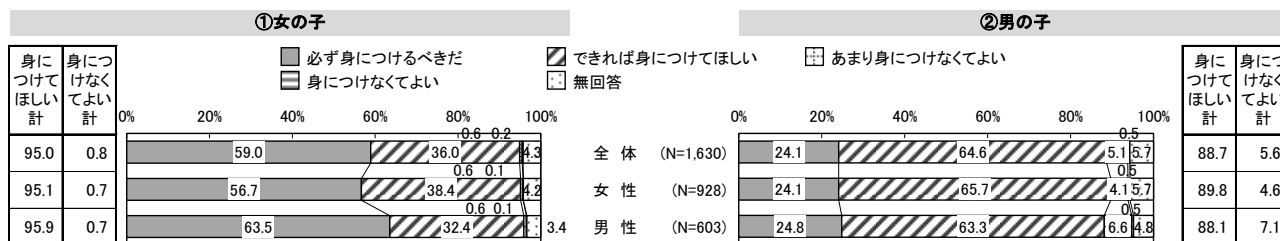


(B) 家事・育児の能力

性・年代別にみると女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、全ての年代で男の子より女の子の割合が高い。男女ともに概ね年代が高くなるほどにその差は大きく、60歳代女性、70歳以上男女で30ポイントを超えている。

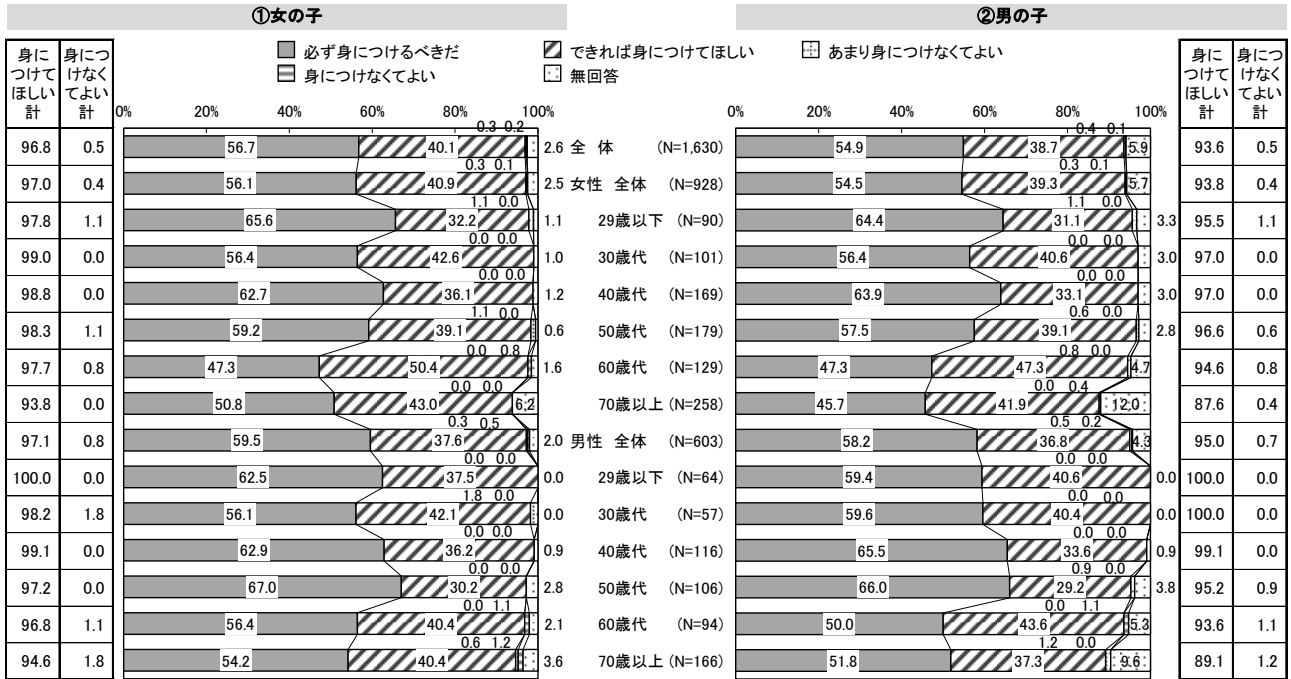


【前回調査（平成27年）】

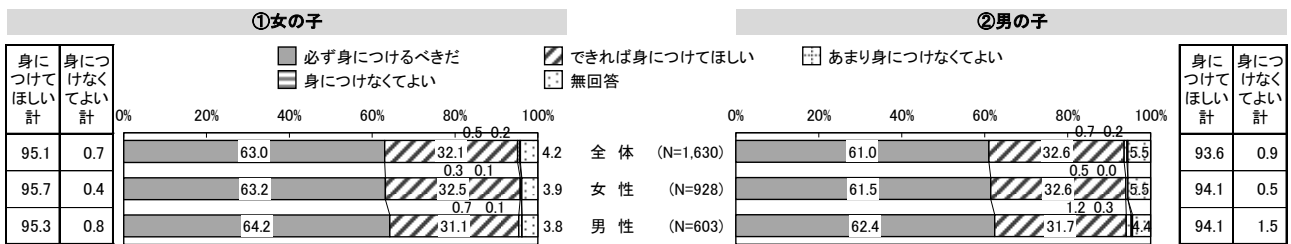


(C) 家族や周囲の人と円満に暮らす力

性・年代別にみると40歳代以上で女の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は男性の方が高く、50歳代、60歳代で男女差が大きい。

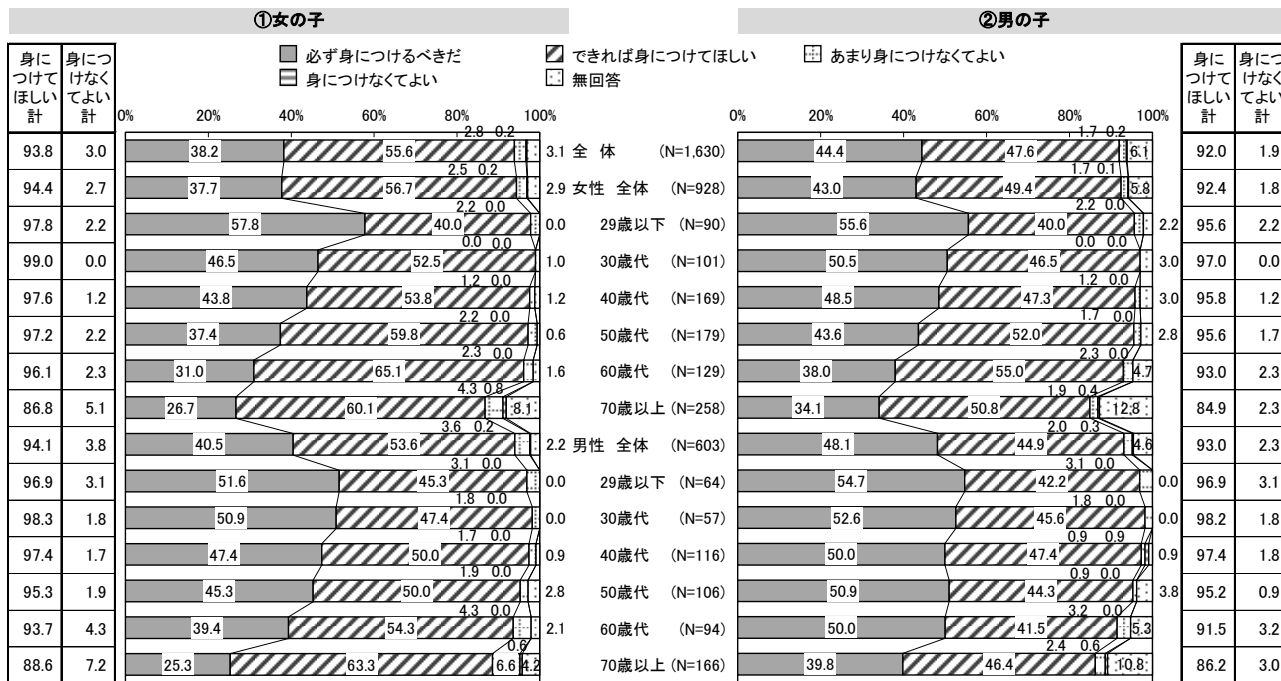


【前回調査（平成27年）】

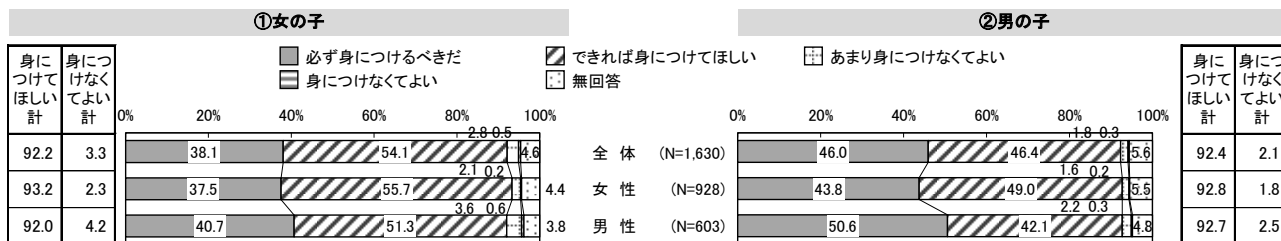


(D) 個性を伸ばすこと

性・年代別にみると女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、29歳以下女性を除く全ての年代で女の子より男の子の割合が上回り、その差は60歳代以上男性で10ポイントを超えている。



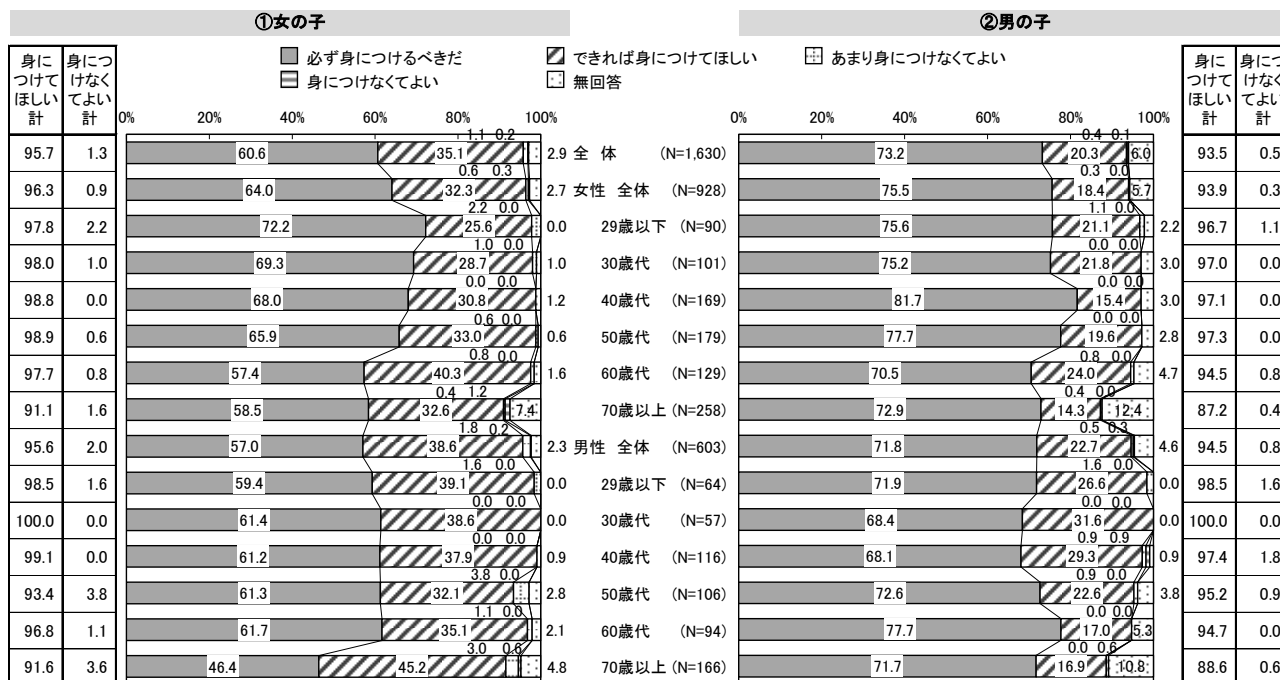
【前回調査（平成27年）】



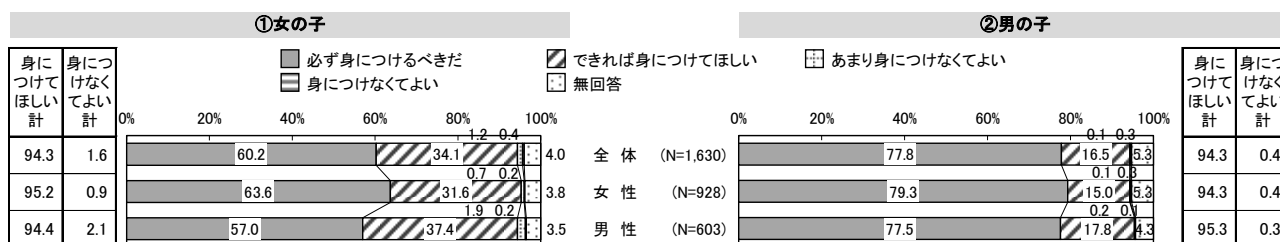


(E) 自立心

性・年代別にみると女の子と男の子の「必ず身につけるべきだ」の割合は、全ての年代で女の子より男の子の割合が上回り、その差は40歳代以上女性、29歳以下男性、50歳代以上男性で10ポイントを超えている。



【前回調査（平成27年）】



問7 男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。  
(〇はいくつでも)

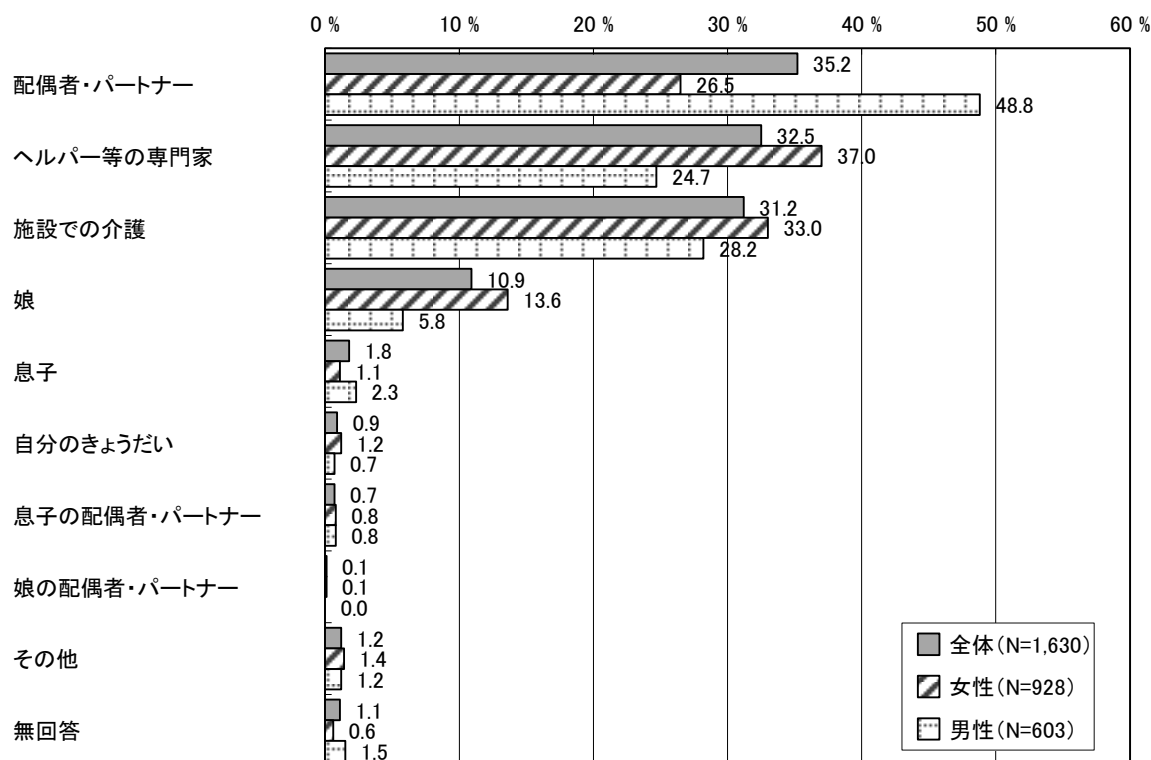
性別にみると、概ね全ての項目で女性の割合が男性より高くなっている。

(単位: %)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する	69.9	73.7	65.0	69.3	74.5	63.4
男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする	69.3	71.0	67.5	40.9	40.5	41.8
学校生活の中で、性別による役割分担をなくす	62.1	66.5	59.2	57.9	60.3	56.4
DVやデートDVや性暴力の防止に向けた教育を行う	49.1	52.9	45.8	-	-	-
性の多様性について正しく理解するための教育を充実する	44.4	47.0	41.3	-	-	-
男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う	43.6	45.5	41.8	38.4	38.2	39.3
保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す	34.4	35.8	33.0	28.2	27.4	29.7
校長や教頭に女性を増やしていく	32.9	34.2	32.0	26.8	28.1	25.2
その他	2.9	3.0	3.2	1.6	1.5	1.9
学校教育の中でする必要はない	1.3	0.4	2.8	3.4	2.0	5.4
無回答	2.0	1.9	1.5	2.5	2.3	1.7

## 4 介護について

問8 もしあなた自身に介護が必要になった場合、主にどなたに介護されたいと思いますか。(〇は一つ)

性別にみると、女性で「ヘルパー等の専門家」「娘」の割合が男性に比べて5ポイント以上高く、男性で「配偶者・パートナー」の割合が女性に比べて22.3ポイント高い。



※設問文では「〇は一つ」としているものの、複数選択した回答者が多かったため、複数回答設問として集計している。

(単位: %)		N=	配偶者・パートナー	ヘルパー等の専門家	施設での介護	娘	息子	自分のきょうだい	息子の配偶者・パートナー	娘の配偶者・パートナー	その他	無回答	
全体		1,630	35.2	32.5	31.2	10.9	1.8	0.9	0.7	0.1	1.2	1.1	
性・年代別	女性	29歳以下	90	32.2	34.4	40.0	11.1	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2
		30歳代	101	30.7	37.6	38.6	8.9	1.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0
		40歳代	169	23.7	37.9	33.1	12.4	1.2	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0
		50歳代	179	26.3	43.0	30.2	12.8	0.6	2.2	0.6	0.6	0.6	0.0
		60歳代	129	27.9	32.6	37.2	10.9	0.8	0.0	0.0	0.0	1.6	1.6
		70歳以上	258	24.0	34.9	28.3	19.0	1.2	0.4	2.3	0.0	0.8	0.8
		男性	29歳以下	64	28.1	28.1	34.4	3.1	10.9	0.0	0.0	0.0	4.7
30歳代	57		42.1	22.8	33.3	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	
40歳代	116		42.2	32.8	33.6	6.0	0.9	1.7	0.0	0.0	0.9	0.9	
50歳代	106		46.2	23.6	31.1	4.7	2.8	0.9	0.9	0.0	0.9	4.7	
60歳代	94		48.9	20.2	30.9	4.3	2.1	0.0	1.1	0.0	0.0	2.1	
70歳以上	166		65.1	21.7	16.9	9.0	0.6	0.6	1.8	0.0	0.6	0.0	

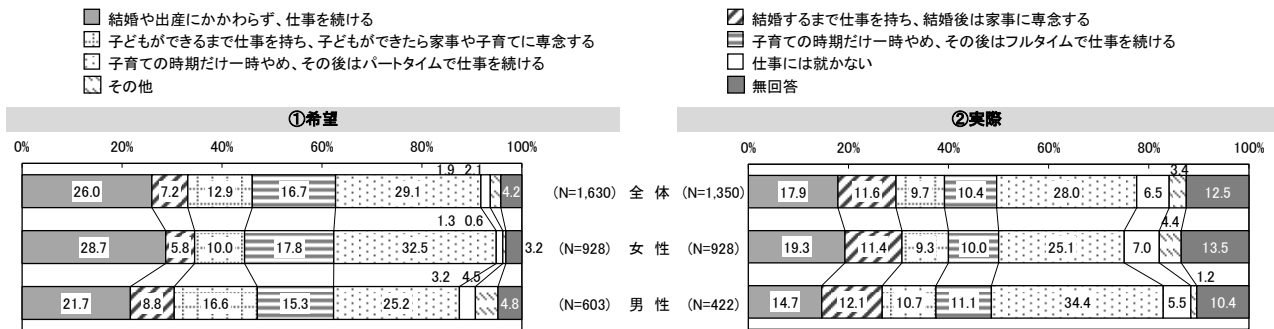
## 5 仕事について

問9 「女性の働き方」について、あなたの①希望と②実際はどれにあてはまりますか。  
(それぞれ〇は1つ)

※女性の方はご自身について、男性の方はご自身の配偶者・パートナー(女性)についてお答えください。

※配偶者・パートナー(女性)がいない男性の方は、「女性の働き方」の①希望についてのみ、お答えください。

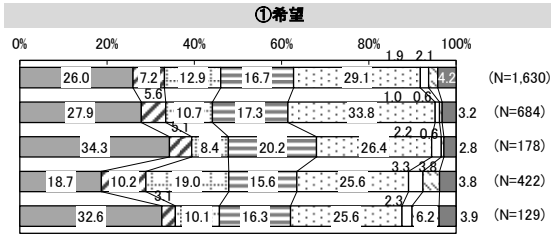
性別にみると、「女性の働き方」の希望に比べて実際は女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」という3つの項目の割合が低く、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する」の割合が高くなっている。



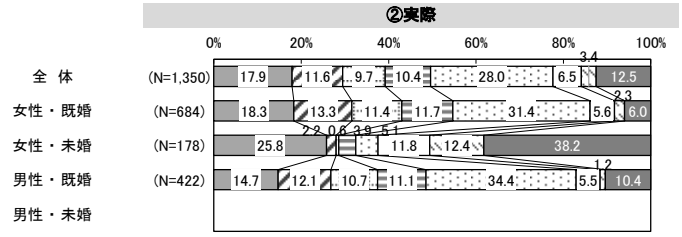
性・年代別	①希望									②実際									
	N=	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する	子どもができるまで仕事をもち、子どもがきたら家事や子育てに専念する	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	仕事には就かない	その他	無回答	N=	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける(続けた)	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している(専念していた)	子どもができるまで仕事をもち、子どもがきたら家事や子育てに専念している(専念していた)	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける(続けた)	子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける(続けた)	仕事には就いていない	その他	無回答	
全体	1,630	26.0	7.2	12.9	16.7	29.1	1.9	2.1	4.2	1,350	17.9	11.6	9.7	10.4	28.0	6.5	3.4	12.5	
女性	29歳以下	90	34.4	6.7	4.4	21.1	30.0	1.1	1.1	1.1	90	20.0	2.2	2.2	6.7	1.1	20.0	12.2	35.6
	30歳代	101	38.6	3.0	4.0	18.8	26.7	4.0	0.0	5.0	101	29.7	3.0	7.9	5.0	23.8	5.9	4.0	20.8
	40歳代	169	33.1	6.5	11.2	12.4	32.0	0.6	1.8	2.4	169	26.6	7.1	6.5	9.5	26.0	4.1	4.7	15.4
	50歳代	179	33.0	6.7	10.6	16.2	30.2	1.1	0.0	2.2	179	19.0	12.8	6.1	12.3	34.6	2.8	3.4	8.9
	60歳代	129	27.1	4.7	14.0	20.9	28.7	0.0	0.8	3.9	129	16.3	15.5	14.7	10.9	27.9	4.7	3.9	6.2
	70歳以上	258	17.8	6.2	11.2	19.0	39.5	1.6	0.4	4.3	258	12.0	17.8	13.6	11.6	25.6	8.5	2.3	8.5
男性	29歳以下	64	32.8	3.1	10.9	18.8	25.0	1.6	6.3	1.6	7	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	14.3	0.0	28.6
	30歳代	57	28.1	3.5	8.8	12.3	26.3	1.8	8.8	10.5	31	19.4	3.2	9.7	9.7	25.8	12.9	3.2	16.1
	40歳代	116	25.9	4.3	12.1	15.5	26.7	3.4	6.9	5.2	81	22.2	6.2	12.3	8.6	33.3	4.9	1.2	11.1
	50歳代	106	28.3	5.7	12.3	17.0	27.4	4.7	2.8	1.9	87	11.5	6.9	5.7	9.2	55.2	4.6	1.1	5.7
	60歳代	94	22.3	8.5	24.5	7.4	25.5	2.1	5.3	4.3	80	13.8	12.5	11.3	10.0	35.0	5.0	2.5	10.0
	70歳以上	166	7.8	18.1	22.9	18.1	22.3	3.6	1.2	6.0	136	12.5	21.3	13.2	14.7	22.8	4.4	0.0	11.0

## 【性・未既婚別】

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- ▨ 子どもができるまで仕事をもち、子どもがきたら家事や子育てに専念する
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ▨ その他

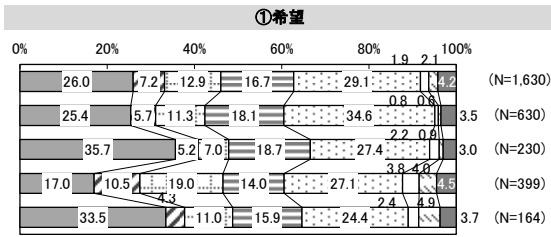


- ▨ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 仕事には就かない
- 無回答

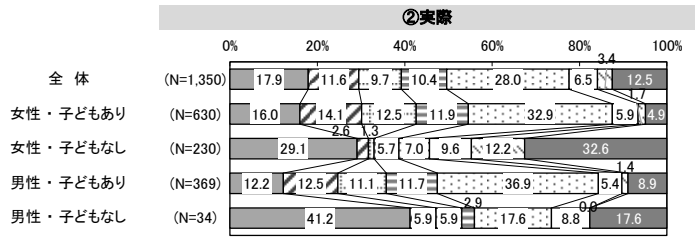


## 【性・子どもの有無別】

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- ▨ 子どもができるまで仕事をもち、子どもがきたら家事や子育てに専念する
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ▨ その他

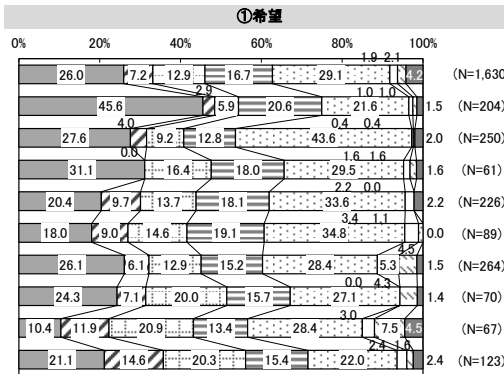


- ▨ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 仕事には就かない
- 無回答

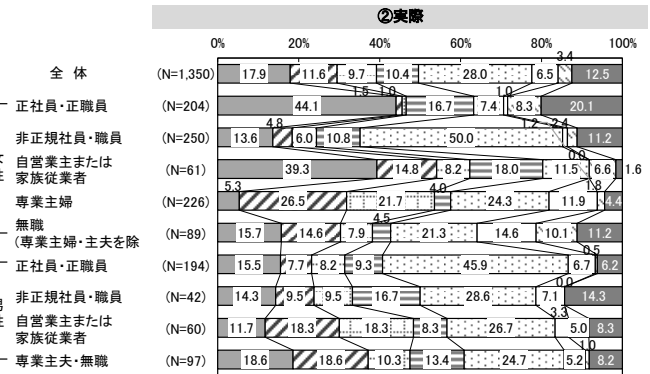


## 【性・勤務形態別】

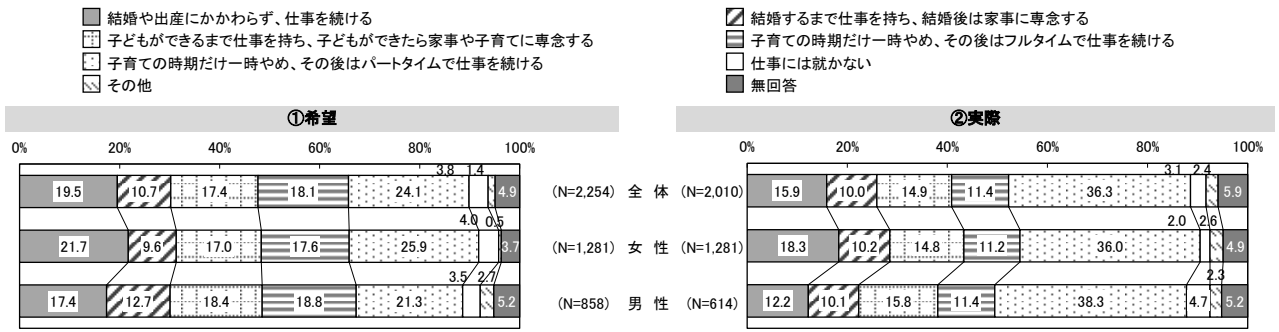
- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- ▨ 子どもができるまで仕事をもち、子どもがきたら家事や子育てに専念する
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ▨ その他



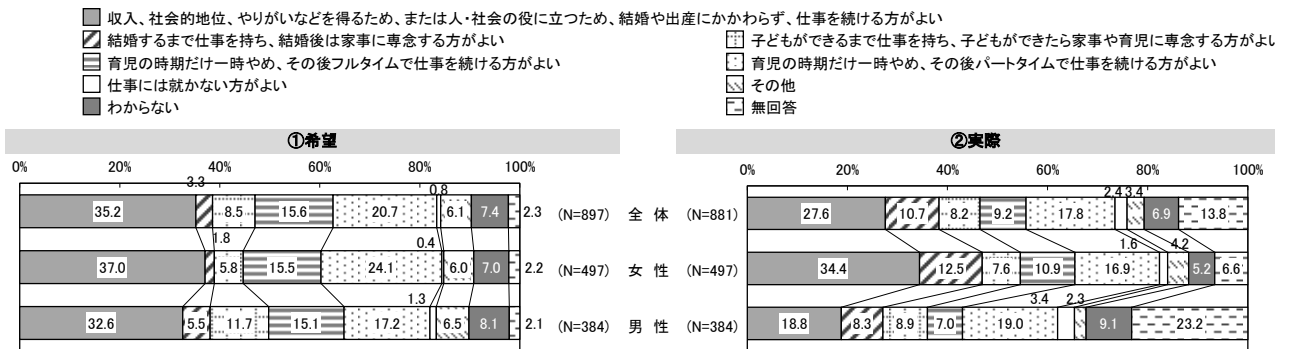
- ▨ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 仕事には就かない
- 無回答



## 【前回調査（平成 27 年）】



## 【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



【問 10 (P. 8 参照) で専業主婦・主夫または無職と回答された方に質問】

問 10-1 現在働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

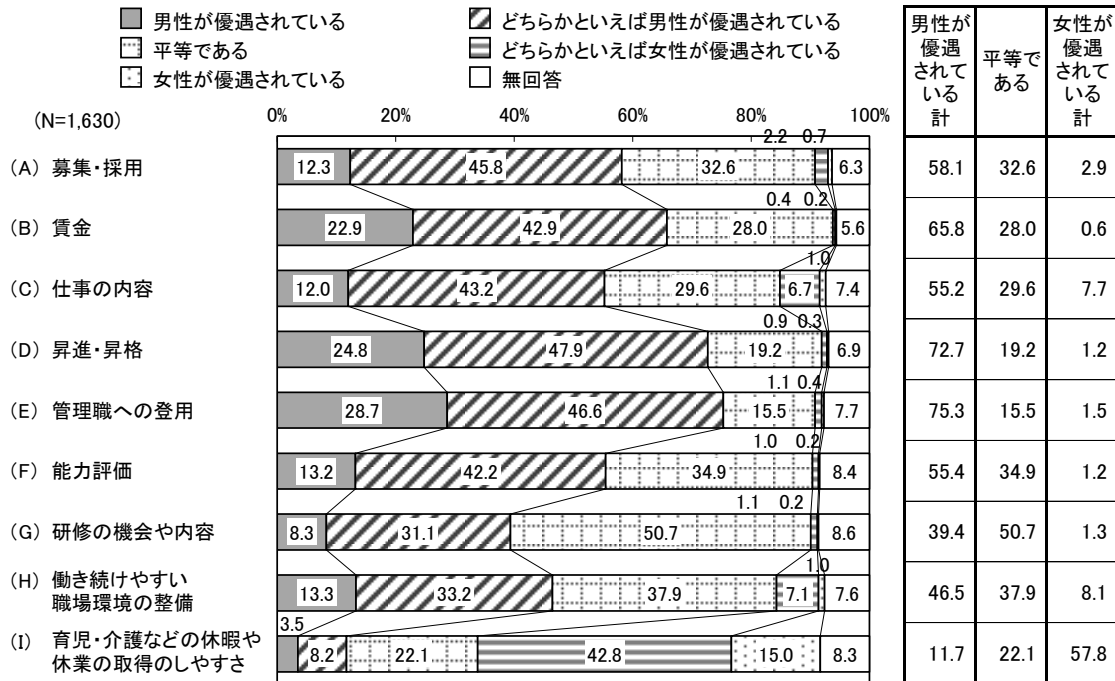
女性は男性に比べて「家事・育児に専念したかったから」「仕事と家庭の両方をうまくやっ  
ていく自信がないから」が5ポイント以上高い。

(単位: %)	全体 N=476	女性 N=315	男性 N=123
今は働きたいとは思わないから	19.7	19.0	23.6
家事・育児に専念したかったから	13.2	18.7	0.8
仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから	8.0	8.3	8.1
仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから	7.8	10.8	1.6
失業したから	6.5	5.4	9.8
介護・看護に専念したかったから	4.4	4.4	3.3
仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから	4.2	3.8	4.9
働くことで家族に迷惑がかかると感じるから	3.8	4.1	1.6
働くことについて配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから	3.6	4.4	1.6
家事・育児について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから	2.5	3.5	0.0
介護・看護について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから	0.6	0.6	0.0
介護・看護について、施設やサービスを利用できなかったから	0.6	0.3	0.8
保育施設に入所できなかったから	0.4	0.6	0.0
延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから	0.4	0.6	0.0
その他※	46.2	42.2	55.3
無回答	4.4	5.1	2.4

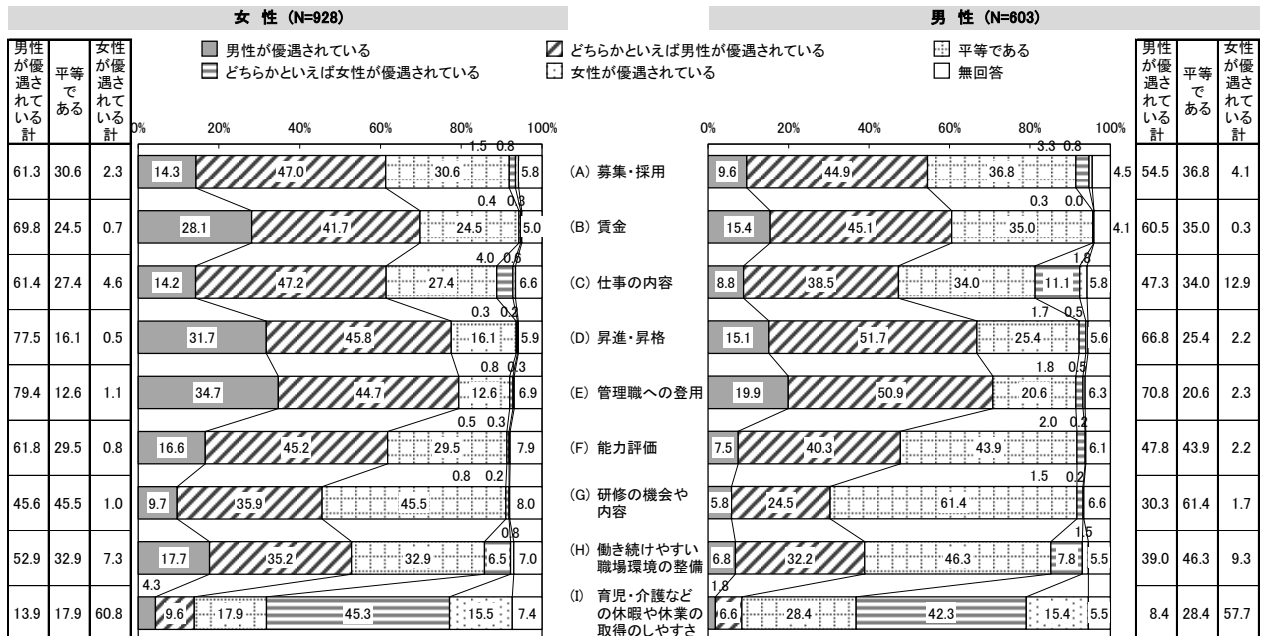
※主に「年金暮らしだから」「定年退職」「高齢の為」という意見がありました。

問 11 あなたは、仕事に関する次のことについて、性別による差があると思いますか。  
(それぞれ〇は一つ)

いずれの項目も女性の“男性が優遇されている計”の割合は男性に比べて5ポイント以上高い。  
また、いずれの項目も男性の「平等である」の割合は女性に比べて高い。



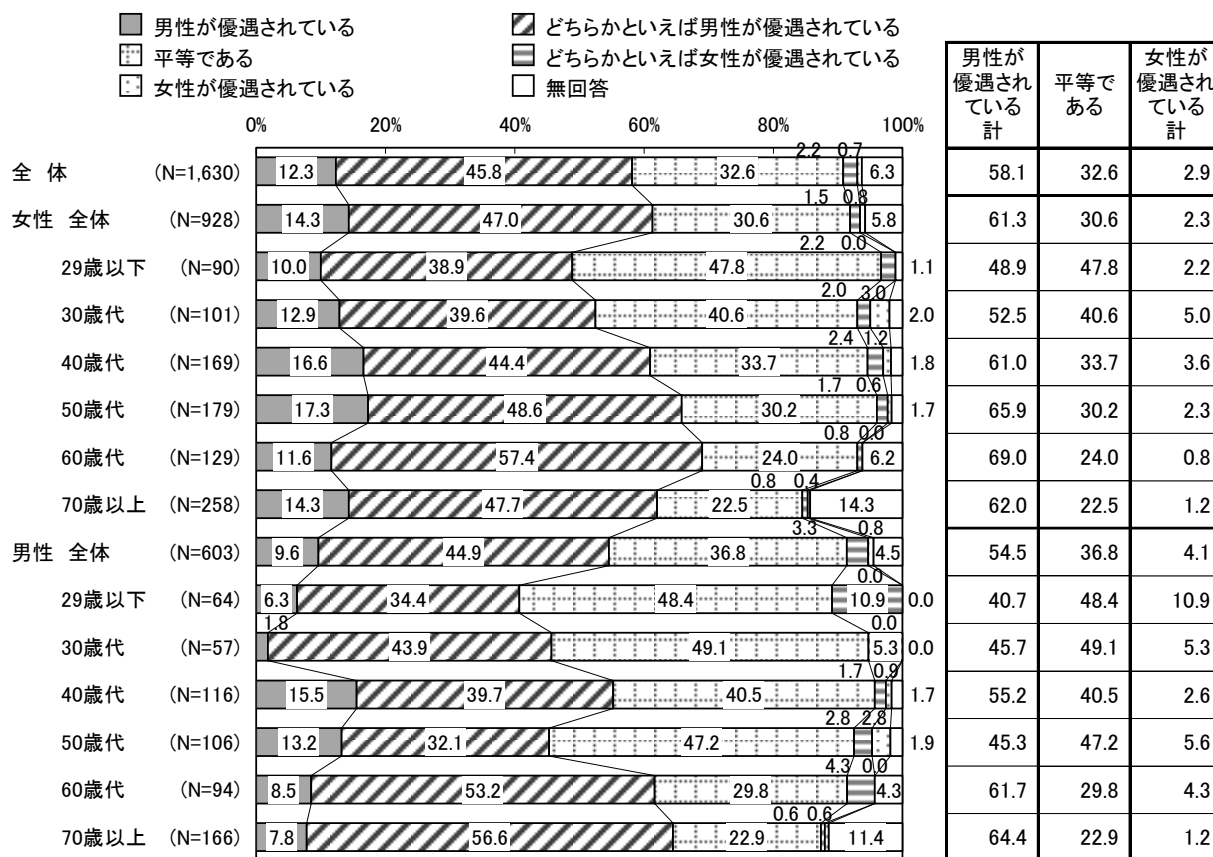
※男性が優遇されている計：「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた値  
女性が優遇されている計：「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」をあわせた値



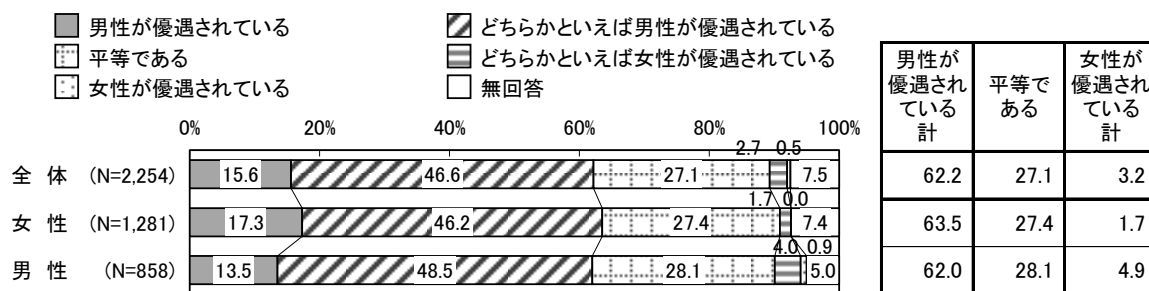


(A) 募集・採用

性・年代別にみると、“男性が優遇されている計”の割合は40歳代以上女性、60歳代以上男性で60%を超えている。60歳代以下女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、50歳代で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】

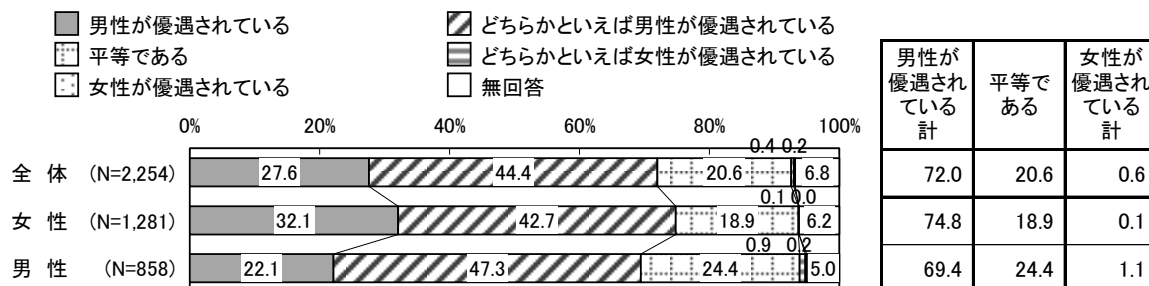


## (B) 賃金

性・年代別にみると、“男性が優遇されている計”の割合は40歳代以上女性、60歳代以上男性で60%を超えている。60歳代以下女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代、50歳代で男女差がより大きい。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代から60歳代で男女差がより大きい。



## 【前回調査（平成27年）】

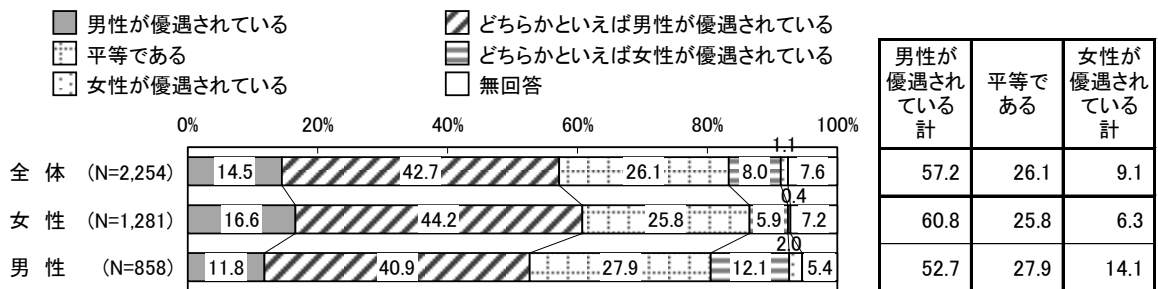


(C) 仕事の内容

性・年代別にみると、女性では全ての年代で“男性が優遇されている計”の割合が50%を超えている。男性では60歳代以上で“男性が優遇されている計”が50%を超えているが、40歳代以下では“男性が優遇されている計”よりも“平等である”の割合が高い。

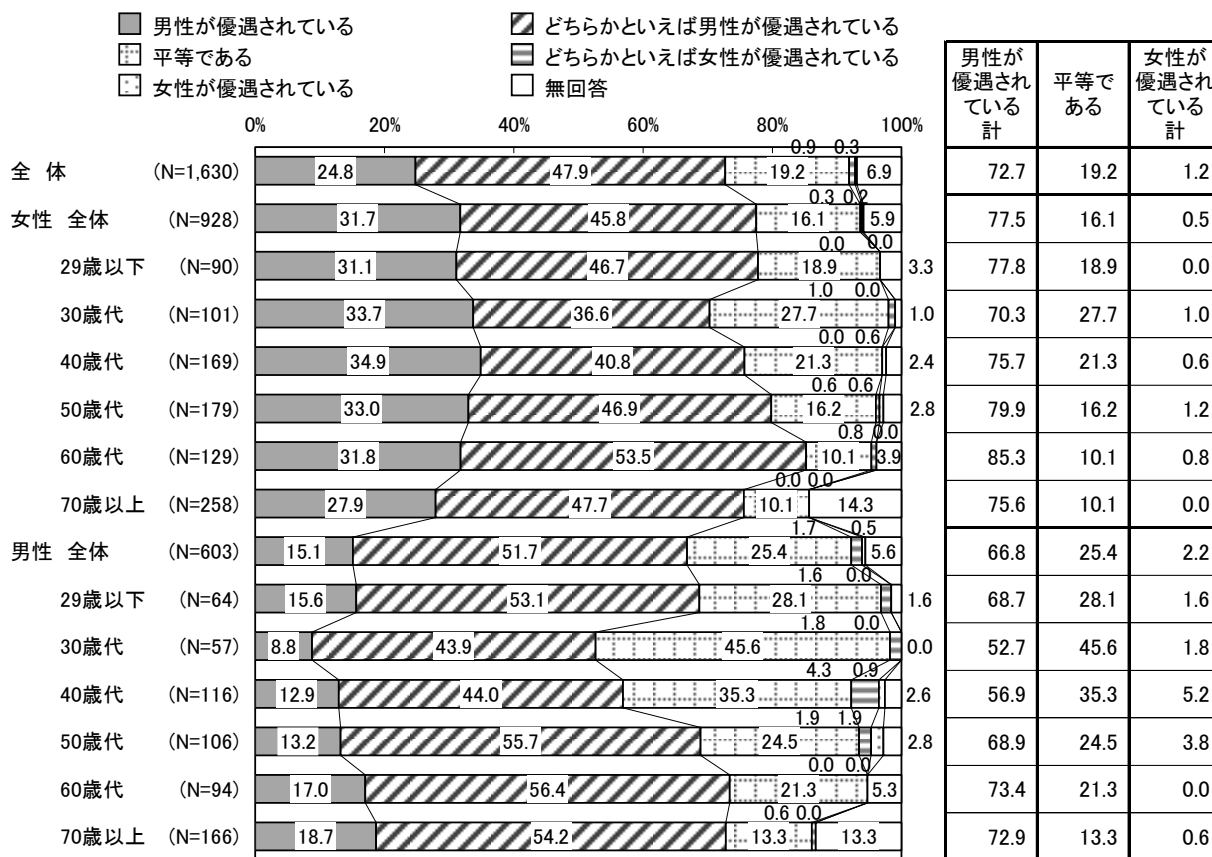


【前回調査（平成27年）】

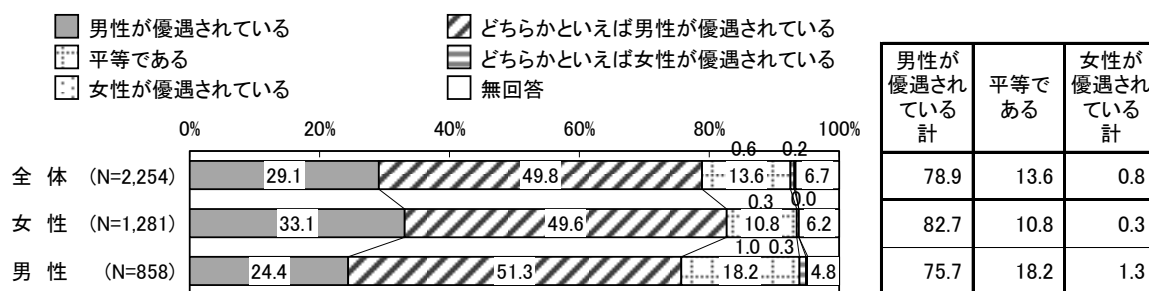


(D) 昇進・昇格

性・年代別にみると、“男性が優遇されている計”の割合は女性では全ての年代で70%を超えているのに対して、男性は50歳代以下で70%を下回る。全ての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代から40歳代で男女差がより大きい。

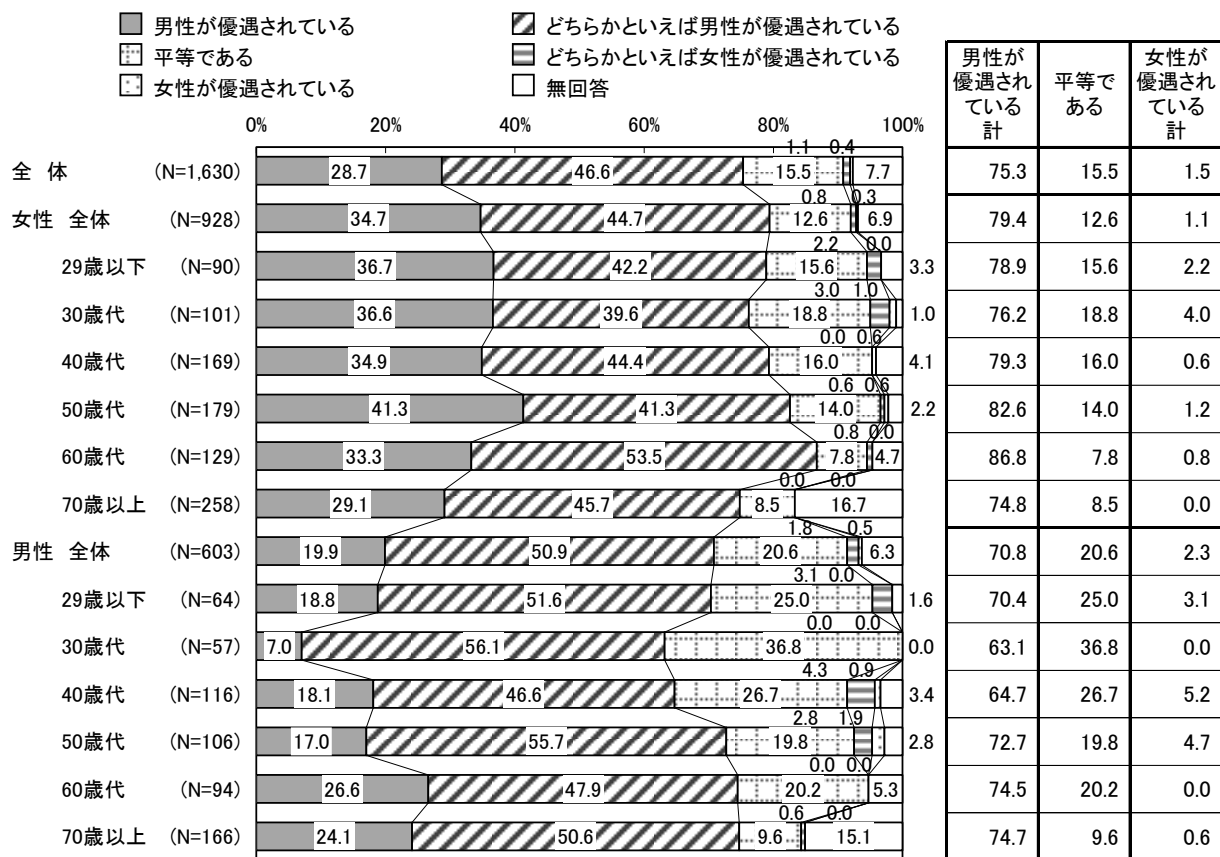


【前回調査（平成27年）】

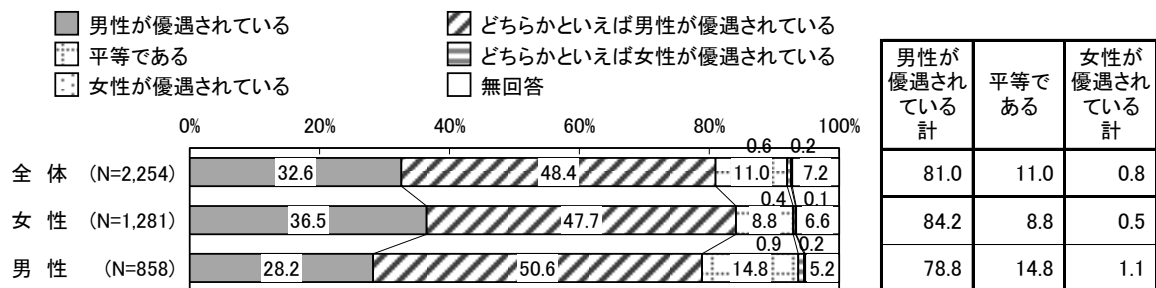


(E) 管理職への登用

性・年代別にみると、“男性が優遇されている計”の割合は女性では全ての年代で70%を超えているのに対して、男性は30歳代、40歳代で70%を下回る。全ての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代、40歳代、60歳代で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】

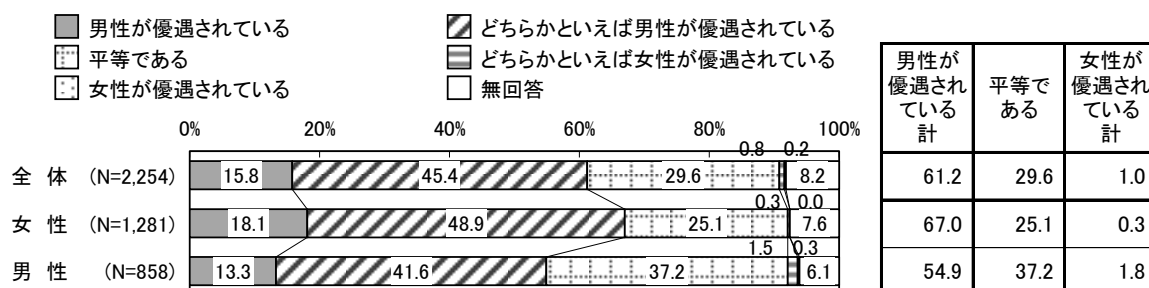


(F) 能力評価（業績評価・人事考課など）

性・年代別にみると、“男性が優遇されている計”の割合は30歳代以上女性、60歳代男性で60%を超えている。全ての年代で女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代から40歳代で男女差が20ポイント以上と大きい。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代、40歳代で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】

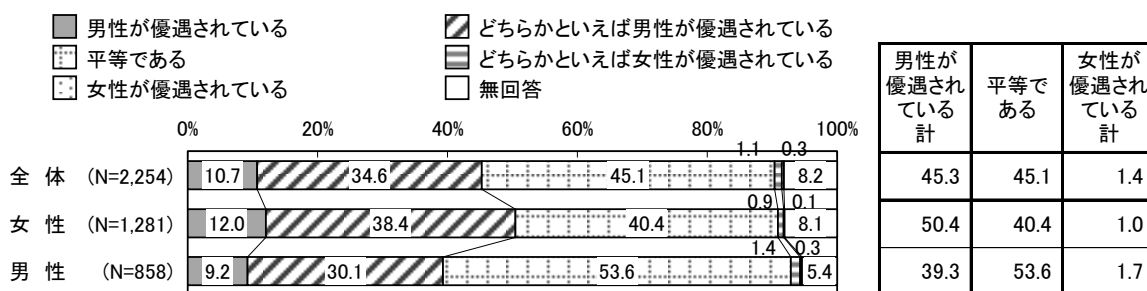


(G) 研修の機会や内容

性・年代別にみると、“男性が優遇されている計”の割合は男女ともに年代の高い層で比較的その割合が高い。60歳代以下女性の“男性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高く、30歳代から40歳代で男女差が20ポイント以上と大きくなっている。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、30歳代、40歳代で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】



(H) 働き続けやすい職場環境の整備

性・年代別にみると、60歳代以下女性の「男性が優遇されている計」の割合が男性に比べて高く、30歳代で男女差が20ポイント以上と大きい。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、40歳代、50歳代、60歳代で男女差がより大きい。



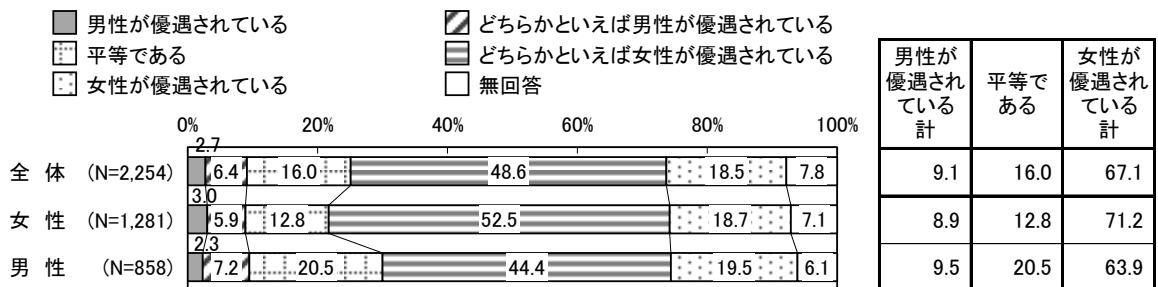


(I) 育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ

性・年代別にみると、“女性が優遇されている計”の割合は男女ともに年代が低くなるほどにその割合も高く、30歳代以下で70%を超えている。30歳代、50歳代以上女性で“女性が優遇されている計”の割合が男性に比べて高い。また、全ての年代で男性の「平等である」の割合は女性に比べて高く、50歳代、60歳代で男女差がより大きい。



【前回調査（平成27年）】



問 12 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)

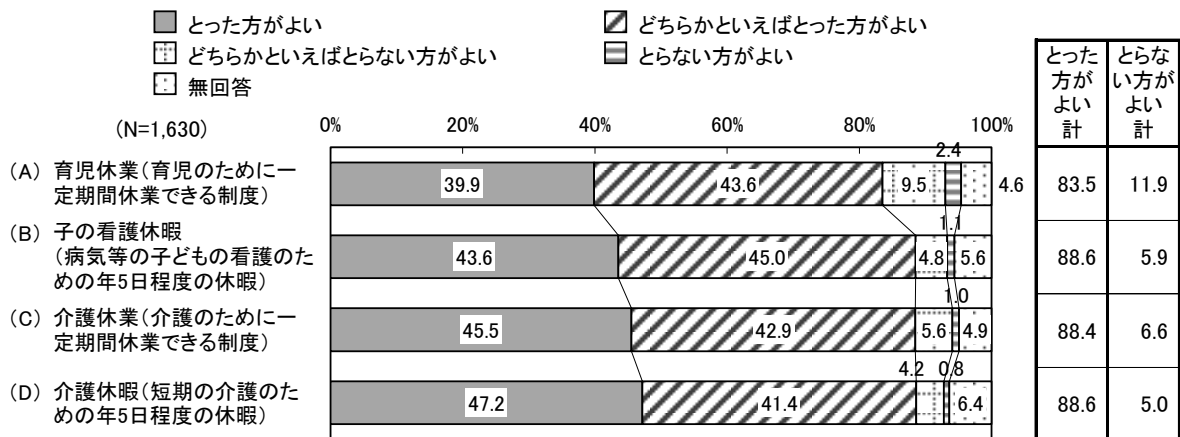
性別にみると、一部を除き概ねすべての項目で女性の割合が男性より高くなっている。

(単位: %)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備	65.9	70.9	59.2	-	-	-
男女ともに育児・介護のための休暇や休業を取りやすいようにする	62.3	67.0	56.6	63.3	69.2	56.9
男女ともに、能力を発揮できる配置を行う	61.4	62.7	60.2	63.1	64.7	62.1
賃金、昇給の男女の格差をなくす	54.7	58.3	50.2	53.1	56.8	50.1
長時間労働を見直し、仕事と家事・育児等との両立(ワーク・ライフ・バランス)を実現する	53.4	58.2	48.3	-	-	-
短時間勤務、フレックスタイム(時差出勤)、テレワーク(在宅勤務等)など時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及	47.1	52.6	40.6	-	-	-
育児・介護の施設や支援制度の充実	46.1	51.7	38.8	-	-	-
職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす	43.4	44.7	41.8	41.4	45.8	35.5
女性の雇用機会を拡大する	40.2	41.8	39.0	45.1	46.7	44.1
男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める	36.5	38.5	33.5	34.4	34.4	36.1
職場において男女が対等であるという意識を普及させる	35.0	37.1	31.5	35.6	37.3	33.6
男性自身の意識を変える	34.8	35.6	35.0	-	-	-
男女ともに、教育・研修機会を充実する	33.6	33.0	33.8	34.3	34.6	34.1
女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める	32.2	32.5	32.0	41.4	42.1	41.8
その他	2.0	1.4	3.2	3.0	2.5	3.8
わからない	1.7	1.3	2.0	2.4	1.7	2.8
無回答	1.9	1.7	1.7	3.1	2.5	2.8

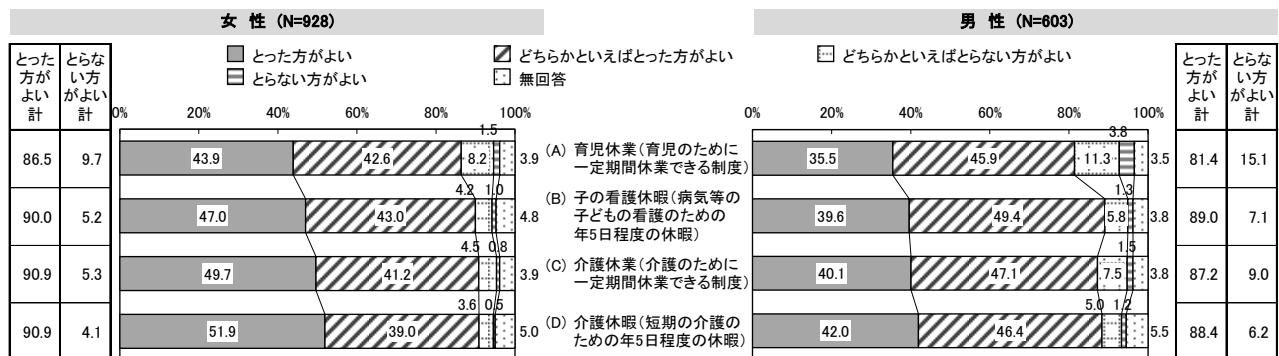
問 13 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。  
(それぞれ○は一つ)

性別にみると、女性の“とった方がよい計”の割合が『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』で86.5%と、男性に比べて5.1ポイント高い。『(B) 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）』『(C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）』『(D) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）』で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』『(C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）』の“とった方がよい計”の割合が40歳代女性で10ポイント以上男性に比べて高い。また、50歳代女性でも『(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）』の“とった方がよい計”の割合が10ポイント以上男性に比べて高い。



※とった方がよい計：「とった方がよい」「どちらかといえばとった方がよい」をあわせた値  
とらない方がよい計：「とらない方がよい」「どちらかといえばとらない方がよい」をあわせた値



(単位:%)	N=	(A)育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)					(B)子の看護休暇 (病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)										
		とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計	とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計		
全体	1,630	39.9	43.6	9.5	2.4	4.6	83.5	11.9	43.6	45.0	4.8	1.1	5.6	88.6	5.9		
性・年代別	女性	29歳以下	90	70.0	26.7	2.2	1.1	0.0	96.7	3.3	70.0	27.8	1.1	1.1	0.0	97.8	2.2
	30歳代	101	53.5	33.7	10.9	1.0	1.0	87.2	11.9	59.4	35.6	5.0	0.0	0.0	95.0	5.0	
	40歳代	169	47.3	39.6	10.7	1.2	1.2	86.9	11.9	54.4	37.3	5.9	0.0	2.4	91.7	5.9	
	50歳代	179	37.4	49.7	9.5	2.2	1.1	87.1	11.7	45.3	45.3	6.7	1.1	1.7	90.6	7.8	
	60歳代	129	39.5	47.3	7.0	3.1	3.1	86.8	10.1	36.4	53.5	3.9	0.8	5.4	89.9	4.7	
	70歳以上	258	35.7	45.7	7.4	0.8	10.5	81.4	8.2	36.0	47.7	2.3	1.9	12.0	83.7	4.2	
	男性	29歳以下	64	60.9	28.1	9.4	1.6	0.0	89.0	11.0	68.8	26.6	3.1	1.6	0.0	95.4	4.7
30歳代	57	61.4	29.8	7.0	1.8	0.0	91.2	8.8	64.9	29.8	3.5	1.8	0.0	94.7	5.3		
40歳代	116	31.9	44.8	15.5	5.2	2.6	76.7	20.7	38.8	50.9	6.0	2.6	1.7	89.7	8.6		
50歳代	106	32.1	44.3	15.1	5.7	2.8	76.4	20.8	37.7	48.1	9.4	0.9	3.8	85.8	10.3		
60歳代	94	33.0	52.1	11.7	2.1	1.1	85.1	13.8	39.4	53.2	6.4	0.0	1.1	92.6	6.4		
70歳以上	166	22.9	56.6	7.8	4.2	8.4	79.5	12.0	21.7	62.7	4.8	1.2	9.6	84.4	6.0		

(単位:%)	N=	(C)介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)					(D)介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)										
		とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計	とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計		
全体	1,630	45.5	42.9	5.6	1.0	4.9	88.4	6.6	47.2	41.4	4.2	0.8	6.4	88.6	5.0		
性・年代別	女性	29歳以下	90	71.1	27.8	0.0	1.1	0.0	98.9	1.1	73.3	25.6	0.0	1.1	0.0	98.9	1.1
	30歳代	101	56.4	34.7	7.9	0.0	1.0	91.1	7.9	58.4	34.7	5.0	0.0	2.0	93.1	5.0	
	40歳代	169	57.4	35.5	4.7	0.0	2.4	92.9	4.7	61.5	32.5	3.6	0.0	2.4	94.0	3.6	
	50歳代	179	45.3	46.4	5.6	1.7	1.1	91.7	7.3	50.3	43.0	5.0	1.1	0.6	93.3	6.1	
	60歳代	129	46.5	45.0	4.7	0.0	3.9	91.5	4.7	48.1	43.4	3.9	0.0	4.7	91.5	3.9	
	70歳以上	258	39.5	46.1	3.9	1.2	9.3	85.6	5.1	39.1	44.2	3.1	0.8	12.8	83.3	3.9	
	男性	29歳以下	64	59.4	31.3	6.3	3.1	0.0	90.7	9.4	65.6	29.7	3.1	1.6	0.0	95.3	4.7
30歳代	57	63.2	33.3	3.5	0.0	0.0	96.5	3.5	64.9	31.6	3.5	0.0	0.0	96.5	3.5		
40歳代	116	36.2	46.6	12.1	2.6	2.6	82.8	14.7	39.7	48.3	6.9	2.6	2.6	88.0	9.5		
50歳代	106	41.5	46.2	8.5	0.9	2.8	87.7	9.4	42.5	47.2	6.6	0.9	2.8	89.7	7.5		
60歳代	94	44.7	46.8	5.3	1.1	2.1	91.5	6.4	47.9	43.6	4.3	0.0	4.3	91.5	4.3		
70歳以上	166	24.1	59.0	6.6	1.2	9.0	83.1	7.8	22.9	57.8	4.2	1.2	13.9	80.7	5.4		

【前回調査（平成27年）】

(単位:%)	N=	(A)育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)					(B)子の看護休暇 (病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)								
		とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計	とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計
全体	2,254	35.0	42.0	13.7	3.8	5.5	77.0	17.5	41.6	43.6	6.4	1.7	6.7	85.2	8.1
女性 全体	1,281	36.6	42.3	12.9	2.6	5.6	78.9	15.5	43.9	43.5	5.5	1.0	6.2	87.4	6.5
男性 全体	858	33.2	42.8	15.5	5.4	3.1	76.0	20.9	39.9	44.4	8.5	2.4	4.8	84.3	10.9

(単位:%)	N=	(C)介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)					(D)介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)								
		とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計	とった方がよい	どちらかといえどとった方がよい	どちらかといえどらない方がよい	とらない方がよい	無回答	とった方がよい計	とらない方がよい計
全体	2,254	43.1	40.4	8.8	1.7	6.0	83.5	10.5	46.5	40.5	4.8	1.2	7.0	87.0	6.0
女性 全体	1,281	46.4	39.8	7.3	0.9	5.5	86.2	8.2	49.9	40.0	3.4	0.5	6.3	89.9	3.9
男性 全体	858	39.5	42.1	11.4	2.8	4.2	81.6	14.2	43.1	42.1	7.3	2.1	5.4	85.2	9.4

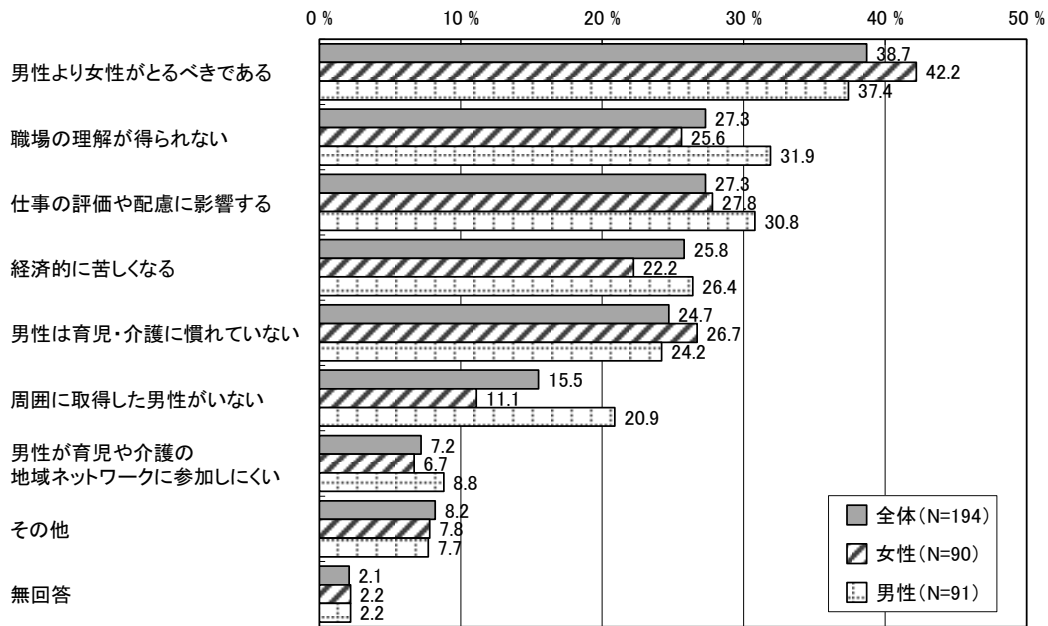
【問 13 で「とらない方がよい」「どちらかといえばとらない方がよい」と回答された方に質問】

問 13-1 それぞれとらないほうが良いと考える理由は何ですか。

問 13 A～Dで「3」または「4」と回答した項目のみお答えください。  
 (それぞれあてはまるものすべてに○)

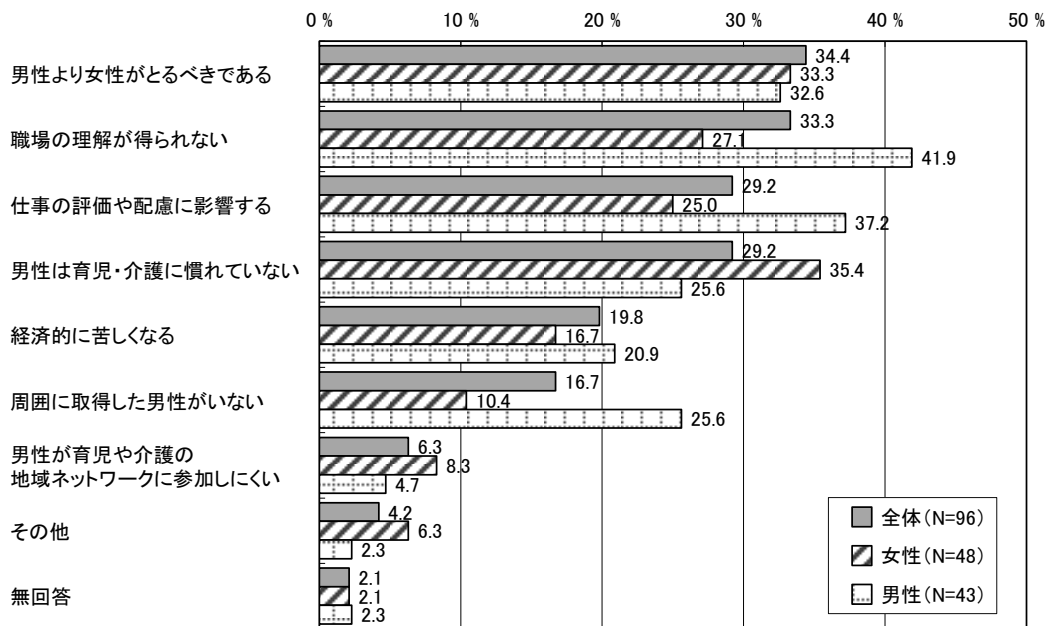
(A) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）

性別にみると、男性で「周囲に取得した男性がない」「職場の理解が得られない」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



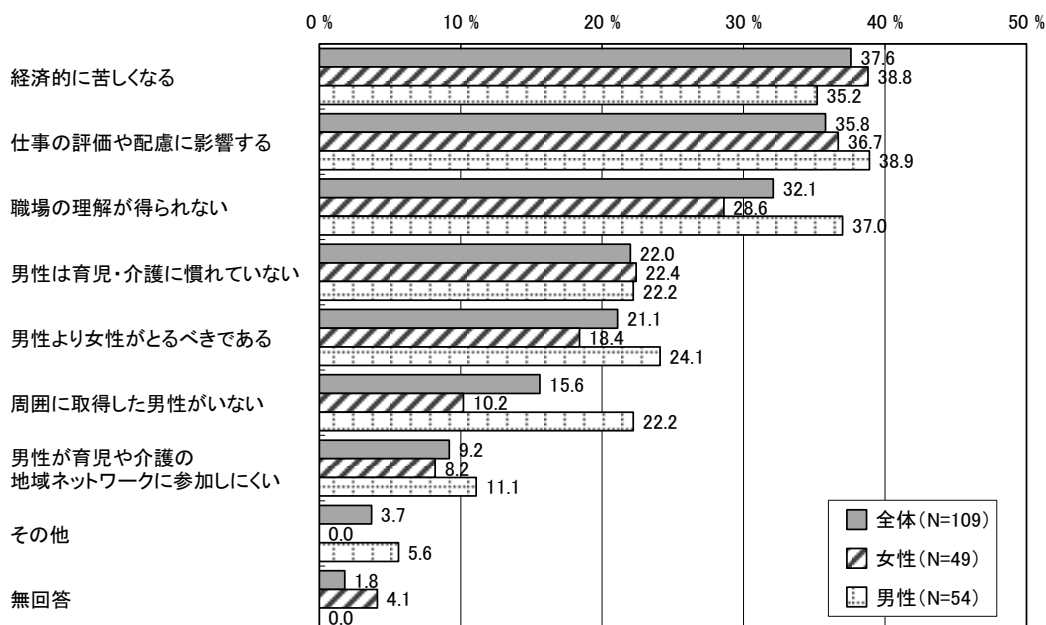
(B) 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）

性別にみると、男性で「職場の理解が得られない」「周囲に取得した男性がない」「仕事の評価や配慮に影響する」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



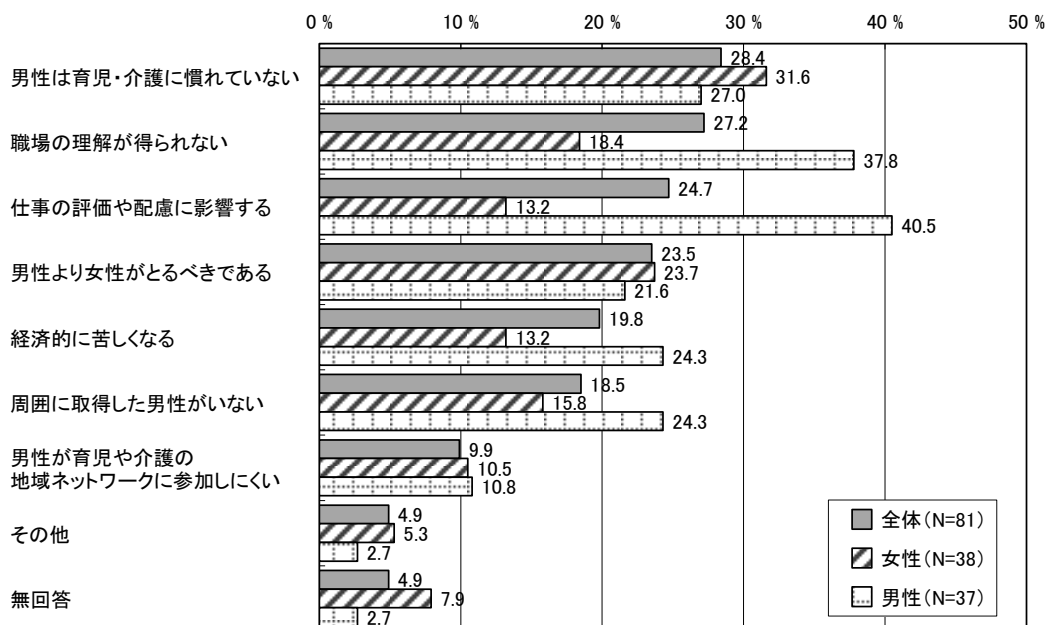
(C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

性別にみると、男性で「周囲に取得した男性がない」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



(D) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）

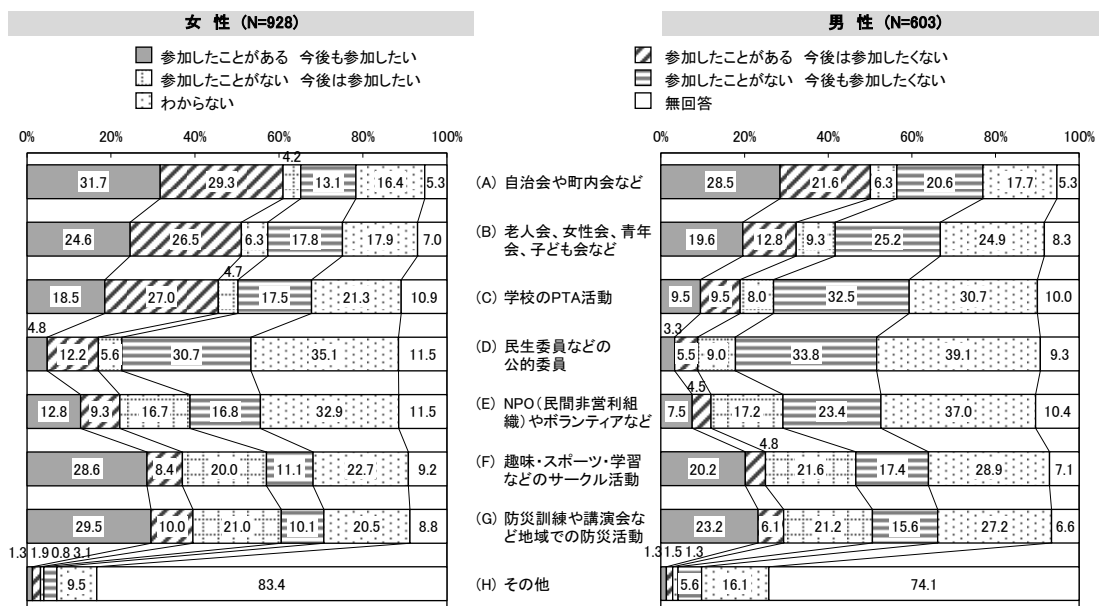
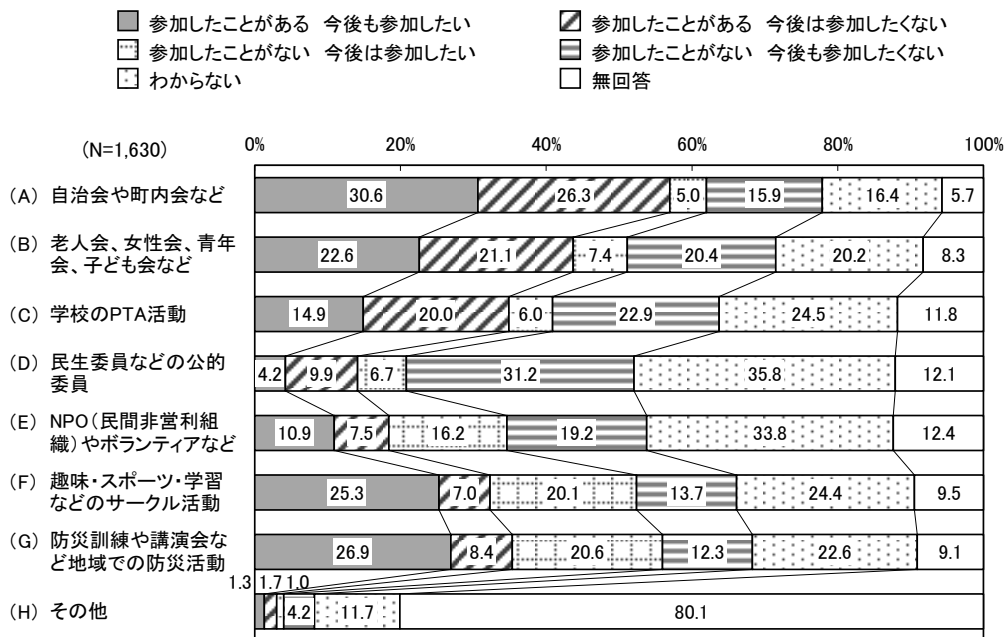
性別にみると、男性で「職場の理解が得られない」「仕事の評価や配慮に影響する」「経済的に苦しくなる」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



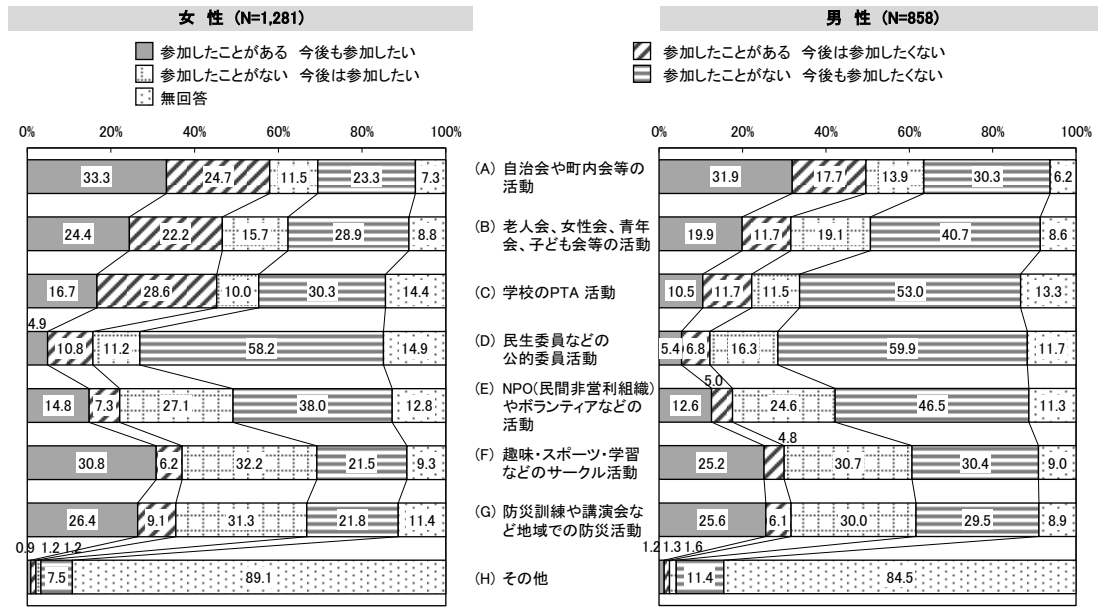
## 6 地域・生活全般について

問 14 あなたは、現在お住まいの地域で、次の活動に参加したことはありますか。また、今後参加したいと思いますか。（それぞれ○は一つ）

性別にみると、『(G) 防災活動や講演会など地域での防災活動』の「参加したことがある 今後参加したい」「参加したことがない 今後は参加したい」の“～参加したい”の割合が、男女ともに高い。今回調査では「わからない」の選択肢が追加されており、項目によっては「わからない」の回答が30%を超えるものもある。



【前回調査（平成 27 年）】



【問 14 で一つでも今後参加したくないと回答された方に質問】

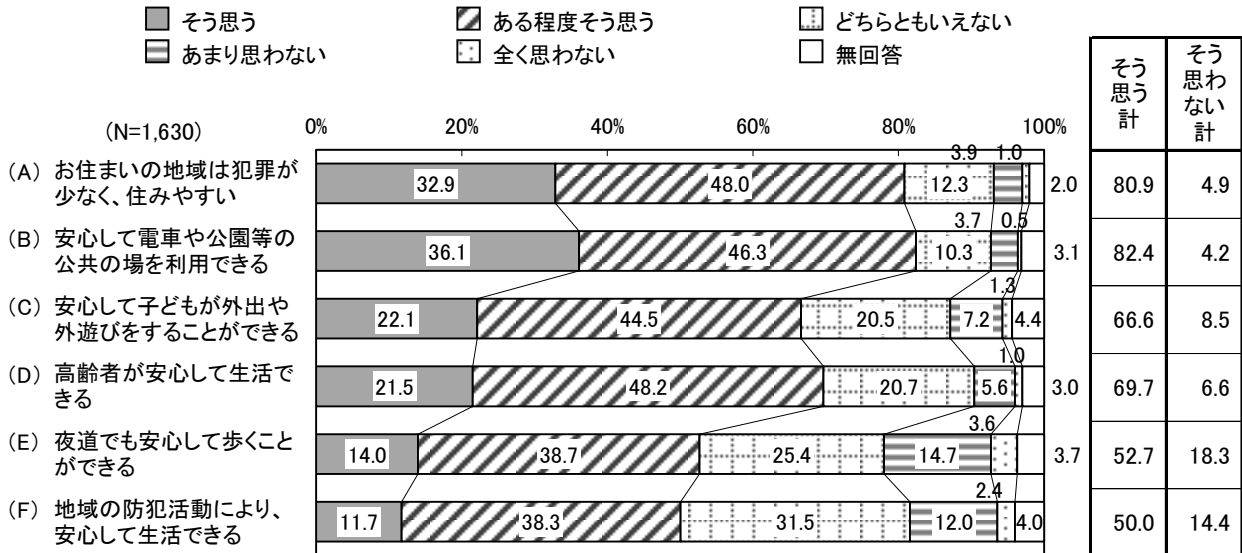
問 14-1 今後参加したくない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

(単位: %)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=961	女性 N=565	男性 N=348	全体 N=898	女性 N=474	男性 N=387
人間関係がわずらわしい	55.0	55.2	55.2	50.3	51.1	50.9
仕事が忙しい	29.3	28.8	32.2	42.3	39.5	46.3
関心がない	29.3	26.0	35.9	-	-	-
活動時間(時間帯)が合わない	26.6	28.5	26.1	-	-	-
健康に自信がない	20.4	20.5	18.1	19.0	21.5	14.5
家事・育児・介護などで暇がない	13.2	16.5	8.9	16.4	23.8	7.5
性別や役割によって個人の負担が違う	10.3	11.7	8.6	-	-	-
活動について情報が得られない	9.8	10.1	9.8	20.9	20.7	20.4
自分の意見や地域のニーズが反映されない	8.7	8.0	10.3	5.1	4.9	5.7
自分の意見が男女平等に扱われない	1.6	2.1	0.9	1.1	1.1	0.8
その他	8.8	9.4	8.0	8.4	8.6	8.3
無回答	2.5	2.8	1.4	2.2	1.9	2.1

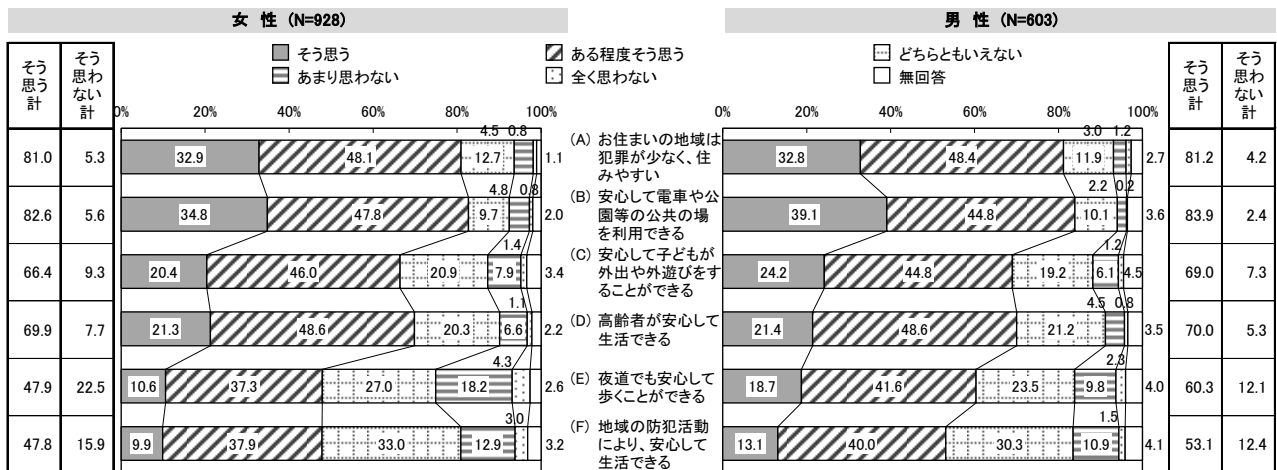


問 15 地域の安全・安心に関する下記の項目についてお答えください。  
(それぞれ○は一つ)

性別にみると、女性の“そう思う計”の割合は全ての項目で男性に比べて高く、特に『(E) 夜道でも安心して歩くことができる』で10ポイント以上の差がある。

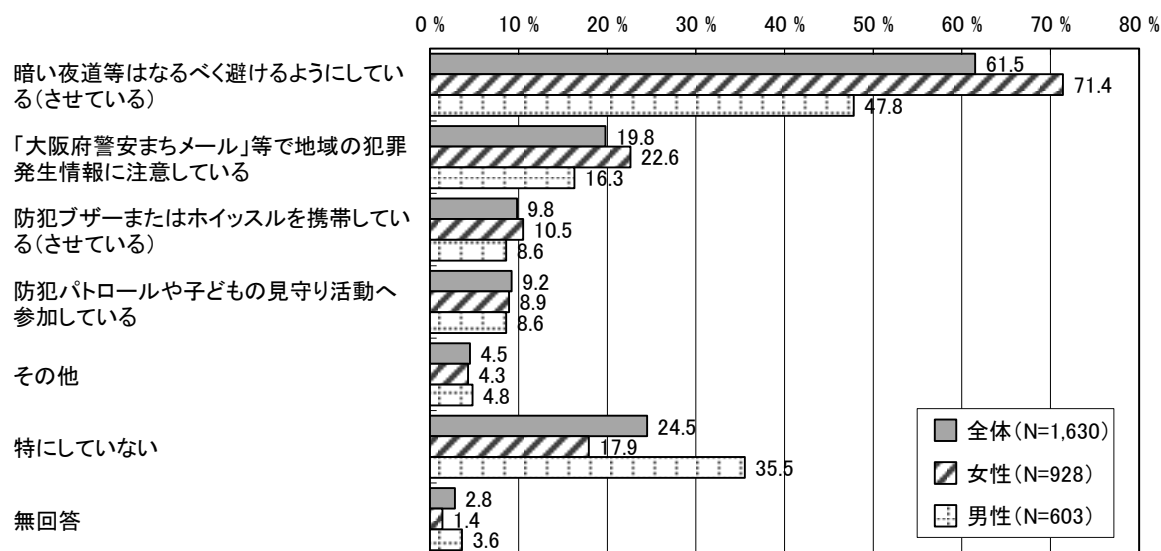


※そう思う計：「そう思う」「ある程度そう思う」をあわせた値  
 そう思わない計：「全く思わない」「あまり思わない」をあわせた値



問 16 あなたやあなたの家族が日頃から気にしている、または取り組んでいる防犯対策は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

性別にみると、女性は「暗い夜道等はなるべく避けるようにしている（させている）」の割合が男性に比べて23.6ポイント、「大阪府警安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している」の割合が男性に比べて6.3ポイント高い。男性は「特にしていない」の割合が女性に比べて17.6ポイント高い。



(単位: %)		N=	暗い夜道等はなるべく避けるようにしている(させている)	「大阪府警安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している	防犯ブザーまたはホイッスルを携帯している(させている)	防犯パトロールや子どもの見守り活動へ参加している	その他	特にしていない	無回答	
全 体		1,630	61.5	19.8	9.8	9.2	4.5	24.5	2.8	
性・年代別	女性	29歳以下	90	60.0	11.1	3.3	3.3	2.2	34.4	1.1
		30歳代	101	83.2	40.6	25.7	9.9	10.9	5.9	0.0
		40歳代	169	69.2	33.7	16.6	9.5	5.3	17.2	0.0
		50歳代	179	65.9	18.4	7.3	6.7	2.2	22.3	1.7
		60歳代	129	71.3	16.3	7.8	10.9	3.1	20.2	0.8
		70歳以上	258	76.0	18.6	6.2	10.9	3.9	13.2	3.1
		男性	29歳以下	64	34.4	7.8	3.1	1.6	3.1	50.0
	30歳代	57	47.4	14.0	21.1	5.3	10.5	40.4	1.8	
	40歳代	116	50.9	21.6	19.8	5.2	4.3	31.9	1.7	
	50歳代	106	44.3	14.2	2.8	3.8	1.9	41.5	2.8	
	60歳代	94	52.1	18.1	1.1	11.7	3.2	35.1	4.3	
	70歳以上	166	50.6	16.9	6.6	16.3	6.6	27.1	6.0	

問 17 あなたは普段、1日のうちで、以下の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。平日、休日それぞれについて平均どのくらい費やしているかお答えください。  
(○はそれぞれ一つ)

(1) 仕事・学校（通勤・通学時間を含む）

(単位:%)		N=	なし (0分)	4時間未 満	4時間～ 6時間未 満	6時間～ 8時間未 満	8時間～ 10時間未 満	10時間～ 12時間未 満	12時間以 上	無回答	
全 体		1,630	25.9	7.3	8.1	11.6	19.4	11.5	5.9	10.4	
性別	女性	928	27.6	8.4	11.2	13.4	16.1	9.2	3.3	10.9	
	男性	603	21.1	4.8	4.1	9.3	26.4	16.4	10.6	7.3	
性・ 年代別	女性	29歳以下	90	4.4	7.8	10.0	17.8	28.9	23.3	7.8	0.0
		30歳代	101	20.8	5.9	7.9	20.8	21.8	12.9	7.9	2.0
		40歳代	169	13.6	6.5	15.4	18.9	26.6	12.4	4.1	2.4
		50歳代	179	16.8	6.7	16.8	16.8	22.3	15.1	4.5	1.1
		60歳代	129	43.4	12.4	7.8	10.9	10.1	2.3	0.0	13.2
		70歳以上	258	46.5	10.1	8.1	4.3	1.2	0.0	0.4	29.5
	男性	29歳以下	64	3.1	4.7	6.3	21.9	32.8	20.3	10.9	0.0
		30歳代	57	5.3	1.8	3.5	10.5	43.9	21.1	14.0	0.0
		40歳代	116	3.4	1.7	0.9	5.2	37.9	29.3	19.8	1.7
		50歳代	106	5.7	4.7	1.9	9.4	33.0	25.5	17.9	1.9
		60歳代	94	30.9	3.2	8.5	10.6	26.6	8.5	4.3	7.4
		70歳以上	166	50.0	9.0	4.8	6.0	5.4	3.0	1.8	19.9

【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】

(単位:%)		N=	なし	4時間未 満	4時間～ 6時間未 満	6時間～ 8時間未 満	8時間～ 10時間未 満	10時間～ 12時間未 満	12時間以 上	無回答
全 体		897	19.6	8.7	7.9	13.6	23.9	13.9	6.8	5.6
性別	女性	497	21.7	9.7	10.1	14.9	22.5	11.3	3.8	6.0
	男性	384	17.2	7.6	4.9	12.2	25.5	17.4	10.4	4.7

(2) 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方で見ると、女性は平日・休日ともに「2時間～3時間未満」の割合が最も高く、男性は平日が「30分未満」、休日は「30分～1時間未満」の割合が最も高い。

(単位:%)	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)											
	N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答		
全体	1,630	9.9	13.2	15.9	18.5	16.7	10.2	5.2	5.5	5.0	1,630	7.0	9.5	14.0	17.4	17.9	11.7	6.5	5.8	10.1		
性別	女性	928	3.3	6.0	9.7	21.1	22.8	15.8	8.6	3.9	928	3.4	4.6	6.9	15.3	23.7	17.7	10.1	9.4	8.8		
	男性	603	19.7	25.4	25.2	15.8	6.5	2.0	0.0	0.7	4.8	603	11.9	18.4	24.4	21.7	9.6	3.5	1.2	0.3	9.0	
性・年代別	女性	29歳以下	90	15.6	24.4	22.2	24.4	11.1	1.1	0.0	1.1	90	10.0	21.1	23.3	15.6	18.9	7.8	0.0	0.0	3.3	
		30歳代	101	1.0	11.9	10.9	17.8	24.8	13.9	10.9	7.9	1.0	101	2.0	7.9	6.9	10.9	25.7	20.8	11.9	9.9	4.0
		40歳代	169	1.8	5.9	7.7	21.9	25.4	17.2	10.1	9.5	0.6	169	1.2	3.0	4.7	12.4	29.0	18.3	16.6	8.9	5.9
		50歳代	179	1.7	2.2	11.7	21.2	25.7	17.3	7.3	12.3	0.6	179	1.7	1.1	3.4	16.2	26.3	21.8	12.8	12.8	3.9
		60歳代	129	1.6	2.3	9.3	20.9	23.3	18.6	11.6	9.3	3.1	129	2.3	1.6	7.8	17.8	25.6	15.5	10.1	11.6	7.8
		70歳以上	258	3.1	1.9	5.0	20.9	22.5	18.2	9.3	8.1	10.9	258	5.0	2.7	4.7	17.1	18.6	17.4	7.0	8.9	18.6
		70歳以上	166	13.9	15.1	26.5	16.3	10.2	2.4	0.0	1.2	14.5	166	13.3	14.5	24.1	16.9	9.0	3.0	0.0	0.6	18.7
	男性	29歳以下	64	28.1	31.3	25.0	12.5	1.6	1.6	0.0	0.0	64	25.0	28.1	18.8	21.9	4.7	0.0	0.0	0.0	1.6	
		30歳代	57	17.5	35.1	21.1	15.8	7.0	3.5	0.0	0.0	57	12.3	14.0	26.3	22.8	15.8	7.0	0.0	0.0	1.8	
		40歳代	116	21.6	31.0	26.7	12.9	6.9	0.9	0.0	0.0	116	9.5	23.3	26.7	23.3	6.9	3.4	3.4	0.9	2.6	
		50歳代	106	20.8	22.6	27.4	17.0	6.6	0.9	0.0	1.9	2.8	106	6.6	12.3	25.5	27.4	13.2	4.7	1.9	0.0	8.5
		60歳代	94	22.3	29.8	21.3	19.1	2.1	3.2	0.0	0.0	2.1	94	9.6	22.3	23.4	21.3	9.6	3.2	1.1	0.0	9.6
		70歳以上	166	13.9	15.1	26.5	16.3	10.2	2.4	0.0	1.2	14.5	166	13.3	14.5	24.1	16.9	9.0	3.0	0.0	0.6	18.7

【末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方】

(単位:%)	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)										
	N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	
全体	96	2.1	17.7	8.3	14.6	19.8	19.8	10.4	7.3	0.0	96	2.1	7.3	11.5	17.7	20.8	15.6	11.5	10.4	3.1	
性別	女性	62	0.0	3.2	0.0	11.3	29.0	29.0	16.1	11.3	0.0	62	1.6	1.6	0.0	12.9	24.2	22.6	17.7	16.1	3.2
	男性	34	5.9	44.1	23.5	20.6	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	34	2.9	17.6	32.4	26.5	14.7	2.9	0.0	0.0	2.9

【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】

(単位:%)	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)												
	N=	なし	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	
全体	897	5.2	13.9	9.9	17.5	17.1	13.8	9.3	4.3	5.5	3.5	897	4.1	10.7	7.8	14.5	20.4	14.6	11.5	5.9	6.0	4.5	
性別	女性	497	1.6	5.2	3.6	13.7	20.3	20.5	15.1	7.4	9.5	3.0	497	2.4	4.2	3.0	9.7	19.7	20.5	17.3	9.5	9.9	3.8
	男性	384	9.9	25.5	18.0	22.7	12.5	4.9	1.8	0.5	0.5	3.6	384	6.5	19.3	14.1	20.8	21.1	6.8	3.6	1.6	1.3	4.9

(3) 育児（※育児が必要な子どもがいると回答された方）

末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方でみると、女性は平日・休日とともに「5時間以上」の割合が最も高く、男性は平日が「1時間～2時間未満」、休日は「5時間以上」の割合が最も高い。

(単位: %)		①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)										
		N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	
全体		610	34.8	5.2	7.9	8.7	5.2	3.9	2.3	7.7	24.3	629	29.9	3.3	5.4	5.2	5.6	3.2	1.3	16.2	29.9	
性別	女性	338	31.4	1.2	6.2	8.9	7.4	6.2	3.6	13.3	21.9	352	29.3	1.7	3.7	6.3	5.4	3.1	1.1	21.6	27.8	
	男性	216	39.4	12.0	12.0	9.7	2.8	0.9	0.9	0.9	21.3	220	30.9	6.4	7.7	5.0	6.8	4.1	1.8	11.4	25.9	
性・年代別	女性	29歳以下	12	25.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	33.3	16.7	14	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	28.6
		30歳代	60	1.7	0.0	6.7	6.7	15.0	20.0	15.0	33.3	1.7	62	3.2	1.6	3.2	3.2	6.5	6.5	3.2	64.5	8.1
		40歳代	81	16.0	2.5	13.6	24.7	11.1	6.2	1.2	19.8	4.9	84	15.5	2.4	11.9	17.9	8.3	3.6	1.2	27.4	11.9
		50歳代	44	43.2	4.5	6.8	11.4	11.4	2.3	0.0	11.4	9.1	47	36.2	6.4	2.1	8.5	14.9	2.1	0.0	10.6	19.1
		60歳代	31	58.1	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	35.5	33	51.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0	42.4
		70歳以上	110	47.3	0.0	0.9	0.9	1.8	0.9	0.9	0.0	47.3	112	45.5	0.0	0.0	0.9	0.9	1.8	0.9	0.0	50.0
		70歳以上	75	49.3	1.3	2.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	45.3	74	45.9	1.4	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	48.6
	男性	29歳以下	9	33.3	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	10	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	20.0	20.0
		30歳代	26	23.1	11.5	26.9	26.9	3.8	3.8	0.0	3.8	0.0	27	7.4	7.4	7.4	0.0	14.8	11.1	3.7	44.4	3.7
		40歳代	54	25.9	37.0	14.8	11.1	5.6	0.0	1.9	0.0	3.7	54	7.4	16.7	24.1	13.0	9.3	7.4	0.0	14.8	7.4
		50歳代	26	30.8	7.7	23.1	11.5	3.8	3.8	0.0	0.0	19.2	28	28.6	7.1	3.6	7.1	7.1	0.0	10.7	7.1	28.6
		60歳代	26	65.4	0.0	3.8	7.7	3.8	0.0	0.0	3.8	15.4	27	63.0	0.0	0.0	3.7	7.4	0.0	0.0	3.7	22.2
		70歳以上	75	49.3	1.3	2.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	45.3	74	45.9	1.4	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	48.6

【末子年齢6歳未満の子どもがいると回答された方】

(単位: %)		①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)									
		N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし(0分)	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体		94	3.2	8.5	7.4	13.8	10.6	10.6	9.6	36.2	0.0	94	1.1	2.1	3.2	1.1	10.6	10.6	1.1	67.0	3.2
性別	女性	61	0.0	0.0	1.6	6.6	11.5	14.8	11.5	54.1	0.0	61	1.6	0.0	1.6	0.0	8.2	3.3	1.6	80.3	3.3
	男性	33	9.1	24.2	18.2	27.3	9.1	3.0	6.1	3.0	0.0	33	0.0	6.1	6.1	3.0	15.2	24.2	0.0	42.4	3.0

【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】

(単位: %)		①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)											
		N=	なし	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間以上	無回答
全体		897	65.8	6.2	1.9	3.9	4.7	2.2	1.6	1.3	4.0	8.4	897	64.0	5.4	1.3	1.6	3.1	3.2	2.3	1.2	8.5	9.4
性別	女性	497	65.6	4.0	1.0	2.0	4.2	3.2	2.6	2.0	7.0	8.2	497	64.6	3.8	0.8	1.4	2.6	2.4	1.6	1.6	12.1	9.1
	男性	384	66.7	9.1	2.9	6.3	5.2	1.0	0.3	0.5	0.3	7.8	384	63.8	7.3	1.8	1.8	3.4	4.4	3.4	0.8	4.2	9.1

(4) 介護 (※介護が必要な家族がいると回答された方)

(単位:%)	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)											
	N=	なし(0分)	30分未満	30分~1時間未満	1時間~2時間未満	2時間~3時間未満	3時間~4時間未満	4時間~5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし(0分)	30分未満	30分~1時間未満	1時間~2時間未満	2時間~3時間未満	3時間~4時間未満	4時間~5時間未満	5時間以上	無回答		
全体	485	48.9	7.4	7.2	5.8	3.9	0.8	1.4	2.9	21.6	514	38.5	5.6	8.2	4.5	5.6	2.3	2.3	3.5	29.4		
性別	女性	276	46.4	7.6	8.3	7.2	5.1	1.1	1.8	4.3	18.1	296	34.8	6.1	8.4	5.7	7.4	3.0	3.0	4.7	26.7	
	男性	157	58.0	7.6	5.1	4.5	1.9	0.6	1.3	0.6	20.4	162	47.5	5.6	9.3	3.7	3.1	1.2	1.9	1.2	26.5	
性・年代別	女性	29歳以下	9	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	11	27.3	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.5	
		30歳代	15	53.3	6.7	13.3	6.7	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	17	29.4	5.9	11.8	5.9	17.6	0.0	0.0	29.4	
		40歳代	36	58.3	11.1	8.3	11.1	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	41	43.9	9.8	7.3	7.3	7.3	7.3	2.4	0.0	14.6
		50歳代	71	40.8	15.5	15.5	9.9	8.5	1.4	0.0	4.2	4.2	73	26.0	8.2	16.4	9.6	11.0	6.8	4.1	6.8	11.0
		60歳代	32	40.6	6.3	9.4	9.4	6.3	0.0	0.0	9.4	18.8	35	31.4	5.7	8.6	5.7	11.4	0.0	0.0	11.4	25.7
		70歳以上	113	46.0	1.8	3.5	4.4	3.5	0.0	3.5	5.3	31.9	119	39.5	1.7	4.2	3.4	3.4	0.8	4.2	4.2	38.7
		29歳以下	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	男性	30歳代	7	85.7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	
		40歳代	21	71.4	0.0	9.5	9.5	0.0	0.0	0.0	9.5	22	54.5	0.0	9.1	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	22.7	
		50歳代	29	55.2	17.2	6.9	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	13.8	30	30.0	10.0	23.3	3.3	3.3	3.3	3.3	0.0	23.3
		60歳代	27	55.6	14.8	7.4	3.7	3.7	0.0	3.7	3.7	7.4	28	46.4	14.3	7.1	3.6	7.1	0.0	3.6	3.6	14.3
		70歳以上	68	51.5	2.9	2.9	2.9	1.5	1.5	1.5	0.0	35.3	68	50.0	1.5	5.9	2.9	0.0	1.5	1.5	0.0	36.8

(5) 地域活動(自治会やPTAなど)

(単位:%)	①平日(仕事や学校がある日)										②休日(仕事や学校がない日)										
	N=	なし(0分)	30分未満	30分~1時間未満	1時間~2時間未満	2時間~3時間未満	3時間~4時間未満	4時間~5時間未満	5時間以上	無回答	N=	なし(0分)	30分未満	30分~1時間未満	1時間~2時間未満	2時間~3時間未満	3時間~4時間未満	4時間~5時間未満	5時間以上	無回答	
全体	1,630	84.0	4.7	2.6	2.0	0.4	0.2	0.1	0.1	6.0	1,630	80.6	3.6	3.4	2.0	0.9	0.2	0.1	0.1	9.1	
性別	女性	928	83.0	5.1	3.4	2.2	0.6	0.2	0.0	5.5	928	82.0	3.1	3.3	1.9	0.8	0.4	0.1	0.0	8.3	
	男性	603	88.6	3.6	1.2	1.7	0.2	0.2	0.2	4.3	603	81.4	4.0	3.6	2.3	1.3	0.0	0.0	0.3	7.0	
性・年代別	女性	29歳以下	90	96.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	90	93.3	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
		30歳代	101	85.1	5.9	5.9	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	101	87.1	2.0	3.0	3.0	1.0	0.0	0.0	0.0	4.0
		40歳代	169	87.0	4.7	3.0	3.0	0.6	0.0	0.0	1.8	169	87.6	3.0	2.4	2.4	1.2	0.0	0.0	0.0	3.6
		50歳代	179	88.8	3.9	2.8	2.2	1.7	0.0	0.0	0.6	179	81.0	7.3	5.0	1.7	1.7	1.1	0.0	0.0	2.2
		60歳代	129	79.1	7.8	6.2	2.3	0.8	0.0	0.0	3.9	129	80.6	3.9	4.7	3.1	0.0	0.8	0.0	0.0	7.0
		70歳以上	258	72.5	6.2	3.1	1.9	0.4	0.8	0.0	15.1	258	73.6	1.6	3.1	1.6	0.4	0.4	0.4	0.0	19.0
		29歳以下	64	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64	95.3	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6
	男性	30歳代	57	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57	96.5	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
		40歳代	116	95.7	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	116	81.0	6.9	4.3	2.6	0.9	0.0	0.0	0.9	3.4
		50歳代	106	93.4	2.8	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	1.9	106	83.0	3.8	3.8	3.8	0.9	0.0	0.0	0.0	4.7
		60歳代	94	88.3	5.3	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0	2.1	94	78.7	5.3	5.3	3.2	2.1	0.0	0.0	0.0	5.3
		70歳以上	166	72.3	6.0	2.4	4.2	0.6	0.6	0.6	12.7	166	71.7	4.2	3.6	2.4	1.8	0.0	0.0	0.6	15.7

問 18 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

性別にみると、女性は「小さいときから男の子に、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高い。

(単位: %)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	52.8	58.3	45.9	52.7	58.0	47.7
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	45.7	48.4	42.5	41.7	44.2	40.3
男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	43.5	48.1	39.0	-	-	-
小さいときから男の子に、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること	39.7	45.7	31.5	39.8	46.4	31.6
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	36.9	40.9	32.3	33.5	35.4	31.7
労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	32.4	32.7	34.2	37.8	38.3	39.0
家事、子育て、介護、地域活動の社会的な評価を高めること	31.9	34.3	29.5	34.7	37.1	32.6
その他	2.6	1.6	3.8	1.8	1.6	2.0
特に必要ない	4.9	3.8	6.3	3.8	2.5	5.5
無回答	3.4	2.8	2.8	5.9	4.8	4.7

## 7 様々な暴力について

問 19 あなたは、最近3年の間に、職場・学校・地域などの身近なところで、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やマタニティ・ハラスメント（働く女性が妊娠・出産に関連し職場において受ける精神的・肉体的いやがらせ）を受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

いずれの項目も女性の「受けた経験がある」の割合は男性を上回っており、『(G) じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた』『(D) 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした』『(C) さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた』で5ポイント以上高い。

(単位: %)	全体 (N=1,630)			女性 (N=928)			男性 (N=603)		
	受けた経験がある	受けた経験がない	無回答	受けた経験がある	受けた経験がない	無回答	受けた経験がある	受けた経験がない	無回答
(A) 地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	1.1	86.3	12.6	1.8	87.4	10.8	0.1	88.6	11.3
(B) 食事やデートにしつこく誘われた	2.9	84.1	13.0	4.4	84.3	11.3	0.8	87.6	11.6
(C) さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	3.9	82.8	13.3	6.5	82.0	11.5	0.5	87.7	11.8
(D) 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした	5.4	81.7	12.9	8.3	80.4	11.3	1.3	87.4	11.3
(E) 宴席で、お酌やデュエットを強要された	3.7	83.1	13.3	5.6	82.7	11.7	1.0	87.1	11.9
(F) 異性との交際や結婚予定や出産予定などプライベートなことについてたびたび聞かれた	4.6	82.1	13.3	6.7	81.8	11.5	2.2	85.9	11.9
(G) じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた	6.5	80.1	13.4	10.0	78.3	11.7	2.0	85.9	12.1
(H) 「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な言葉をかけられた	5.0	81.9	13.1	6.2	81.7	12.1	3.5	85.4	11.1
(I) 妊娠・出産をきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	0.7	83.1	16.1	1.3	85.9	12.8	0.0	82.8	17.2
(J) 妊娠・出産を理由に解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	0.7	83.1	16.3	1.1	85.8	13.1	0.1	82.8	17.1

### 【前回調査（平成27年）】

(単位: %)	全体 (N=2,254)			女性 (N=1,281)			男性 (N=858)		
	受けた経験がある	受けた経験がない	無回答	受けた経験がある	受けた経験がない	無回答	受けた経験がある	受けた経験がない	無回答
(A) 地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	1.3	82.6	16.1	1.6	87.2	11.2	0.9	79.5	19.6
(C) さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	4.9	78.8	16.3	7.5	81.3	11.2	1.1	79.0	19.9
(E) 宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要された	5.2	77.9	16.9	7.9	80.4	11.7	1.4	77.9	20.7
(F) 結婚予定や出産予定をたびたび聞かれた	6.3	75.2	18.5	9.1	77.9	13.0	2.5	74.7	22.8
(G) じろじろ見られたり、容姿のことを話題にされた	7.3	75.3	17.4	10.0	77.9	12.1	3.5	74.9	21.6
(I) 妊娠・出産をきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	-	-	-	1.1	85.0	13.9	-	-	-
(J) 妊娠・出産を理由に解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	-	-	-	1.0	85.2	13.8	-	-	-



女性がハラスメントを受けた場所は、いずれの項目も「職場で受けた」の割合が最も高い。

【前回調査（平成27年）】との比較

(単位:%)		今回調査						前回調査(平成27年)					
		N=	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない	無回答	N=	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない	無回答
(A)地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	全体	1,630	0.9	0.0	0.2	86.3	12.6	2,254	1.1	0.2	0.3	82.6	16.1
	女性	928	1.6	0.0	0.3	87.4	10.8	1,281	1.3	0.2	0.2	87.2	11.2
	男性	603	0.0	0.0	0.2	88.6	11.3	858	0.6	0.2	0.3	79.5	19.6
(B)食事やデートにしよう誘われた	全体	1,630	1.9	0.3	0.7	84.1	13.0	-	-	-	-	-	-
	女性	928	2.9	0.4	1.2	84.3	11.3	-	-	-	-	-	-
	男性	603	0.5	0.2	0.2	87.6	11.6	-	-	-	-	-	-
(C)さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	全体	1,630	2.8	0.2	1.0	82.8	13.3	2,254	3.7	0.4	1.2	78.8	16.3
	女性	928	4.6	0.3	1.7	82.0	11.5	1,281	5.8	0.4	1.8	81.3	11.2
	男性	603	0.2	0.2	0.2	87.7	11.8	858	0.7	0.3	0.2	79.0	19.9
(D)性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした	全体	1,630	4.4	0.6	0.8	81.7	12.9	-	-	-	-	-	-
	女性	928	6.7	0.8	1.3	80.4	11.3	-	-	-	-	-	-
	男性	603	1.2	0.3	0.0	87.4	11.3	-	-	-	-	-	-
(E)宴席で、お酌やデュエットを強要された	全体	1,630	3.2	0.1	0.4	83.1	13.3	2,254	4.4	0.1	1.0	77.9	16.9
	女性	928	4.8	0.2	0.6	82.7	11.7	1,281	6.8	0.2	1.3	80.4	11.7
	男性	603	0.8	0.0	0.2	87.1	11.9	858	1.3	0.0	0.2	77.9	20.7
(F)異性との交際や結婚予定や出産予定などプライベートなことについてたびたび聞かれた	全体	1,630	4.1	0.4	0.6	82.1	13.3	2,254	5.2	0.1	1.9	75.2	18.5
	女性	928	5.9	0.4	0.9	81.8	11.5	1,281	7.7	0.2	2.3	77.9	13.0
	男性	603	2.0	0.3	0.3	85.9	11.9	858	1.9	0.1	1.2	74.7	22.8
(G)じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた	全体	1,630	4.5	0.6	1.8	80.1	13.4	2,254	5.1	1.2	2.5	75.3	17.4
	女性	928	7.3	0.8	2.6	78.3	11.7	1,281	6.9	1.5	3.3	77.9	12.1
	男性	603	1.0	0.5	0.7	85.9	12.1	858	2.7	0.7	1.3	74.9	21.6
(H)「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な言葉をかけられた	全体	1,630	3.6	0.7	1.2	81.9	13.1	-	-	-	-	-	-
	女性	928	4.5	0.4	1.5	81.7	12.1	-	-	-	-	-	-
	男性	603	2.5	1.3	0.5	85.4	11.1	-	-	-	-	-	-
(I)妊娠・出産をきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	全体	1,630	0.6	0.0	0.1	83.1	16.1	-	-	-	-	-	-
	女性	928	1.1	0.0	0.2	85.9	12.8	1,281	0.9	0.0	0.2	85.0	13.9
	男性	603	0.0	0.0	0.0	82.8	17.2	-	-	-	-	-	-
(J)妊娠・出産を理由に解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	全体	1,630	0.7	0.0	0.0	83.1	16.3	-	-	-	-	-	-
	女性	928	1.1	0.0	0.0	85.8	13.1	1,281	0.9	0.0	0.1	85.2	13.8
	男性	603	0.2	0.0	0.0	82.8	17.1	-	-	-	-	-	-

※前回調査において『(I) 妊娠・出産をきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた』『(J) 妊娠・出産を理由に解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた』の項目の質問対象は女性のみ。

【問 19 で最近 3 年の間に、職場・学校・地域などの身近なところでセクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントを受けたことがあると回答された方に質問】

問 19-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

性別にみると、女性で「友人・知人」「家族や親戚」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高く、男性で「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が女性に比べて 35.4 ポイント高い。

(単位:%)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=218	女性 N=171	男性 N=39	全体 N=370	女性 N=295	男性 N=64
友人や知人	33.0	37.4	12.8	37.8	41.0	21.9
家族や親戚	17.0	19.9	7.7	21.1	20.3	25.0
職場の相談窓口	2.8	3.5	0.0	4.3	4.7	3.1
堺市各区役所「女性相談」	0.9	0.6	0.0	-	-	-
警察	0.9	1.2	0.0	2.7	2.4	3.1
大阪府女性相談センター	0.5	0.6	0.0	-	-	-
労働局の雇用均等室	0.5	0.6	0.0	1.9	2.0	0.0
医療関係者(医師、看護師など)	0.5	0.6	0.0	0.8	1.0	0.0
学校関係者(相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)	0.5	0.0	2.6	0.5	0.0	3.1
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	0.0	0.0	0.0	-	-	-
堺市立男女共同参画センター相談	0.0	0.0	0.0	-	-	-
民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)	0.0	0.0	0.0	1.1	1.0	1.6
その他	4.1	4.7	2.6	4.1	4.4	1.6
どこ(だれ)にも相談しなかった	46.8	41.5	76.9	38.6	37.3	48.4
無回答	5.5	5.3	0.0	6.2	6.1	6.3

【問 19-1 でどこ（だれ）にも相談しなかったと回答された方に質問】

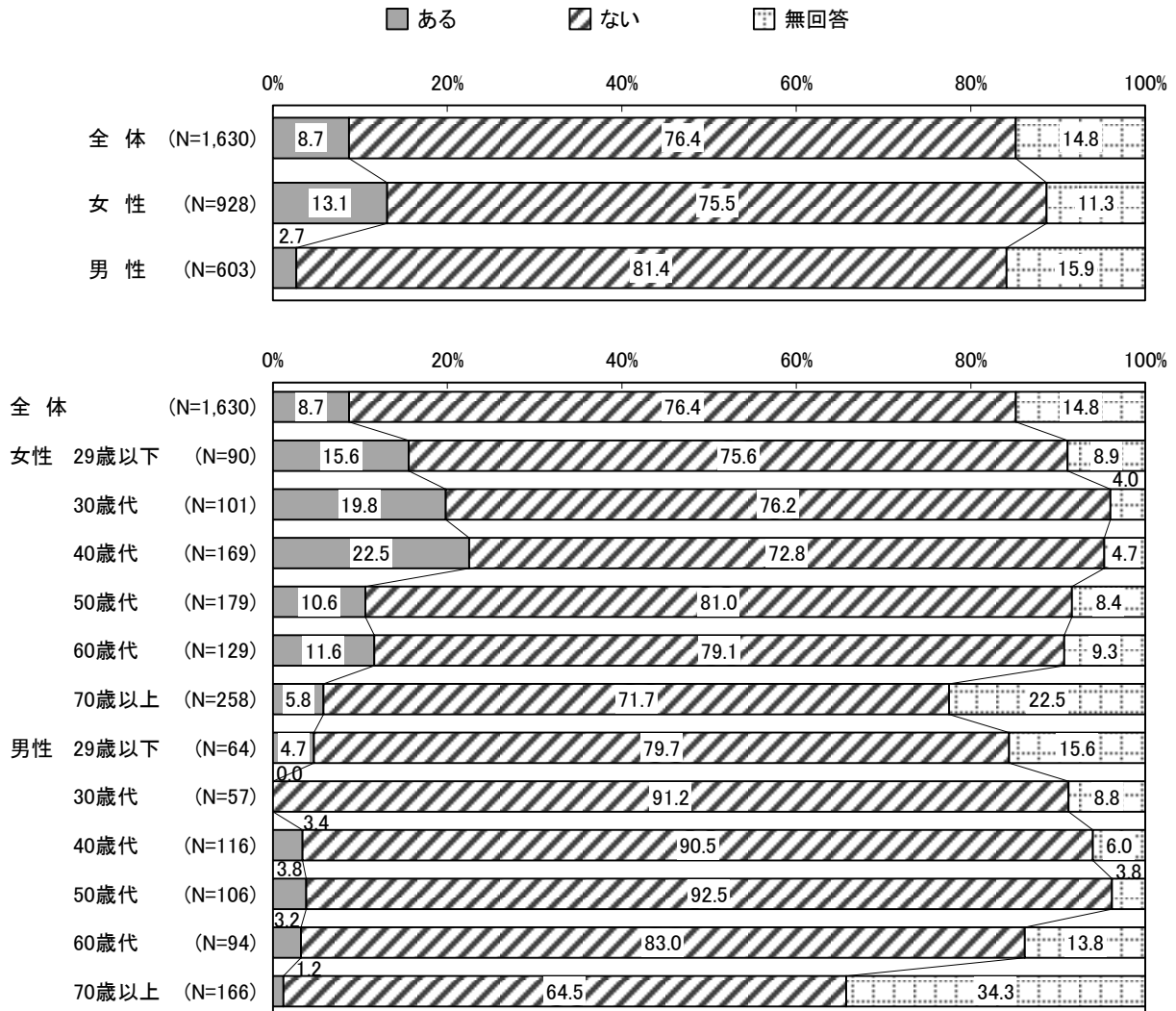
問 19-2 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。  
（あてはまるものすべてに○）

性別にみると、女性は「相談してもむだだと思った」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男性は「相談するほどのことではないと思った」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。

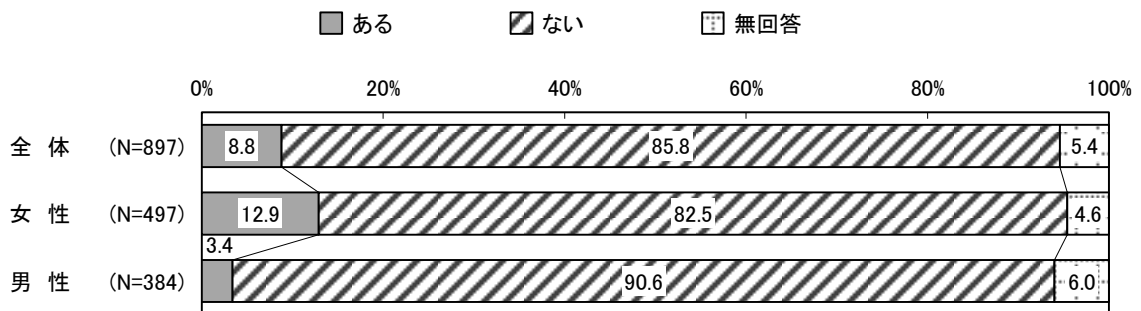
(単位:%)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=102	女性 N=71	男性 N=30	全体 N=143	女性 N=110	男性 N=31
相談するほどのことではないと思った	57.8	54.9	66.7	67.1	67.3	64.5
相談してもむだだと思った	39.2	45.1	26.7	39.9	38.2	41.9
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	19.6	18.3	23.3	10.5	10.0	12.9
どこ／だれに相談してよいのかわからなかった	9.8	9.9	6.7	12.6	10.9	16.1
恥ずかしくてだれにも言えなかった	8.8	7.0	13.3	9.8	8.2	16.1
相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けると思った	5.9	4.2	6.7	4.2	3.6	6.5
他の人を巻き込みたくなかった	5.9	7.0	3.3	3.5	2.7	6.5
周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなると思った	4.9	4.2	6.7	4.2	4.5	3.2
そのことについて思い出したくなかった	4.9	7.0	0.0	7.0	3.6	19.4
自分にも悪いところがあると思った	4.9	4.2	6.7	2.1	1.8	3.2
相手の行為は愛情の表現だと思った	2.9	2.8	3.3	2.8	0.9	9.7
加害者に「誰にも言うな」と脅された	2.0	2.8	0.0	1.4	0.9	3.2
その他	4.9	5.6	3.3	5.6	4.5	9.7
無回答	0.0	0.0	0.0	1.4	1.8	0.0

問 20 性暴力や性犯罪の相談が増えているといわれています。あなたはこれまで（子どものころを含めて）に、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。（○は一つ）

性・年代別にみると、女性の「ある」の割合が全ての年代で男性に比べて高く、40歳代以下でポイント差が大きい。



【大阪府調査（男女共同参画に関する府民意識調査（令和元年））】



【問 20 で望まないのに性的な行為をされたことがあると回答された方に質問】

問 20-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

性別にみると、女性で「友人・知人」「家族や親戚」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高い。男性はサンプル数が少ないため、参考値ではあるものの「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が女性に比べて 20.6 ポイント高い。

(単位:%)	今回調査			大阪府調査(男女共同参画に関する府民意識調査(令和元年))		
	全体 N=142	女性 N=122	男性 N=16	全体 N=79	女性 N=64	男性 N=13
家族や親戚	19.7	22.1	6.3	6.3	6.3	0.0
友人や知人	16.9	17.2	6.3	13.9	10.9	30.8
警察	7.7	8.2	0.0	3.8	3.1	7.7
学校関係者(相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)	1.4	1.6	0.0	1.3	1.6	0.0
堺市こころの健康センター「性暴力被害に遭われた女性のための心理カウンセリング」	0.7	0.8	0.0	-	-	-
堺市配偶者暴力相談支援センター	0.7	0.0	0.0	-	-	-
大阪府女性相談センター	0.7	0.8	0.0	-	-	-
堺市各区役所「女性相談」	0.0	0.0	0.0	-	-	-
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	0.0	0.0	0.0	-	-	-
堺市立男女共同参画センター相談	0.0	0.0	0.0	-	-	-
民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、性暴力救援センター大阪SACHICOなど)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療関係者(医師、看護師など)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.1	1.6	6.3	3.8	4.7	0.0
どこ(だれ)にも相談しなかった	62.0	60.7	81.3	75.9	82.8	46.2
無回答	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	15.4

【問 20-1 でどこ（だれ）にも相談しなかったと回答された方に質問】

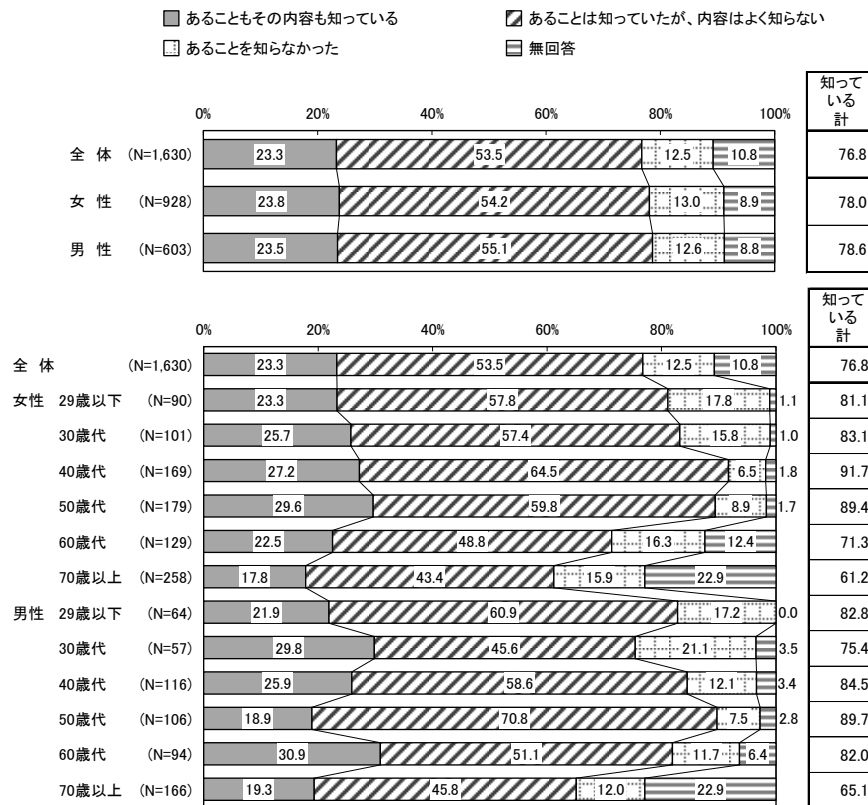
問 20-2 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。  
（あてはまるものすべてに○）

(単位: %)	今回調査			大阪府調査(男女共同参画に関する府民意識調査(令和元年))		
	全体 N=88	女性 N=74	男性 N=13	全体 N=60	女性 N=53	男性 N=6
恥ずかしくてだれにも言えなかった	43.2	41.9	46.2	26.7	26.4	16.7
そのことについて思い出したくなかった	29.5	33.8	7.7	25.0	24.5	16.7
相談してもむだだと思った	26.1	28.4	7.7	36.7	35.8	33.3
どこ／だれに相談してよいのかわからなかった	25.0	25.7	15.4	15.0	15.1	16.7
相談するほどのことではないと思った	19.3	16.2	38.5	21.7	22.6	16.7
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った	18.2	18.9	15.4	13.3	15.1	0.0
自分にも悪いところがあると思った	14.8	14.9	7.7	18.3	18.9	16.7
周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなると思った	13.6	16.2	0.0	8.3	9.4	0.0
加害者に「誰にも言うな」と脅された	9.1	9.5	7.7	0.0	0.0	0.0
世間体が悪い	8.0	9.5	0.0	8.3	9.4	0.0
他の人を巻き込みたくなかった	6.8	6.8	0.0	3.3	1.9	16.7
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った	4.5	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0
相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けると思った	3.4	4.1	0.0	8.3	9.4	0.0
相手の行為は愛情の表現だと思った	2.3	2.7	0.0	13.3	11.3	33.3
その他	10.2	12.2	0.0	5.0	3.8	16.7
無回答	1.1	1.4	0.0	1.7	1.9	0.0

## 8 配偶者や交際相手等からの暴力について

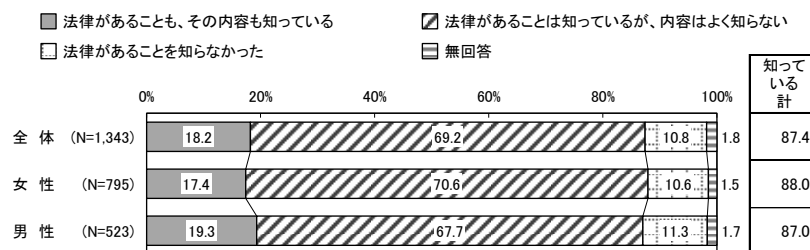
問 21 あなたは、①「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」やその内容を知っていますか。  
 また、②結婚していない交際中の男女間等でおこる暴力を、特に、「デートDV」といいますが、あなたはこの「デートDV」という言葉やその内容を知っていますか。（それぞれ○は一つ）

### ① DV防止法

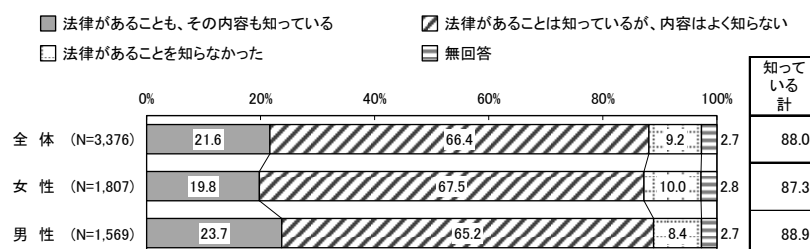


※知っている計：「あることもその内容も知っている」「あることは知っていたが、内容はよく知らない」をあわせた値

### 【前回調査（平成 28 年）】

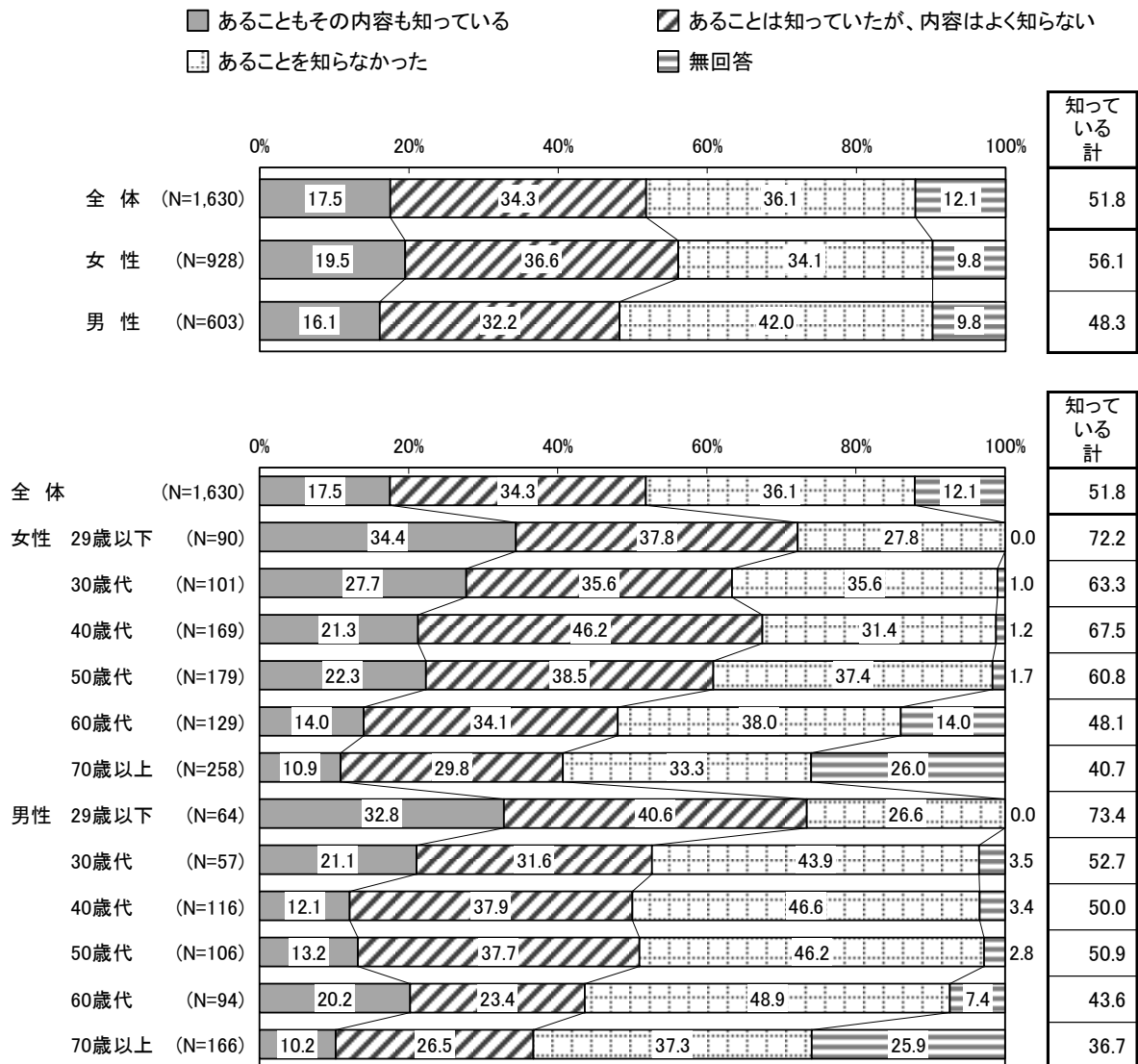


### 【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

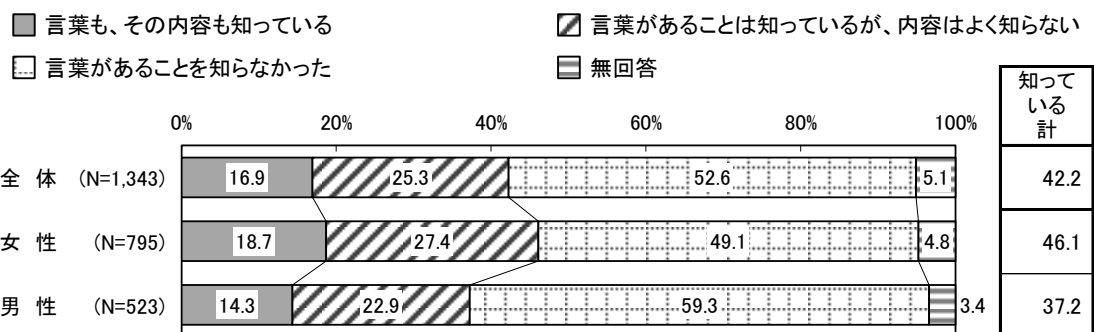


## ②デートDV

性・年代別にみると、「知っている計」の割合は年代の低い層で高くなっている。「あることを知らなかった」の割合は30歳代から60歳代男性で全体と比べて高い。

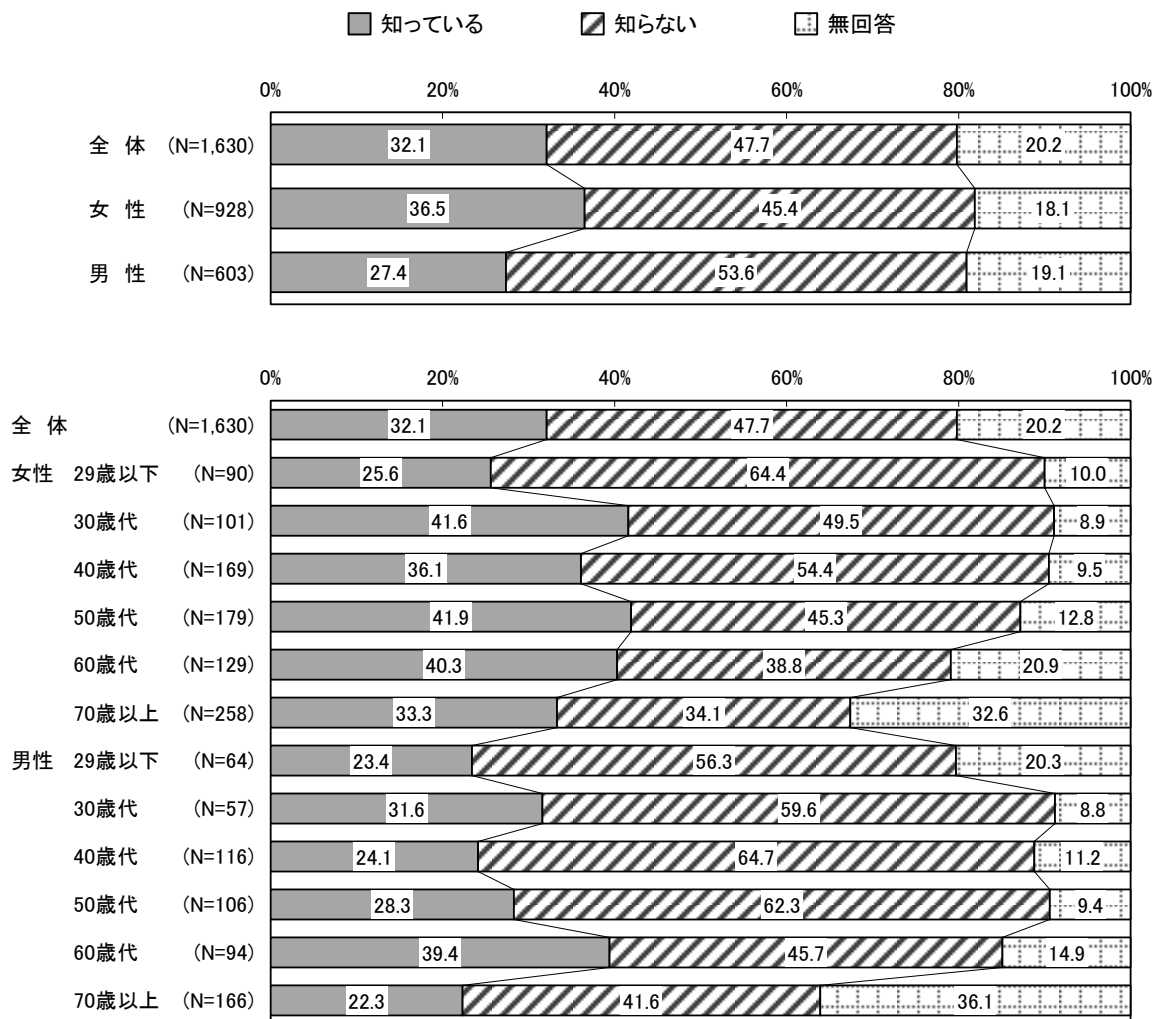


## 【前回調査（平成28年）】

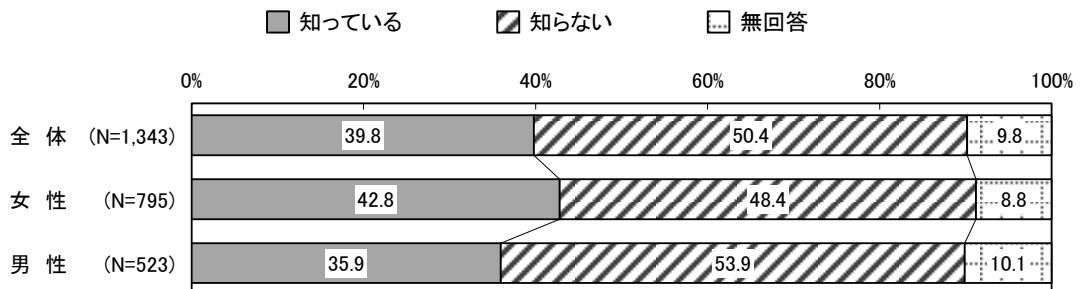




問 22 あなたは、配偶者や交際相手からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。(〇は一つ) なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。

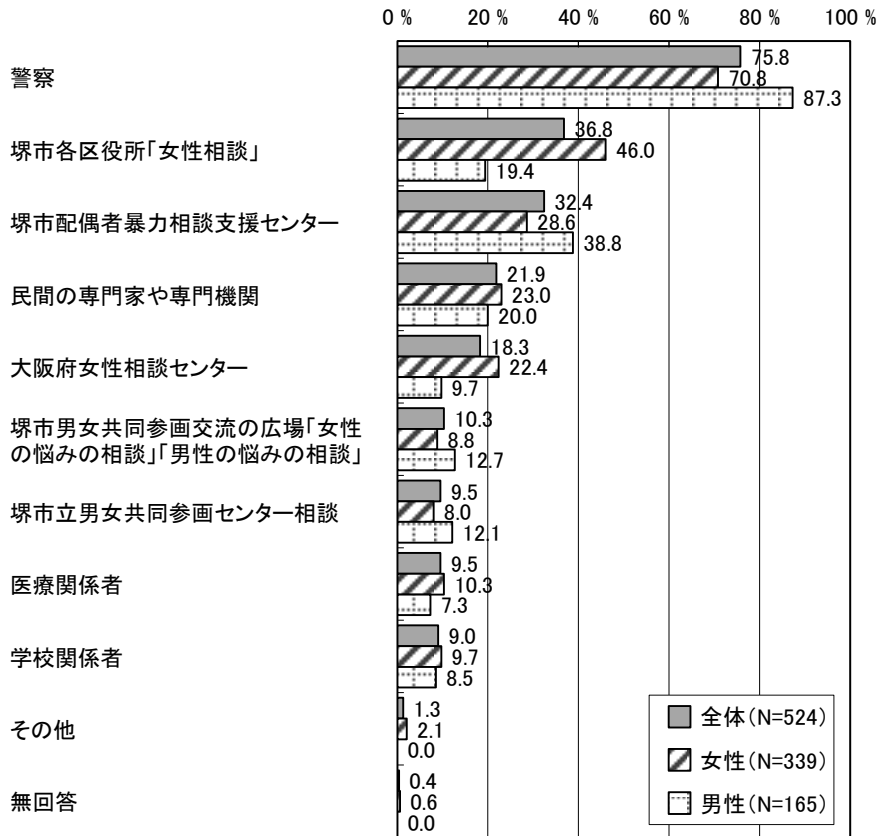


【前回調査（平成 28 年）】



【問 22 で相談窓口を知っていると回答された方に質問】

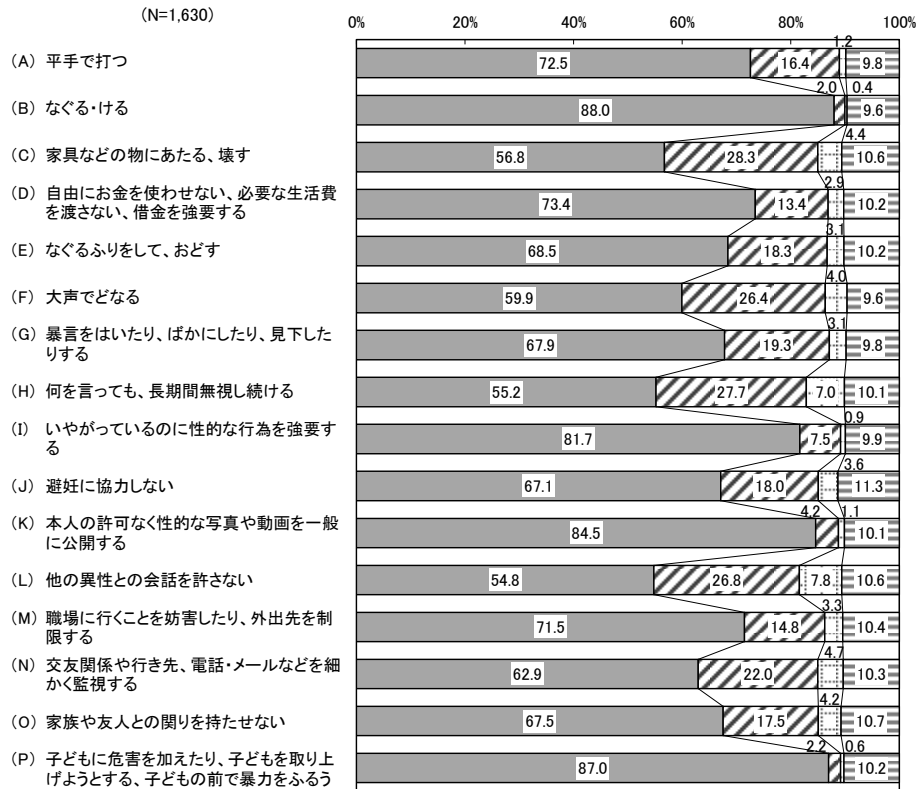
問 22-1 あなたの知っている窓口は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)



	全体 N=535	女性 N=340	男性 N=188
警察	83.0	81.2	87.2
堺市各区役所「女性相談」	41.1	49.4	25.0
堺市配偶者暴力相談支援センター	22.4	19.4	26.1
民間の専門家や専門機関	27.1	27.1	27.1
大阪府女性相談センター	18.3	20.9	12.8
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	12.3	10.6	13.8
堺市立男女共同参画センター相談	18.7	21.5	12.8
医療関係者	12.5	14.1	10.1
学校関係者	6.2	5.9	6.9
その他	1.7	1.8	1.6
無回答	0.4	0.6	0.0

問 23 あなたは、配偶者や交際相手から次のようなことが相手に対して行われた場合、それを暴力だと思いますか。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。（それぞれ○は一つ）

- 暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



(単位: %)	女性 (N=928)				男性 (N=603)			
	暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答	暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
(A) 平手で打つ	75.1	15.3	1.2	8.4	72.0	19.2	1.2	7.6
(B) なぐる・ける	90.1	1.4	0.6	7.9	89.7	2.7	0.2	7.5
(C) 家具などの物にあたる、壊す	62.0	26.3	2.9	8.8	50.9	33.5	7.1	8.5
(D) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	78.2	10.8	2.7	8.3	69.5	18.2	3.6	8.6
(E) なぐるふりをして、おどす	72.7	15.4	3.3	8.5	66.3	22.9	2.7	8.1
(F) 大声でどなる	65.8	22.7	3.4	8.0	54.1	33.5	4.8	7.6
(G) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	71.6	16.8	3.3	8.3	65.7	23.9	3.0	7.5
(H) 何を言っても、長期間無視し続ける	59.2	25.2	6.7	8.9	52.2	32.2	8.1	7.5
(I) いやがっているのに性的な行為を強要する	83.2	7.1	1.2	8.5	83.6	8.3	0.5	7.6
(J) 避妊に協力しない	69.9	16.9	3.4	9.7	66.3	21.1	4.0	8.6
(K) 本人の許可なく性的な写真や動画を一般に公開する	87.4	2.9	1.1	8.6	84.9	6.0	1.3	7.8
(L) 他の異性との会話を許さない	58.0	25.8	7.3	8.9	53.4	29.7	9.0	8.0
(M) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	75.3	12.0	3.6	9.2	70.0	19.6	2.8	7.6
(N) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	65.5	20.8	5.0	8.7	62.7	25.2	4.3	7.8
(O) 家族や友人との関わりを持たせない	70.6	15.8	4.3	9.3	66.8	20.6	4.5	8.1
(P) 子どもに危害を加えたり、子どもを取り上げようとする、子どもの前で暴力をふるう	88.9	1.4	0.8	8.9	89.2	2.8	0.3	7.6

【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

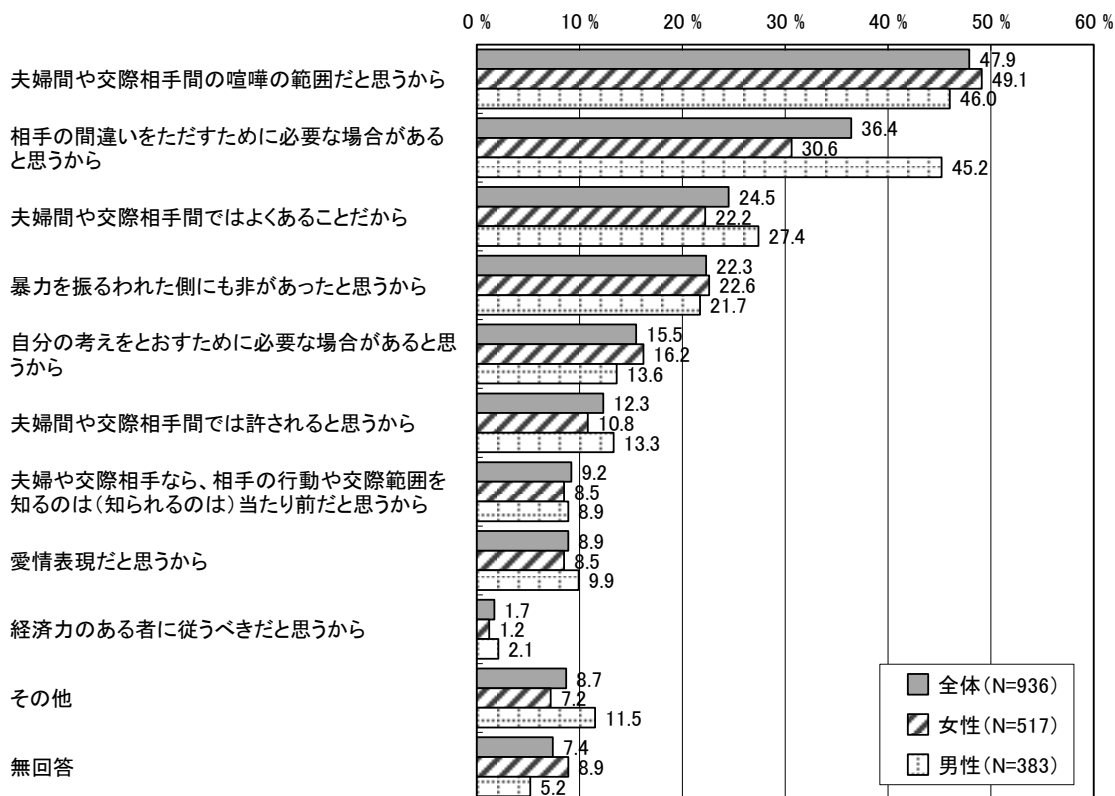
(単位: %)	全体 (N=3,376)				女性 (N=1,807)				男性 (N=1,569)			
	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
(A) 平手で打つ	72.4	22.0	1.8	3.9	71.9	21.9	1.6	4.6	73.0	22.1	2.0	3.0
(B) 足でける	85.0	9.8	1.4	3.9	84.1	9.7	1.5	4.7	85.9	9.9	1.3	2.9
(C) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	93.2	2.0	1.0	3.7	92.5	1.8	1.1	4.5	94.1	2.2	1.0	2.8
(D) なぐるふりをして、おどす	60.5	28.8	6.3	4.4	61.8	26.2	6.5	5.5	59.1	31.7	6.1	3.1
(E) 刃物などを突きつけて、おどす	90.9	4.0	1.0	4.0	89.9	3.9	1.2	5.0	92.1	4.1	0.8	2.9
(F) 大声でどなる	39.5	47.2	9.5	3.7	42.7	44.3	8.6	4.4	35.9	50.6	10.6	2.9
(G) 他の異性との会話を許さない	47.3	29.7	18.2	4.9	48.6	28.9	16.4	6.0	45.8	30.5	20.1	3.6
(H) 家族や友人との関わりを持たせない	59.2	23.0	12.9	4.9	61.4	20.6	12.0	6.0	56.5	25.9	13.9	3.7
(I) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	55.2	28.3	11.5	5.0	57.7	24.9	11.1	6.3	52.3	32.1	12.0	3.6
(J) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	68.8	18.5	8.1	4.7	70.3	15.9	8.1	5.7	67.1	21.4	8.0	3.4
(K) 何を言っても長期間無視し続ける	57.3	28.0	9.9	4.8	58.3	25.6	10.0	6.2	56.2	30.8	9.8	3.3
(L) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う	63.1	24.6	7.8	4.5	66.2	21.4	6.9	5.4	59.5	28.2	8.8	3.4
(M) 家計に必要な生活費を渡さない	68.2	19.1	7.9	4.8	70.3	16.4	7.6	5.7	65.8	22.2	8.2	3.8
(N) 嫌がっているのに性的な行為を強要する	77.3	14.1	3.8	4.8	77.8	13.1	3.7	5.5	76.9	15.3	3.9	4.0
(O) 避妊に協力しない	67.4	20.5	6.3	5.7	70.1	17.2	6.0	6.7	64.3	24.3	6.8	4.6

※全国調査では質問内容を夫婦間の暴力に限定している

【問 23 で一つでも「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と回答された方に質問】

問 23-1 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。  
(あてはまるものすべてに○)

性別にみると、男性は「相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから」の割合が女性に比べて 14.6 ポイント、「夫婦間や交際相手間ではよくあることだから」の割合が 5.2 ポイント高い。



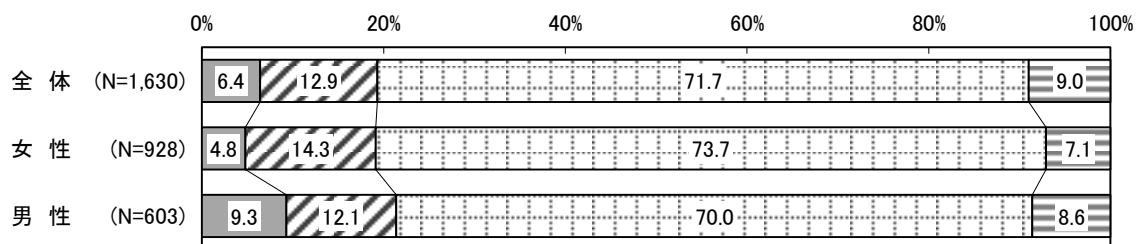
【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

(単位: %)	全体 N=2,471	女性 N=1,266	男性 N=1,205
夫婦喧嘩の範囲だと思うから	53.7	53.4	54.1
相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから	41.3	36.6	46.2
夫婦間ではよくあることだと思うから	29.2	26.1	32.5
暴力を振るわれた側にも非があったと思うから	23.3	23.7	22.9
自分の考えをとおすために必要な場合があると思うから	17.6	19.3	15.8
夫婦間では許されると思うから	14.4	12.6	16.3
夫婦なら、相手の行動や交友関係を知るのは当たり前だと思うから	12.4	14.1	10.7
愛情表現だと思うから	8.5	7.9	9.2
一家の大黒柱のすることには従うべきだと思うから	3.0	3.4	2.6
その他	8.7	9.2	8.2
無回答	6.1	6.8	5.4

※全国調査では質問内容を夫婦間の暴力に限定している

問 24 あなたは、結婚した経験、交際相手があった経験がありますか。なお、ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含みます。(〇は一つ)

- 未婚(結婚したことはない)で、現在も過去も交際相手があった経験はない
- ▨ 未婚(結婚したことはない)で、現在交際相手がいる、又は過去に交際相手があった
- ▤ 既婚(現在、夫又は妻がいる)、又は離別(結婚していたが、離婚した)、又は死別(結婚していたが、死別した)
- 無回答

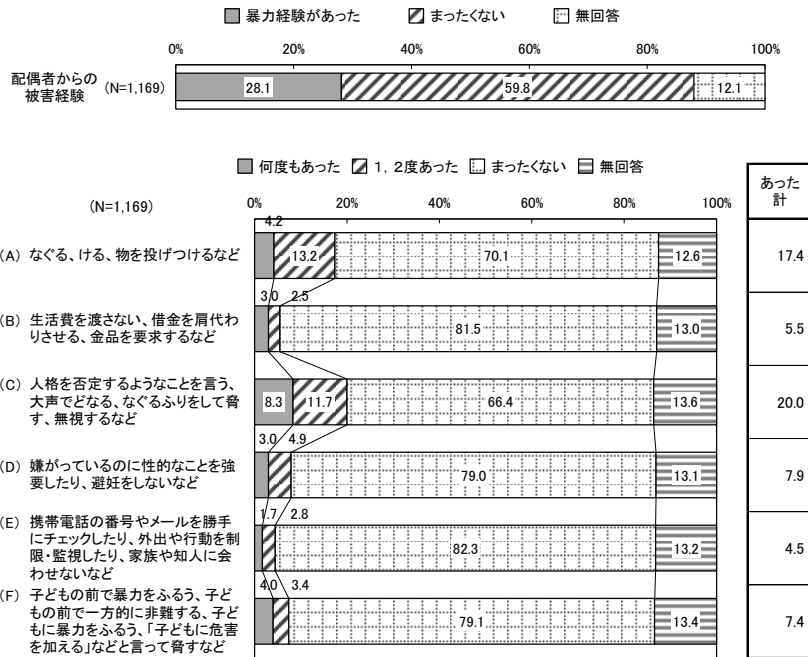


【問 24 で結婚した経験がある（事実婚や別居中も含む）と回答された方に質問】

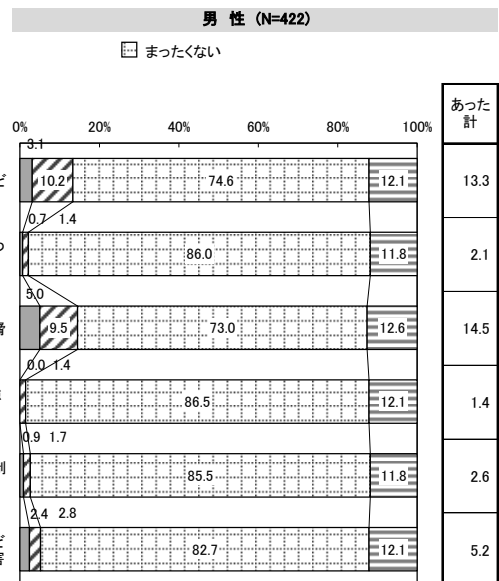
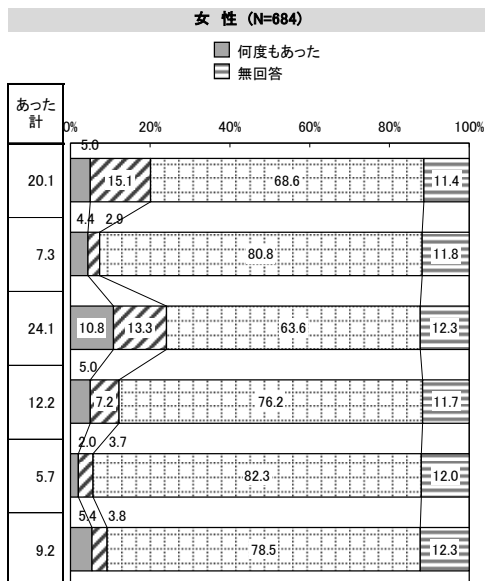
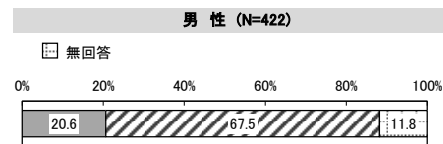
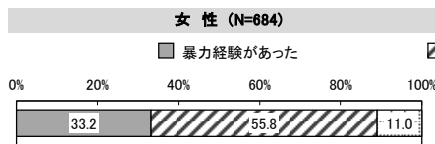
問 25 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。また「①これまで」で「1, 2度あった」「何度もあった」と回答した方は、②「この1年間」についてもお答えください。（それぞれ○は一つ）

①これまで

性別にみると、“あった計”の割合は全ての項目で女性が男性に比べて高くなっており、『(D)嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど』で10ポイント以上高い。



※あった計：「何度もあった」「1, 2度あった」をあわせた値



【前回調査（平成 28 年）】

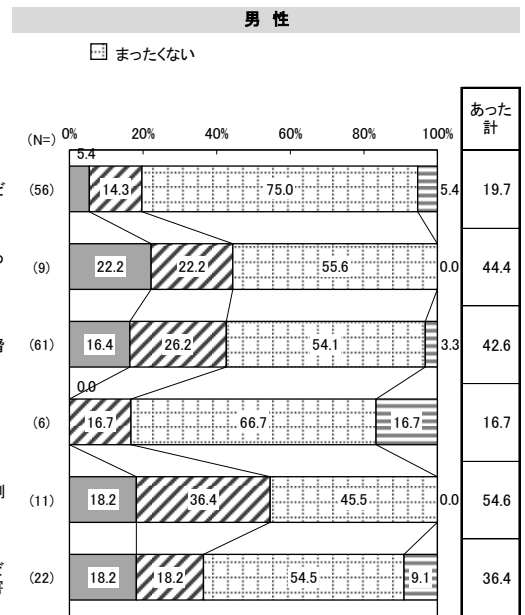
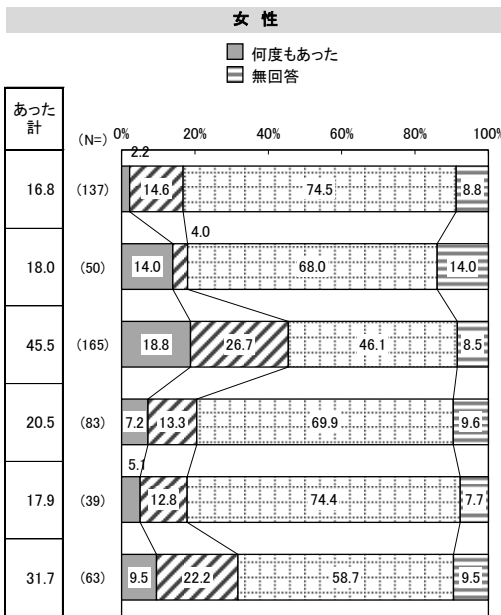
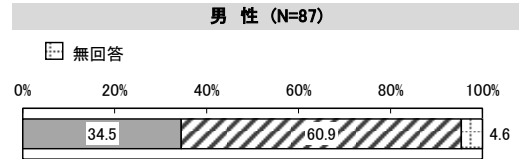
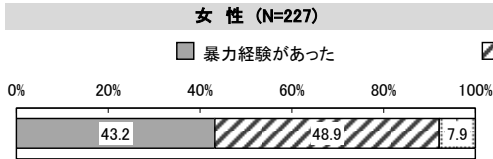
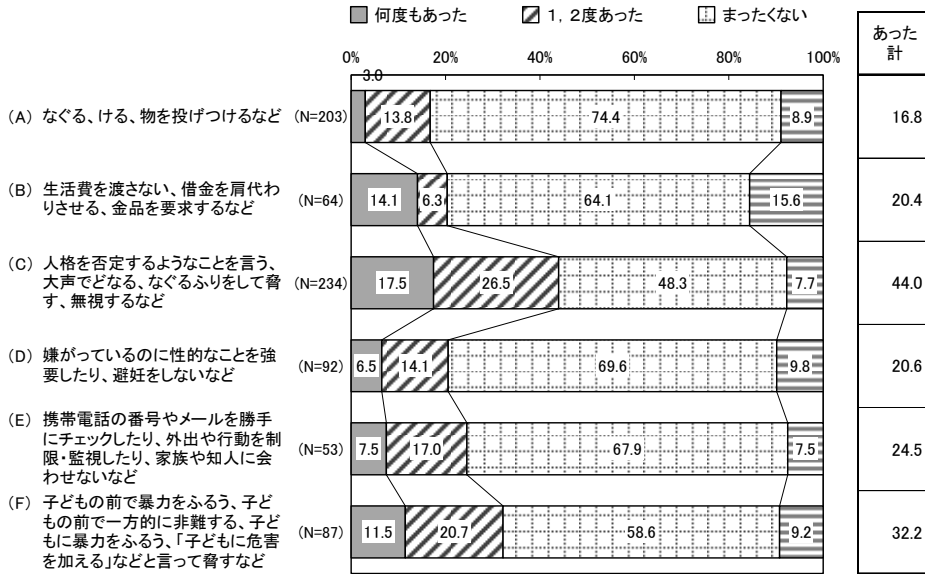
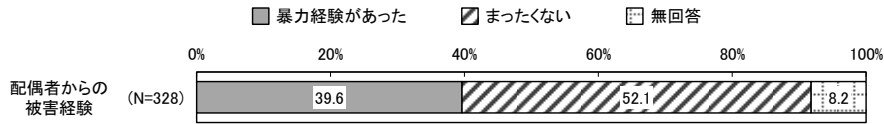
(単位:%)	全体 (N=1,042)				女性 (N=636)				男性 (N=393)			
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答	何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答
配偶者からの被害経験	10.9	24.0	60.7	4.4	12.9	25.3	57.1	4.7	7.9	22.4	66.4	3.3
(A) ながる、ける、物を投げつけるなど	4.3	15.3	77.6	2.8	6.1	17.3	74.1	2.5	1.5	12.5	83.2	2.8
(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	2.6	3.2	90.7	3.6	3.9	4.1	88.5	3.5	0.5	1.8	94.7	3.1
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、ながるふりをして脅す、無視するなど	8.3	20.2	68.3	3.3	11.2	20.0	65.7	3.1	3.8	21.1	72.3	2.8
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	3.5	6.1	86.9	3.6	4.9	8.2	83.6	3.3	1.3	3.1	92.4	3.3
(E) 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	1.7	4.2	90.4	3.6	2.2	5.5	88.8	3.5	1.0	2.3	93.4	3.3
(F) 子どもの前で暴力をふるう、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど	1.7	2.8	91.7	3.8	2.5	3.9	89.6	3.9	0.5	1.0	95.4	3.1

【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

(単位:%)	全体 (N=2,485)				女性 (N=1,366)				男性 (N=1,119)			
	何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答	何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答	何どもあった	1、2度あった	まったくない	無回答
(A) 身体的暴行	3.7	13.7	80.6	2.0	5.3	14.5	78.0	2.2	1.7	12.8	83.7	1.8
(B) 経済的圧迫	3.3	3.4	90.0	3.2	5.2	4.8	86.2	3.9	1.1	1.8	94.7	2.4
(C) 心理的攻撃	5.8	7.9	83.3	3.0	7.8	9.0	79.5	3.7	3.5	6.5	87.9	2.1
(D) 性的強要	2.2	3.9	90.7	3.3	3.8	5.9	86.3	4.0	0.2	1.3	96.0	2.5



②この1年間 (①これまでに「1、2度あった」「何度もあった」と回答された方に質問)



【前回調査（平成 28 年）】

(単位:%)	全体 (N=363)				女性 (N=242)				男性 (N=119)			
	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
配偶者からの被害経験	9.6	24.2	59.5	6.6	8.3	21.9	62.8	7.0	11.8	29.4	52.9	5.9
(A) ながる、ける、物を投げつけるなど	1.9	6.1	55.9	36.1	2.1	5.8	57.4	34.7	1.7	6.7	52.9	38.7
(B) 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	1.1	0.6	61.7	36.6	1.2	0.4	63.2	35.1	0.8	0.8	58.8	39.5
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、ながるふりをして脅す、無視するなど	5.2	14.0	44.4	36.4	6.2	13.2	45.5	35.1	3.4	16.0	42.0	38.7
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	1.1	3.3	58.4	37.2	1.7	4.1	58.7	35.5	0.0	1.7	58.0	40.3
(E) 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	0.3	3.3	59.2	37.2	0.0	4.5	59.5	36.0	0.8	0.8	58.8	39.5
(F) 子どもの前で暴力をふるう、子どもにも暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど	0.3	1.9	60.9	36.9	0.4	2.5	61.2	36.0	0.0	0.8	60.5	38.7

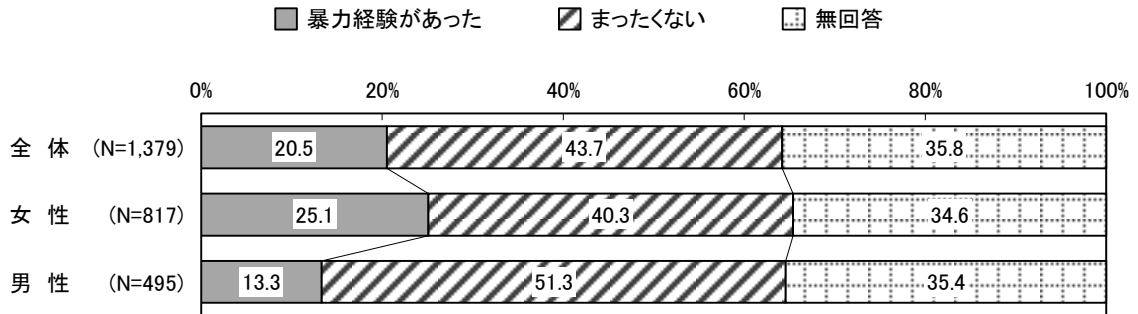
【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

(単位:%)	全体					女性					男性				
	N=	何どもあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	N=	何どもあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	N=	何どもあった	1、2度あった	まったくくない	無回答
(A) 身体的暴行	432	1.9	14.4	69.2	14.6	270	1.1	11.9	68.1	18.9	162	3.1	18.5	71.0	7.4
(B) 経済的圧迫	168	17.9	16.7	49.4	16.1	136	17.6	17.6	49.3	15.4	32	18.8	12.5	50.0	18.8
(C) 心理的攻撃	341	15.8	26.1	47.2	10.9	229	14.8	24.9	47.2	13.1	112	17.9	28.6	47.3	6.3
(D) 性的強要	150	4.7	18.0	62.0	15.3	133	5.3	19.5	61.7	13.5	17	0.0	5.9	64.7	29.4

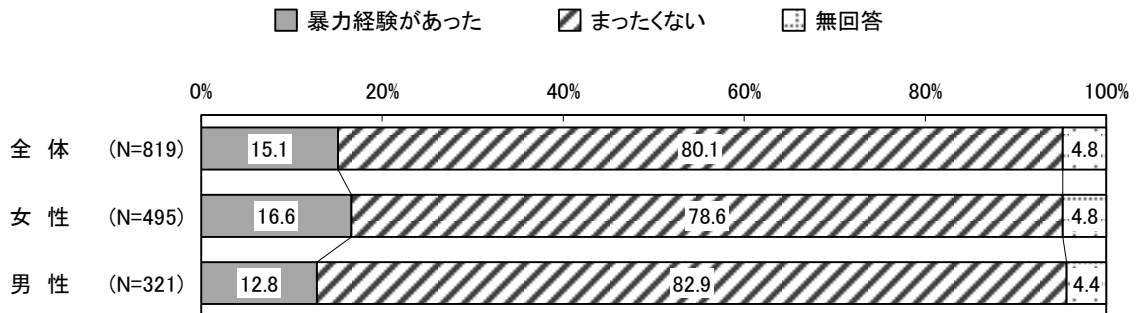
【問 24 で結婚した経験がある方（事実婚や別居中も含む）、交際相手がいいた経験がある方に質問】

問 26 あなたは、現在及び過去に交際相手から次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。  
（それぞれあてはまるものすべてに○）

（1）交際相手からの暴力経験の有無



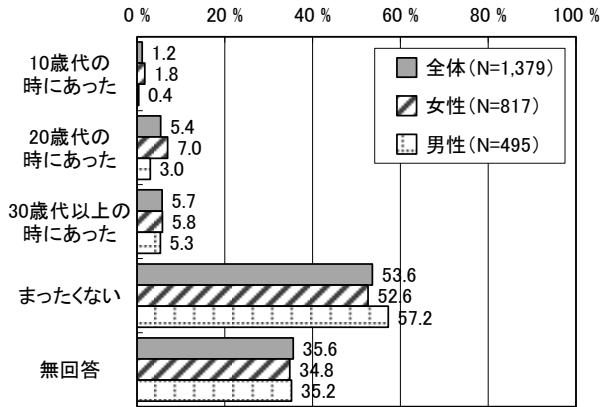
【前回調査（平成 28 年）】



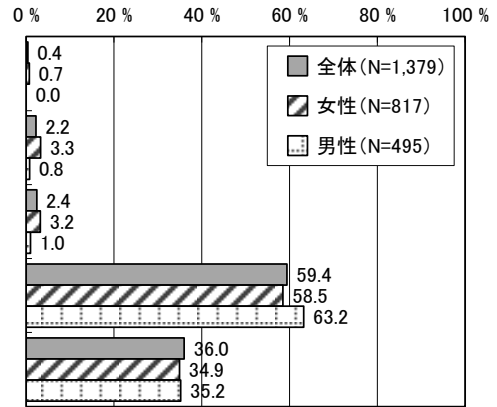
【問 24 で結婚した経験がある方（事実婚、別居中を含む）、交際相手がいた経験がある方に質問】

問 26 あなたは、現在及び過去に交際相手から次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。

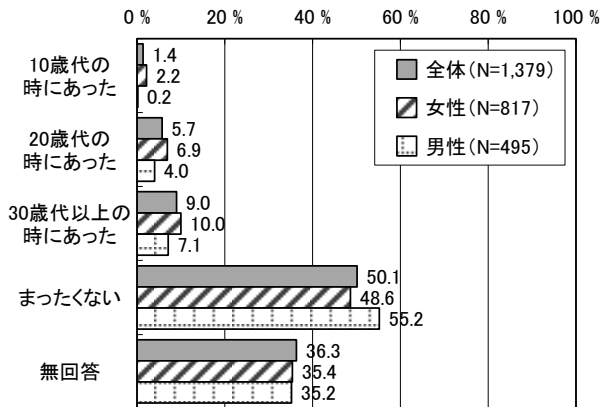
(A) ながる、ける、物を投げつけるなど



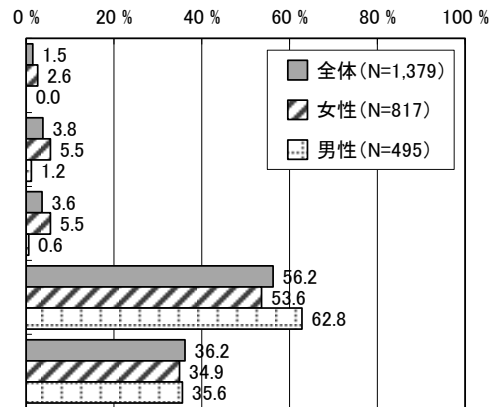
(B) 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど



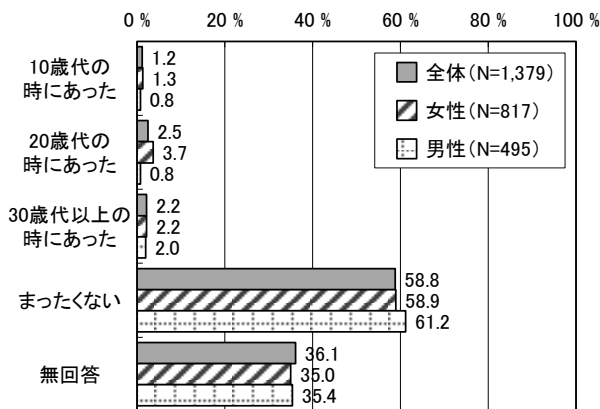
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、ながるふりをして脅す、無視するなど



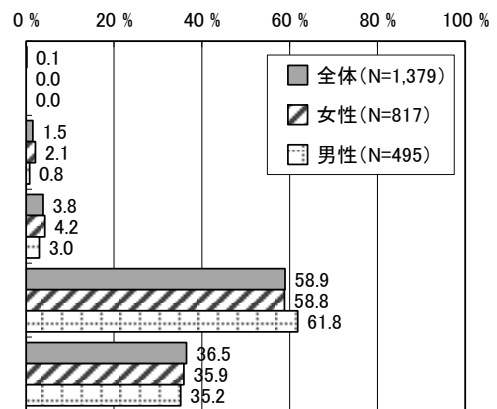
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど



(E) 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど

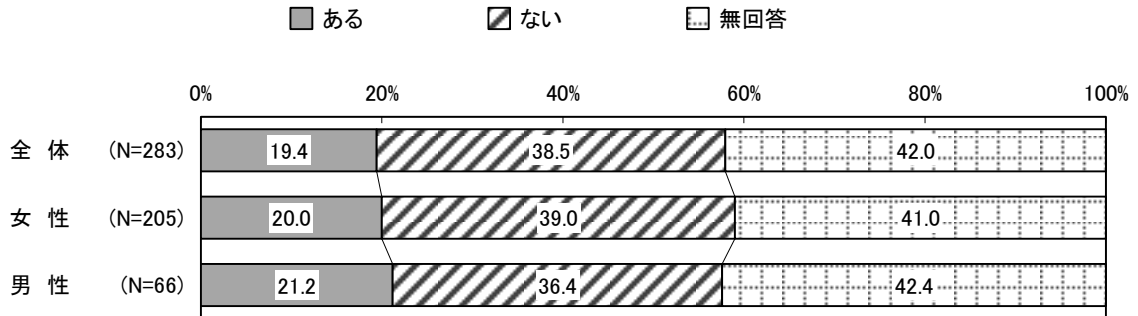


(F) 子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど



【交際相手からの暴力を受けた経験がある方に質問】

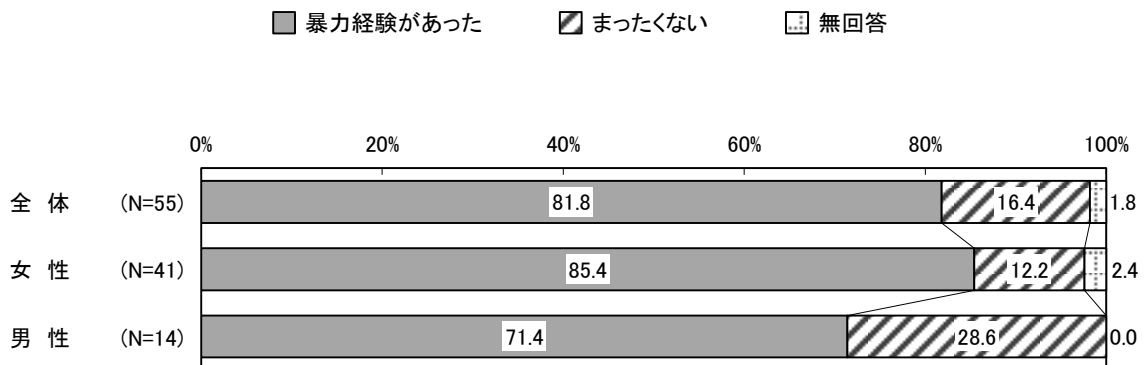
問 26-1 あなたは、現在及び過去に交際相手と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がありますか。（○は一つ）



【交際相手からの暴力を受けた経験がある方のうち、同棲経験がある方に質問】

問 26-2 あなたは、過去に同居していた交際相手や現在同居している交際相手（いわゆる同棲相手）から同居（同棲）中に次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。（それぞれあてはまるものすべてに○）

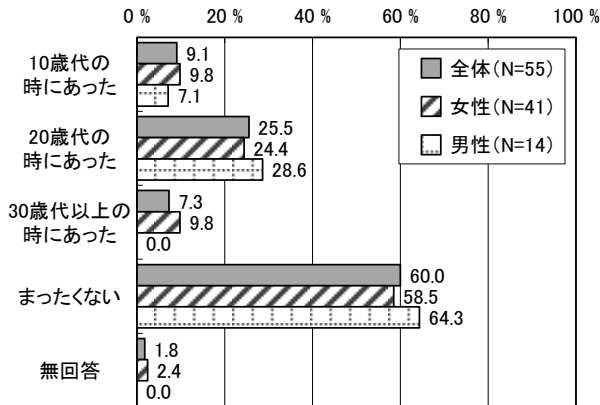
(1) 同棲相手からの暴力経験の有無



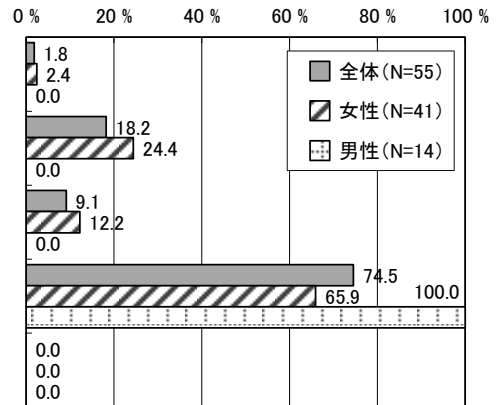
【交際相手からの暴力を受けた経験がある方のうち、同棲経験がある方に質問】

問 26-2 あなたは、過去に同居していた交際相手や現在同居している交際相手（いわゆる同棲相手）から同居（同棲）中に次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。（それぞれあてはまるものすべてに○）

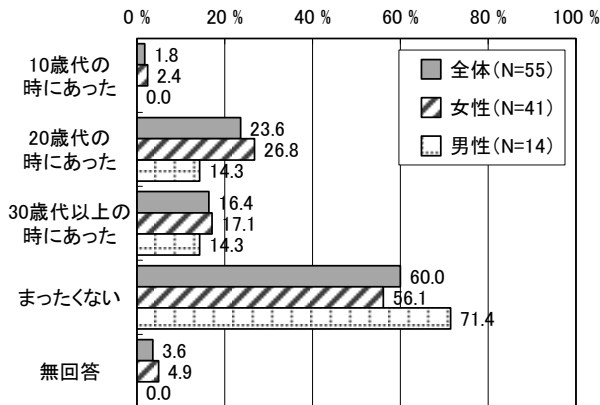
(A) ながる、ける、物を投げつけるなど



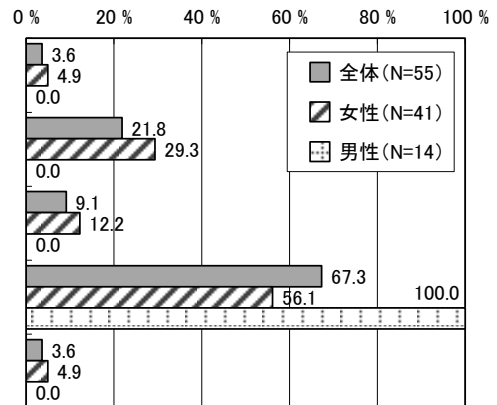
(B) 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど



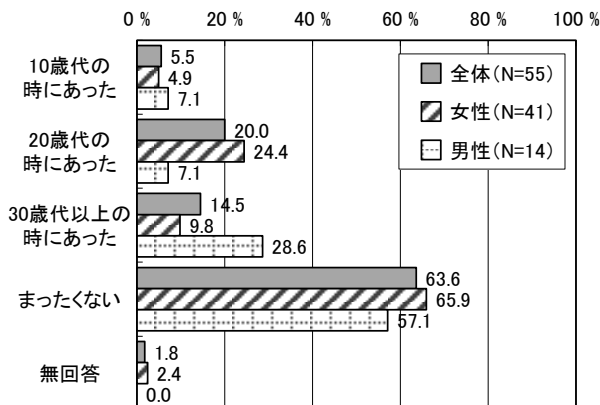
(C) 人格を否定するようなことを言う、大声でなる、ながるふりをして脅す、無視するなど



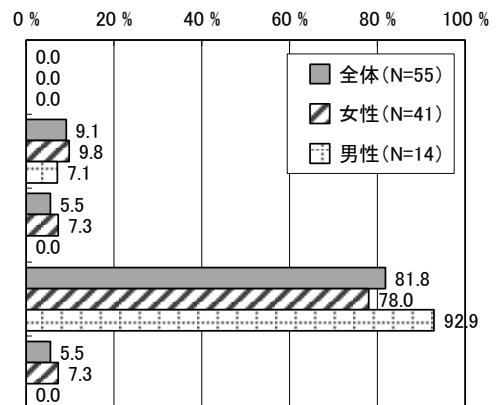
(D) 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど



(E) 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど



(F) 子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど



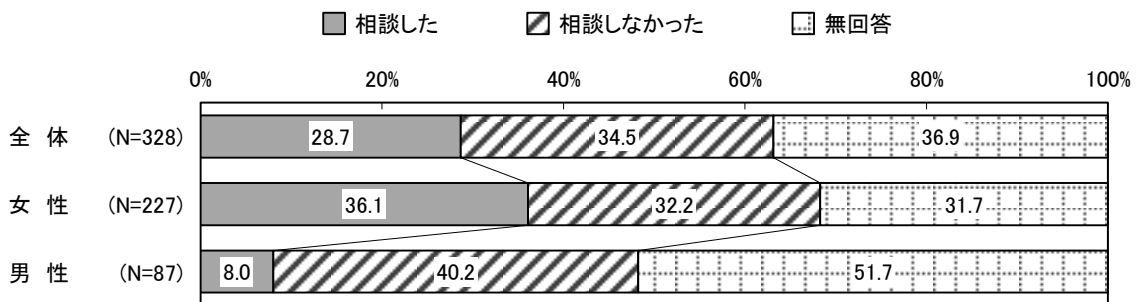
【配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に質問】

問 27 あなたはこれまでに、あなたの①配偶者や②交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

①配偶者からの暴力

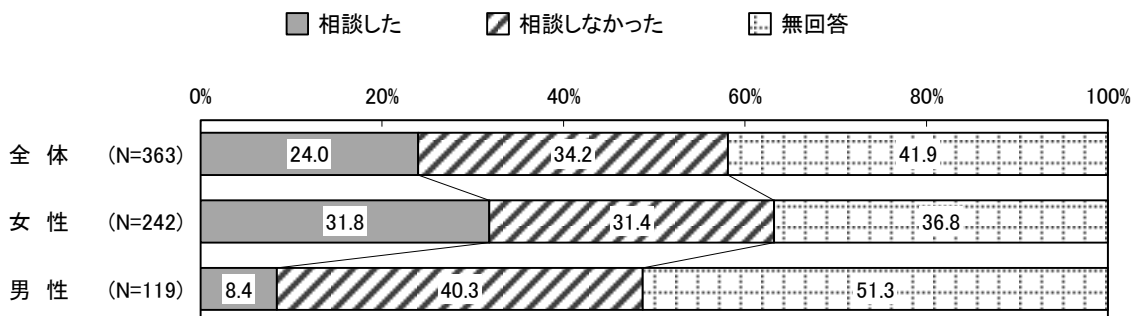
(1) 相談の有無

性別にみると、男性で「相談しなかった」の割合は女性に比べて8ポイント高い。



(単位: %)		N=	相談した	相談しなかった	無回答	
全体		328	28.7	34.5	36.9	
性・年代別	女性	29歳以下	2	0.0	50.0	50.0
		30歳代	20	45.0	15.0	40.0
		40歳代	48	39.6	29.2	31.3
		50歳代	65	44.6	33.8	21.5
		60歳代	33	42.4	42.4	15.2
		70歳以上	58	19.0	31.0	50.0
		男性	29歳以下	2	0.0	0.0
	30歳代		7	0.0	71.4	28.6
	40歳代		17	11.8	41.2	47.1
		50歳代	13	23.1	46.2	30.8
60歳代		22	4.5	27.3	68.2	
70歳以上		26	3.8	42.3	53.8	

【前回調査 (平成 28 年)】



(2) 相談先

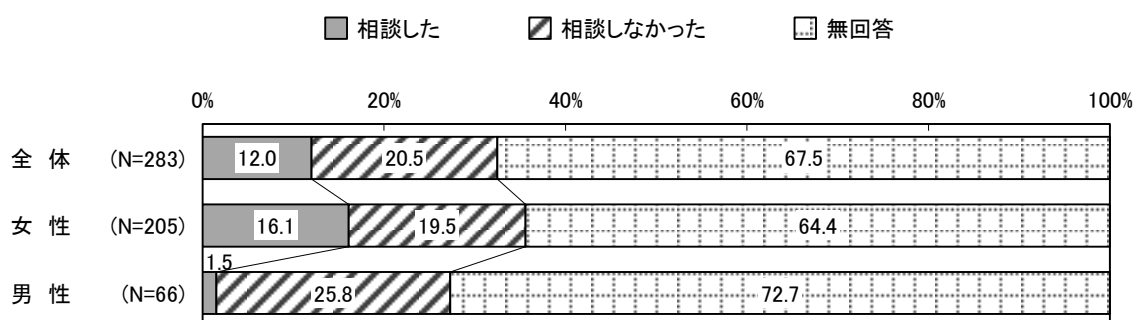
(単位:%)	今回調査			前回調査(平成28年)		
	全体 N=328	女性 N=227	男性 N=87	全体 N=363	女性 N=242	男性 N=119
家族や親戚	18.0	23.3	5.7	14.9	19.8	5.0
友人や知人	14.6	17.6	5.7	14.0	17.8	6.7
警察	2.4	2.2	2.3	2.5	3.3	0.8
堺市各区役所「女性相談」	2.1	2.6	1.1	2.5	3.7	0.0
医療関係者(医師、看護師など)	1.8	1.8	2.3	0.8	0.8	0.8
民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど)	1.5	1.8	1.1	1.1	1.7	0.0
大阪府女性相談センター	1.2	1.3	1.1	0.3	0.4	0.0
堺市配偶者暴力相談支援センター	0.6	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	0.6	0.4	1.1	0.0	0.0	0.0
学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)	0.6	0.4	1.1	0.0	0.0	0.0
堺市立男女共同参画センター相談	0.3	0.0	1.1	0.3	0.4	0.0
その他	0.3	0.0	1.1	0.3	0.4	0.0
どこ(だれ)にも相談しなかった	34.5	32.2	40.2	34.2	31.4	40.3
無回答	36.9	31.7	51.7	41.9	36.8	51.3



## ②交際相手からの暴力

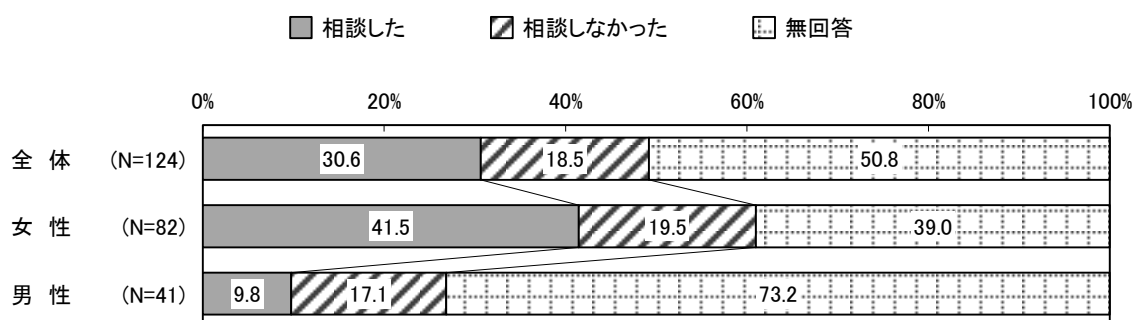
### (1) 相談の有無

性別にみると、男性で「相談しなかった」の割合は女性に比べて6.3ポイント高い。



(単位: %)		N=	相談した	相談しなかった	無回答	
全体		283	12.0	20.5	67.5	
性・年代別	女性	29歳以下	18	50.0	27.8	22.2
		30歳代	28	28.6	32.1	39.3
		40歳代	45	24.4	22.2	53.3
		50歳代	49	4.1	22.4	73.5
		60歳代	27	3.7	14.8	81.5
		70歳以上	37	5.4	0.0	94.6
		男性	29歳以下	4	0.0	50.0
	30歳代		8	0.0	50.0	50.0
	40歳代		13	7.7	30.8	61.5
	50歳代		12	0.0	33.3	66.7
	60歳代	17	0.0	11.8	88.2	
	70歳以上	12	0.0	8.3	91.7	

### 【前回調査 (平成 28 年)】

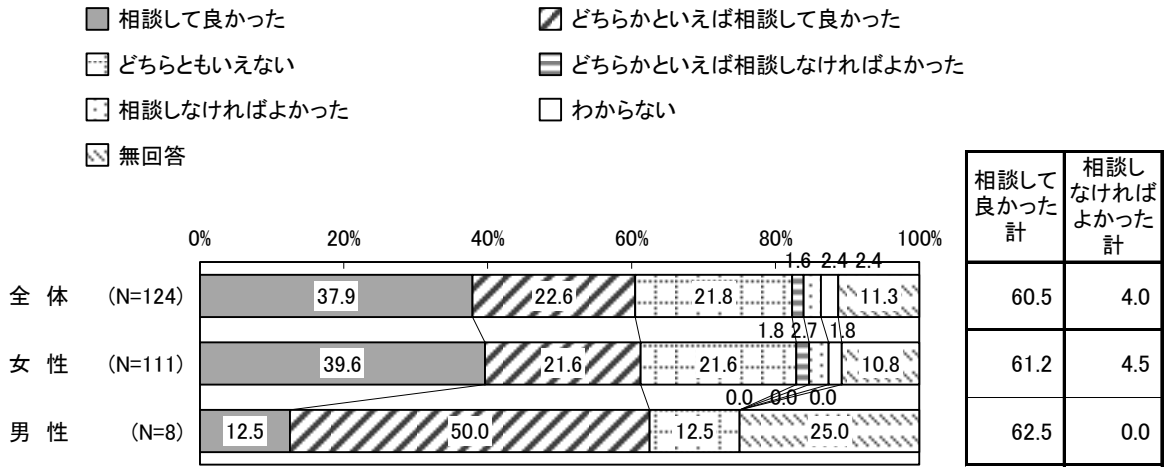


(2) 相談先

(単位: %)	今回調査			前回調査(平成28年)		
	全体 N=283	女性 N=205	男性 N=66	全体 N=124	女性 N=82	男性 N=41
友人や知人	9.5	12.7	1.5	27.4	36.6	9.8
家族や親戚	3.2	3.9	1.5	8.9	12.2	2.4
警察	1.1	1.5	0.0	3.2	4.9	0.0
堺市各区役所「女性相談」	0.7	1.0	0.0	0.8	1.2	0.0
堺市配偶者暴力相談支援センター	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
医療関係者(医師、看護師など)	0.4	0.5	0.0	0.8	1.2	0.0
堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
堺市立男女共同参画センター相談	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大阪府女性相談センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.4	0.5	0.0	0.8	1.2	0.0
どこ(だれ)にも相談しなかった	20.5	19.5	25.8	18.5	19.5	17.1
無回答	67.5	64.4	72.7	50.8	39.0	73.2

【配偶者や交際相手から暴力を受けた経験があり、相談した経験がある方に質問】

問 27-1 相談後のあなたのお気持ちに一番近いものはどれですか。(〇は一つ)



※相談して良かった計：「相談して良かった」「どちらかといえば相談して良かった」をあわせた値

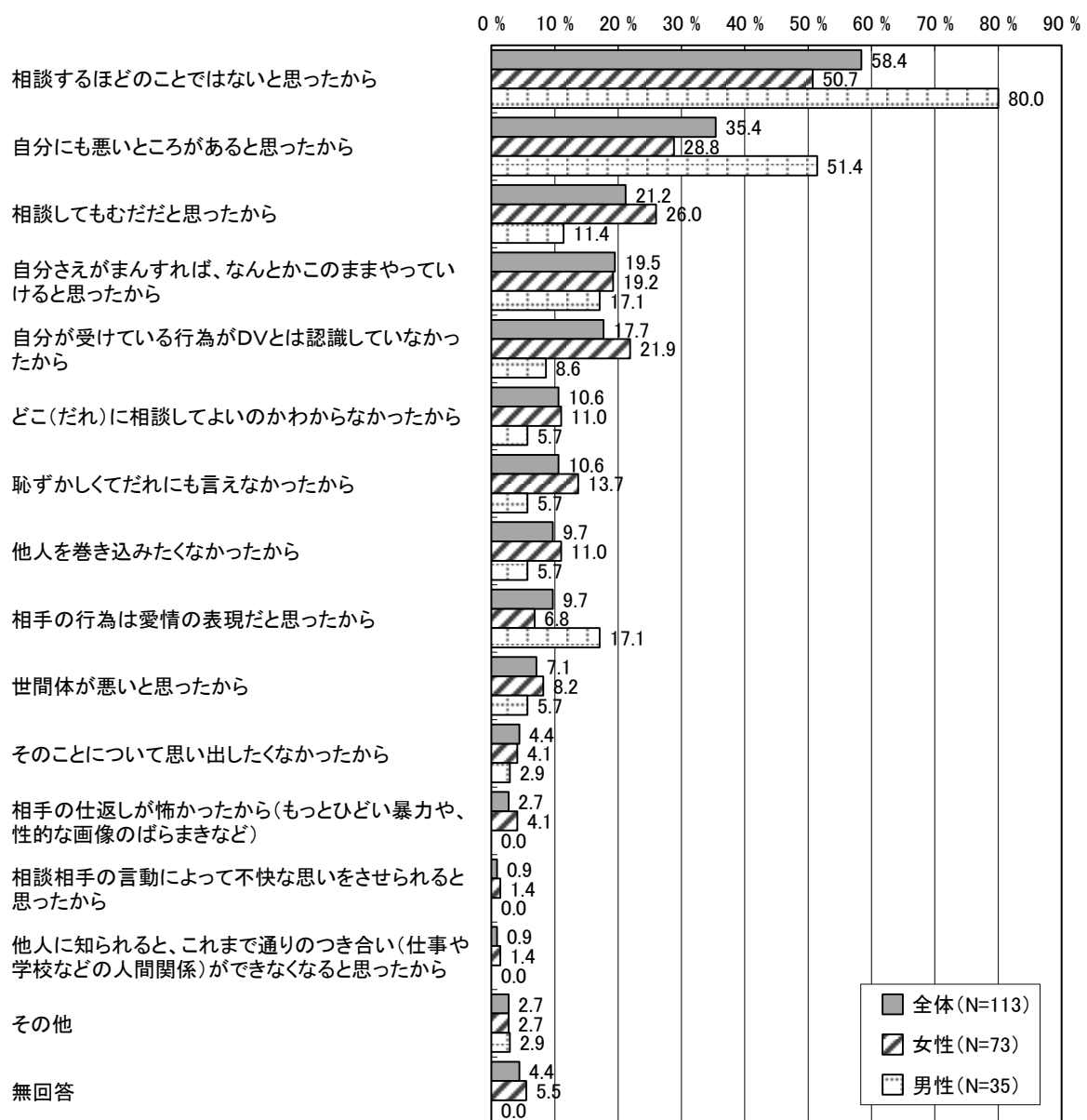
相談しなければよかった計：「相談しなければよかった」「どちらかといえば相談しなければよかった」をあわせた値

【配偶者や交際相手から暴力を受けた経験があり、どこ（だれ）にも相談しなかったと回答された方に質問】

問 27-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。  
（あてはまるものすべてに○）

①配偶者からの暴力

性別にみると、女性で「相談してもむだだと思ったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高い。男性で、「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が女性に比べて 20 ポイント以上高く、「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」の割合が女性に比べて 10 ポイント以上高い。



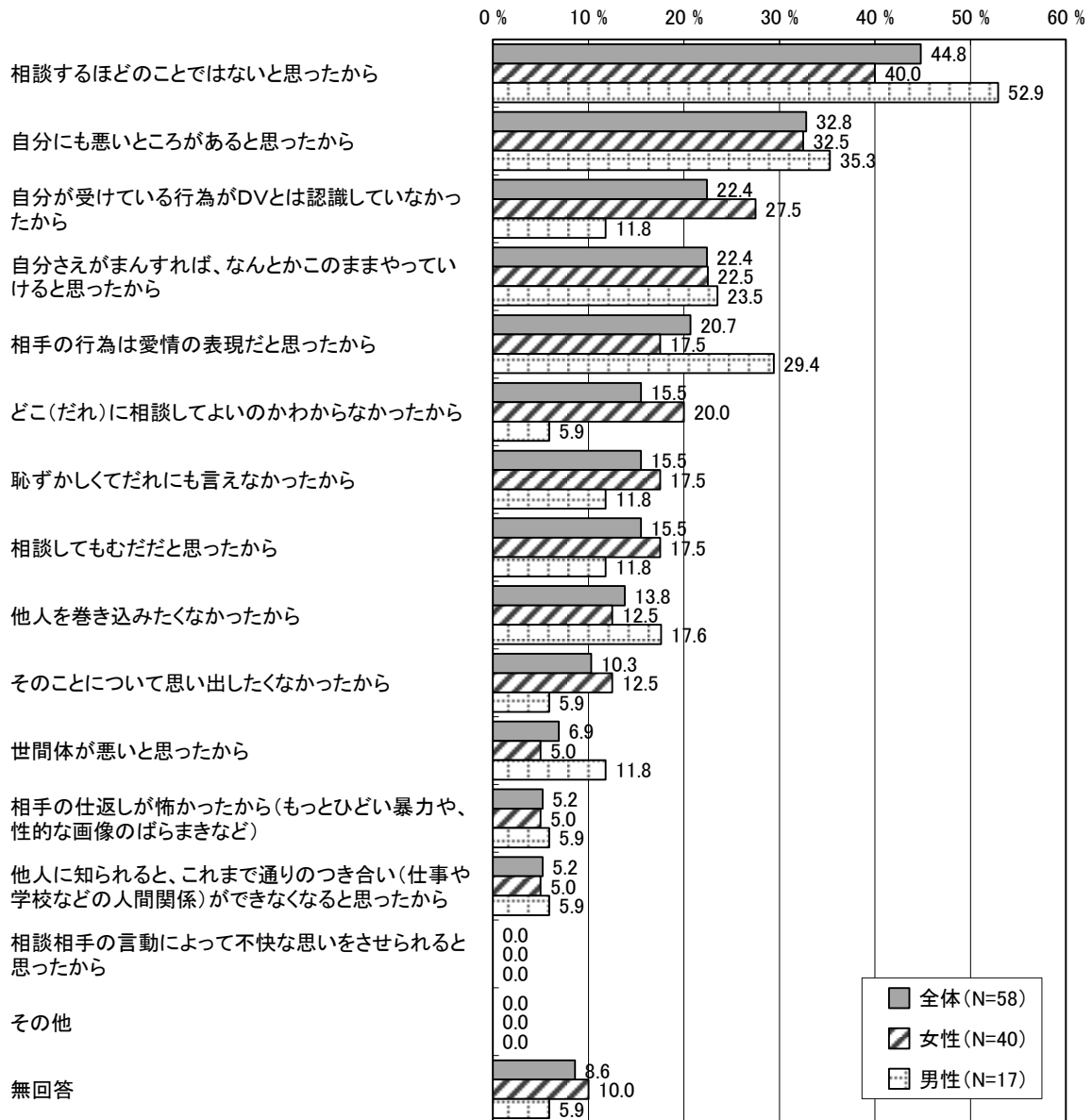
【前回調査（平成28年）】

【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成29年））】

(単位: %)	前回調査(平成28年)			全国調査(男女間における暴力に関する調査(平成29年))		
	全体 N=124	女性 N=76	男性 N=48	全体 N=318	女性 N=163	男性 N=155
相談するほどのことではないと思ったから	58.9	52.6	68.8	58.2	54.6	61.9
自分にも悪いところがあると思ったから	41.1	39.5	43.8	34.3	33.7	34.8
相談してもむだだと思ったから	23.4	21.1	27.1	22.3	25.2	19.4
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっ ていけると思ったから	21.0	25.0	14.6	22.3	31.3	12.9
自分が受けている行為がDVとは認識していな かったから	25.0	25.0	25.0	9.1	11.0	7.1
どこ(だれ)に相談してよいのわからなかった から	4.8	6.6	2.1	6.0	7.4	4.5
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	21.0	26.3	12.5	16.0	22.1	9.7
他人を巻き込みたくなかったから	10.5	10.5	10.4	5.7	5.5	5.8
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	4.0	2.6	6.3	5.7	4.9	6.5
世間体が悪いと思ったから	10.5	9.2	12.5	5.7	4.9	6.5
そのことについて思い出したくなかったから	6.5	7.9	4.2	5.3	4.9	5.8
相手の仕返しが怖かったから(もっとひどい暴 力や、性的な画像のばらまきなど)	1.6	2.6	0.0	0.9	1.2	0.6
相談相手の言動によって不快な思いをさせら れると思ったから	3.2	5.3	0.0	1.3	0.6	1.9
他人に知られると、これまで通りの付き合い (仕事や学校などの人間関係)ができなくな ると思ったから	1.6	2.6	0.0	1.9	3.1	0.6
その他	8.9	9.2	8.3	6.3	9.2	3.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.9	1.2	0.6

## ②交際相手からの暴力

性別にみると、女性で「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。男性で、「相談するほどのことではないと思ったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」の割合が女性に比べて10ポイント以上高い。



【前回調査（平成 28 年）】

【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

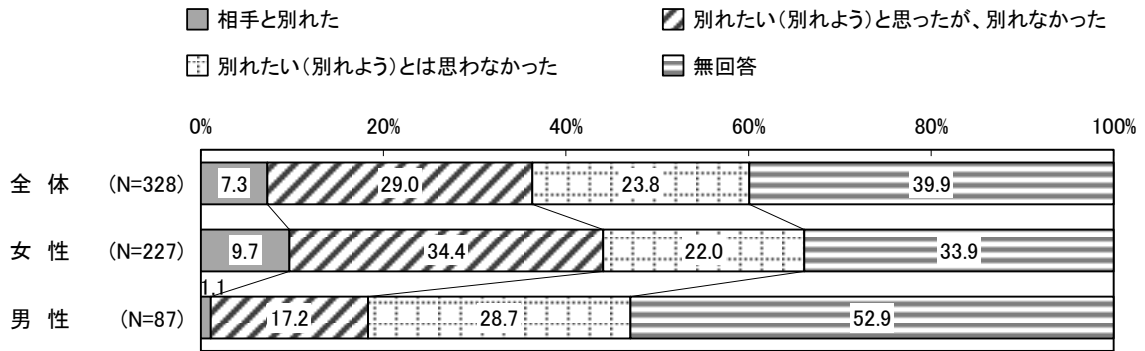
(単位:%)	前回調査(平成28年)			全国調査(男女間における暴力に関する調査(平成29年))		
	全体 N=23	女性 N=16	男性 N=7	全体 N=126	女性 N=74	男性 N=52
相談するほどのことではないと思ったから	43.5	37.5	57.1	32.5	28.4	38.5
自分にも悪いところがあると思ったから	21.7	18.8	28.6	21.4	17.6	26.9
自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	17.4	25.0	0.0	12.7	18.9	3.8
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	17.4	18.8	14.3	21.4	25.7	15.4
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	13.0	18.8	0.0	10.3	12.2	7.7
どこ(だれ)に相談してよいのわからなかったから	8.7	6.3	14.3	12.7	20.3	1.9
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	21.7	18.8	28.6	19.8	23.0	15.4
相談してもむだだと思ったから	13.0	12.5	14.3	21.4	23.0	19.2
他人を巻き込みたくなかったから	17.4	25.0	0.0	7.1	10.8	1.9
そのことについて思い出したくなかったから	13.0	18.8	0.0	7.9	10.8	3.8
世間体が悪いと思ったから	0.0	0.0	0.0	6.3	8.1	3.8
相手の仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	8.7	12.5	0.0	2.4	4.1	0.0
他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	8.7	12.5	0.0	7.1	8.1	5.8
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	8.7	6.3	14.3	3.2	5.4	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	8.7	8.1	9.6
無回答	4.3	6.3	0.0	2.4	1.4	3.8

【配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に質問】

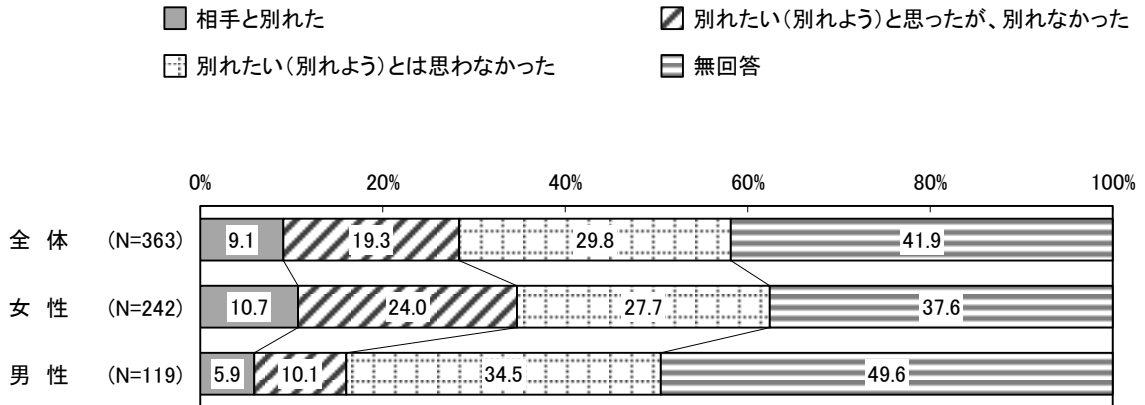
問 28 あなたは、あなたの配偶者や交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。①配偶者からと②交際相手から、それぞれでお答えください。  
(それぞれ〇は一つ)

①配偶者からの暴力

性別にみると、女性は「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」の割合が男性に比べて17.2ポイント高い。



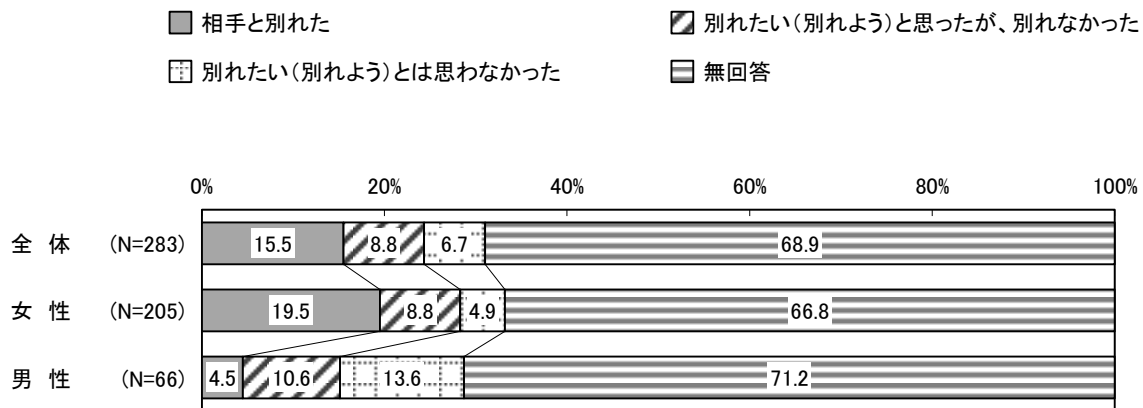
【前回調査 (平成 28 年)】



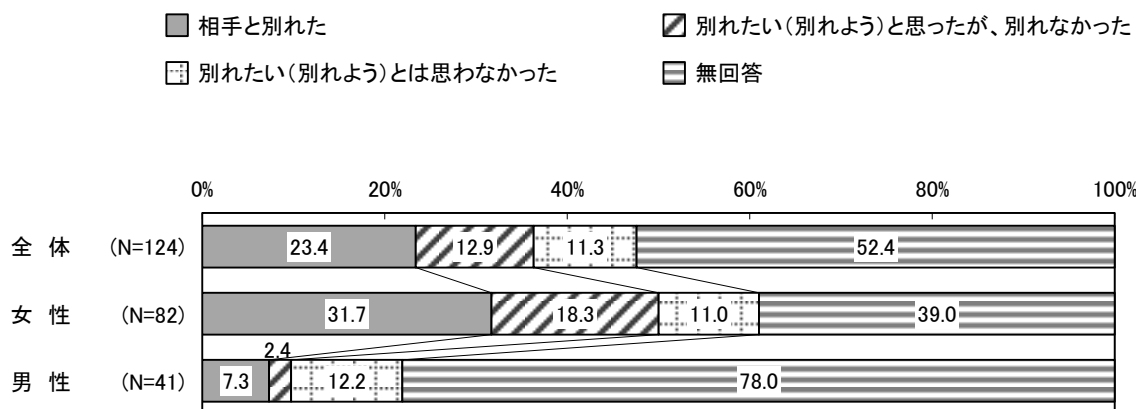


## ②交際相手からの暴力

性別にみると、女性は「相手と別れた」の割合が男性に比べて15.0ポイント高い。



## 【前回調査（平成28年）】

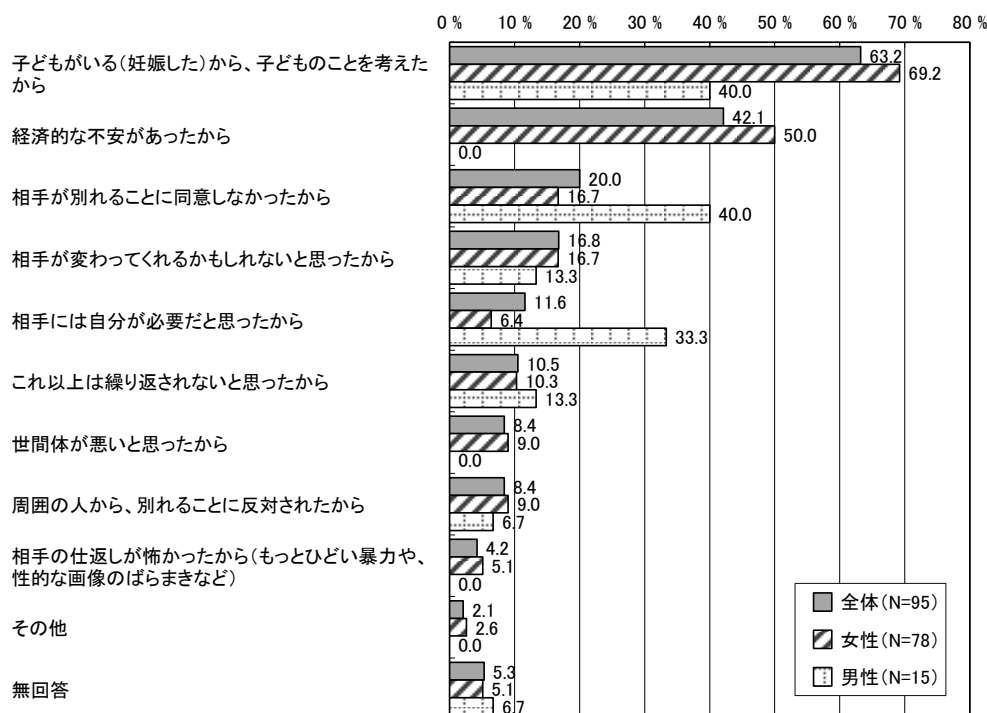


【問 28 で別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかったと回答された方に質問】

問 28-1 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

①配偶者からの暴力

性別にみると、サンプル数が少なく参考値ではあるものの、女性では「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」「経済的な不安があったから」の割合が高く、男性では「子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」「相手が別れることに同意しなかったから」の割合が高い。



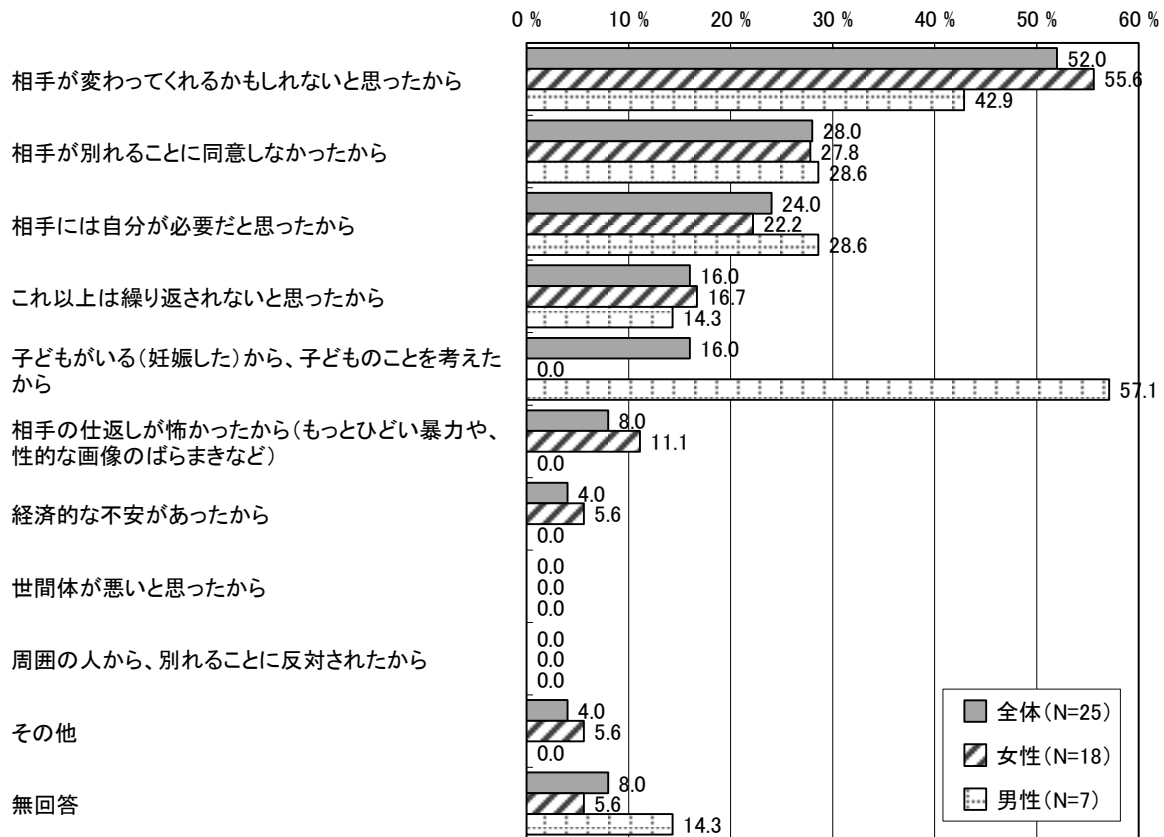
【前回調査（平成 28 年）】

【全国調査（男女間における暴力に関する調査（平成 29 年））】

(単位：%)	前回調査(平成28年)			全国調査(男女間における暴力に関する調査(平成29年))		
	全体 N=70	女性 N=58	男性 N=12	全体 N=238	女性 N=190	男性 N=48
子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから	72.9	74.1	66.7	65.5	66.8	60.4
経済的な不安があったから	47.1	56.9	0.0	42.4	48.9	16.7
相手が別れることに同意しなかったから	12.9	10.3	25.0	9.7	9.5	10.4
相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	21.4	19.0	33.3	20.2	19.5	22.9
相手には自分が必要だと思ったから	15.7	10.3	41.7	13.9	8.9	33.3
これ以上は繰り返されないと考えたから	7.1	6.9	8.3	8.4	7.9	10.4
世間体が悪いと思ったから	18.6	19.0	16.7	21.0	17.9	33.3
周囲の人から、別れることに反対されたから	7.1	6.9	8.3	5.9	7.4	0.0
相手の仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	1.4	1.7	0.0	5.0	5.8	2.1
その他	7.1	6.9	8.3	9.2	11.1	2.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.4	0.5	0.0

## ②交際相手からの暴力

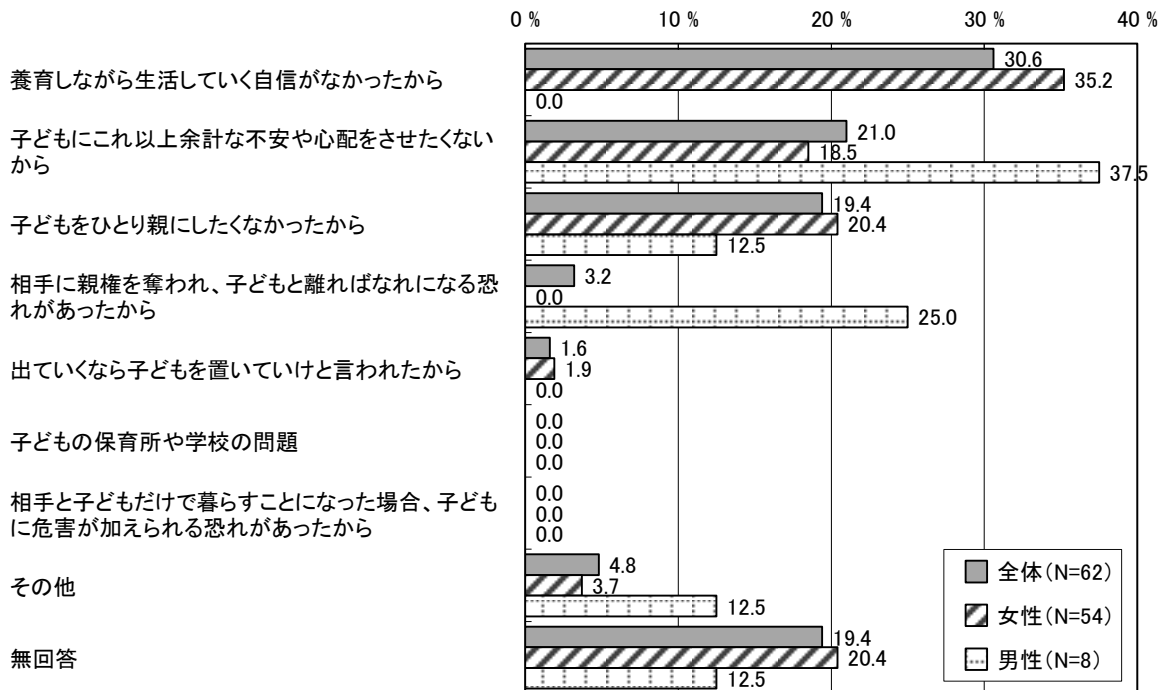
性別にみると、サンプル数が少なく参考値ではあるものの、女性では「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」の割合が最も高く、男性では「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」の割合が最も高い。



【問 28-1 で子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたからと回答された方に質問】

問 28-2 あなたが、子どものことで相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。  
（〇は一つ）

サンプル数が少なく参考値ではあるものの、女性では「養育しながら生活していく自信がなかったから」が最も高く 35.2 ポイントとなっているが、男性では 0 ポイントである。「相手に親権を奪われ、子どもと離ればなれになる恐れがあったから」では男性は 25 ポイントであるが、女性では 0 ポイントである。



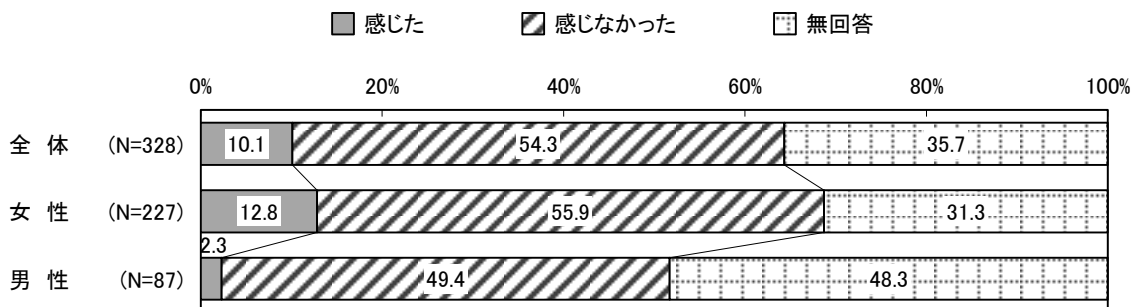
【前回調査（平成 28 年）】

(単位: %)	前回調査(平成28年)		
	全体 N=52	女性 N=44	男性 N=8
養育しながら生活していく自信がなかったから	23.1	27.3	0.0
子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから	34.6	36.4	25.0
子どもをひとり親にしたくなかったから	23.1	22.7	25.0
相手に親権を奪われ、子どもと離ればなれになる恐れがあったから	5.8	4.5	12.5
出ていくなら子どもを置いていけと言われたから	3.8	4.5	0.0
子どもの保育所や学校の問題	3.8	2.3	12.5
相手と子どもだけで暮らすことになった場合、子どもに危害が加えられる恐れがあったから	3.8	2.3	12.5
その他	0.0	0.0	0.0
無回答	1.9	0.0	12.5

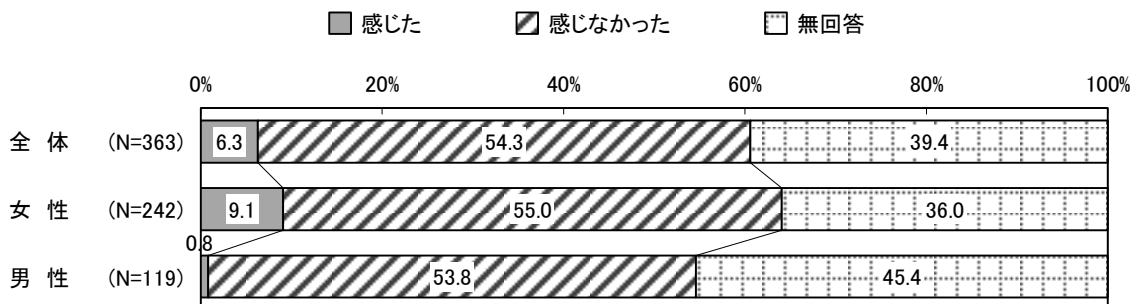
【配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に質問】

問 29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けた暴力等によって、命の危険を感じたことがありますか。①配偶者から②交際相手からそれぞれでお答えください。（それぞれ〇は一つ）

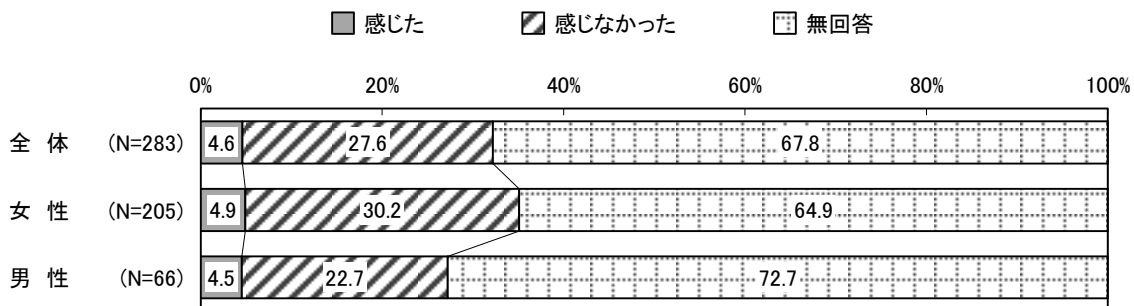
①配偶者からの暴力



【前回調査（平成 28 年）】



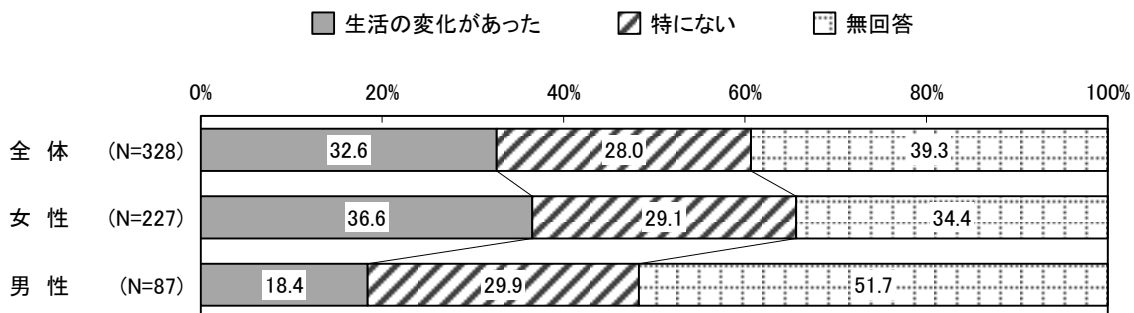
②交際相手からの暴力



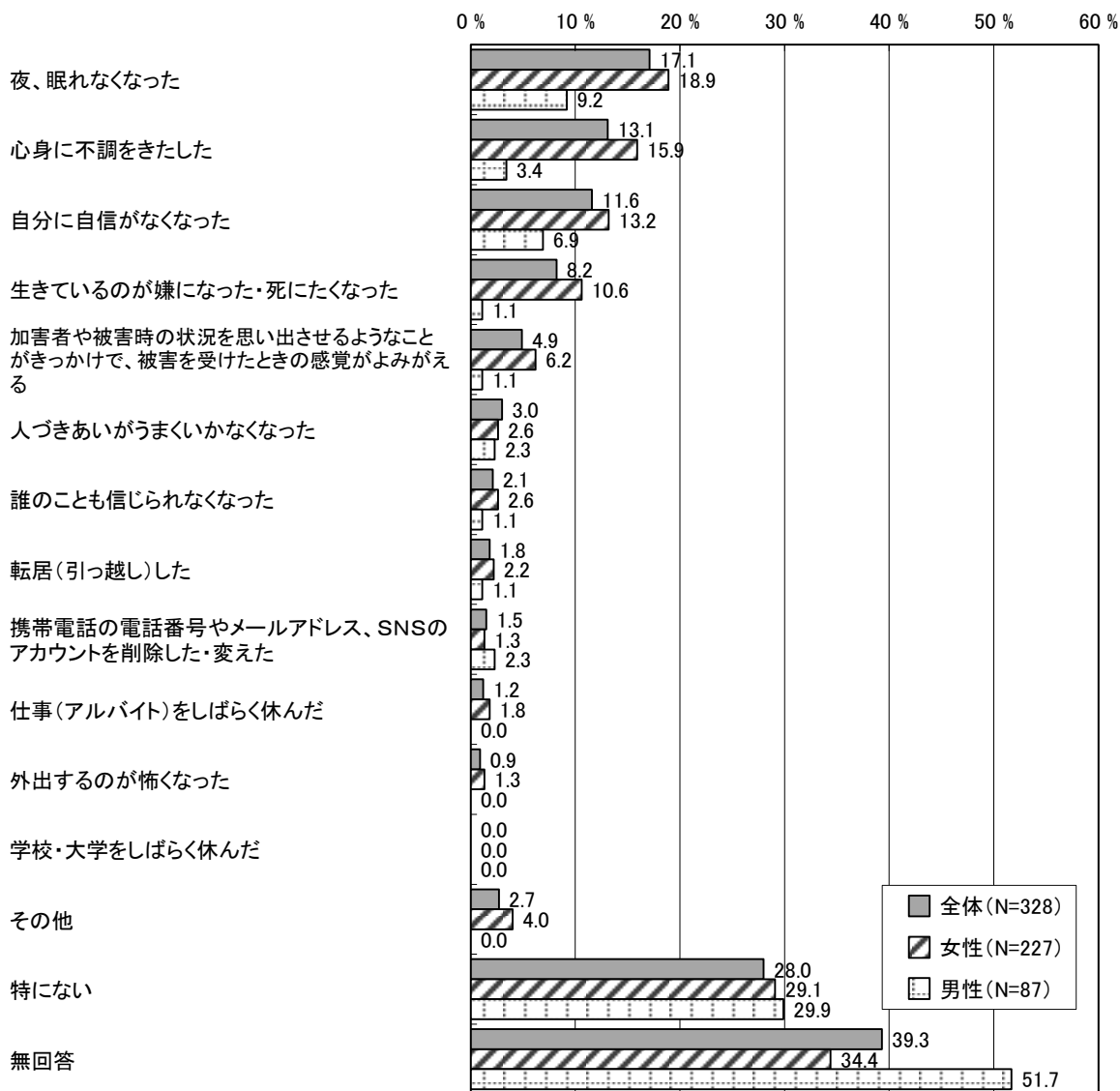
問 30 あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

①配偶者からの暴力

(1) 生活の変化の有無

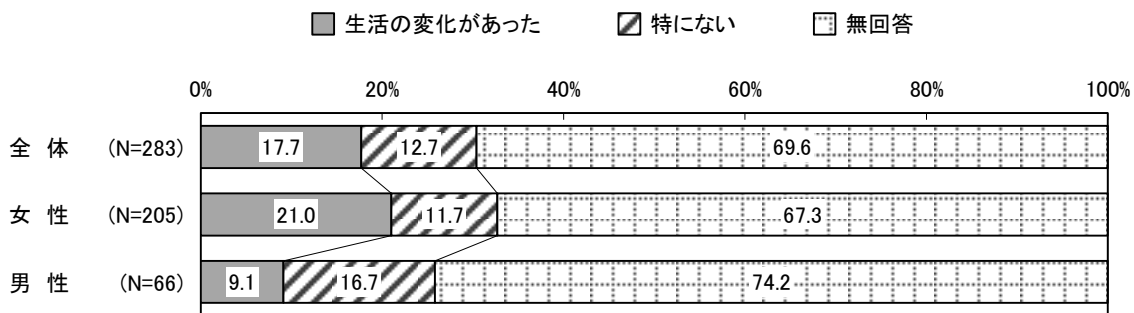


(2) 生活の変化の内容

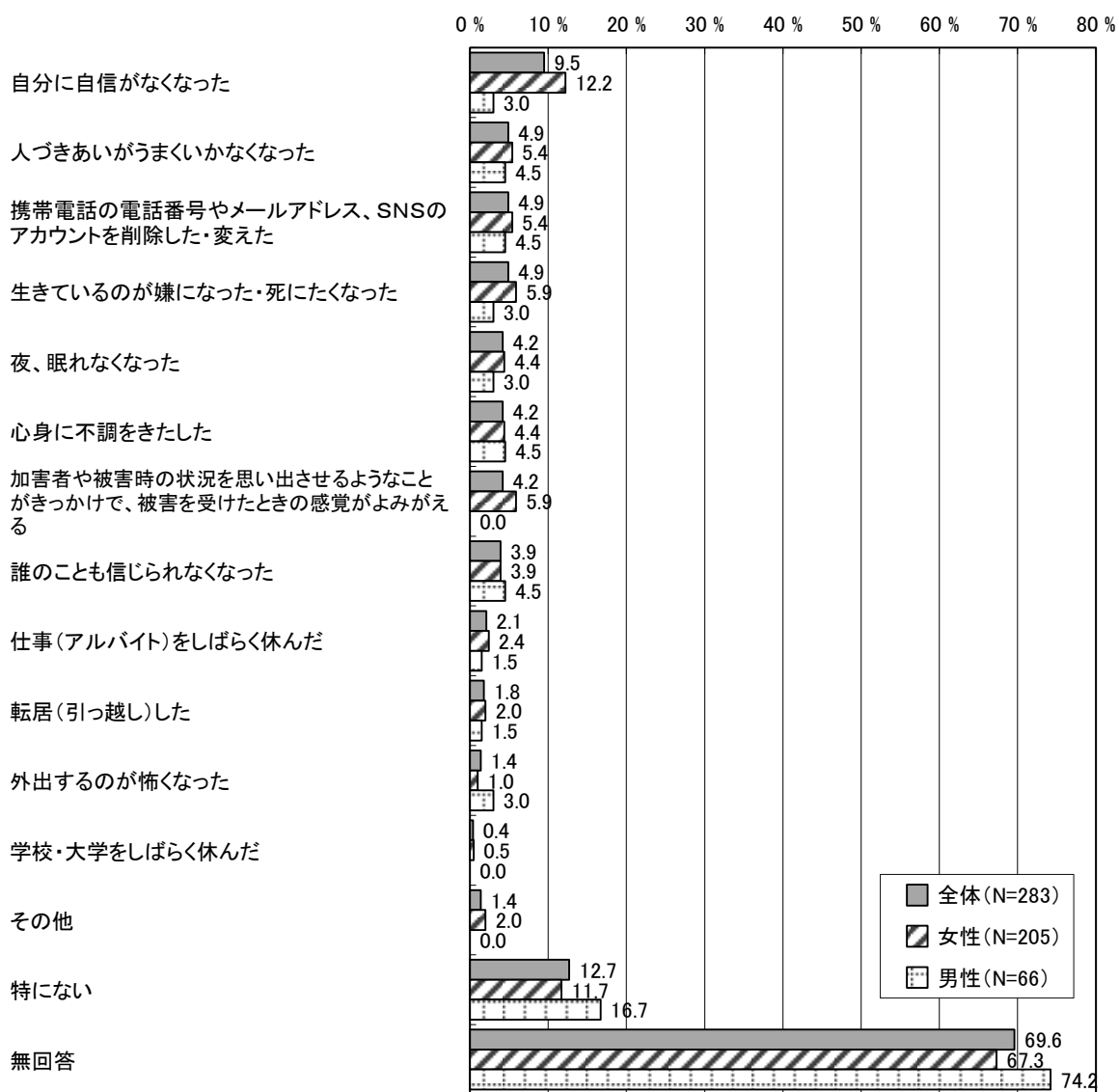


## ②交際相手からの暴力

### (1) 生活の変化の有無

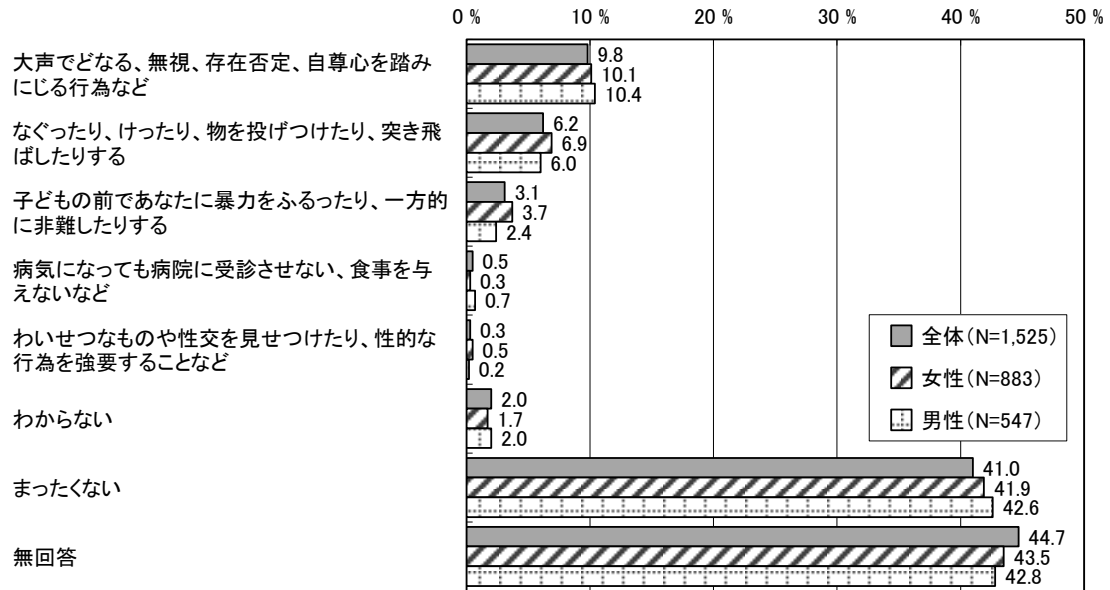


### (2) 生活の変化の内容



【結婚した経験（事実婚、別居中を含む）、交際相手があった経験がある方に質問】

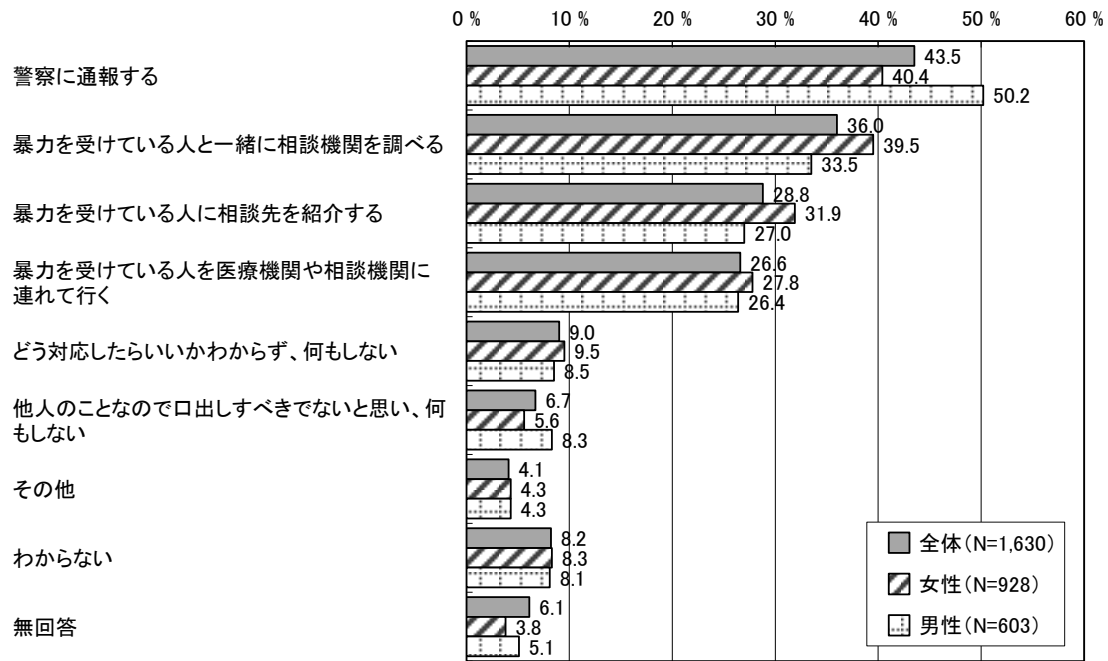
問 31 あなたの配偶者や交際相手は、お子さんに次のようなことをしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）





問 32 もしあなたの周囲に、配偶者や交際相手から下記の（参考）で挙げているような暴力を受けている（かもしれない）人がいた場合、あなたはどんなことができると思いますか。（〇はいくつでも）

性別にみると、女性で「暴力を受けている人と一緒に相談機関を調べる」の割合が男性に比べて5ポイント以上高くなっており、男性で「警察に通報する」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。

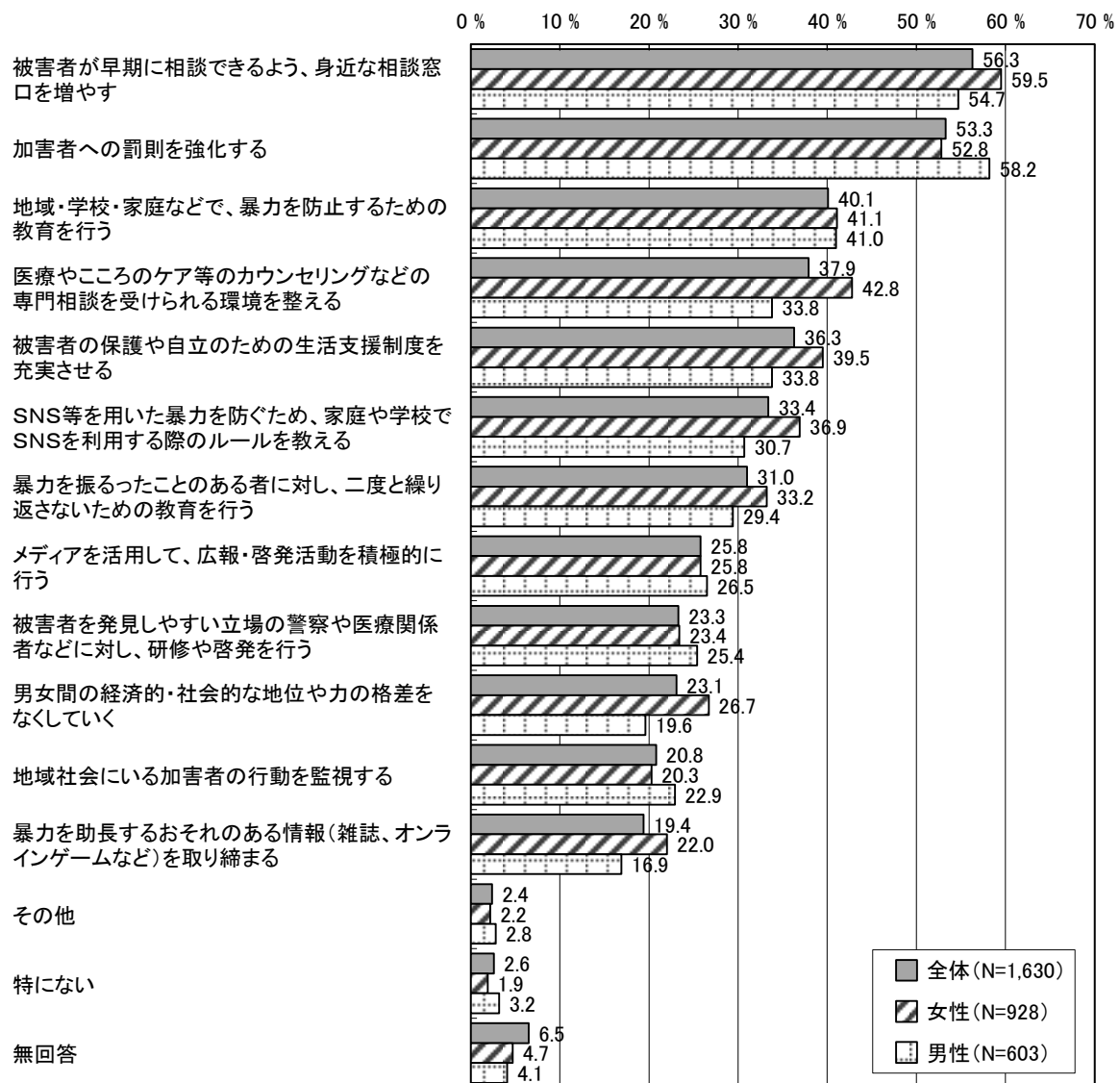


（参考）

- A 身体的な暴力（なぐる、ける、物を投げつけるなど）
- B 経済的な暴力（給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど）
- C 精神的な暴力（人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど）
- D 性的な暴力（嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど）
- E 社会的な暴力（携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど）
- F 子どもを巻き込んだ暴力（子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど）

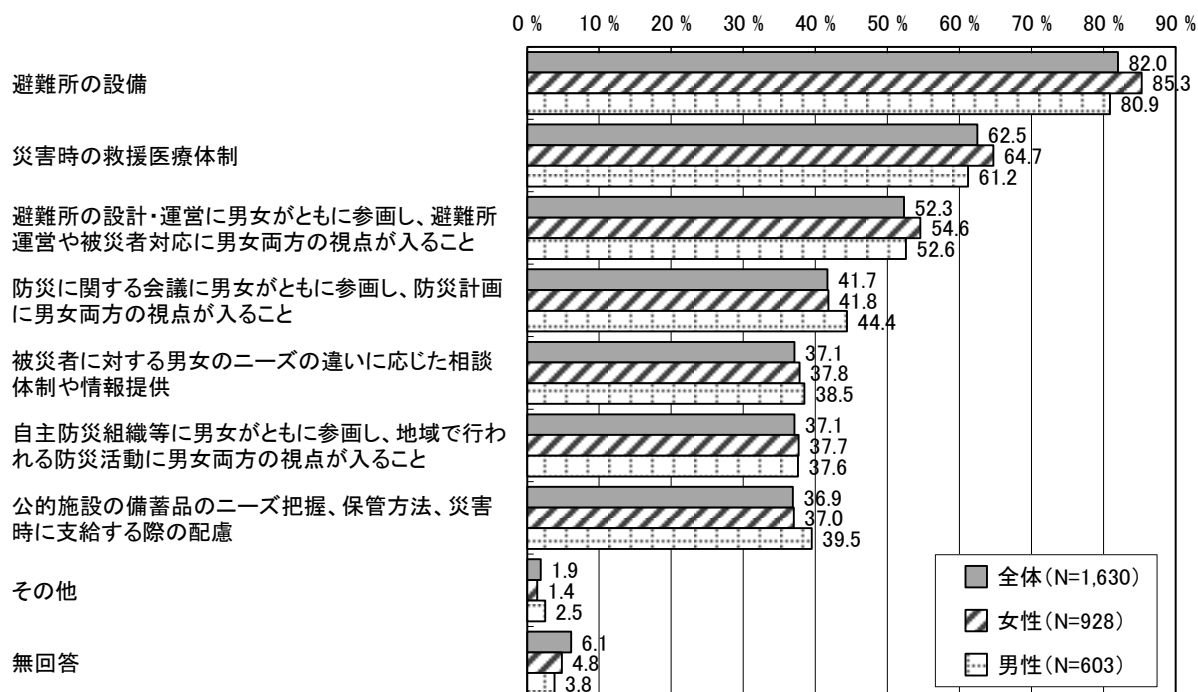
問 33 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇はいくつでも)

性別にみると、女性で「医療やこころのケア等のカウンセリングなどの専門相談を受けられる環境を整える」「被害者の保護や自立のための生活支援制度を充実させる」「SNS等を用いた暴力を防ぐため、家庭や学校でSNSを利用する際のルールを教える」「男女間の経済的・社会的な地位や力の格差をなくしていく」「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、オンラインゲームなど)を取り締まる」の割合が男性に比べて5ポイント以上高くなっており、男性で「加害者への罰則を強化する」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



## 9 防災対策について

問 34 防災対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。  
(〇はいくつでも)



【前回調査（平成 27 年）】

(単位: %)	前回調査(平成27年)		
	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
避難所の設備	88.2	91.0	87.6
災害時の救援医療体制	67.8	69.2	67.2
避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	45.7	48.4	44.1
防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	37.3	37.7	38.1
被災者に対する男女のニーズの違いに応じた相談体制や情報提供	36.9	38.9	34.8
自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること	35.5	36.6	35.1
公的施設の備蓄品のニーズ把握、保管方法、災害時に支給する際の配慮	40.0	41.3	39.4
その他	1.2	0.9	1.3
無回答	3.1	2.4	2.0

## 10 男女共同参画に関する施策について

問 35 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

性別にみると、女性で「子ども・子育て支援法」の割合が男性に比べて5ポイント以上高くなっており、男性で「男女共同参画社会基本法」の割合が女性に比べて10ポイント以上、「リベンジポルノ防止法」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。

前回調査と比較すると、「配偶者暴力防止法」の割合が20ポイント以上、「ジェンダー」の割合が15ポイント以上高くなっている。

(単位: %)	今回調査			前回調査(平成27年)			全国調査 (男女共同参画社会に関する 世論調査(令和元年))		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858	全体 N=2,645	女性 N=1,407	男性 N=1,238
配偶者暴力防止法	78.5	79.8	80.1	55.6	57.6	54.5	-	-	-
男女雇用機会均等法	72.8	74.0	76.6	75.5	75.3	79.0	79.3	77.5	81.3
ストーカー規制法	71.3	72.4	74.3	72.7	73.3	74.4	-	-	-
LGBT	54.0	57.0	53.9	-	-	-	-	-	-
ジェンダー	52.8	55.5	52.7	34.9	37.5	32.5	55.8	56.4	55.2
子ども・子育て支援法	50.2	54.0	47.4	64.9	69.2	61.1	-	-	-
育児介護休業法	43.7	46.1	42.8	49.2	51.0	48.1	-	-	-
リベンジポルノ防止法	40.2	38.8	46.3	37.9	36.8	41.7	-	-	-
ワーク・ライフ・バランス	32.1	32.0	35.2	24.6	25.7	24.5	43.1	42.1	44.3
男女共同参画社会基本法	30.7	27.5	38.5	29.5	27.9	32.5	64.3	61.5	67.4
女子差別撤廃条約	17.1	16.3	19.4	17.3	16.7	18.2	34.7	29.8	40.3
女性活躍推進法	16.3	15.2	17.7	12.3	12.8	12.2	38.6	35.3	42.4
候補者男女均等法	7.7	5.8	10.0	-	-	-	-	-	-
ポジティブ・アクション	7.0	7.7	6.5	7.7	7.9	7.7	18.3	16.9	19.8
SOGI	4.0	4.0	3.8	-	-	-	-	-	-
見たり聞いたりしたものはない	2.5	2.0	2.7	4.0	4.1	3.8	4.4	5.0	3.8
無回答	4.8	3.2	3.0	5.0	3.7	4.3	-	-	-

問 36 次の施策、取組のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

(単位:%)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
さかい男女共同参画プラン	15.4	16.3	14.9	16.1	17.0	15.5
堺自由の泉大学(旧 堺女性大学)	15.0	20.2	6.8	-	-	-
堺市配偶者暴力相談支援センター	12.8	13.7	11.1	11.7	13.2	10.7
堺市パートナーシップ宣誓制度	8.7	8.9	9.0	-	-	-
堺市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画(DV防止基本計画)	7.9	8.8	5.8	7.1	7.7	6.6
堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例	7.4	7.0	8.3	7.4	5.9	9.9
堺市男女共同参画交流の広場	7.2	7.8	6.8	5.8	5.9	6.1
堺市男女平等に関する苦情・相談処理制度	6.0	5.1	7.0	5.9	5.4	7.1
堺セーフティ・プログラム(セーフティさかい)	5.7	5.8	5.8	1.9	2.0	2.0
女と男がいきるのやSAKAI宣言	2.1	2.0	1.7	3.8	3.7	4.2
見たり聞いたりしたものはない	48.9	46.7	56.4	54.5	53.6	58.3
無回答	11.0	9.2	8.6	11.1	8.4	10.1

問 37 女性も男性もともにいきいきと暮らせる男女共同参画社会実現のために、国や大阪府、堺市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。  
(○はいくつでも)

性別にみると、女性で「育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する」「育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「ひとり親家庭や生活困難家庭の相談事業などの支援を充実する」「幼少期からの生涯を通じた健康づくりや性に関する教育・相談事業を推進する」の割合が男性に比べて 5 ポイント以上高い。

(単位:%)	今回調査			前回調査(平成27年)		
	全体 N=1,630	女性 N=928	男性 N=603	全体 N=2,254	女性 N=1,281	男性 N=858
育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する	59.4	65.2	55.2	57.9	62.5	54.1
育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する	50.1	55.5	45.1	45.3	50.2	41.3
男女が平等になっていない法律や制度の見直しを行う	45.3	47.7	45.3	37.4	39.3	37.5
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	41.9	46.1	39.3	35.6	38.3	34.0
ひとり親家庭や生活困難家庭の相談事業などの支援を充実する	40.4	43.6	37.6	35.2	38.2	31.9
企業などが女性の積極的な登用や男女の均等な取扱いを進めるよう働きかける	32.4	34.8	30.2	28.3	30.0	27.9
セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力等の防止や被害者への支援を充実する	30.2	31.8	30.3	22.8	25.0	21.1
学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する	29.0	30.2	29.5	23.5	24.2	24.2
審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	27.4	29.4	26.0	19.6	19.8	20.3
幼少期からの生涯を通じた健康づくりや性に関する教育・相談事業を推進する	26.0	28.7	23.7	18.8	20.2	17.8
政策・方針決定に関わる者や管理職の意識改革を進める	21.4	21.4	22.7	18.0	18.0	18.8
男女共同参画に関する広報、情報提供、啓発活動を充実する	20.6	20.8	21.7	19.3	18.6	21.6
その他	1.8	1.5	2.5	1.2	1.0	1.2
特にない	4.5	3.7	6.1	4.8	3.7	6.4
無回答	7.7	4.8	5.3	7.7	5.6	6.6

問 38 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

計 187 件の意見がありました。

(単位:件)	全体	女性	男性	無回答※
教育(改革)の重要性	29	13	12	4
意識啓発の必要性	23	10	12	1
男女というより人間として尊重すること、多様性を認めることが重要	17	9	7	1
性別役割分担意識の根強さ	13	11	2	0
女性登用について	13	9	4	0
企業における育児・介護支援の必要性	7	6	1	0
ワーク・ライフ・バランスの重要性	6	4	2	0
意思決定への女性の参画の必要性	5	4	1	0
ハラスメント対策について	4	1	3	0
育児サービスの必要性	3	2	1	0
堺市への意見	34	22	11	1
本調査への意見	11	7	3	1
その他	40	12	24	4
特になし	11	6	5	0

※無回答…回答者の性別(F1)において無回答であった回答者

## IV 調査結果からみられる現状と課題

調査結果に基づき、堺市民の男女共同参画、および男女間における暴力に関する現状を考察し、課題を確認していく。

### (1) 回答者の属性に見る現状

回答者の構成は女性が 56.9%、男性が 37.0%と女性に偏りがあり、また 30 歳代以下がやや少ないものの、年齢階層分布はおおよそ人口構成に近い【p. 3-4】。

本調査結果の特徴として①男女の学歴格差が大きい。②個人収入の男女間格差と雇用形態の違いはこれまでと変わらず大きい。③高齢女性の一人暮らしが多い、の 3 点が挙げられる。

学歴は高等教育において男女で大きな違いがあり、大学・大学院卒業者の割合は男性の 40.5%に対して女性は 19.3%である。短大等を加えても、男性は 53.1%、女性は 50.6%と、男性の方が多い【p. 5】。

収入格差については、世帯収入は男女間に大きな差はないが【p. 9】、個人の収入は女性の 45.7%が 103 万未満で、130 万までを入れると 54.5%と、5 割を超える【p. 10】。個人収入には大きな男女差があり、男性が世帯の稼ぎ手である傾向が顕著である。男性は「常時雇用の正社員または正職員」が 43.8%と最も多く、30 歳代～50 歳代では 70%前後であるのに対し、女性は「臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）」が 26.9%、「専業主婦・主夫」が 24.4%で、「常時雇用の正社員または正職員」は 22.0%にとどまる【問 10 (p. 8)】。

家族構成の特徴としては、60 歳代以上では女性の一人暮らしの割合が 20%以上と高く、男性の倍近くに及ぶことが挙げられる【p. 7】。

### (2) 男女共同参画社会に関する意識と現状・課題

男女共同参画社会に関する意識は 5 年前に比べて大きく変化しており、特に女性および若年層のジェンダー平等意識の進展は大きい。しかし属性や生活時間等に示されるように、生活実態は依然として性別役割分担に基づいており、意識と現状のギャップはとりわけ女性に顕著である。女性が就業継続などの希望を叶えられるよう、固定的性別役割分担の解消と、育児・介護についての企業への啓発を含む社会的サポートが必要である。男性の意識は若年層ほどジェンダー平等が浸透しているが、DV・デートDV・性暴力を防止するためにも教育の役割は重要であり、学校教育や市民啓発活動の推進がさらに求められる。

#### ■ 「男性が優遇されている」という女性の意識は高まり、男性との差が拡大している【問 1 (p. 12-20) , 問 3 (p. 31)】

とりわけ政治の場での男性優遇についての認識は高く、女性の 86.2%、男性も 70.0%が「男性が優遇されている」と回答し、前回に比べても、一層高くなっている【問 1-E (p. 17)】。女性が増えたほうがよいと思う職業や役職についても、医師に続いて、国会議員・地方議員などの政治家、大臣や官僚、地方自治体の首長など、政治関連職が上位を占め、また前回から大幅に増えている【問 3 (p. 31)】。今回初めて質問項目とした「社会全体として」では、女性の 83.1%が「男性が優遇されている」と回答したのに対し、男性は 62.9%にとどまっており、その差は 20 ポイント以



上に及ぶ【問 1-H (p. 20)】。前回調査時より男性が優遇されているという傾向が強くなった、というより、女性がジェンダー平等を望む意識が高まったことにより、一向に改善されない男性が優遇されている社会のあり方に対する問題意識が、この調査結果に強く現れ、男性との認識の差も一層顕著になっていると考えられる。家庭生活、就職活動の場や職場など人々の生活に身近な場については、女性は「男性が優遇されている」と思う人が多く、男性は「平等である」と思う人が多いという傾向がうかがえる。一方、政治の場、社会通念・しきたりについては男女とも男性優遇の認識においては一致し、一般論においては男性のジェンダー平等意識もまた進展を見ていると推測できる。

## ■ジェンダー平等意識は高まっているが、矛盾もある【問 2 (p. 21-30) , 問 4~8 (p. 32-48)】

### 性別役割分担意識のさらなる平等化【問 2-A (p. 22-23)】

夫婦の性別役割分担である「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」は長年ジェンダー意識の指標として使用されてきた。今回は女性の回答は「そう思わない」が 68.4%と前回の 54.8%を大幅に上回り、男性も前回の 45.4%から 54.7%と、今回初めて 50%を超えた。

世代別に見ると、女性 29 歳以下では 85.5%、30 歳代で 77.3%に達し、男性も 29 歳以下が 75.0%、30 歳代が 82.5%と、若い世代の意識の変化が顕著である。特に男性は、30 歳代以下と 40 歳代以上の間にかかなり大きな意識の差があることをうかがわせる。30 歳代以下では、男女とも 80%前後が「そう思わない」と回答し、特に正社員・正職員の女性の 81.9%が「そう思わない」と回答している。

### 夫婦別姓には 6 割近くが賛成している【問 2-G (p. 29)】

男性に比べて女性が、また若い世代ほど賛成が多く、女性の 29 歳以下は 86.7%、30 歳代は 85.1%、男性の 29 歳以下も 75.0%が賛成している。男性も含めてほとんど全ての年代で賛成が 50%を超えている。70 歳以上（女性 45.0%、男性 36.8%）が唯一の例外である。

### 育児・介護についての認識はジェンダー平等化、脱ジェンダー化に向かっている【問 2 (p. 21-30) , 問 4 (p. 32-39) , 問 13 (p. 64-65) , 問 17 (p. 72-75)】

「育児は父親よりも母親がすべきである」について、前回に比べて男女とも「そう思わない」が女性の 66.4%、男性の 53.4%と、大幅に増加した【問 2-C (p. 25)】。「介護は男性よりも女性がすべきである」についても、「そう思わない」が全体で 80%と大半を占め、特に 29 歳以下は男女とも 90%を超えている【問 2-D (p. 26)】。家庭生活における役割についての質問においても、夫と妻の役割が「両方同じ程度」が「老親や病身者の介護や看護」では 77.4%、「子どもの教育としつけ」では 77.7%と、大半を占めている【問 4-D, E (p. 36-37)】。「育児（乳幼児の世話）」は「妻の役割」が 55.0%を占めているが、30 歳代以下は男女とも「両方同じ程度」が 55%前後で最も多くなっている【問 4-F (p. 38)】。

後述する男性の育児・介護等休業の取得についての質問でも、介護、看護に比べて育児休業は「とらない方がよい」がやや多いが、若い世代に男女差はほとんど見られない【問 13 (p. 64-65)】。しかし、実態は依然として女性の負担に大きく依存した状況が続いている（次節参照）。

**■生活時間の分布は強固な性別役割分担を示し、現状は依然として女性の負担が大きい  
家事、育児、介護は女性の負担【問 17 (p. 72-75)】**

家事、育児、介護の女性の負担は重く、男性は仕事時間が長い。家事時間を「1時間未満」と答えた人は、男性が平日で70.3%、休日でも54.7%であるのに対して、女性は平日19.0%、休日14.9%にとどまる。女性は平日で76.9%、休日も76.2%が1時間以上家事を担っており、実態としては今も家事は女性が大部分を担っている。

育児時間は若い世代ほど長いが、末子年齢6歳未満の子がいる男性の平日「1時間以上2時間未満」27.3%、休日「5時間以上」42.4%に対して、女性は平日「5時間以上」が54.1%、休日は80.3%で、依然として女性に育児の負担が偏っている。前述したように、30歳代以下の育児観はジェンダー平等化しつつあるが、現実には男性の育児参加が困難な状況があることがわかる。

介護については、介護が必要な家族がいる回答者の中で、少しでも介護を担っている人（介護に費やしている時間が「30分未満」～「5時間以上」の計）は、女性では平日35.4%、休日38.3%に対して、男性では平日21.6%、休日26.0%と女性に比べて少ない。平日に「5時間以上」介護していると答えている人は女性の50歳代以上でやや多く、60歳代は女性が9.4%、男性も3.7%である。介護は家事、育児に比べて男女差が少ないが、中高年女性の負担が比較的大きい。

**男性の家事、子育て、介護等への参加に必要な対策【問 18 (p. 76)】**

男性が家事、育児、介護等への参加していくために必要なこととして、最も多いのは「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(52.8%)で、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(45.7%)、「男性による家事・育児などについて職場における上司や周囲の理解を進めること」(43.5%)がそれに続く。「小さい時から男の子に家事や育児に関わるしつけ・教育をすること」は、女性(45.7%)が男性(31.5%)に比べて10ポイント以上高い。女性の切実な問題意識を示す数値である。

多くの方が選択している「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」、「男性による家事・育児などについて職場における上司や周囲の理解を進めること」を推進するには職場での教育や研修とともに、制度や慣例の改革が不可欠である。男性自身の意識が変化しても、職場のあり方が男性の家事、育児、介護への参加を困難にしている場合も多いという実情を踏まえて、職場における決定権のある層への働きかけなど、より効果的な方法を検討する必要がある。

**子どもの教育については男女ともに性別役割を重視する傾向が強い【問 5~7 (p. 40-47)】**

子どもにどの程度までの教育を受けさせたいか(学歴の希望)は、女の子か男の子かで大きく異なる。女の子に対する学歴の希望が大学卒63.1%、大学院卒3.2%(合計66.3%)にとどまるのに対して、男の子への希望は大学卒76.3%、大学院卒5.8%(合計82.1%)と、合計15.8ポイントの差がある。なお性別による回答は全体としては同じ傾向で、男の子に比べて女の子への学歴の希望は低い。年代別にみると29歳以下のみ、子どもの性別による学歴の希望(「大学卒」と「大学院卒」の計)の差は、女性3.3ポイント、男性3.1ポイントと少ない【問 5 (p. 40)】。

子どもに身につけてほしいことについては、男の子は「自立できる経済力」、女の子は「家事・育児の能力」で「必ず身につけるべきだ」が多く、子どもの性別による差が大きい。「自立心」についても「必ず身につけるべきだ」とした人の割合が、男の子のほうが女の子より10ポイント以

上高い。回答者の性別年代別による違いについては、女の子の「自立できる経済力」が男性の 39.5% に比べて女性は 50.3% と、10 ポイント以上高く、特に 40 歳代女性の 62.7% が「必ず身につけるべきだ」と回答している。「家事・育児の能力」については、40 歳代以下では男女ともに、男の子も「必ず身につけるべきだ」が 40% 前後と、多くなっている【問 6 (p. 41-46)】。

学校教育への期待についての質問として、今回新たに選択肢に加えた「DV やデート DV や性暴力の防止に向けた教育を行う」は女性 52.9%、男性 45.8%、「性の多様性について正しく理解するための教育を充実する」は、女性 47.0%、男性 41.3% が選択し、女性が男性に比べて 5 ポイント以上多く選択している【問 7 (p. 47)】。

### 子どもの育てかたについての矛盾【問 2-B (p. 24) , 問 2-F (p. 28)】

「子どもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい」は支持率が高く、「そう思う計」は男性の 82.5%、女性の 90.0% に達している【問 2-F (p. 28)】。しかし、それとは矛盾する「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」の「そう思う計」は、女性の 43.3%、男性の 62.2% となっている【問 2-B (p. 24)】。女性より男性、若年層より中高年層の支持が高い。「性別にとらわれず」という一般的な方針は中高年男性も含めて支持されるようになってきたが、「男らしく、女らしく」という具体的な考え方はなかなか変化しないと考えられる。大きな目標、抽象的な理念には合意する人が増えているが、具体的な場面ではジェンダー意識が根強い傾向が推測される。

### 男性とは異なり、女性は夫に介護を期待しない【問 8 (p. 48)】

誰に介護されたいかは男女の回答が大きく異なる質問である。男性は「配偶者・パートナー」(48.8%) が最も多いのに対し、女性は「ヘルパー等の専門家」(37.0%) が最も多く、「施設での介護」がそれに続く (33.0%)。男性は 29 歳以下を除いて「配偶者・パートナー」が 40% を超えている。高齢化するにつれてその割合は上がり、70 歳以上では 65.1% に達する。一方、女性は「ヘルパー等の専門家」と「施設での介護」がほとんどの年代で 30% 代後半から 40% 代に及んでいる。夫の妻への強い依存と妻の社会のサポートによる自立志向が対照的である。

### ■仕事の平等には多くの課題がある

#### 女性の働き方は希望どおりにはいかない【問 9 (p. 49-51)】

女性の方が、また、若い世代ほど「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」(就業継続) という希望が多い。女性は 50 歳代以下では就業継続の希望が 30% 以上と最も多い。男性も 30 歳代以下は女性の就業継続の希望が最も多い。一方、女性で実際に就業継続できている者の割合は全ての年代で希望を下回り、最も多い 30 歳代女性で 29.7% にとどまる。前回調査に比べて、女性の就業継続の希望が男女とも高くなっており、前回からほとんど変化していない現実とのギャップが広がっている。

現在専業主婦である人の中には就業継続の希望者が 20.4% いるが、現実には結婚後に家事に専念した者が 26.5% と最も多く、就業継続できたのは 5.3% にとどまっている。就業継続を希望しながら実現しなかった人が相当数存在することがわかる。

### 仕事についての認識は男女のギャップが大きい【問 11 (p. 53-62)】

前回調査に比べると、仕事についての認識は全般的に「平等である」が増えている。特に「研修の機会や内容」では今回 50.7%が「平等である」と回答している。とはいえ、男女の認識は大きく食い違い、「研修の機会や内容」についても「平等である」と回答したのは、女性 45.5%、男性 61.4%と、およそ 16 ポイントの差がある。すべての項目において、女性の「男性が優遇されている」という認識は男性に比べると 5 ポイント以上高い。

「女性が優遇されている計」の割合が最も高い項目は、「育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ」(57.8%)である。「育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ」における女性優遇とは、男性の「育児・介護などの休暇や休業の取得のしにくさ」と裏表の関係にあるもので、それ以外の項目で「男性が優遇されている」の割合が高いことの原因でもある。これが強固な性別役割分担を示していることに留意する必要があるが、「平等である」が前回より 6 ポイント増えて 22.1%となっていることから、性別役割分担意識が変化しつつあることがうかがえる。

### 男女が対等に働くためには職場環境の整備が必要【問 12 (p. 63)】

男女が対等に働くために必要なことについては、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備」が最も多く(65.9%)、女性では 70.9%に達している。続いて「男女ともに育児・介護のための休暇や休業を取りやすいようにする」(62.3%)、「男女ともに、能力を發揮できる配置を行う」(61.4%)が続く。一方、「女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める」(32.2%)は、前回調査と比較して男女とも 10 ポイント程度減少しており、女性の自覚・意欲といった女性個人の意識に帰する自己責任論的傾向は大幅に減少している。つまり、男女が対等に働くために必要なこととして、女性の意識改革よりも、職場環境整備が重視されてきていると言える。

### 男性の育児休業には、介護・看護に比べ否定的な回答がやや多い【問 13 (p. 64-67)】

男性の育児休業については、前回に比べて「とった方がよい」が 5 ポイント以上高くなっているが、介護、看護に比べて育児休業だけが、「とらない方がよい」との回答が 11.9%とやや多い。年代別に見ると、「とった方がよい」と回答したのは男女ともに 30 歳代以下で 9 割前後に達しているが、男性の 40 歳代と 50 歳代がやや低く、70 代となっている。理由は「男性より女性がとるべきである」(38.7%)が最も多い。しかし、男性の回答でそれに続くのは「職場の理解が得られない」(31.9%)、「仕事の評価や配慮に影響する」(30.8%)となっており、職場や仕事上の困難が大きいと判断されていることがわかる。

### (3) 地域と安全に関する意識と課題

伝統的な地域活動への参加意欲は、参加経験の有無にかかわらず低下が著しく、その傾向は特に若い世代で顕著であるが、その一方で防災活動は高い関心を集めている。防災活動を契機として地域活動のあり方を再検討し、若い世代の参加を進めていく必要がある。また女性にとっての安全安心な地域はまだまだ実現しているとは言えず、実現のための方策を検討する必要がある。

地域活動については、前回に比べると全ての項目で「参加したい」が低くなっている中で、防災活動については女性の 50.5%、男性の 44.4%が「参加したい」と答えている。また、「趣味、スポーツ、学習などのサークル活動」も女性の 48.6%、男性の 41.8%が「参加したい」と答えている【問 14 (p. 68-69)】。

防災対策への男女双方の視点の導入は、「避難所の設計・運営」、「防災に関する会議・防災計画」、「相談体制や情報提供」、「自主防災組織等への参画と地域で行われる防災活動」において前回調査時より回答者の割合が増加し、関心が高まっている【問 34 (p. 120)】。地域における男女共同参画の視点を生かした防災活動は、女性や若者をはじめとする多様な住民の幅広い経験と意見を活かした地域活動の新たなあり方を模索していくきっかけにできるのではないだろうか。

#### **地域の安全・安心については、女性の不安が大きい【問 15～16 (p. 70-71)】**

地域の安全・安心についての質問では、全ての項目で女性より男性の方が「そう思う」(安心)との回答が多い。特に「夜道でも安心して歩くことができる」で「そう思わない」と回答したのは、男性の 12.1%に対して、女性の 22.5%である。また「暗い夜道等はなるべく避けるようにしている」という女性は 71.4%に及び、男性の 47.8%を大きく引き離している。

「女性や子どもにとっての安全安心」はすべての人にとって安全安心であるため、「セーフティさかい」の取組を推進していくことが必要である。

#### **(4) ジェンダーに関連する暴力について：現状、意識、課題**

暴力について、また法律についての知識・認識は以前より浸透している。しかし、被害者の大半は女性であり、男女の認識の格差は依然として大きい。「相手の間違いを正すためには暴力が必要」という誤った認識が特に中高年男性に多く、有効な啓発、教育の検討をすべきである。相談窓口などの行政の施策の周知度が伸び悩んでいる。自身の被害についても、他者の被害への対応としても、公的相談機関への期待が希薄であり、抜本的な周知・啓発が必要である。

あらゆる暴力被害経験者は女性に多く、被害経験によるダメージも女性の方が深刻である。男性被害者は少数であるが、相談しない傾向が強い。今回調査では、DV 女性被害者が加害者である夫と別れたくても別れられない理由に深刻な経済状況がうかがえる。対策として生活支援が切実に求められている。

暴力を防止するための教育が多く市民に望まれている。暴力を防止する教育は加害の抑止を可能にし、被害者も加害者も減らしていく抜本的な問題解決の可能性を開くものである。

また、ジェンダーに関連する暴力は性の多様性の観点に注意を払う必要がある。DV は同性カップルの間でも起こりうるし、トランスジェンダーの人々の被害は非常に多いと言われている。今回の調査は性別欄を自由記述とするなどの配慮を行ったが、被害者・加害者の性別や性的指向、関係性は多様であることを想定し、公的相談機関において多様な性の被害者が安心して相談できる体制を整え、それを周知していくことが必要である。

#### **■暴力の経験**

##### **セクシュアル・ハラスメント等、様々な暴力【問 19 (p. 77-80)】**

いずれかの被害経験者は 218 人 (13.4%) で、女性 171 人 (18.4%)、男性 39 人 (6.5%) である【問 19-1 (p. 79)】。被害経験者は女性が多く、場所はそのほとんどが職場である。職場における対策や研修が重要である。

## 性暴力【問 20 (p. 81-83)】

被害経験者は女性 13.1%、男性 2.7%である。【問 20 (p. 81)】。これは今回調査で初めて質問項目としたが、女性の 13.1%という被害経験は深刻に受け止める必要がある。被害経験者は女性の 40 歳代以下に多い。

## 配偶者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）・交際相手からの暴力（デート DV）

### 【問 25～31 (p. 92-117)】

配偶者からの暴力被害経験者は 28.1%で、女性 33.2%、男性 20.6%である。被害経験者の 69.2%が女性である。被害内容は「精神的な暴力」が女性の 24.1%、「身体的な暴力」が 20.1%、「性的な暴力」が 12.2%である。全ての項目で暴力被害経験者は男性に比べて女性が多く、特に「性的な暴力」が 10 ポイント以上高い。前回調査に比べ「子どもを巻き込んだ暴力」（女性 9.2%、男性 5.2%）が男女とも増えている【問 25① (p. 92-93)】。

また暴力被害経験者におけるこの 1 年間の被害については、「精神的な暴力」が 44.0%と最も多いが、次に多いのが「子どもを巻き込んだ暴力」32.2%である【問 25② (p. 94-95)】。配偶者による子どもへの暴力も「大声でどなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為」が 9.8%、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする」が 6.2%である【問 31 (p. 117)】。配偶者による暴力（DV）と子どもの虐待を統合した対策が必要である。

デート DV は、女性の 25.1%、男性の 13.3%が被害の経験がある。また交際相手からの暴力被害経験者のうち、同居経験者の 80%以上が、被害経験があると回答している。ただし、デート DV の被害経験の有無に関する質問についての無回答者が 30%以上あり、同居経験者のサンプル数も少ない。無回答者が多いこと背景にはデート DV についての知識がまだ十分とは言えず関心が必ずしも高くないという状況があると思われる【問 26 (p. 96-99)】。

暴力被害経験者の中で、「命の危険を感じた」ことのある人は女性の 12.8%、男性の 2.3%、デート DV については女性の 4.9%、男性の 4.5%である【問 29 (p. 114)】。

## 経済的困難により別れようとしても別れられない DV 被害女性が増えている【問 28 (p. 109-113)】

DV 被害経験者の中で「別れようと思ったが別れなかった」が女性で 34.4%と、前回に比べて 10.4 ポイント高くなっている【問 28① (p. 109)】。別れない理由は、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が 69.2%、「経済的な不安があったから」が 50.0%となっている【問 28-1① (p. 111)】。しかし、子どものことで別れなかった最も大きな理由としては、具体的には「養育しながら生活していく自信がなかったから」が最も多く 35.2%を占めており、女性の「別れようと思ったが別れなかった」理由の多くが経済的不安であることがわかる【問 28-2 (p. 113)】。前回調査と比較すると、「養育しながら生活していく自信がなかったから」は 7.9 ポイント上がっており、女性の経済的困難への不安が深刻化していることがわかる。

## 暴力被害経験による生活上の変化は女性の方が深刻である【問 30 (p. 115-116)】

DV 被害経験者については、男性 18.4%に比べ、女性はその 2 倍の 36.6%が生活上の変化があったと回答している。女性の生活上の変化の内容は、「夜、眠れなくなった」18.9%、「心身に不調をきたした」15.9%、「自分に自信がなくなった」13.2%、「生きているのが嫌になった・死にたくなった」10.6%等で、ほとんどが男性より 10 ポイント前後高い【問 30① (p. 115)】。

デートDVの被害経験者で、生活上の変化があったのは女性の21.0%、男性の9.1%で、男女差は11.9ポイントである【問30② (p.116)】。

### ■暴力の認識【問23 (p.88-90)】

暴力の認識は、比較的暴力と認識されにくい項目においても「暴力にあたると思う」が男女とも50%以上であるが、ほとんどの項目において女性が男性を上回っている。その中で、一つでも「暴力にあたらぬ」あるいは「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答えた人は936人で、女性の55.7%、男性の63.5%である【問23-1 (p.90)】。

「暴力にあたらぬ」あるいは「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」理由として最も多いのは「夫婦・交際相手間の喧嘩の範囲だと思うから」で、女性49.1%、男性46.0%であるが、それに続くのが、「相手の間違いをたすために必要な場合があると思うから」で、女性の30.6%、男性の45.2%が選択している。この加害者の暴力の正当化と容認は「しつけ」「矯正」のような支配被支配関係によるものであり、男女の対等な関係や女性の人権についての教育・啓発の必要性重要性を切実に示していると言える。

### ■暴力に関する相談

#### セクハラ等様々な暴力【問19-1, 問19-2 (p.79-80)】

前回に比べて、「どこにも相談しなかった」が、女性は前回の37.3%から41.5%に、男性は前回の48.4%から76.9%に増えている。(ただし、男性のサンプル数は非常に少ない。)理由は男女とも「相談するほどのことではないと思った」が一番多く50%を超えているが、女性の「相談しても無駄だった」が前回の38.2%から45.1%と増えている【問19-2 (p.80)】。

相談先は「友人や知人」(女性37.4%、男性12.8%)、「家族や親戚」(女性19.9%、男性7.7%)でほとんどを占めており、女性の被害の多くが職場で発生しているため、女性については「職場の相談窓口」や「その他」の自由記述において「上司・同僚」という回答が多少あるが、公的な相談機関はほとんど利用されていない【問19-1 (p.79)】。

#### 性暴力【問20-1, 20-2 (p.82-83)】

望まないのに性的な行為をされたことがあると答えた方のうち、女性の60.7%、男性の81.3%が「相談しなかった」と回答している【問20-1 (p.82)】。理由は「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が最も多く、女性の41.9%、男性の46.2%が選択している。また、女性の28.4%が「相談してもむだだと思った」を、男性の38.5%が「相談するほどのことではないと思った」を選択しており、「どこ/だれに相談してよいのかわからなかった」と回答しているのは、女性の25.7%、男性の15.4%である【問20-2 (p.83)】。

相談先は「家族や親戚」(女性22.1%、男性6.3%)、「友人や知人」(女性17.2%、男性6.3%)が多く、女性は8.2%が「警察」を選択している。また「WEBの相談サイトや掲示板」「SNSでの呟き」という記述が「その他」に登場している。性暴力被害経験者は若年層に多いことも考慮すると、相談先としてSNSの活用は有効であると思われる【問20-1 (p.82)】。

## DV/デートDV【問27 (p.100-108)】

DVについては他の暴力に比較して相談した人が多いが、それでも相談しなかった人が34.5%と、相談した人の28.7%を上回っている。女性は相談した人が36.1%と相談しなかった人の32.2%を上回っている。この状況はほぼ前回と同じ水準にとどまっている。

相談先は他の暴力経験者と同様に、「家族や親戚」(女性23.3%、男性5.7%)、「友人や知人」(女性17.6%、男性5.7%)が大半を占め、次は「警察」だが、女性2.2%、男性2.3%と極めて少ない【問27① (p.100-101)】。

デートDVについては、相談したのは女性の16.1%、男性の1.5%である。29歳以下女性の50.0%、30歳代女性の28.6%が相談したと回答している。相談先は「友人や知人」(女性12.7%、男性1.5%)、「家族や親戚」(女性3.9%、男性1.5%)にとどまる【問27② (p.102-103)】。

相談後の気持ちについては「相談して良かった」が女性の61.2%、男性の62.5%を占めている【問27-1 (p.104)】。ただし、相談しなかった理由として、女性の回答に「自分が受けている行為がDVとは認識していなかった」(21.9%)が、男性(8.6%)に比べて10ポイント以上多くなっており、全国調査(女性11.0%)と比較しても多くなっている【問27-2① (p.105-106)】。

## ■DV/デートDVについての知識・認識【問21 (p.84-85)】

DV防止法については、76.8%が「知っている」と回答し、男女の差はほとんどない。しかし「あることは知っていたが、内容はよく知らない」が53.5%を占めており、さらなる周知活動が必要である。女性は前回に比べて「内容も知っている」が6.4ポイント高くなっている【問21① (p.84)】。

「デートDV」については、「知っている」という回答は女性が56.1%で、男性の48.3%に比べて多い。また若い世代の方が知っている人が多く、29歳以下では「知っている」が女性も男性も70%を超えている。「デートDV」については前回調査に比べて「知っている」が男女とも10ポイント以上高くなっている【問21② (p.85)】。

## ■暴力関連相談窓口の周知度【問22 (p.86-87)】

DVについての相談窓口は女性の36.5%、男性の27.4%が「知っている」と回答しているが、女性の45.4%、男性の53.6%が「知らない」と回答しており、知らない人の方が多い。前回に比べて「知っている」は女性で6.3ポイント、男性で8.5ポイント減少している。【問22 (p.86)】

知っている相談窓口で一番多いのは男女とも「警察」(女性70.8%、男性87.3%)で、女性は「堺市各区役所(女性相談)」(46.0%)が、男性は「堺市配偶者暴力相談支援センター」(38.8%)が2番目に多い。前回に比べると「堺市配偶者暴力相談センター」以外は下がっている。回答者全体から見ると周知度は低い状況である。「堺市各区役所(女性相談)」を知っているのは女性回答者全体の16.8%である【問22-1 (p.87)】。DVの相談窓口として警察を選択された方が多いという実態は、他の相談窓口についての情報が知られていないことの結果とも言える。

被害を受けた人の相談先は家族や友人にとどまることが多く、公共の相談機関の周知は急務である。情報の積極的な発信など、より効果的な周知方法を検討しながら、引き続き取り組む必要がある。



## ■暴力防止対策【問 33 (p. 119)】

多くの回答者が選択しているのは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」56.3%（女性に多い59.5%）、「加害者への罰則を強化する」53.3%（男性に多い58.2%）、「地域・学校・家庭などで、暴力を防止するための教育を行う」40.1%（男女ほぼ同じ割合）である。

必要と考える対策についてDV暴力被害経験者が未経験者に比べて特に選択するものを検討してみたところ、DV被害経験者は「加害者への罰則を強化する」が被害経験のない人よりも有意に少ない。加害者との関係が家族のような親密な関係にあることにより、DV問題の複雑さが表れているのではないかと思われる。（表1）

**表1**  
配偶者・交際相手からの暴力経験の有無と「加害者への罰則を強化する」のクロス表

	加害者への罰則を強化する			合計
	希望しない	希望する	無回答	
配偶者暴力経験あり	165人	148人	15人	328人
	50.30%	45.10%	4.60%	100.00%
配偶者暴力経験なし	491人	720人	91人	1,302人
	37.70%	55.30%	7.00%	100.00%
合計	656人	868人	106人	1,630人
	40.20%	53.30%	6.50%	100.00%

p<0.001

### （5）男女共同参画に関する国の政策や行政の施策について

国や行政の男女共同参画関係の制度や施策は以前に比べて多少は知られるようになってきたが、堺市の施策や相談体制も周知度が伸び悩んでいる。実施している施策を相談後の見通しを含めてしっかり周知していく必要がある。

## ■男女共同参画に関する施策の周知度【問 35 (p. 121)】

「配偶者暴力防止法（DV防止法）」（78.5%）が最も多く、前回調査に比べて男女とも20ポイント以上高くなっている。「ジェンダー」も約20ポイントの上昇である。

一方、施策の根拠である「男女共同参画社会基本法」の周知度を前回調査と比較すると、女性はほぼ横ばいの27.5%、男性は少し増えて38.5%である。「ワーク・ライフ・バランス」、「女子差別撤廃条約」、「ポジティブ・アクション」などは低い割合にとどまっており、男女共同参画の趣旨と意義の浸透を図っていく必要がある。

## ■堺市の男女共同参画に関する施策の周知度【問 36 (p. 122)】

全体では「さかい男女共同参画プラン」の15.4%が、女性では「堺自由の泉大学（旧 堺女性大学）」の20.2%がもっとも高い。「堺市配偶者暴力相談支援センター」の12.8%がそれに続く。しかしその他は低い割合にとどまり、「見たり聞いたりしたものはない」が50%に近い状態である。

「堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例」、「さかい男女共同参画プラン」、「DV防止基本計画」、「セーフティさかい」など、要となる施策の周知度の向上に向けたいっそうの取り組みが必要である。

■男女共同参画社会実現のために重要と思われる施策【問 37 (p. 123)】

男女共同参画社会実現のためにどのようなことに力を入れていくべきかと思うかという質問では、「育児・介護を支援する施設、サービスを充実する」がもっとも多く（女性 65.2%、男性 55.2%）で、「育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する」（女性 55.5%、男性 45.1%）がそれに続く。多くの項目で女性の回答割合が男性を大きく上回っており、施策への要望が大きいことがわかる。「幼少期からの生涯を通じた健康づくりや性に関する教育・相談事業の推進する」は、性暴力被害経験者が未経験者に比較して強く望んでいる項目である。（表 2）

**表2**  
性暴力被害経験の有無と「幼少期からの生涯を通じた健康づくりや性に関する教育・相談事業を推進する」のクロス表

	幼少期からの生涯を通じた健康づくりや性に関する教育・相談事業を推進する			合計
	希望しない	希望する	無回答	
性暴力被害経験あり	86人	52人	4人	142人
	60.60%	36.60%	2.80%	100.00%
性暴力被害経験なし	851人	331人	64人	1,246人
	68.30%	26.60%	5.10%	100.00%
無回答	145人	40人	57人	242人
	59.90%	16.50%	23.60%	100.00%
合計	1,082人	423人	125人	1,630人
	66.40%	26.00%	7.70%	100.00%

p<0.001

前回調査と比較すると、「力を入れていくべきである」と回答した人の割合が、すべての項目において男女ともに増えており、行政への要望は高まっていると思われる。

## 堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査

令和2年7月 堺市

### ●この調査について

1. この調査は、男女共同参画に関する市民の皆さまのお考えをお聞かせいただき、まちづくりに活かすために、堺市にお住まいの18歳以上の市民のみなさまの中から、無作為に4,000人の方を選ばせていただき、調査票をお送りしています。
2. 全て無記名でお答えいただきますので、どなたのお答えかわからないになっています。また調査内容は統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけするようなことはございません。
3. 調査内容については、この調査の目的以外に使用することはありません。

### ●ご記入いただくうえでのお願い

1. お答えは、あて名のご本人のお考えでご記入ください。
2. ご記入はボールペンまたは鉛筆でお願いいたします。
3. お答えは、あてはまる番号を選んで○をつけてください。また、記述を必要とする箇所は、ご記入ください。
4. この調査は任意でご協力いただくものですが、より充実した意識調査とするために一人でも多くの方にご回答いただきたいと考えております。ただし、設問によって、回答できない場合または回答したくない場合は、その設問は飛ばして次の設問にお進みください。
5. ご記入いただいた調査票は、7月31日（金）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函をお願いします。封筒にお名前を書いていただく必要はありません。

<お問い合わせ>

堺市 市民人権局 男女共同参画推進部 男女共同参画推進課

電 話：(072) 228-7408

F A X：(072) 228-8070

E - mail：danjokyo@city.sakai.lg.jp

# 1 男女の役割や地位に関する意識についておたずねします。

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。（それぞれ〇は一つ）

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている
A 家庭生活で	1	2	3	4	5
B 就職活動の場や職場で	1	2	3	4	5
C 地域活動の場で（自治会やPTAなど）	1	2	3	4	5
D 学校教育の場で	1	2	3	4	5
E 政治の場で	1	2	3	4	5
F 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
G 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5
H 社会全体として	1	2	3	4	5

問2 次の考え方について、あなたはどう思いますか。（それぞれ〇は一つ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
A 夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである	1	2	3	4
B 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4
C 育児は父親よりも母親がすべきである	1	2	3	4
D 介護は男性よりも女性がすべきである	1	2	3	4
E 理科や数学は、女子よりも男子が向いている	1	2	3	4
F 子どもは、性別にとらわれずその子らしく育てるのがよい	1	2	3	4
G 希望すれば夫と妻が別姓を名乗っても構わない	1	2	3	4
H ※性の多様性（下記参考）を認めるべきである	1	2	3	4

※性の多様性…身体性の性だけでなく、心の性（性自認、自分が感じている性）、好きになる性（性的指向、誰を好きになるか）、社会的な性（社会的にどうふるまうか）などがあります。性のあり方は一人ひとりに個性があるように、その表れ方や組合せも人によって様々です。

（出典：堺市ホームページ 性的マイノリティに対する理解促進に向けた取組）

問3 あなたが、今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業や役職はどれですか。

(○はいくつでも)

1. 大臣や閣僚	2. 地方自治体の首長（知事、市長など）
3. 国会議員・地方議員などの政治家	4. 国家公務員・地方公務員の管理職
5. 裁判官・検察官・弁護士	6. 大学教授
7. 企業の管理職	8. 起業家・経営者
9. 団体（組合、NPO、自治会等）の役員	10. 学校長・大学学長
11. 新聞・放送の記者	12. 医師
13. 科学者	14. その他（具体的に ）
15. 特にない	

## 2 家庭生活についておたずねします。

問4 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者・パートナーがいない方は、仮にいないことを想定してお答えください。（それぞれ○は一つ）※「配偶者・パートナー」には、婚姻届を出していない事実婚の相手も含まれます。

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割
A 生活費をかせぐ	1	2	3	4	5
B 日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5
C 日常の家事	1	2	3	4	5
D 老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5
E 子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5
F 育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5
G 自治会、PTAなど地域活動への参加	1	2	3	4	5

### 3 子どもの教育についておたずねします。

問5 あなたの子どもには、どの程度までの教育を受けさせたいと思いますか。

女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。(それぞれ○は一つ)

女の子	男の子
1. 中学校	1. 中学校
2. 高等学校	2. 高等学校
3. 専門・専修学校	3. 専門・専修学校
4. 短期大学・高等専門学校	4. 短期大学・高等専門学校
5. 大学	5. 大学
6. 大学院	6. 大学院
7. その他(具体的に )	7. その他(具体的に )

問6 あなたの子どもに、次のことをどのくらい身につけてほしいと思いますか。

女の子、男の子それぞれについてお答えください。子育てをしていない方も、子育てをしていると想定してお答えください。(それぞれ○は一つ)

	女の子				男の子			
	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけなくてよい	身につけなくてよい	必ず身につけるべきだ	できれば身につけてほしい	あまり身につけなくてよい	身につけなくてよい
A 自立できる経済力	1	2	3	4	1	2	3	4
B 家事・育児の能力	1	2	3	4	1	2	3	4
C 家族や周囲の人と円満に暮らす力	1	2	3	4	1	2	3	4
D 個性を伸ばすこと	1	2	3	4	1	2	3	4
E 自立心	1	2	3	4	1	2	3	4

問7 男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。  
(〇はいくつでも)

1. 学校生活の中で、性別による役割分担をなくす（性別による役割分担の例：リーダー的役割は男子で、女子は補佐役など）
2. 進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する
3. 男女が互いを尊重し合うことの大切さを教えるなど、男女平等の意識を育てる授業をする
4. 男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う
5. 校長や教頭に女性を増やしていく
6. 保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す
7. 性の多様性について正しく理解するための教育を充実する
8. ※DV やデート DV（下記参考）や性暴力の防止に向けた教育を行う
9. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
10. 学校教育の中でする必要はない

※DV…配偶者からの暴力

デート DV…結婚していない交際中の男女間等でおこる暴力

#### 4 介護についておたずねします。

問8 もしあなた自身に介護が必要になった場合、主にどなたに介護されたいと思いますか。  
(〇は一つ)

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1. 配偶者・パートナー         | 2. 息子           |
| 3. 娘                 | 4. 息子の配偶者・パートナー |
| 5. 娘の配偶者・パートナー       | 6. 自分のきょうだい     |
| 7. ヘルパー等の専門家（在宅サービス） | 8. 施設での介護       |
| 9. その他（具体的に _____ ）  |                 |

## 5 仕事についておたずねします。

問9 「女性の働き方」について、あなたの①希望と②実際はどれにあてはまりますか。

※女性の方はご自身について、男性の方はご自身の配偶者・パートナー(女性)についてお答えください。

※配偶者・パートナー(女性)がいない男性の方は、「女性の働き方」の①希望についてのみ、お答えください。

①希望 (○は一つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
2. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
3. 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念する
4. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
5. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
6. 仕事には就かない
7. その他(具体的に )

②実際 (○は一つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた)
2. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している(専念していた)
3. 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念している(専念していた)
4. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(続けていた)
5. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた)
6. 仕事には就いていない
7. その他(具体的に )



問 10 あなたの現在の勤務形態はどれにあてはまりますか。(○は一つ)

1. 常時雇用の正社員または正職員
2. 臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員(職員)
3. 自営業主または家族従業者
4. 学生
5. 専業主婦・主夫
6. 無職(専業主婦・主夫を除く)
7. その他(具体的に )

「5」「6」と回答した方→問 10-1 へ

それ以外の方→問 11 へ

問 10-1 は問 10 で「5. 専業主婦・主夫」、「6. 無職」と回答した方にお聞きします

問 10-1 現在働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 保育施設に入所できなかったから
2. 延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないから
3. 仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないから
4. 家事・育児について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
5. 介護・看護について、配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
6. 介護・看護について、施設やサービスを利用できなかったから
7. 働くことについて配偶者、パートナー等家族の協力が得られないから
8. 働くことで家族に迷惑がかかると感じるから
9. 仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないから
10. 仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるから
11. 家事・育児に専念したかったから
12. 介護・看護に専念したかったから
13. 今は働きたいとは思わないから
14. 失業したから
15. その他(具体的に )

ここからはすべての方にお聞きします

問 11 あなたは、仕事に関する次のことについて、性別による差があると思いますか。  
(それぞれ○は一つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている
A 募集・採用	1	2	3	4	5
B 賃金	1	2	3	4	5
C 仕事の内容	1	2	3	4	5
D 昇進・昇格	1	2	3	4	5
E 管理職への登用	1	2	3	4	5
F 能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4	5
G 研修の機会や内容	1	2	3	4	5
H 働き続けやすい職場環境の整備	1	2	3	4	5
I 育児・介護などの休暇や休業の取得のしやすさ	1	2	3	4	5

問 12 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1. 女性の雇用機会を拡大する
2. 賃金、昇給の男女の格差をなくす
3. 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める
4. 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う
5. 男女ともに、教育・研修機会を充実する
6. 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場環境の整備
7. 男女ともに育児・介護のための休暇や休業を取りやすいようにする
8. 育児・介護の施設や支援制度の充実
9. 職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす
10. 職場において男女が対等であるという意識を普及させる
11. 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める
12. 男性自身の意識を変える
13. 短時間勤務、フレックスタイム（時差出勤）、テレワーク（在宅勤務等）など時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及
14. 長時間労働を見直し、仕事と家事・育児等との両立（ワーク・ライフ・バランス）を実現する
15. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
16. わからない

問 13 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。(それぞれ○は一つ)

	とった方がよい	どちらかといえばとった方がよい	どちらかといえばとらない方がよい	とらない方がよい
A 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
B 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4
C 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
D 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4

「3」「4」と回答した方→問 13-1 へ  
 それ以外の方→問 14 へ

問 13-1 は問 13 でとらない方がよい（「3」または「4」）と回答した方にお聞きします

問 13-1 それぞれとらないほうが良いと考える理由は何ですか。問 13 A～Dで「3」または「4」と回答した項目のみお答えください。（それぞれあてはまるものすべてに○）

	経済的に苦しくなる	職場の理解が得られない	仕事の評価や配属に影響する	男性より女性がとるべきである	男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい	男性は育児・介護に慣れていない	周囲に取得した男性がいない	その他 (具体的)
A 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4	5	6	7	8
B 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4	5	6	7	8
C 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4	5	6	7	8
D 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4	5	6	7	8

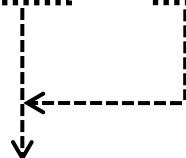
**6 地域・生活全般についておたずねします。**

問 14 あなたは、現在お住まいの地域で、次の活動に参加したことはありますか。また、今後参加したいと思いますか。(それぞれ○は一つ)

	参加したことがある		参加したことがない		わからない
	今後参加したい	今後は参加したくない	今後は参加したい	今後参加したくない	
A 自治会や町内会など	1	2	3	4	5
B 老人会、女性会、青年会、子ども会など	1	2	3	4	5
C 学校のPTA活動	1	2	3	4	5
D 民生委員などの公的委員	1	2	3	4	5
E NPO（民間非営利組織）やボランティアなど	1	2	3	4	5
F 趣味・スポーツ・学習などのサークル活動	1	2	3	4	5
G 防災訓練や講演会など地域での防災活動	1	2	3	4	5
H その他（具体的に )	1	2	3	4	5

一つでも「2」「4」と回答した方→問 14-1 へ

それ以外の方→問 15 へ



**問 14-1 は問 14 で今後参加したくない（「2」または「4」）と回答した方にお聞きします**

問 14-1 今後参加したくない理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. 仕事が忙しい
2. 家事・育児・介護などで暇がない
3. 健康に自信がない
4. 人間関係がわずらわしい
5. 自分の意見や地域のニーズが反映されない
6. 自分の意見が男女平等に扱われない
7. 活動について情報が得られない
8. 性別や役割によって個人の負担が違う
9. 関心がない
10. 活動時間（時間帯）が合わない
11. その他（具体的に )

問 15 地域の安全・安心に関する下記の項目についてお答えください。(それぞれ○は一つ)

	そう思う	ある程度そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
A お住まいの地域は犯罪が少なく、住みやすい	1	2	3	4	5
B 安心して電車や公園等の公共の場を利用できる	1	2	3	4	5
C 安心して子どもが外出や外遊びをすることができる	1	2	3	4	5
D 高齢者が安心して生活できる	1	2	3	4	5
E 夜道でも安心して歩くことができる	1	2	3	4	5
F 地域の防犯活動により、安心して生活できる	1	2	3	4	5

問 16 あなたやあなたの家族が日頃から気にしている、または取り組んでいる防犯対策は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 防犯ブザーまたはホイッスルを携帯している(させている) 2. 「大阪府警安まちメール」等で地域の犯罪発生情報に注意している 3. 防犯パトロールや子どもの見守り活動へ参加している 4. 暗い夜道等はなるべく避けるようにしている(させている) 5. その他(具体的に ) 6. 特にしていない
---

問 17 あなたは普段、1日のうちで、以下の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。平日、休日それぞれについて平均どのくらい費やしているかお答えください。(○はそれぞれ一つ)

(1) 仕事・学校(通勤・通学時間を含む)

①平日(仕事や学校がある日)(○は一つ)	②休日(仕事や学校がない日)
1. なし(0分) 2. 4時間未満 3. 4時間～6時間未満 4. 6時間～8時間未満 5. 8時間～10時間未満 6. 10時間～12時間未満 7. 12時間以上	

(2) 家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)

①平日(仕事や学校がある日)(○は一つ)	②休日(仕事や学校がない日)(○は一つ)
1. なし(0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上	1. なし(0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上

(3) 育児

①平日(仕事や学校がある日)(○は一つ)	②休日(仕事や学校がない日)(○は一つ)
0. 育児の必要な子どもがいない 1. なし(0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上	0. 育児の必要な子どもがいない 1. なし(0分) 2. 30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間～3時間未満 6. 3時間～4時間未満 7. 4時間～5時間未満 8. 5時間以上

(4) 介護

①平日（仕事や学校がある日）（〇は一つ）	②休日（仕事や学校がない日）（〇は一つ）
0. 介護の必要な家族がない	0. 介護の必要な家族がない
1. なし（0分）	1. なし（0分）
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

(5) 地域活動（自治会やPTAなど）

①平日（仕事や学校がある日）（〇は一つ）	②休日（仕事や学校がない日）（〇は一つ）
1. なし（0分）	1. なし（0分）
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

問 18 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 家事、子育て、介護、地域活動の社会的な評価を高めること
3. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
6. 小さいときから男の子に、家事や育児に関わるしつけ・教育をすること
7. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
8. その他（具体的に _____ ）
9. 特に必要ない

7 様々な暴力についておたずねします。

問 19 あなたは、最近3年の間に、職場・学校・地域などの身近なところで、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）やマタニティ・ハラスメント（働く女性が妊娠・出産に関連し職場において受ける精神的・肉体的いやがらせ）を受けたことがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

	職場で受けた	学校で受けた	地域で受けた	受けたことはない
A 地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた	1	2	3	4
B 食事やデートにしつこく誘われた	1	2	3	4
C さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた	1	2	3	4
D 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられたり、性的な噂をたてられたりした	1	2	3	4
E 宴席で、お酌やデュエットを強要された	1	2	3	4
F 異性との交際や結婚予定や出産予定などプライベートなことについてたびたび聞かれた	1	2	3	4
G じろじろ見られたり、容姿や年齢のことを話題にされた	1	2	3	4
H 「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な言葉をかけられた	1	2	3	4
I 妊娠・出産をきっかけに、精神的・肉体的な嫌がらせを受けた	1	2	3	4
J 妊娠・出産を理由に解雇や雇い止め、自主退職の強要を受けた	1	2	3	4

一つでも「1」～「3」と回答した方→問 19-1 へ

すべて「4」と回答した方→問 20 へ



問 19-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 堺市各区役所「女性相談」
2. 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」
3. 堺市立男女共同参画センター相談
4. 大阪府女性相談センター
5. 労働局の雇用均等室
6. 警察
7. 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラーなど）
8. 医療関係者（医師、看護師など）
9. 学校関係者（相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
10. 職場の相談窓口
11. 家族や親戚
12. 友人や知人
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
14. どこ（だれ）にも相談しなかった

「14. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方→問 19-2 へ

それ以外の方→問 20 へ

問 19-2 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

1. どこ／だれに相談してよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
3. 相談してもむだだと思った
4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けると思った
5. 加害者に「誰にも言うな」と脅された
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
7. 他の人を巻き込みたくなかった
8. 周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなると思った
9. そのことについて思い出したくなかった
10. 自分にも悪いところがあると思った
11. 相手の行為は愛情の表現だと思った
12. 相談するほどのことではないと思った
13. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

#### 問 20 はすべての方にお聞きします

問 20 性暴力や性犯罪の相談が増えているといわれています。あなたはこれまで（子どものころを含めて）に、望まないのに性的な行為をされたことがありますか。（○は一つ）

1. ある ……→ 問 20-1 へ

2. ない ……→ 問 21 へ

**問 20-1 は問 20 で「1. ある」と回答した方にお聞きします**

問 20-1 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 堺市各区役所「女性相談」
2. 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」
3. 堺市立男女共同参画センター相談
4. 堺市こころの健康センター「性暴力被害に遭われた女性のための心理カウンセリング」
5. 堺市配偶者暴力相談支援センター
6. 大阪府女性相談センター
7. 警察
8. 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、性暴力救援センター大阪 SACHICO など）
9. 医療関係者（医師、看護師など）
10. 学校関係者（相談窓口、教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
11. 家族や親戚
12. 友人や知人
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
14. どこ（だれ）にも相談しなかった

「14.どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方→問 20-2 へ  
それ以外の方→問 21 へ

**問 20-2 は問 20-1 で「14. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします**

問 20-2 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

1. どこ／だれに相談してよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかった
3. 相談してもむだだと思った
4. 相談したことがわかると、もっとひどい暴力・嫌がらせを受けると思った
5. 加害者に「誰にも言うな」と脅された
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
8. 世間体が悪い
9. 他の人を巻き込みたくなかった
10. 周囲の人と、これまでのようなつき合いができなくなると思った
11. そのことについて思い出したくなかった
12. 自分にも悪いところがあると思った
13. 相手の行為は愛情の表現だと思った
14. 相談するほどのことではないと思った
15. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

## 8 配偶者や交際相手等からの暴力についておたずねします。

問 21 あなたは、①「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」やその内容を知っていますか。

また、②結婚していない交際中の男女間等でおこる暴力を、特に、「デートDV」といいますが、あなたはこの「デートDV」という言葉やその内容を知っていますか。（それぞれ○は一つ）

	あることもその内容も知っている	あることは知っていたが、内容はよく知らない	あることを知らなかった
① DV防止法	1	2	3
② デートDV	1	2	3

問 22 あなたは、配偶者や交際相手からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。（○は一つ）なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。

1. 知っている →

問 22-1 へ

2. 知らない →

問 23 へ

問 22-1 は「1. 知っている」と回答した方にお聞きします

問 22 - 1 あなたの知っている窓口は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 堺市配偶者暴力相談支援センター
2. 堺市各区役所「女性相談」
3. 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」
4. 堺市立男女共同参画センター相談
5. 大阪府女性相談センター
6. 警察
7. 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）
8. 医療関係者（医師、看護師など）
9. 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
10. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

**問 23 はすべての方にお聞きします**

問 23 あなたは、配偶者や交際相手から次のようなことが相手に対して行われた場合、それを暴力だと思いませんか。なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含まれます。(それぞれ○は一つ)

	暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合も、そう でない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない
A 平手で打つ	1	2	3
B なぐる・ける	1	2	3
C 家具などの物にあたる、壊す	1	2	3
D 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	1	2	3
E なぐるふりをして、おどす	1	2	3
F 大声でどなる	1	2	3
G 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	1	2	3
H 何を言っても、長期間無視し続ける	1	2	3
I いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
J 避妊に協力しない	1	2	3
K 本人の許可なく性的な写真や動画を一般に公開する	1	2	3
L 他の異性との会話を許さない	1	2	3
M 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3
N 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
O 家族や友人との関りを持たせない	1	2	3
P 子どもに危害を加えたり、子どもを取り上げようとする、子どもの前で暴力をふるう	1	2	3

すべて「1」と回答した方→問 24 へ

一つでも「2」「3」と回答した方→問 23-1 へ

**問 23-1 は問 23 で一つでも「2. 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「3. 暴力にあたるとは思わない」と回答した方にお聞きします**

問 23-1 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 夫婦間や交際相手間ではよくあることだから
2. 夫婦間や交際相手間では許されると思うから
3. 夫婦間や交際相手間の喧嘩の範囲だと思うから
4. 自分の考えをとおすために必要な場合があると思うから
5. 相手の間違いをただすために必要な場合があると思うから
6. 夫婦や交際相手なら、相手の行動や交際範囲を知るのは（知られるのは）当たり前だと思うから
7. 経済力のある者に従うべきだと思うから
8. 愛情表現だと思うから
9. 暴力を振るわれた側にも非があったと思うから
10. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

**問 24 はすべての方にお聞きします**

問 24 あなたは、結婚した経験、交際相手がいた経験がありますか。なお、ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の配偶者も含みます。(○は一つ)

1. 未婚（結婚したことはない）で、現在も過去も交際相手がいた経験はない  
…→ **問 32 へ**
2. 未婚（結婚したことはない）で、現在交際相手がいる、又は過去に交際相手がいた  
…→ **問 26 へ**
3. 既婚（現在、夫又は妻がいる）、又は離別（結婚していたが、離婚した）、又は死別（結婚していたが、死別した） …→ **問 25 へ**

問 24 で「3. 既婚、又は離別、又は死別」と回答された方にお聞きします

問 25 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。また「①これまで」で「1, 2度あった」「何度もあった」と回答した方は、②「この1年間」についてもお答えください。(それぞれ○は一つ)

	① これまで			→	② この1年間		
	まったく ない	1, 2度 あった	何 度も あ った		ま た く た く な い	1, 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た
A なぐる、ける、物を投げつけるなど	1	2	3	→	1	2	3
B 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	1	2	3	→	1	2	3
C 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど	1	2	3	→	1	2	3
D 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	1	2	3	→	1	2	3
E 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	1	2	3	→	1	2	3
F 子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど	1	2	3	→	1	2	3

問 24 で「2. 未婚で、現在交際相手がいる、又は過去に交際相手があった」または「3. 既婚、又は離別、又は死別」と回答された方にお聞きします

問 26 あなたは、現在及び過去に交際相手から次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。(それぞれあてはまるものすべてに○)

	まったく ない	10歳代 の時に あった	20歳代 の時に あった	30歳代 以上の 時に あった
A なぐる、ける、物を投げつけるなど	1	2	3	4
B 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	1	2	3	4
C 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど	1	2	3	4
D 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	1	2	3	4
E 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	1	2	3	4
F 子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど	1	2	3	4

問 25 (配偶者からの暴力)、問 26 (交際相手からの暴力) で、両方とも暴力を受けた経験がまったくない方→問 31 へ

問 25 (配偶者からの暴力) のみ、暴力を受けた経験がある方→問 27 へ

それ以外の方 (交際相手から暴力を受けた経験がある方) →問 26-1 へ

問 26-1 あなたは、現在及び過去に交際相手と同居した経験 (いわゆる「同棲経験」) がありますか。(○は一つ)

1. ある ……→ 問 26-2 へ

2. ない ……→ 問 27 へ

問 26-2 は問 26-1 で「1. ある」と回答された方にお聞きします

問 26-2 あなたは、過去に同居していた交際相手や現在同居している交際相手（いわゆる同棲相手）から同居（同棲）中に次のようなことをされたことがありますか。また、それは何歳の頃にされましたか。（それぞれあてはまるものすべてに○）

	まったくない	10歳代の時にあった	20歳代の時にあった	30歳代以上の時にあった
A なぐる、ける、物を投げつけるなど	1	2	3	4
B 給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど	1	2	3	4
C 人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど	1	2	3	4
D 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど	1	2	3	4
E 携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど	1	2	3	4
F 子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど	1	2	3	4



**問 27 は配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方にお聞きします**

問 27 あなたはこれまでに、あなたの①配偶者や②交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

	①配偶者 から	②交際相手 から
A 堺市配偶者暴力相談支援センター	1	1
B 堺市各区役所「女性相談」	2	2
C 堺市男女共同参画交流の広場「女性の悩みの相談」「男性の悩みの相談」	3	3
D 堺市立男女共同参画センター相談	4	4
E 大阪府女性相談センター	5	5
F 警察	6	6
G 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど)	7	7
H 医療関係者(医師、看護師など)	8	8
I 学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)	9	9
J 家族や親戚	10	10
K 友人や知人	11	11
L その他(具体的に： )	12	12
M どこ(だれ)にも相談しなかった	13	13

「①配偶者から」「②交際相手から」の両方とも「M. どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方→問 27-2 へ  
 それ以外の方(相談された経験のある方)→問 27-1 へ

問 27-1 相談後のあなたのお気持ちに一番近いものはどれですか。(○は一つ)

1. 相談して良かった
2. どちらかといえば相談して良かった
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば相談しなければ良かった
5. 相談しなければ良かった
6. わからない

**問 27 で「M. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします**

問 27-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

	①配偶者 から	②交際相手 から
A どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	1	1
B 恥ずかしくてだれにも言えなかったから	2	2
C 相談してもむだだと思ったから	3	3
D 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	4	4
E 相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	5	5
F 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	6	6
G 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	7	7
H 世間体が悪いと思ったから	8	8
I 他人を巻き込みたくなかったから	9	9
J 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	10	10
K そのことについて思い出したくなかったから	11	11
L 自分にも悪いところがあると思ったから	12	12
M 相手の行為は愛情の表現だと思ったから	13	13
N 相談するほどのことではないと思ったから	14	14
O その他（具体的に： ）	15	15

**問 28 は配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします**

問 28 あなたは、あなたの配偶者や交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。

①配偶者からと②交際相手から、それぞれでお答えください。（それぞれ○は一つ）

	①配偶者 から	②交際相手 から
A 相手と別れた	1	1
B 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった	2	2
C 別れたい（別れよう）とは思わなかった	3	3

「B. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した方→問 28-1 へ  
それ以外の方→問 29 へ



問 28 で「B. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします

問 28-1 あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	① 配偶者から	② 交際相手から
A 相手の仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	1	1
B 経済的な不安があったから	2	2
C 世間体が悪いと思ったから	3	3
D 相手には自分が必要だと思ったから	4	4
E これ以上は繰り返されないと考えたから	5	5
F 周囲の人から、別れることに反対されたから	6	6
G 相手が別れることに同意しなかったから	7	7
H 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから	8	8
I その他（具体的に	9	9
J 子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから	10	10

「J. 子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」と回答した方→問 28-2 へ  
それ以外の方→問 29 へ

問 28-1 で「J. 子どもがいるから、子どものことを考えたから」と回答した方にお聞きします

問 28-2 あなたが、子どものことで相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。（○は一つ）

1. 子どもの保育所や学校の問題（保育所への転入が難しい、子どもが転校を嫌がるなど）
2. 相手に親権を奪われ、子どもと離ればなれになる恐れがあったから
3. 出ていくなら子どもを置いていけと言われたから
4. 子どもをひとり親にしたくなかったから
5. 養育しながら生活していく自信がなかったから
6. 相手と子どもだけで暮らすことになった場合、子どもに危害が加えられる恐れがあったから
7. 子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから
8. その他（具体的に：

**問 29 は配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある方に改めてお聞きします**

問 29 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手から受けた暴力等によって、命の危険を感じたことがありますか。①配偶者から②交際相手からそれぞれでお答えください。  
(それぞれ○は一つ)

	① 配偶者から	② 交際相手から
(1) 感じた	1	1
(2) 感じなかった	2	2

問 30 あなたは、配偶者や交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

	① 配偶者から	② 交際相手から
A 夜、眠れなくなった	1	1
B 心身に不調をきたした (具体的に )	2	2
C 自分に自信がなくなった	3	3
D 誰のことも信じられなくなった	4	4
E 外出するのが怖くなった	5	5
F 人づきあいがうまくいかなかった	6	6
G 転居(引っ越し)した	7	7
H 携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除した・変えた	8	8
I 仕事(アルバイト)をしばらく休んだ	9	9
J 学校・大学をしばらく休んだ	10	10
K 生きているのが嫌になった・死にたくなった	11	11
L 加害者や被害時の状況を思い出させるようなことがきっかけで、被害を受けたときの感覚がよみがえる	12	12
M その他(具体的に )	13	13
N 特にない	14	14

**問 31 はお子さんのいる方にお聞きします。お子さんのいない方は問 32 へお進みください。**

問 31 あなたの配偶者や交際相手は、お子さんに次のようなことをしたことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりする
2. 大声でどなる、無視、存在否定、自尊心を踏みにじる行為など
3. 子どもの前であなたに暴力をふるったり、一方的に非難したりする
4. わいせつなものや性交を見せつけたり、性的な行為を強要することなど
5. 病気になっても病院に受診させない、食事を与えないなど
6. わからない
7. まったくない

ここからはすべての方にお聞きします

問 32 もしあなたの周囲に、配偶者や交際相手から下記の（参考）で挙げているような暴力を受けている（かもしれない）人がいた場合、あなたはどんなことができると思いますか。（〇はいくつでも）

1. 暴力を受けている人を医療機関や相談機関に連れて行く
2. 暴力を受けている人に相談先を紹介する
3. 暴力を受けている人と一緒に相談機関を調べる
4. 警察に通報する
5. 他人のことなので口出しすべきでないと思い、何もしない
6. どう対応したらいいかわからず、何もしない
7. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
8. わからない

（参考）

- A 身体的な暴力（なぐる、ける、物を投げつけるなど）
- B 経済的な暴力（給料・バイト代や貯金を勝手に使われる、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど）
- C 精神的な暴力（人格を否定するようなことを言う、大声でどなる、なぐるふりをして脅す、無視するなど）
- D 性的な暴力（嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしないなど）
- E 社会的な暴力（携帯電話の番号やメールを勝手にチェックしたり、外出や行動を制限・監視したり、家族や知人に会わせないなど）
- F 子どもを巻き込んだ暴力（子どもの前で暴力をふるう、子どもの前で一方的に非難する、子どもに暴力をふるう、「子どもに危害を加える」などと言って脅すなど）

問 33 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。  
(〇はいくつでも)

1. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
2. 地域・学校・家庭などで、暴力を防止するための教育を行う
3. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
4. 医療やこころのケア等のカウンセリングなどの専門相談を受けられる環境を整える
5. 被害者の保護や自立のための生活支援制度を充実させる
6. 被害者を発見しやすい立場の警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 地域社会にいる加害者の行動を監視する
10. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、オンラインゲームなど）を取り締まる
11. SNS 等を用いた暴力を防ぐため、家庭や学校で SNS を利用する際のルールを教える
12. 男女間の経済的・社会的な地位や力の格差をなくしていく
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
14. 特にない

## 9 防災対策についておたずねします。

問 34 防災対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思えますか。  
(〇はいくつでも)

1. 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗たく干し場、世帯別の仕切り等）
2. 避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3. 災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）
4. 公的施設の備蓄品のニーズ把握、保管方法、災害時に支給する際の配慮
5. 被災者に対する男女のニーズの違いに応じた相談体制や情報提供
6. 防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること
7. 自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること
8. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

10 男女共同参画に関する言葉や施策についておたずねします。

問 35 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 男女共同参画社会基本法
2. 女子差別撤廃条約
3. ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）
4. ジェンダー（社会的・文化的性別）
5. 男女雇用機会均等法
6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
7. LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を並べた呼称）
8. SOGI（性的指向、性自認）
9. 子ども・子育て支援法
10. 育児介護休業法
11. 配偶者暴力防止法（DV防止法）
12. ストーカー規制法
13. リベンジポルノ防止法（私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律）
14. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
15. 候補者男女均等法（政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）
16. 見たり聞いたりしたものはない

問 36 次の施策、取組のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例
2. さかい男女共同参画プラン
3. 堺市配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画（DV防止基本計画）
4. 堺市男女平等に関する苦情・相談処理制度
5. 堺市パートナーシップ宣誓制度
6. 堺市配偶者暴力相談支援センター
7. 堺市男女共同参画交流の広場
8. 女と男がいきるのや SAKAI 宣言
9. 堺セーフシティ・プログラム（セーフシティさかい）
10. 堺 自由の泉大学（旧 堺女性大学）
11. 見たり聞いたりしたものはない

問 37 女性も男性もともにいきいきと暮らせる男女共同参画社会実現のために、国や大阪府、堺市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 男女が平等になっていない法律や制度の見直しを行う</li><li>2. 審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する</li><li>3. 企業などが女性の積極的な登用や男女の均等な取扱いを進めるよう働きかける</li><li>4. 育児・介護等を支援する施設、サービスを充実する</li><li>5. 育児・介護中の仕事の継続や再就職を支援する</li><li>6. ひとり親家庭や生活困難家庭の相談事業などの支援を充実する</li><li>7. 仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める</li><li>8. セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力等の防止や被害者への支援を充実する</li><li>9. 幼少期からの生涯を通じた健康づくりや性に関する教育・相談事業を推進する</li><li>10. 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する</li><li>11. 政策・方針決定に関わる者や管理職の意識改革を進める</li><li>12. 男女共同参画に関する広報、情報提供、啓発活動を充実する</li><li>13. その他（具体的に _____ )</li><li>14. 特になし</li></ol> |
|--|

問 38 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
-------------------------



最後に、あなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別をお答えください。

( )

F 2 あなたの年齢はどれにあてはまりますか。(記入日時点)(○は一つ)

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 18～19 歳 | 7. 45～49 歳  |
| 2. 20～24 歳 | 8. 50～54 歳  |
| 3. 25～29 歳 | 9. 55～59 歳  |
| 4. 30～34 歳 | 10. 60～64 歳 |
| 5. 35～39 歳 | 11. 65～69 歳 |
| 6. 40～44 歳 | 12. 70 歳以上  |

F 3 あなたが最後に通われた学校(中退を含む)はどれにあてはまりますか。  
在学中の方は、現在通学されている学校をお答えください。(○は一つ)

- |  |
|--|
| 1. 中学校、旧制小学校、旧制高等小学校                     |
| 2. 高等学校、中卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制中学校          |
| 3. 短大、高等専門学校、高卒が入学資格の専修学校・各種学校、旧制高校、専門学校 |
| 4. 大学、大学院                                |

F 4 あなたにはお子さんがいますか。(別居を含む)

- |             |             |               |
|-------------|-------------|---------------|
| 1. 子どもはいない  | →           | F 5 へ         |
| 2. 女の子だけがいる | 3. 男の子だけがいる | 4. 女の子と男の子がいる |

F 4 で 2～4 と答えた方にお聞きします。

F 4 - 1 お子さんは何人いますか。(別居を含む)

( ) 人

F 4 - 2 お子さんの成長段階は(あてはまる番号すべてに○)

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 1. 小学校入学前 | 4. 高校生         |
| 2. 小学生    | 5. 高校卒業～19 歳まで |
| 3. 中学生    | 6. 20 歳以上      |

F 4 - 3 一番下のお子さんは何歳ですか。(記入日時点)

( ) 歳

ここからはすべての方にお聞きします

F 5 あなたが現在、同居している家族の構成はどれにあてはまりますか。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らし     | 4. 祖父母と親と子（三世代） |
| 2. 夫婦・カップルだけ  | 5. その他          |
| 3. 親と子ども（二世帯） | （具体的に _____ ）   |

F 6 昨年の、あなたの世帯（生計をともにしている家族全員）の収入の合計額は、税込みでどれくらいですか。（〇は一つ）

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1. 200万円未満         | 5. 800万円以上 1,000万円未満   |
| 2. 200万円以上 400万円未満 | 6. 1,000万円以上 1,500万円未満 |
| 3. 400万円以上 600万円未満 | 7. 1,500万円以上           |
| 4. 600万円以上 800万円未満 |                        |

F 7 昨年の、あなたの個人の収入は、税込みでどれくらいですか。  
また、あなたの配偶者・パートナーの個人の収入は、税込みでどれくらいですか。  
次の中から、それぞれあてはまるものの番号をご記入ください。  
※配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。

(1) 昨年のあなたの収入 ( ) 番

(2) 昨年のあなたの配偶者・パートナーの収入 ( ) 番

- |                        |
|------------------------|
| 1. 収入なし                |
| 2. 103万円未満             |
| 3. 103万円以上 130万円未満     |
| 4. 130万円以上 200万円未満     |
| 5. 200万円以上 400万円未満     |
| 6. 400万円以上 600万円未満     |
| 7. 600万円以上 800万円未満     |
| 8. 800万円以上 1,000万円未満   |
| 9. 1,000万円以上 1,500万円未満 |
| 10. 1,500万円以上          |

質問は以上です。

お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。

調査の分析結果を「(仮称) 第5期さかい男女共同参画プラン」に反映させるとともに、堺市ホームページ等でもみなさんにお知らせします。

【お願い】 記入もれ等がないかご確認のうえ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

7月31日（金）までに郵便ポストに投函をお願いします。



**堺市 男女共同参画に関する市民意識・実態調査  
報告書**

**2021年（令和3年）3月発行**

堺市 市民人権局 男女共同参画推進部 男女共同参画推進課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1

電話 (072) 228-7408 FAX (072) 228-8070

ホームページ <http://www.city.sakai.lg.jp/>

堺市配架資料番号 1-D3-20-0360